



LabelCerate SE V2

カラーラベルプリンター対応 ラベル作成ソフトウェア

ユーザーズガイド

* 本書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。

4Y1-8657-040

©CANON FINETECH NISCA INC. 2025-2026

目次

はじめに.....	1
動作環境について.....	1
本書の読みかた.....	1
商標について.....	1
略称について.....	2
お客様へのお願い.....	2
制限事項.....	3

第 1 章 本ソフトウェアの基礎

起動と終了.....	7
起動する.....	7
終了する.....	7
作業画面とツールバー.....	8
作業画面の構成.....	8
メニューバー.....	10
[ファイル] メニュー.....	10
[編集] メニュー.....	10
[表示] メニュー.....	11
[挿入] メニュー.....	11
[レイアウト] メニュー.....	12
[データベース] メニュー.....	12
[イメージ] 表示メニュー.....	13
[オプション] メニュー.....	13
[ヘルプ] メニュー.....	13
標準ツールバー.....	14
レイアウトツールバー.....	16

挿入ツールバー.....	17
ファイルの設定.....	18
新しいファイルを作成する.....	18
ファイルを保存する.....	18
編集集中のファイルを保存する.....	18
ファイルを別名で保存する.....	19
ファイルを開く.....	20
本ソフトウェアで作成したファイルを開く.....	21
LabelCreate SE またはラベル Pro-1 で作成したファイルを開く.....	21
ファイルを閉じる.....	25
テンプレートを使う.....	25
新しいテンプレートを作成する.....	25
既存のテンプレートを編集する.....	26
テンプレートを使って新しいデザインファイルを作成する.....	26
レイアウト補助機能の設定.....	27
ルーラーを表示する.....	27
ガイドバーを使う.....	28
メニューからガイドバーを作成する.....	28
ルーラーからガイドバーを作成する.....	29
複数のガイドバーを一度に作成する.....	30
ガイドバーを別のフォームにコピーする.....	36
ガイドバーの位置を移動する.....	38
ガイドバーを削除する.....	39
ガイドバーにオブジェクトを吸着させる.....	40
グリッドを使う.....	41
グリッドを表示する.....	41
グリッドにオブジェクトを吸着させる.....	42
表示倍率を変える.....	43
パレットの設定.....	44

メニューから色を登録する.....	44
プロパティから色を登録する.....	47
表示画質の設定.....	49

第 2 章 操作の流れと概要

ラベル作成の基本操作.....	51
用紙を設定する.....	53
ガイドバーを引く.....	54
四角形を描く.....	59
線を描く.....	62
文字を入力する.....	65
画像を貼り付ける.....	69
バーコードを作成する.....	71
データを保存する.....	75
ラベルを印刷する.....	76
データベースを活用したラベルの作成.....	79
データベースを指定する.....	80
オブジェクトを差し込み形式にする.....	85
テキストオブジェクトを差し込み形式にする.....	85
イメージオブジェクトを差し込み形式にする.....	86
オブジェクトをマクロ形式にする.....	87
任意の文字列を付加する.....	87
四則演算を使って計算する.....	94
差し込みカラーテーブルを設定する.....	98
データベースを使って印刷する.....	104

第 3 章 用紙とフォームの設定

用紙の設定.....	109
------------	-----

[用紙] プロパティを設定する	109
用紙サイズについて	111
カスタム用紙を使う	113
カスタム用紙を登録する	113
プリンタードライバーに登録されている用紙サイズを登録する	118
カスタム用紙を修正する	119
カスタム用紙を削除する	121
カスタム用紙をエクスポートする	122
カスタム用紙をインポートする	123
フォームの設定.....	125
新しいフォームを挿入する.....	125
フォームを編集する.....	126
フォーム名を変更する	126
フォームをコピーする	127
フォームを移動またはコピーする	128
フォームを削除する	130

第 4 章 オブジェクトの操作と作成

オブジェクトの操作.....	132
オブジェクトを選択する.....	132
マウスと [Shift] キーを使って選択する	133
マウスで範囲を指定して選択する	133
メニューから選択する	134
オブジェクトリストから選択する	134
オブジェクトを移動する.....	135
マウスで移動する	135
矢印キーで移動する	135
[切り取り] で移動する	135
[ブロック] プロパティを設定して移動する	136

オブジェクトを削除する.....	136
オブジェクトをコピーする.....	137
オブジェクトを変形する.....	138
オブジェクトを拡大 / 縮小する	138
オブジェクトを回転する	139
オブジェクトを反転する	139
オブジェクトの重ね順を設定する.....	140
オブジェクトを揃える.....	141
用紙サイズに合わせた配置にする	141
複数のオブジェクトを整列させる	142
オブジェクト同士を吸着させて位置を揃える	144
オブジェクトをグループ化する.....	145
オブジェクトの枠のみをロックする.....	147
オブジェクトをロックする.....	148
オブジェクトリストを使う.....	149
オブジェクトリストを表示する	149
オブジェクトリストを設定する	149
オブジェクトの作成.....	152
文字を入力する.....	152
日時を入力する.....	155
連番を入力する.....	158
画像を挿入する.....	162
[イメージ] ツールを使う	162
[Web イメージ] ツールを使う	166
[差込イメージ] ツールを使う	168
直線を描く.....	170
円を描く.....	171
四角形を描く.....	172
多角形を描く.....	174
円弧を描く.....	176

連続直線を描く.....	178
自由曲線を描く.....	180
ベジェ曲線を描く.....	182
背景を設定する.....	184
バーコードの作成.....	185
バーコードを作成する.....	185
GS1 データバーを作成する.....	195
二次元コードを作成する.....	202
アプリケーション識別子 (AI) 入力アシスト機能を使う.....	212
アプリケーション識別子 (AI) 入力アシスト機能を使ってオブジェクトを作成する.....	213
アプリケーション識別子 (AI) を編集する.....	219
アプリケーション識別子 (AI) を追加する.....	221
アプリケーション識別子 (AI) をインポート / エクスポートする.....	223
オブジェクトの編集.....	227
[フォント] プロパティを設定する.....	229
[塗潰し] プロパティを設定する.....	234
単色で塗潰す.....	235
ハッチングで塗潰す.....	236
イメージで塗潰す.....	238
グラデーションで塗潰す.....	242
[イメージ] プロパティを設定する.....	245
[文字色] プロパティを設定する.....	246
[輪郭] プロパティを設定する.....	247
[枠線] プロパティを設定する.....	249
[影] プロパティを設定する.....	251
[ブロック] プロパティを設定する.....	253
[修飾] プロパティを設定する.....	255
[線] プロパティを設定する.....	257
[背景] プロパティを設定する.....	259

第 5 章 データベース機能の設定

データベース機能の操作.....	261
本ソフトウェアのデータベース機能について.....	261
データベースを参照（またはインポート）する.....	262
データベースの差分をインポートする.....	271
データベースを解除（または削除）する.....	276
差し込み形式に設定する.....	277
外部データベースと内部データベース.....	278
「外部データベース」と「内部データベース」について.....	278
外部データベースを参照する.....	279
外部データベースの参照情報を更新する.....	280
内部データベースに変更する.....	280
内部データベースを編集する.....	281
列タイトルを設定する.....	283
データベースの項目とデータ型を設定する.....	284
画像を一括で設定する.....	286
文字列を検索する.....	290
文字列を置換する.....	291
内部データベースをエクスポートする.....	294
レコードを抽出する.....	295
差し込みカラーテーブルの設定.....	298
カラーテーブルセットを作成する.....	299
色の指定をカラーテーブルで行う.....	299
色の指定をデータベースの項目で行う.....	303
カラーテーブルを設定する.....	306
カラーテーブルをエクスポートする.....	308
カラーテーブルをインポートする.....	309

第 6 章 マクロの設定

マクロの仕様.....	311
マクロの操作.....	314
マクロ形式に設定する.....	314
マクロウィザードを使う.....	317
日時計算マクロを設定する	317
連番マクロを設定する	321

第 7 章 印刷設定

印刷の基本操作.....	324
印刷イメージを確認する.....	324
デザインエリアに表示中のデータをプレビューする	324
印刷対象のレコードをプレビューする	325
印刷する.....	328
印刷イメージを画像ファイルで出力する.....	331
現在表示中のフォームを出力する	331
すべてのフォームを出力する	332
印刷履歴を確認する.....	334
前月までの印刷履歴を確認する	336
当月分の印刷履歴を確認する	336
当月分の印刷履歴を削除する	336
レコード情報を設定する	337
いろいろな印刷.....	338
レコードを指定して印刷する.....	338
印刷ダイアログボックスから指定する	338
データベース編集画面から指定する	346
データベースの部数指定項目を選んで印刷する.....	351
フォームを指定して印刷する.....	353

オーバーレイ印刷をする.....	359
カッターを設定する.....	363
用紙に合わせてバーコードを調整する.....	367

第 8 章 ラベルの自動印刷

ソフトウェアの概要.....	373
管理画面を表示する.....	374
ラベル作成の基本操作.....	376
準備.....	377
監視情報を設定する.....	380
監視フォルダーの監視を開始する.....	386
ラベルを自動で印刷する.....	387
メッセージ一覧.....	389

第 9 章 付録

本ソフトウェアを更新する.....	393
本ソフトウェアをアンインストールする.....	395
仕様.....	396
よくある質問.....	397
デザインファイルの互換性について.....	399
LabelCreate SE デザインファイルの場合.....	399
ラベル Pro-1 デザインファイルの場合.....	400
収録画像.....	422

はじめに

このたびは、「LabelCreate SE（ラベルクリエイイト SE）V2」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本ソフトウェアは、簡単な操作で多彩なラベルデザインを作成できる、キヤノン カラーラベルプリンター専用のソフトウェアです。
本ソフトウェアをご使用前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いいたします。

動作環境について

本ソフトウェアは、次の環境でご利用になれます。

OS ^{*1}	Microsoft Windows 11 日本語版
メモリー	上記 OS が動作するために必要なメモリー
ディスプレイの表示色	256 色以上（推奨は High Color16 ビット以上）
インストール時のハードディスク 空き容量	250MB 以上

^{*1} Windows 64 ビット環境では、32 ビット互換モードで動作します。

本書の読みかた

- 本書では、Windows 11 をご使用の場合に表示される画面で説明しています。
- 本書で使われている画面は実際と異なる場合があります。
- 本書では、次のようなマークを使用しています。



メモ

操作の参考になることや補足説明が書かれています。お読みになることをおすすめします。

商標について

- LabelCreate、LabelCreate SE、ラベルクリエイイトは、キヤノンファインテックニスカ株式会社の商標です。
- Canon、Canon ロゴは、キヤノン株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows、Access および Excel は、マイクロソフト グループの企業の商標です。
- QR コードは、株式会社デンソーウェーブの商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、商品名および名称（サービス名称、ブランド名称などすべて含む）は各社の登録商標または商標です。

略称について

本書に記載されている名称は、下記の略称を使用しています。

- Microsoft Windows 11 日本語版を Windows 11 と表記しています。
- Microsoft Windows を Windows と表記しています。

お客様へのお願い

- 本書の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- 本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- 本書の内容については万全を期していますが、万一誤りや記載漏れなどお気づきの点がございましたら、お客様相談センターまでご連絡ください。
- 本ソフトウェアを運用した結果につきましては、上記に関わらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

制限事項

1. バーコード印刷について

キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LG-P800/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 以外のプリンターを使用してバーコードの印刷を行った場合の読み取り精度については保証していません。

2. オブジェクトについて

本ソフトウェアでは、メモリーまたはディスクの空き容量が許す限り、オブジェクトを作成することができます。そのため、ご使用環境によっては、オブジェクトを作成できなかつたり、著しく大きな画像ファイル（BMP 換算で 25MB 以上）を配置できない場合があります。

＜上記の画像ファイルを配置可能なパソコンスペックの目安＞

CPU：Core i5 3.3GHz、メモリー：4.0GB

3. フォントについて

デザインエリアに表示される文字は、表示倍率にしたがって表示されますが、指定されているフォントの種類やサイズによっては、正しいサイズで表示されないことがあります。

また、本ソフトウェアは、拡張子が「.OFT」の Opentype フォントに対応していません。

4. 文字の印刷

データを作成したパソコンと印刷するパソコンが異なるとき、印刷した結果と画面上の文字フォントが異なる場合があります。

そのようなときは、印刷したパソコンに使用しているフォントが存在するか確認してください。フォントが存在しないときはフォントをインストールする、または既存のフォントに変更してください。

5. 用紙設定での余白について

プリンターには、それぞれ用紙の4辺に印刷できない部分（余白）があります。デザインエリアではこの余白は赤色の点線を表示しています。これより外側にオブジェクトを配置しても印刷されない場合がありますのでご注意ください。

6. 印刷時のディスク容量

大きなサイズの画像を複数貼り付けたり、ラベルの印刷部数を多く設定するときなどには、必ずプリンターのスプール先（通常は OS がインストールされているドライブ）の容量が確保されていることをご確認ください。空き容量が確保されないまま印刷すると、エラーの原因になったり正常に印刷されなくなったりします。また、Windows のバージョンによっては動作が不安定になってしまうこともあります。

7. 文字の表示について

文字のラインが細い書体を指定して文字を作成した場合、文字がかすれて読みにくくなる場合があります。そのような場合は、画面表示を拡大すると表示されます。

8. データベース機能について

本ソフトウェアによるデータベース参照、またはインポートは、データベースを作成したソフトウェア（Microsoft Access や Microsoft Excel 等）が備わっていない環境でも可能です。

データベースのインポートがうまくいかない場合は、「Microsoft 365 Access Runtime」をマイクロソフト社のホームページからダウンロードし、インストールを行ってください。

9. データベースの項目数について

本ソフトウェアが参照またはインポートできるデータベースの項目数は、最大 255 項目までとなっております。項目数が 255 個を超えているデータベースは設定できません。

10. ラベル Pro-1 デザインファイル (*.SMD) について

本ソフトウェアでラベル Pro-1 デザインファイル (*.SMD) を開いたとき、ソフトウェアの仕様の違いによりファイルが開けなかったり、自動的にオブジェクトの変換や削除などの処理が行われる場合があります。詳しくは、「[デザインファイルの互換性について \(P399\)](#)」を参照してください。

11. オーバーレイ印刷について

オーバーレイ印刷するときは、キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 をご使用ください。その他のプリンターではオーバーレイ印刷できません。また、オーバーレイ印刷では、次のような制限があります。

- ① キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 を共有環境で使用し、クライアント側のパソコンからオーバーレイ印刷を行う場合は、プリンタードライバースプールの形式を「RAW モード」に設定してください。「EMF モード」では、オーバーレイ印刷が正常に行えません。
- ② 背景オブジェクトに差し込みカラーテーブルを設定しているときは、オーバーレイ印刷を行わないでください。設定どおりに色が反映されない場合があります。

12. ファイルの同時起動について

本ソフトウェアが同時に起動できるウィンドウは 2 つまでとなっています。

13. 面付け用紙について

面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、次の印刷設定は行えません。

- ・複数フォーム指定の印刷（⇒「[フォームを指定して印刷する \(P353\)](#)」）
- ・ヘッダーフォーム / フッターフォームを指定した印刷（⇒「[フォームを指定して印刷する \(P353\)](#)」）
- ・レコード指定印刷（⇒「[レコードを指定して印刷する \(P338\)](#)」）
- ・レコードごとの部数設定印刷（⇒「[データベースの部数指定項目を選んで印刷する \(P351\)](#)」）

14. 画像を指定した塗潰しについて

画像ファイルを指定してオブジェクトを塗潰したときには、画像で塗潰されない部分は黒く印刷されます。（⇒「[イメージで塗潰す \(P238\)](#)」）

15. カッター設定について

プリンタードライバの印刷設定にて割付印刷を設定している場合は、本ソフトウェアのカッター設定にて「アプリケーションでカッター設定する」を指定できません。

16. 斜体文字について

「枠サイズ優先」または「文字サイズを枠サイズに合わせる」設定で斜体文字を使用すると、フォントや文字配置によっては文字の一部が切れて表示される場合があります。文字が正しく表示されない場合には、[余白] を調整してください。⇒「[\[フォント\] プロパティを設定する \(P229\)](#)」

17. 画像の配置と印刷結果について

以下の条件で印刷を行うと、不要な黒い帯が印刷されることがあります。

[条件]

デザインエリア上で、画像オブジェクトの一部が用紙エリアからはみ出した状態で印刷を実行した

[対処方法]

黒い帯が印刷された場合は、画像の配置を調整し、画像オブジェクトが用紙エリア内に収まるように設定を変更して、再度印刷を行ってください。

18. 長尺用紙への印刷結果について

以下の条件で印刷を行うと、画像の一部が伸びたり欠けたりすることがあります。

[条件]

- ・ 画像オブジェクトのサイズが約 700mm 以上
- ・ プリンタードライバーの印刷解像度が「1200dpi」に設定されている

[対処方法]

上記いずれかの条件を変更して、再度印刷を行ってください。

1

本ソフトウェアの基礎

作業を始める前に知っていただきたい本ソフトウェアの基礎事項について説明します。

起動と終了

作業画面とツールバー

ファイルの設定

レイアウト補助機能の設定

パレットの設定

表示画質の設定

起動と終了

本ソフトウェアの起動と終了について説明します。

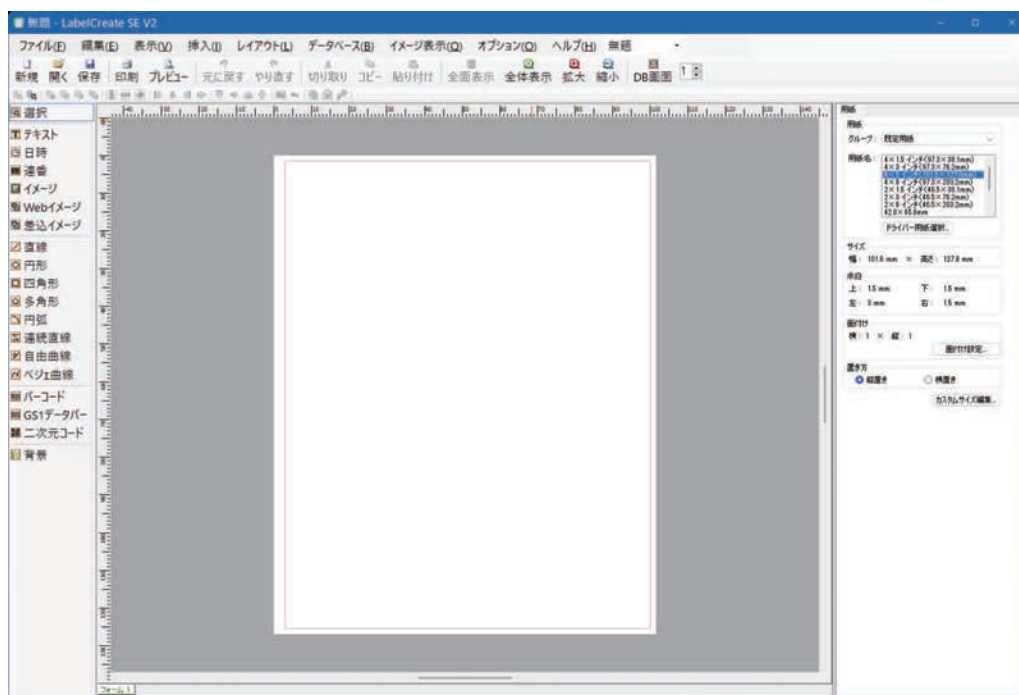
起動する

本ソフトウェアを起動します。

- 1 デスクトップ上のアイコン  (LabelCreate SE V2) をダブルクリックします。

または、[スタート] メニュー → [すべてのアプリ] → [Canon Finetech Nisca] → [LabelCreate SE V2] を選びます。

本ソフトウェアが起動します。



終了する

本ソフトウェアを終了します。

- 1 画面右上の  (閉じる) をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [終了] をクリックします。

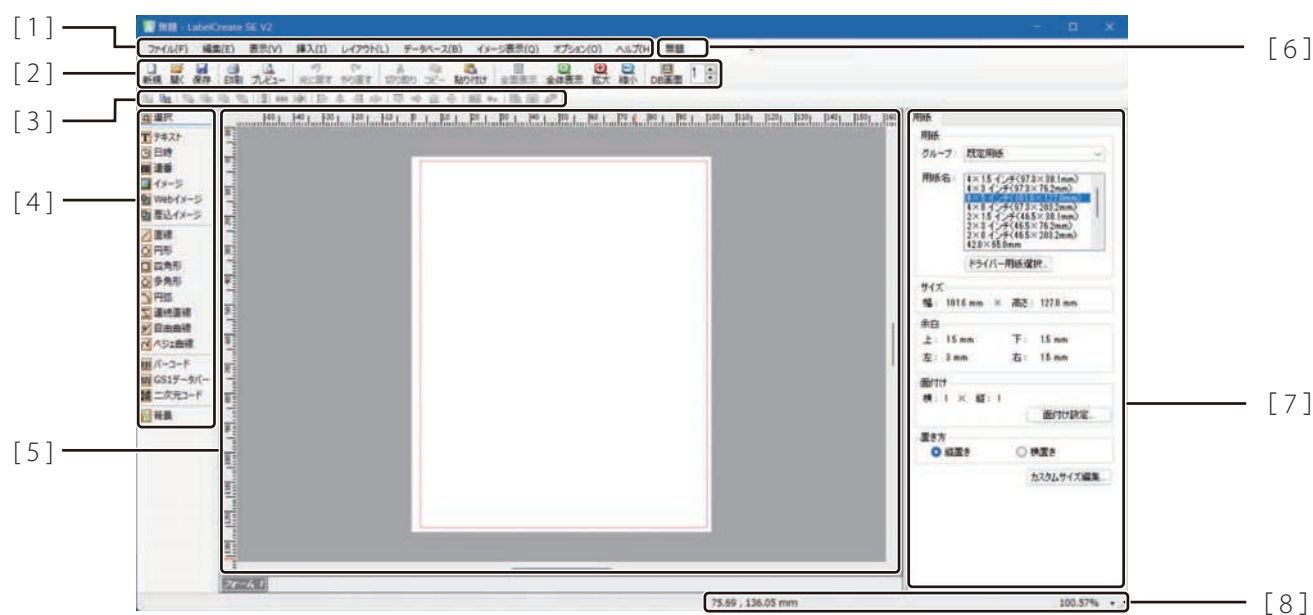
本ソフトウェアが終了します。

作業画面とツールバー

本ソフトウェアの作業画面とツールバーについて説明します。

作業画面の構成

本ソフトウェアの作業画面は、次のように構成されています。



[1] メニューバー

本ソフトウェアの機能を表示しています。
メニューをクリックすると、サブメニューがドロップダウン表示されます。
⇒「メニューバー（P.10）」

[2] 標準ツールバー

印刷や保存など、よく使うメニューをボタンとして表示しています。
⇒「標準ツールバー（P.14）」

[3] レイアウトツールバー

オブジェクトのレイアウトに使用するメニューをボタンとして表示しています。
⇒「レイアウトツールバー（P.16）」

[4] 挿入ツールバー

オブジェクトを挿入するツールをボタンとして表示しています。
⇒「挿入ツールバー（P.17）」

[5] デザインエリア

実際に作業を行う画面です。フォーム機能を使うと、最大 8 フォームのデザインが作成できます。

[6] デザインファイルの切り替え

デザインエリアの表示ファイルを切り替えます。

[7] プロパティエリア

デザインエリアで選んでいるオブジェクトのプロパティが表示されます。オブジェクトを選んでいるときは、[用紙] プロパティが表示されます。

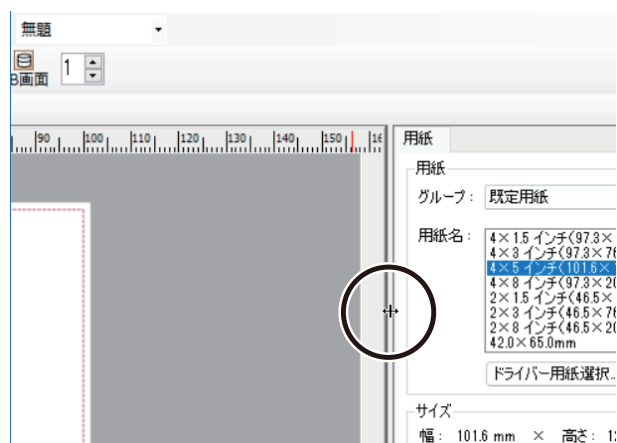
[8] ステータスバー

デザインエリアの現在の状態に関する情報を表示します。



メモ

- プロパティエリアとデザインエリアの境界線をポイントして移動すると、表示領域の割合を変えることができます。標準の状態に戻したいときは、境界線をポイントした状態でダブルクリックします。



メニューバー

メニューバーでは、本ソフトウェアの機能を表示しています。メニューをクリックすると、サブメニューがドロップダウン表示されます。

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) レイアウト(L) データベース(B) イメージ表示(Q) オプション(O) ヘルプ(H)

■ [ファイル] メニュー

本ソフトウェアのファイル作成や終了に関する項目が表示されます。

新規作成	新規ファイルを作成します。
開く	ファイルを開きます。
上書き保存	現在編集中のデータを上書き保存します。 新規作成時は、[名前を付けて保存]ダイアログボックスが開きます。
名前を付けて保存	ファイル名、保存場所を指定して保存します。
テンプレートを開く	作成したテンプレートを開きます。
テンプレートとして書き出す	作成したファイルをテンプレートとして保存します。
フォーム	フォームに関する設定を行います。
印刷	[印刷]ダイアログボックスを表示します。
印刷プレビュー	印刷イメージを表示します。
イメージとして出力	現在表示中のフォームの印刷イメージを、画像ファイルとして保存します。
全てのフォームをイメージとして出力	すべてのフォームの印刷イメージをまとめて画像ファイルとして保存します。
最近使ったファイル	最近操作したファイルの一覧が表示されます。
閉じる	現在表示しているファイルを閉じます。
終了	本ソフトウェアを終了します。

■ [編集] メニュー

オブジェクトを編集する項目が表示されます。

元に戻す	直前に実行した操作を無効とします。最大 20 個までの操作を元に戻すことができます。
やり直す	「元に戻す」で無効にした操作を、再度有効にします。
切り取り	選んでいるオブジェクトを切り取ります。
コピー	選んでいるオブジェクトをコピーします。
貼り付け	切り取りまたはコピーしたオブジェクトを貼り付けます。
削除	選んでいるオブジェクトを削除します。
すべて選択	デザインエリア内のオブジェクトをすべて選びます。
選択	オブジェクトを選びます。

■ [表示] メニュー

作業画面の表示に関する項目が表示されます。

ツールバー	標準ツールバー、レイアウトツールバー、および挿入ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示 / 非表示を切り替えます。
ルーラー	ルーラーの表示 / 非表示を切り替えます。
ガイドバー	ガイドバーに関する設定を行います。
グリッド	グリッドに関する設定を行います。
オブジェクト吸着	操作中のオブジェクトを他のオブジェクトに吸着させるかどうかを切り替えます。
オブジェクトリスト	オブジェクトリストの表示 / 非表示を切り替えます。
表示倍率	デザインエリアの表示に関する設定を行います。
全面表示 / 一面表示	面付けのデータを作成するときに、全体の表示（〔全面表示〕）と、面付け一面の表示（〔一面表示〕）を切り替えます。 フォームデザインが〔面付け〕のときに有効です。
差し込みデータ更新	デザインエリアの表示を更新します。

■ [挿入] メニュー

オブジェクトを挿入する項目が表示されます。

テキスト	文字を入力します。
日時	日時を入力します。
連番	連番機能のテキストオブジェクトを作成します。
イメージ	画像を貼り付けます。
Web イメージ	ストックフォト（オンラインの写真素材集）から画像を検索して貼り付けます。
差し込みイメージ	差し込み形式のイメージオブジェクトを作成します。
図形	図形（直線、円、四角形、多角形、円弧、連続直線、自由曲線、ベジェ曲線）を作成します。
バーコード	バーコードを作成します。
GS1 データバー	GS1 データバーを作成します。
二次元コード	二次元コードを作成します。
背景	背景を設定します。

■ [レイアウト] メニュー

挿入したオブジェクトのレイアウトに関する項目が表示されます。

重ね順	選んだオブジェクトの重ね順を設定します。
回転	選んだオブジェクトを回転（右 90 度 / 左 90 度）します。
反転	選んだオブジェクトを反転（水平 / 垂直）します。
配置	選んだオブジェクトを用紙に合わせて配置します。
位置合わせ	選んだ複数のオブジェクトの位置を揃えます。
グループ化	選んだ複数のオブジェクトをグループ化します。
グループ化解除	グループ化を解除します。
再グループ化	グループ化を解除したオブジェクトを再度グループ化します。
枠のみロック	選んだオブジェクトの位置情報（位置、サイズなど）をロックします。 文字や画像の変更など、位置情報以外の編集は可能です。
ロック	選んだオブジェクトをロックします。
ロック解除	ロックを解除します。

■ [データベース] メニュー

データベース機能に関する項目が表示されます。

データベース画面	・ 外部データベースのとき [データベース編集画面] を表示します。 ・ 内部データベースのとき [データベース確認画面] を表示します。
データベース参照 / データベースインポート	・ 外部データベースのとき（データベース参照） 参照するデータベースを指定します。 ・ 内部データベースのとき（データベースインポート） デザインファイルに取り込むデータベースを指定します。
差分インポート	内部データベースに新規のレコード情報を追加したり、特定のレコード情報のみを上書きしたりします。
データベース解除 / データベース削除	・ 外部データベースのとき（データベース解除） データベースを解除します。 ・ 内部データベースのとき（データベース削除） 取り込んだデータベース情報を削除します。
差し込みカラーテーブル	オブジェクトに設定するカラーテーブルを作成します。
内部データベースとして取り込む	参照している外部データベースを、内部データベースとして取り込みます。
データベース更新	外部データベースを参照しているとき、外部データベースの参照情報を更新します。

■ [イメージ] 表示メニュー

本ソフトウェアの表示画質を目的にあわせて変更します。

動作優先モード	チェックマークを入れると、「動作優先モード」に設定されます。 動作優先モードを設定すると、ご使用の環境によっては、「通常モード」（チェックマークなし、初期設定）に比べて、操作性を向上させることができます。
---------	---

■ [オプション] メニュー

本ソフトウェア全般に関する項目が表示されます。

環境設定	[環境設定] ダイアログボックスを表示します。
パレット	[パレット編集] ダイアログボックスを表示します。
印刷履歴設定	印刷履歴に関する設定を行います。
バーコード設定	用紙に合わせてバーコード、GS1 データバーまたは二次元コードを調整します。
アプリケーション識別子設定	[アプリケーション識別子設定] ダイアログボックスを表示します。

■ [ヘルプ] メニュー

本ソフトウェアのマニュアルとバージョン情報が表示されます。

オンラインマニュアルを見る	オンライン上に公開されているユーザーズガイドを開きます。
オフラインマニュアルを見る	パソコン内に登録したユーザーズガイドを開きます。 [オプション] メニューの [環境設定] からユーザーズガイドを登録します。
ソフトウェアライセンス情報	第三者のソフトウェアに関する情報を表示します。
バージョン情報	バージョン情報を表示します。

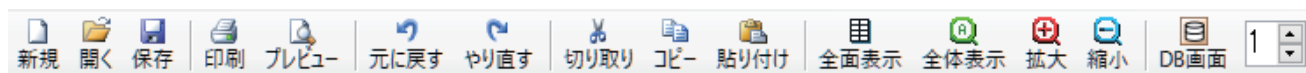


メモ

- ユーザーズガイドの登録方法については、セットアップガイドを参照してください。

標準ツールバー

標準ツールバーでは、よく使うメニューをボタンとして表示しています。



【新規】 	新規のファイルを作成します。
【開く】 	ファイルを開きます。
【保存】 	現在編集中的数据を上書き保存します。 新規作成時は、[名前を付けて保存]ダイアログボックスが開きます。
【印刷】 	[印刷]ダイアログボックスを表示します。
【プレビュー】 	印刷イメージを表示します。
【元に戻す】 	直前に実行した操作を無効とします。最大 20 個までの操作を元に戻すことができます。
【やり直す】 	「元に戻す」で無効にした操作を、再度有効にします。
【切り取り】 	選んでいるオブジェクトを切り取ります。
【コピー】 	選んでいるオブジェクトをコピーします。
【貼り付け】 	コピーしたオブジェクトを貼り付けます。
【全面表示】  【一面表示】 	面付けのデータを作成するときに、全体の表示（[全面表示]）と、面付け一面の表示（[一面表示]）を切り替えることができます。 フォームデザインが[面付け]のときに有効です。

[全体表示] 	デザインエリア全体を表示します。
[拡大] 	クリックすると、デザインエリアの表示倍率を 5% ずつ拡大します。
[縮小] 	クリックすると、デザインエリアの表示倍率を 5% ずつ縮小します。
[DB 画面] 	データベース編集画面（またはデータベース確認画面）を表示します。
[差し込みレコード番号] 	デザインエリアの表示レコードを切り替えます。
[レコード抽出中] 	レコード抽出状態を解除します。レコード抽出時のみ表示されます。

レイアウトツールバー

レイアウトツールバーでは、レイアウトに使用するメニューをボタンとして表示しています。



[囲み選択] 	指定した範囲に含まれるオブジェクトを選びます。指定した範囲からはみ出した部分があるオブジェクトは選択されません。
[交差選択] 	指定した範囲に含まれるか触れているオブジェクトをすべて選びます。
[重ね順] 	選んだオブジェクトの重ね順を設定します。 左側から「最前面へ」、「前面へ」、「背面へ」、「最背面へ」となります。
[配置] 	選んだオブジェクトを用紙に合わせて配置します。 左側から、「用紙の左右中央に合わせる」、「用紙の上下中央に合わせる」、「用紙の上下左右中央に合わせる」となります。
[位置合わせ] 	選んだ複数のオブジェクトの位置を揃えます。 左側から「左端で揃える」、「左右中央で揃える」、「右端で揃える」、「左右に等間隔で揃える」、「上端で揃える」、「上下中央で揃える」、「下端で揃える」、「上下に等間隔で揃える」となります。
[グループ化] 	選んだ複数のオブジェクトをグループ化します。
[グループ化解除] 	グループ化を解除します。
[枠のみロック] 	選んだオブジェクトの位置情報（位置、サイズなど）をロックします。 文字や画像の変更など、位置情報以外の編集は可能です。
[ロック] 	選んだオブジェクトをロックします。
[ロック解除] 	ロックを解除します。

挿入ツールバー

挿入ツールバーでは、オブジェクトを挿入するツールをボタンとして表示しています。



[選択]	選択	オブジェクトを選びます。他のオブジェクトツールを選んでいないときは常にこの状態です。
[テキスト]	テキスト	文字を挿入します。
[日時]	日時	日時を挿入します。
[連番]	連番	任意で指定した番号を、指定した増分で印刷ページごとに自動で繰り上げて印刷します。
[イメージ]	イメージ	画像データを貼り付けます。
[Web イメージ]	Webイメージ	ストックフォト(オンラインの写真素材集)から画像を検索して使用することができます。
[差込イメージ]	差込イメージ	差し込み形式のイメージオブジェクトを作成します。
[直線]	直線	直線を描きます。
[円形]	円形	円を描きます。
[四角形]	四角形	四角形を描きます。
[多角形]	多角形	多角形や星形を描きます。
[円弧]	円弧	円弧、扇形、および弓形を描きます。
[連続直線]	連続直線	連続直線を描きます。
[自由曲線]	自由曲線	自由曲線を描きます。
[ベジェ曲線]	ベジェ曲線	ベジェ曲線を描きます。
[バーコード]	バーコード	バーコードを作成します。
[GS1 データバー]	GS1データバー	GS1 データバーを作成します。
[二次元コード]	二次元コード	二次元コードを作成します。
[背景]	背景	用紙の背景を設定します。

ファイルの設定

ファイルの作成や保存のしかた、ファイルの開きかた、およびテンプレートの作成について説明します。

新しいファイルを作成する

新しくデータを作成するときは、新しいファイルを作成します。

- 1 標準ツールバー  をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [新規作成] をクリックします。

新しいファイルが作成されます。

ファイルを保存する

編集した内容をファイルに保存します。

■ 編集中のファイルを保存する

- 1 標準ツールバー  をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [上書き保存] をクリックします。

LabelCreate SE V2 デザインファイル (*.lic2) が保存されます。



メモ

- 新しいファイルを保存するときは、[名前をつけて保存] ダイアログボックスが表示されます。設定のしかたは、「[ファイルを別名で保存する \(P.19\)](#)」を参照してください。
- デザインファイルを保存すると、印刷設定ファイル (*.li2) が作成されます。詳しくは、「[印刷設定ファイル \(*.li2\) について \(P.330\)](#)」を参照してください。
- 保存場所の初期設定は、次のようになっています。
< C:\Users¥ [ユーザー名] ¥Documents¥Canon Finetech Nisca¥LabelCreate SE V2 >

■ ファイルを別名で保存する

1 [ファイル] メニューの [名前を付けて保存] をクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

2 [保存場所] と [ファイル名] を指定します。

3 [保存] をクリックします。

LabelCreate SE V2 デザインファイル (*.lc2) が別名で保存されます。



メモ

- 現在編集中のデータを同一ファイル名で保存するときは、[上書き保存]（または、[保存]）を選んでください。
[名前を付けて保存] を選択して同一ファイル名で保存する場合は、保存場所を変更してください。
- デザインファイルを保存すると、印刷設定ファイル (*.li2) が作成されます。詳しくは、「[印刷設定ファイル \(*.li2\) について \(P330\)](#)」を参照してください。

ファイルを開く

本ソフトウェアで開くことができるファイル形式は、次のようになっています。

< LabelCreateSEV2 (*.lc2) >

本ソフトウェアで作成したデザインファイルです。

「本ソフトウェアで作成したファイルを開く (P.21)」を参照してください。

< LabelCreateSE (*.LCD) >

「LabelCreate SE」で作成したデザインファイルです。

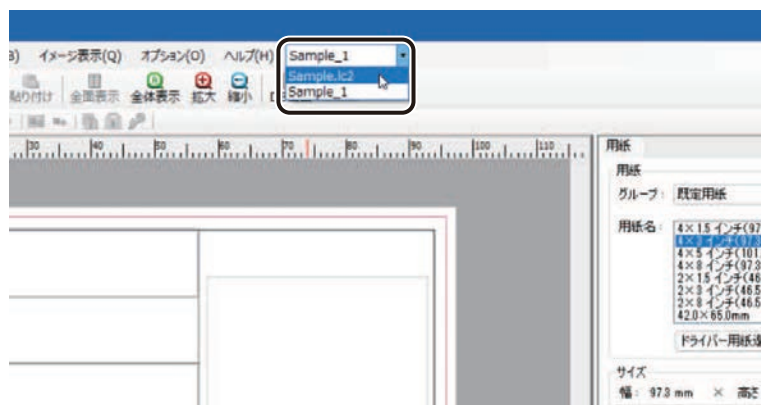
「LabelCreate SE またはラベル Pro-1 で作成したファイルを開く (P.21)」を参照してください。

< LabelPro-1 (*.SMD) >

「ラベル Pro-1」で作成したデザインファイルです。

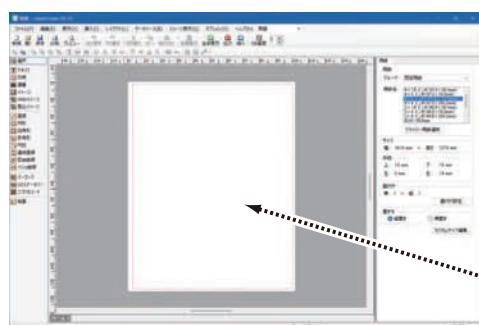
「LabelCreate SE またはラベル Pro-1 で作成したファイルを開く (P.21)」を参照してください。

複数のデザインファイルを開いたときは、[デザインファイルの切り替え]にて表示したいデザインファイルをプルダウンメニューから選びます。



メモ

- 本ソフトウェアが同時に起動できるウィンドウは2つまでとなっています。ひとつのウィンドウで10ファイルまでを表示することができます。
- 複数のデザインファイルをデザインエリア上にドラックすると、一度に複数のファイルを開くことができます。



■ 本ソフトウェアで作成したファイルを開く

1 標準ツールバー をクリックします。

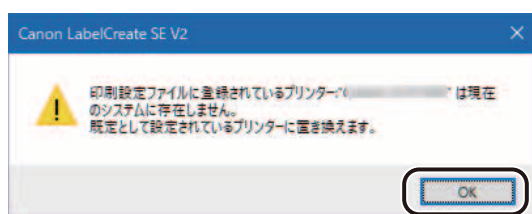
または、[ファイル] メニューの [開く] をクリックします。

2 LabelCreate SE V2 デザインファイル (*.lc2) を選び、[開く] をクリックします。

指定したファイルが開きます。

メモ

- 印刷設定ファイル (*.li2) に記録されているプリンターがご使用の環境にない場合は、次のようなメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、ご使用の環境で「通常使うプリンター」に設定されているプリンターで起動します。



プリンターを変更した場合は、バーコード、GS1 データバー、二次元コードを再確認してください。バーコード、GS1 データバー、二次元コードが配置してあるデータの場合、印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成したオブジェクトでも大きさが異なります。

- 他の人がファイルを使用している場合は、読み取り専用になります。

■ LabelCreate SE またはラベル Pro-1 で作成したファイルを開く

1 標準ツールバー をクリックします。

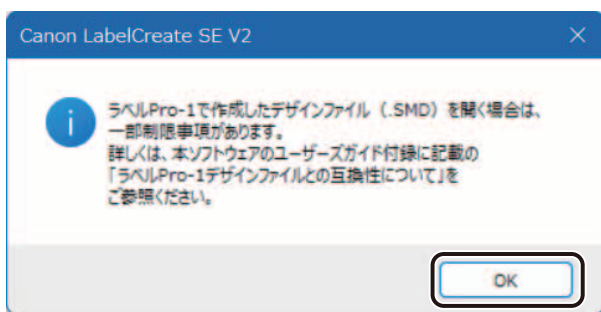
または、[ファイル] メニューの [開く] をクリックします。

2 ファイル形式を選びます。

LabelCreate SE デザインファイル (*.LCD) を開くときは、ファイル形式を「LabelCreate (*.lc2;*.LCD)」または「LabelCreateSE (*.LCD)」に、ラベル Pro-1 デザインファイル (*.SMD) を開くときは、ファイル形式を「LabelPro-1 (*.SMD)」を選びます。

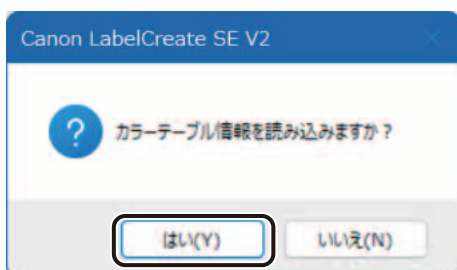
3 LabelCreate SE デザインファイル (*.LCD) またはラベル Pro-1 デザインファイル (*.SMD) を選び、[開く] をクリックします。

- 4 ラベル Pro-1 デザインファイル (*.SMD) の場合は、確認のメッセージが表示されます。内容を確認したら、[OK] をクリックします。



- 5 カラーテーブル情報が登録されているときは、確認のメッセージが表示されます。

カラーテーブル情報を読み込むときは [はい] をクリックしてください。



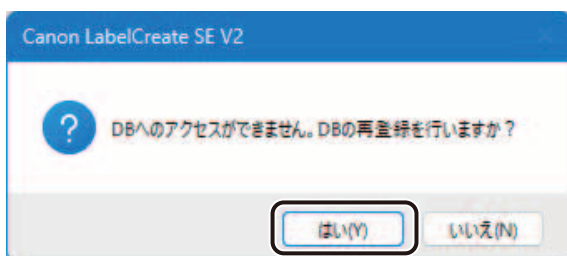
メモ

- カラーテーブルファイル (ColorTable.ini) の位置が確認できなかった場合は、カラーテーブルファイルが格納されているフォルダーを指定する画面が表示されます。フォルダーを指定したあと、[OK] をクリックしてください。

- 6 参照している外部データベースが読み込めない場合は、次のメッセージが表示されます。

[はい] をクリックして、データベースを指定しなおしてください。

⇒ 「データベースを参照 (またはインポート) する (P.262)」

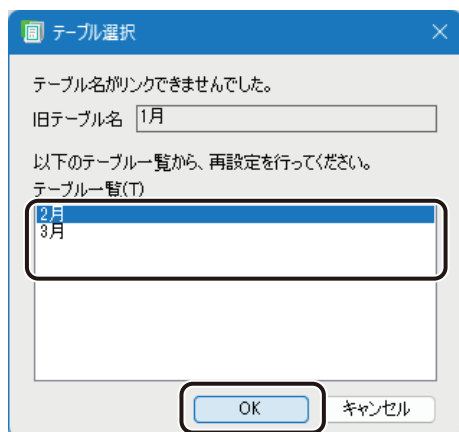


指定したファイルが開きます。

7 データベースのシート名またはデータ項目名が正しく連携できていない場合は、次の画面が表示されます。

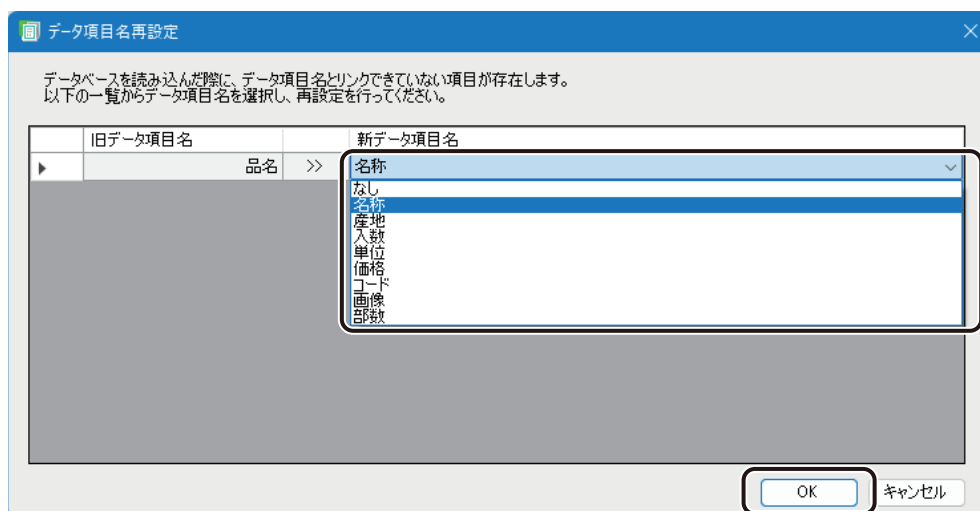
- シート名が連携できていない場合

「テーブル一覧」から正しいシート名を選択し、[OK] をクリックしてください。

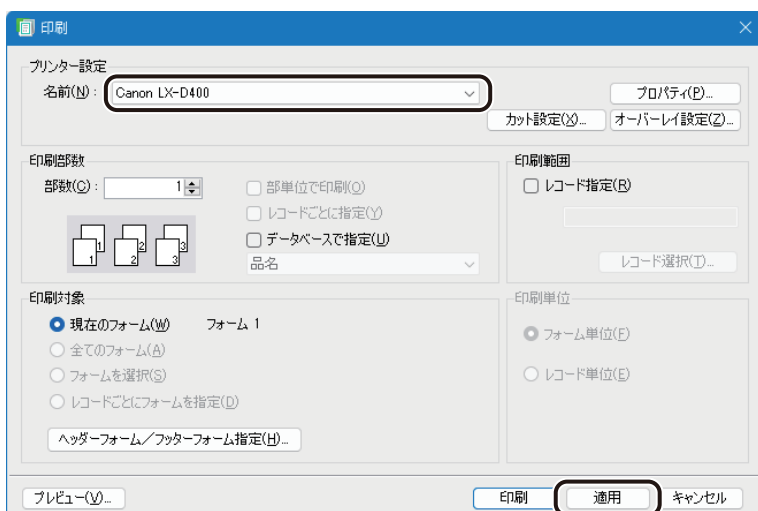


- 項目名が連携できていない場合

「新データ項目名」のドロップダウンリストから正しい項目名を選択し、[OK] をクリックしてください。



8 標準ツールバー をクリックし、印刷に使うプリンターを指定します。



9 印刷や編集の前に、内容が正しく表示されていることを確認し、必要に応じて再設定します。

本ソフトウェアで LabelCreate SE デザインファイル (*.LCD) やラベル Pro-1 デザインファイル (*.SMD) を読み込む場合、ソフトウェアの仕様の違いにより、ファイルが読み込めないことや、本ソフトウェアの仕様に合わせた変換処理が行われることがあります。

LabelCreate SE デザインファイル (*.LCD) および「ラベル Pro-1」デザインファイル (*.SMD) の読み込み制限については、「[デザインファイルの互換性について \(P.399\)](#)」を参照してください。



- 編集したデータを保存するときは、本ソフトウェアの保存形式 (*.lc2) で別名保存してください。

ファイルを閉じる

表示しているデザインファイルを閉じます。

1 [ファイル] メニューの [閉じる] をクリックします。

表示しているファイルを閉じます。



- 編集中のデータが存在するときは、データ変更の保存を確認するメッセージが表示されます。

テンプレートを使う

既存のデザインファイルからテンプレートを作成します。

■ 新しいテンプレートを作成する

1 デザインファイルを開きます。

2 [ファイル] メニューの [テンプレートとして書き出す] をクリックします。

3 [保存場所] と [ファイル名] を指定します。

4 [保存] をクリックします。

LabelCreate SE V2 テンプレートファイル (*.lct) が保存されます。

データベースと連携していた場合は、1 レコード分の情報が内部データベースとして保存されます。



- テンプレートを上書き保存するときは、[テンプレートとして書き出す] を選んでください。[上書き保存] (または、[保存]) を選んだときはデザインファイル (*.lct2) として保存されます。
- テンプレートに配置している画像オブジェクトは、画像ファイルとして保存することはできません。
- デザインファイルをテンプレートとして保存すると、配置しているすべてのオブジェクトの「枠のみロック」機能が有効 (チェックマーク有) になります。

■ 既存のテンプレートを編集する

- 1 [ファイル] メニューの [テンプレートを開く] をクリックします。
- 2 LabelCreate SE V2 テンプレートファイル (*.lct) を選び、[開く] をクリックします。
- 3 既存のテンプレートを編集する
- 4 [ファイル] メニューの [テンプレートとして書き出す] をクリックします。
- 5 既存のテンプレートの [保存場所] と [ファイル名] を指定します。
- 6 [保存] をクリックします。
ファイルの上書きを確認するメッセージが表示されます。
- 7 [はい] をクリックします。
LabelCreate SE V2 テンプレートファイル (*.lct) が上書き保存されます。

■ テンプレートを使って新しいデザインファイルを作成する

- 1 [ファイル] メニューの [テンプレートを開く] をクリックします。
- 2 LabelCreate SE V2 テンプレートファイル (*.lct) を選び、[開く] をクリックします。
- 3 テンプレートを編集して、デザインファイルを作成する
オブジェクトの追加やデータベースの連携を行います。
オブジェクトの追加については、「[オブジェクトの操作と作成 \(P.131\)](#)」を参照してください。
データベース連携については、「[データベース機能の設定 \(P.260\)](#)」を参照してください。

- 4 標準ツールバー  をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [上書き保存] をクリックします。

LabelCreate SE V2 デザインファイル (*.lc2) が保存されます。

レイアウト補助機能の設定

デザインエリアのレイアウト補助機能について説明します。

レイアウト補助機能を使ってデザインエリアをカスタマイズすると、作成したオブジェクトを正確かつ簡単に配置できるようになるため、効率的に作業を進めることができます。

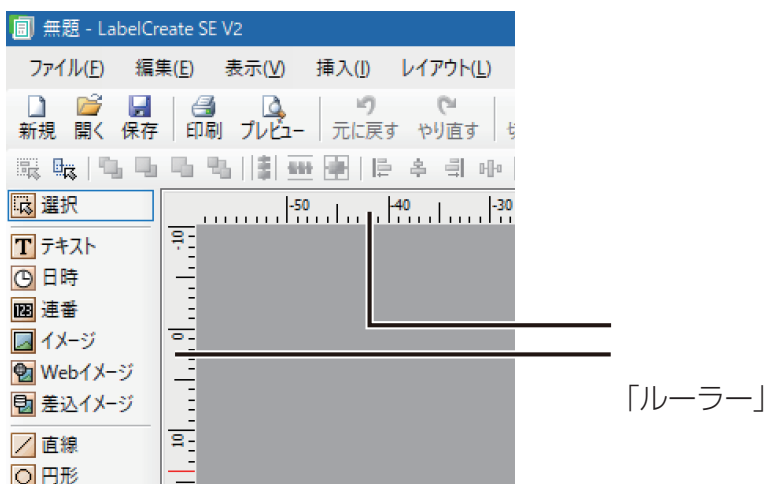
ルーラーを表示する

ルーラーの表示 / 非表示を切り替えます。

ルーラーは、デザインエリアの上側と左側にミリ単位で表示されます。

1 [表示] メニューの [ルーラー] をクリックします。

ルーラーの表示 / 非表示が切り替わります。



ガイドバーを使う

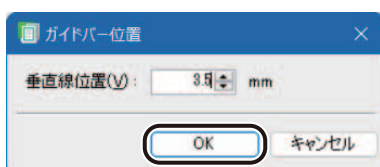
ガイドバーは、デザインエリアのオブジェクトを配置したり、変形したりするときに便利なツールです。また、ガイドバーへの吸着機能を使うと、オブジェクトをガイドバーの位置に揃うように配置・変形できます。ガイドバーは画面に表示されていても印刷されません。ガイドバーはフォームごとに設定できます。

■ メニューからガイドバーを作成する

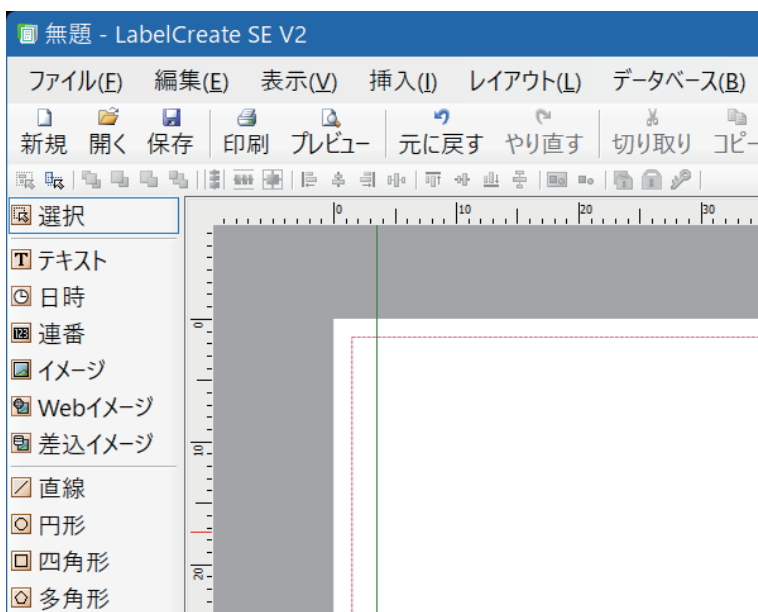
- 1 [表示] メニューの [ガイドバー] から [水平線を追加] または [垂直線を追加] をクリックします。
[ガイドバー位置] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 ガイドバーを引く位置を入力し、[OK] をクリックします。

位置は、0.1 mm単位で入力できます。



ガイドバーが設定されます。



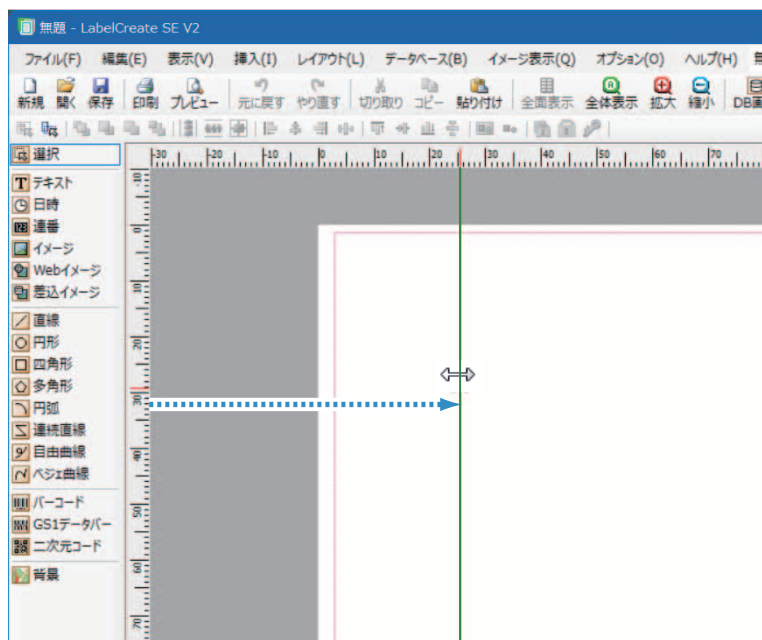
■ ルーラーからガイドバーを作成する

1 ルーラーを表示します。

⇒「ルーラーを表示する (P.27)」

2 ルーラー上にポインターを置き、デザインエリア上にドラッグします。

水平方向にガイドバーを引くときは、上側のルーラーからドラッグし、垂直方向にガイドバーを引くときは、左側のルーラーからドラッグします。



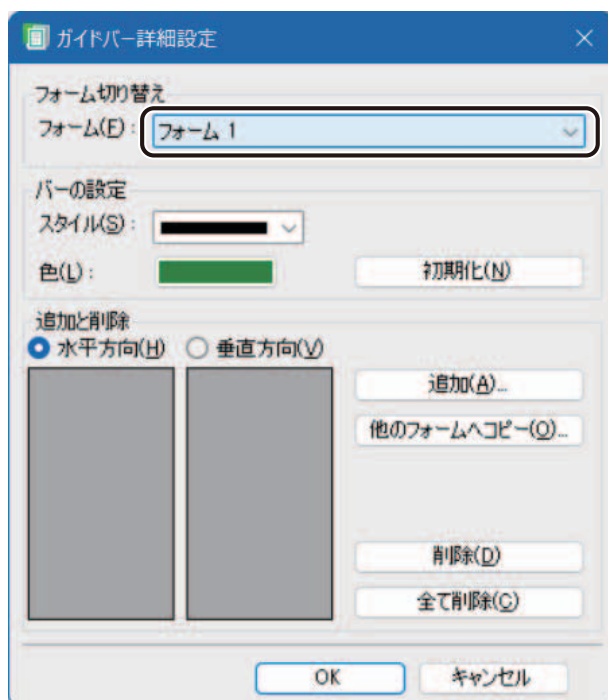
マウスの左ボタンを外すと、デザインエリアにガイドバーが設定されます。

■ 複数のガイドバーを一度に作成する

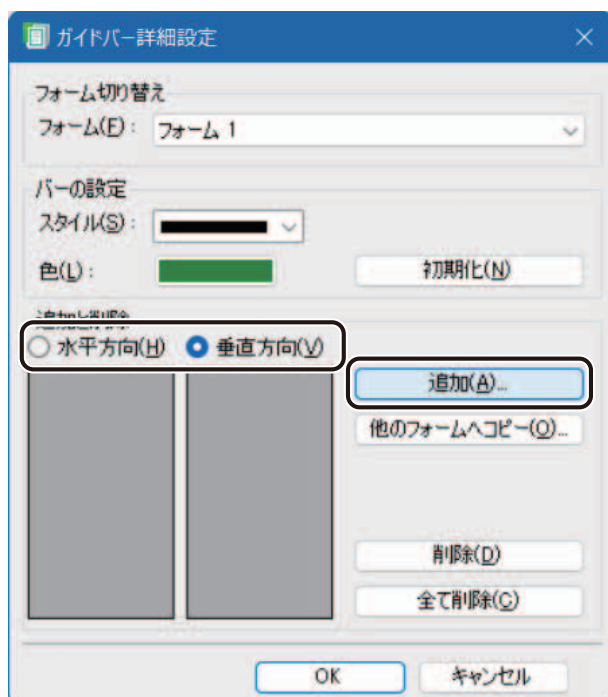
1 [表示] メニューの [ガイドバー] から [詳細設定] をクリックします。

[ガイドバー詳細設定] ダイアログボックスが表示されます。

2 ガイドバーを設定するフォームを選びます。



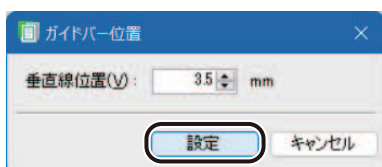
3 ガイドバーを設定する方向を、[水平方向] または [垂直方向] から選び、[追加] をクリックします。



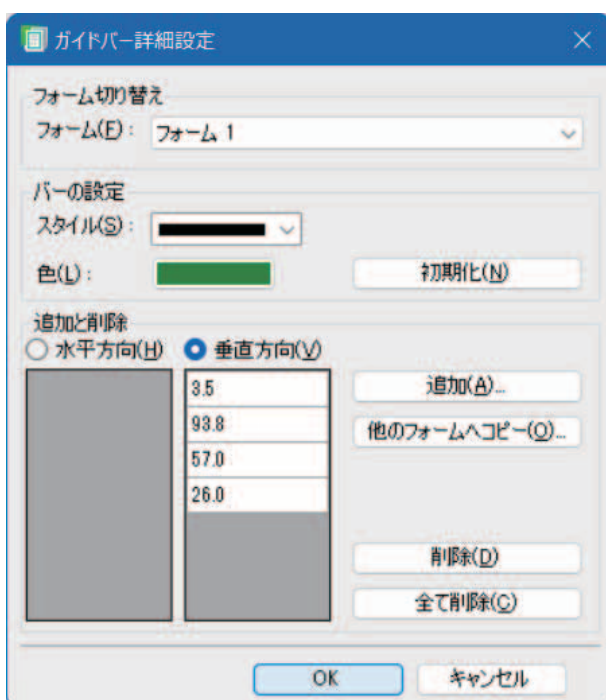
[ガイドバー位置] ダイアログボックスが表示されます。

4 ガイドバーを引く位置を入力し、[設定] をクリックします。

位置は、0.1 mm単位で入力できます。

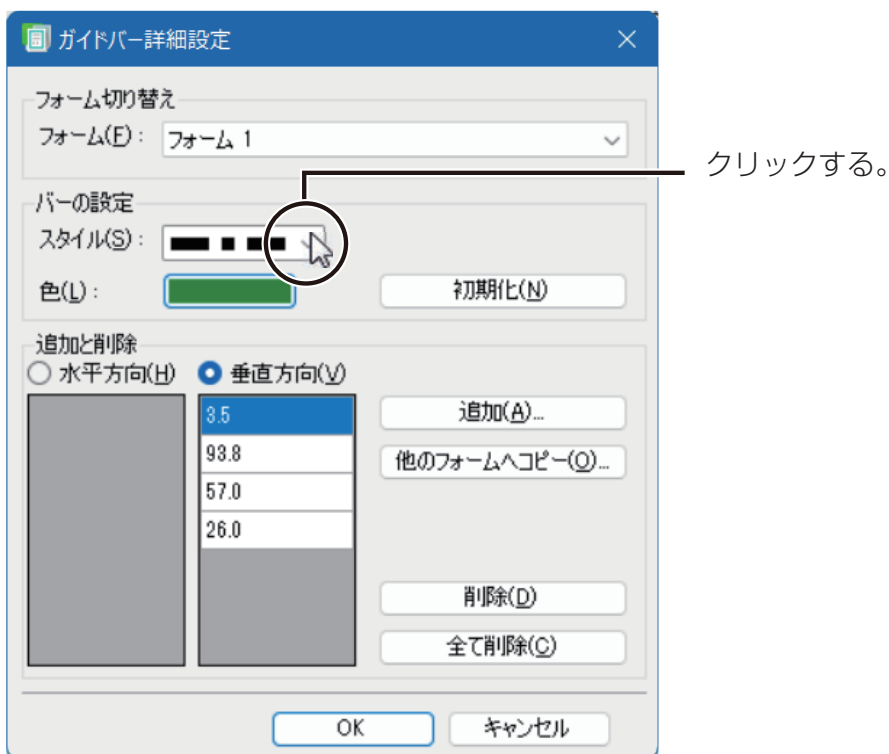


5 手順3～4を行い、ガイドバーを引く位置をすべて入力します。

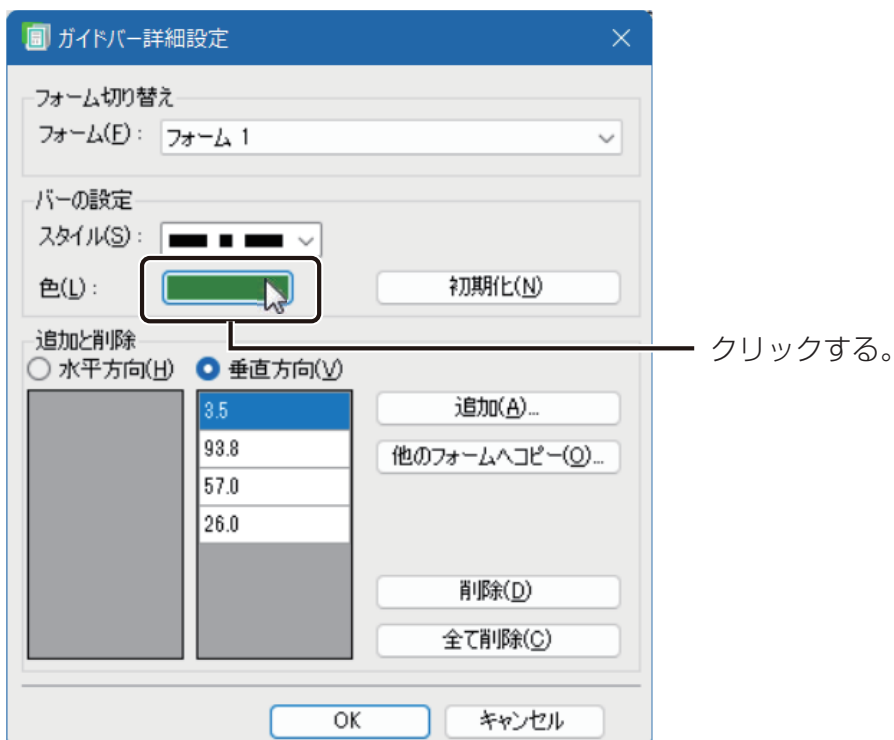


6 ガイドバーの形状や色を設定します。

[スタイル] からガイドバーの線の形状を選びます。
クリックすると、形状のリストが表示されます。



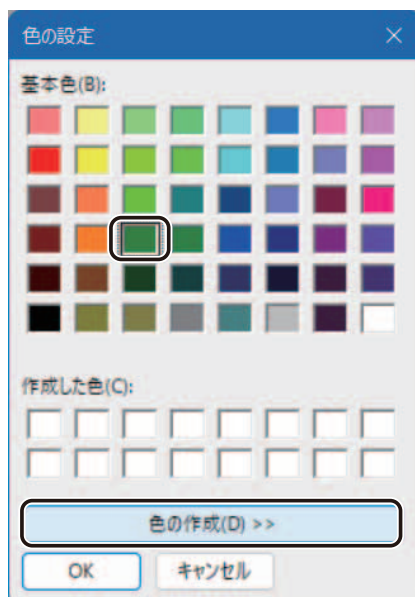
[色] からガイドバーの色を選びます。
クリックすると、[色の設定] ダイアログボックスが表示されます。



 メモ

- ガイドバーの形状や色を標準の設定に戻したいときは「初期化」をクリックします。
- 「色の設定」ダイアログボックスにて、新しい色を作成して設定したいときは、次のように操作します。

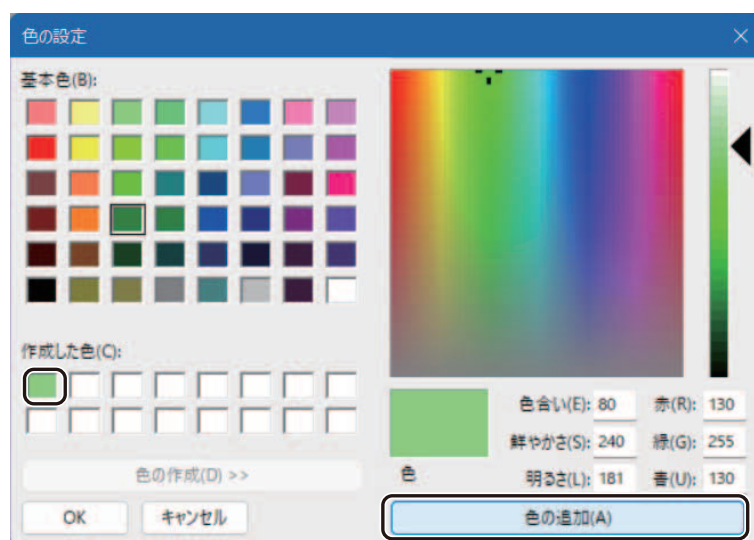
① 基本となる色を選び、「色の作成」をクリックします。



② 新しい色の情報を設定します。

「メニューから色を登録する」の手順4 (P.45) を参考に色を設定します。

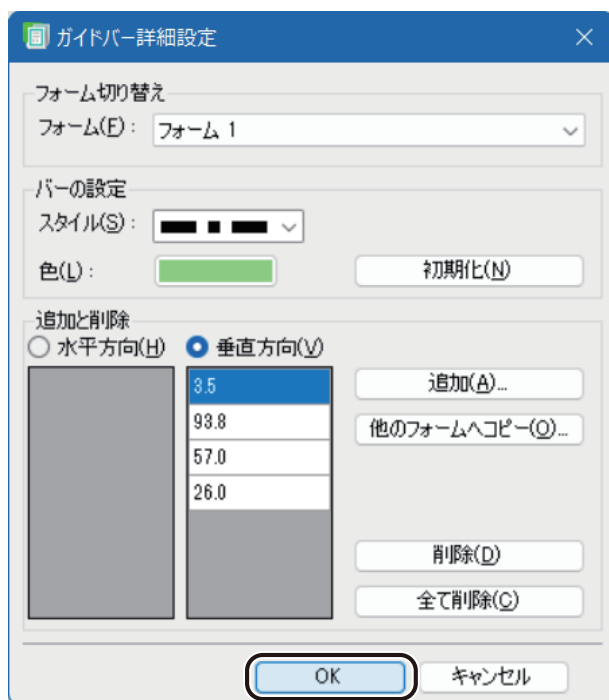
③ 「色の追加」をクリックします。



「作成した色」に新しい色が追加されます。

④ ガイドバーに設定する色を選び、「OK」をクリックします。

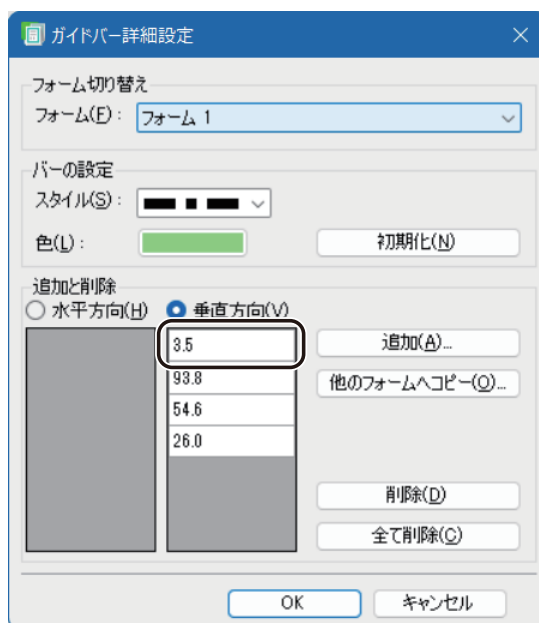
7 [OK] をクリックします。



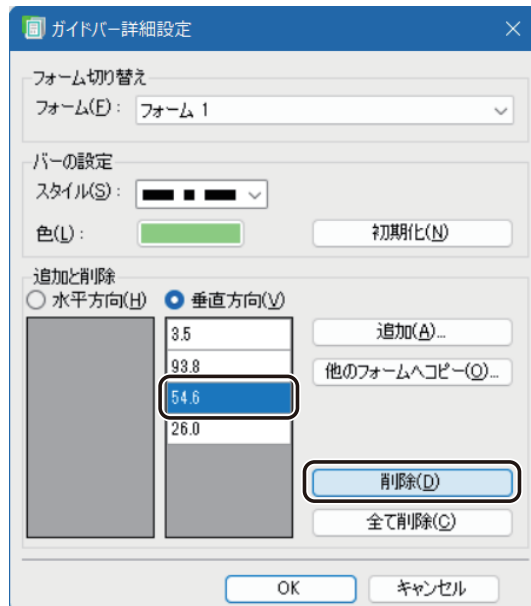
ガイドバーが設定されます。



- ガイドバーの表示 / 非表示を切り替えるときは、[表示] メニューの [ガイドバー] から [表示する] をクリックします。
- 設定した位置を変更したいときは、変更したい数値をダブルクリックして入力カーソルを表示したあと、数値を再度入力します。



- 設定した位置を削除したいときは、削除したい位置を選び、[削除] をクリックします。



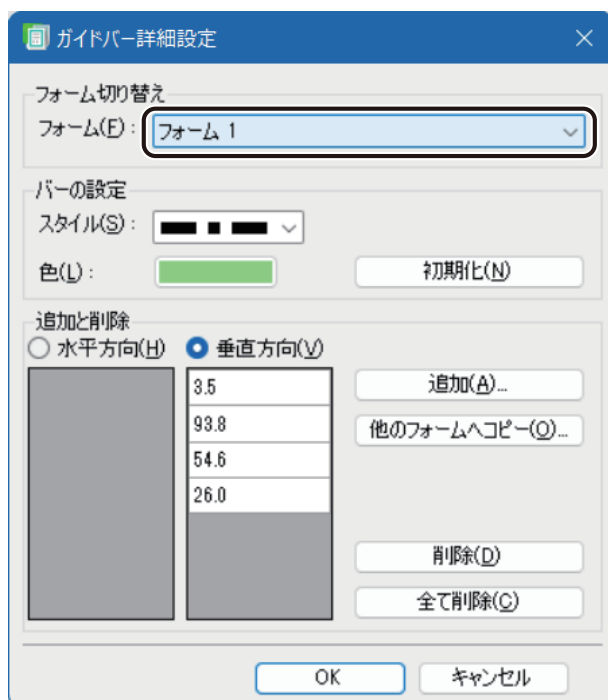
- 設定したすべての位置を削除するときは、[全て削除] をクリックします。

■ ガイダーを別のフォームにコピーする

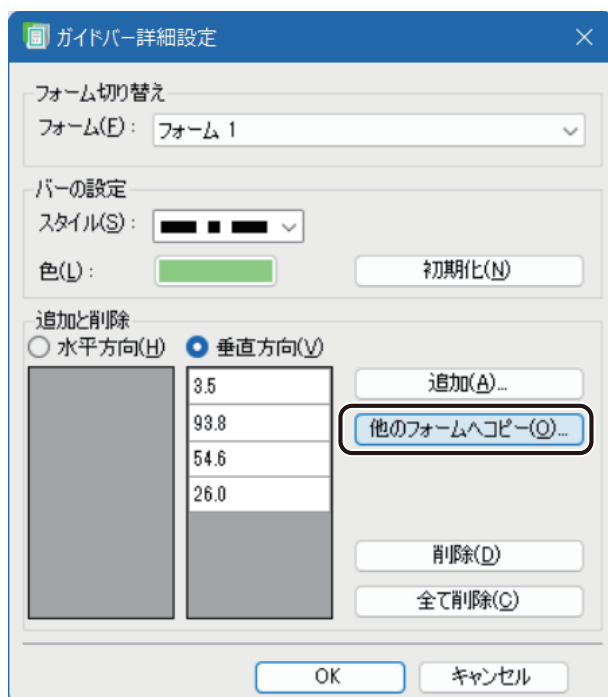
1 [表示] メニューの [ガイダー] から [詳細設定] をクリックします。

[ガイダー詳細設定] ダイアログボックスが表示されます。

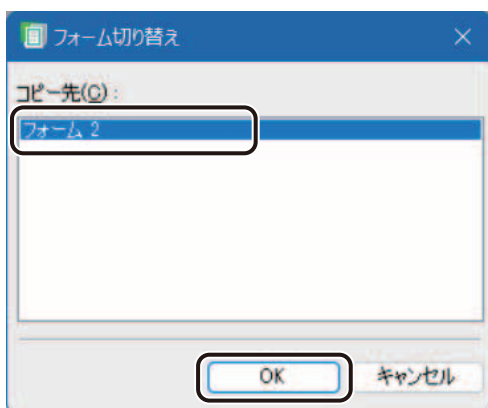
2 コピー元のフォームを選びます。



3 [他のフォームへコピー] をクリックします。



4 コピー先のフォームを選んで、[OK] をクリックします。



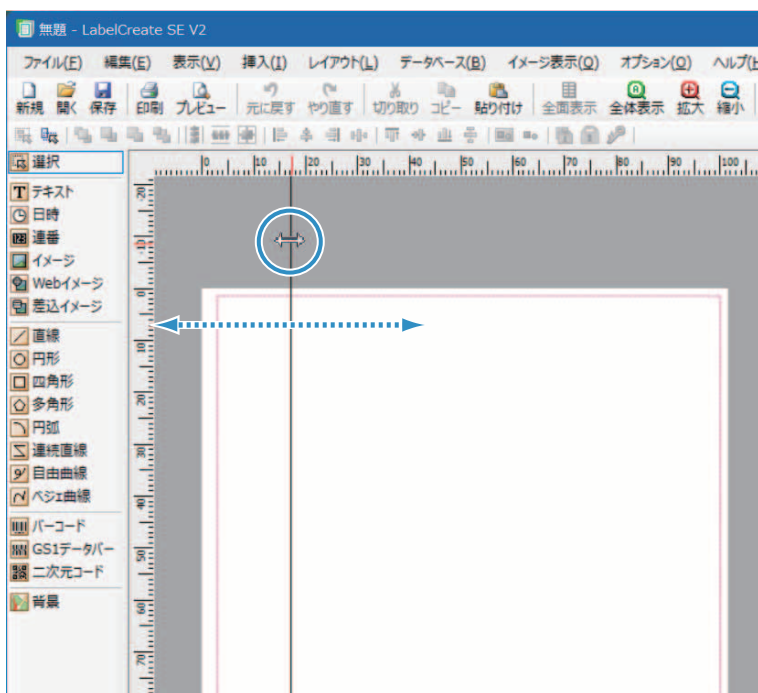
コピー先のフォームにガイドが表示されます。

5 [OK] をクリックします。

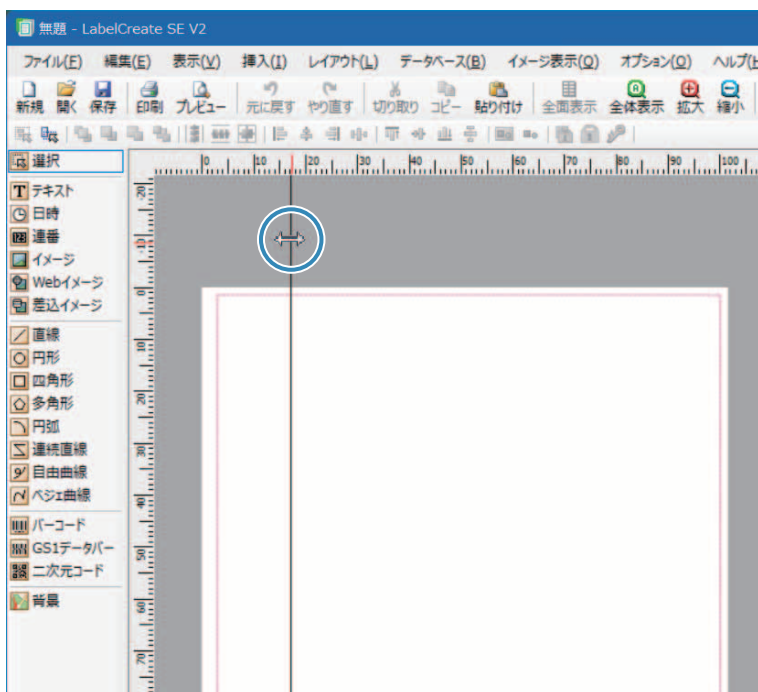
コピー先のフォームにガイドバーの設定がコピーされます。

■ ガイドバーの位置を移動する

1 ガイドバーをドラッグし、任意の位置に移動します。



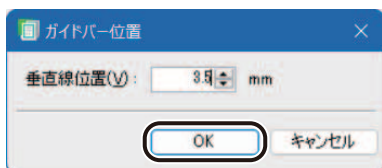
2 正確な位置に移動したいときは、ガイドバー上でダブルクリックします。



[ガイドバー位置] ダイアログボックスが表示されます。

3 移動位置を入力し、[OK] をクリックします。

位置は、0.1 mm単位で入力できます。



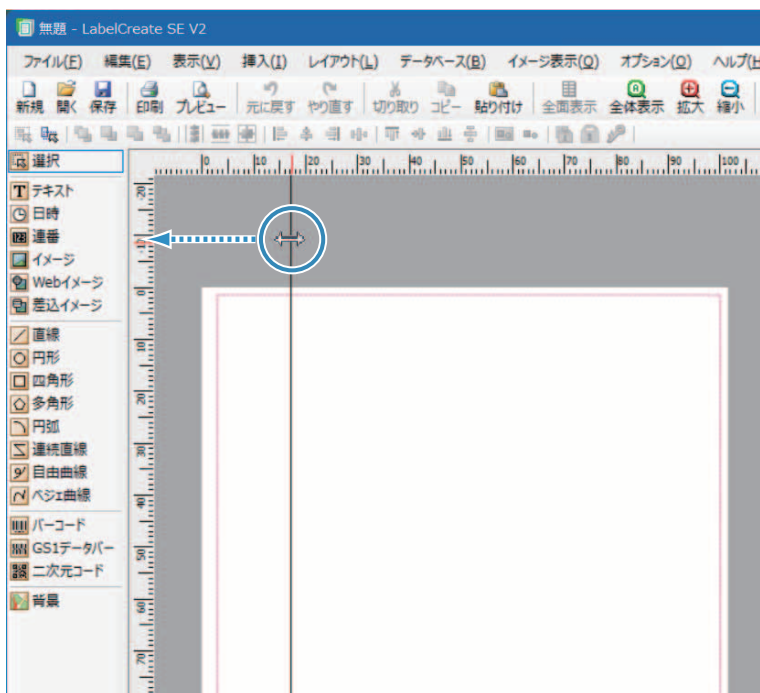
メモ

- [ガイドバー位置] は、右クリックで表示されるメニューから選んで設定することもできます。

■ ガイドバーを削除する

1 ガイドバーにポインターを置き、ルーラー上までドラッグします。

ガイドバーをポイントして移動させます。



マウスの左ボタンを外すと、ガイドバーが削除されます。

メモ

- [表示] メニューの [ガイドバー] から [すべて削除] をクリックすると、デザインエリア上のすべてのガイドバーを一括で削除できます。

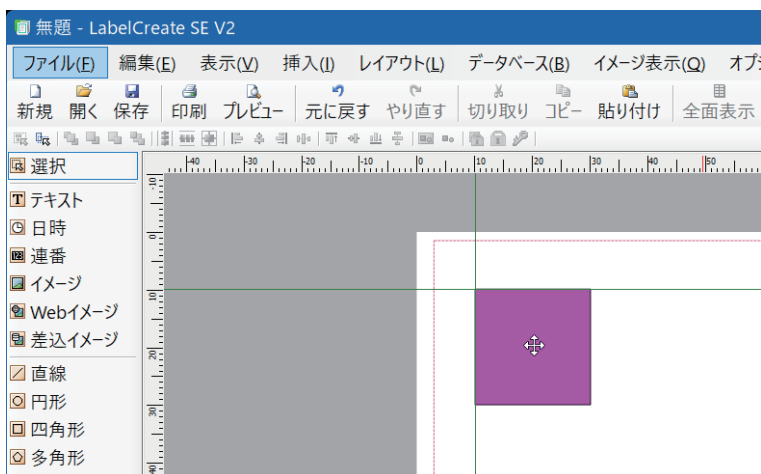
■ ガイダーにオブジェクトを吸着させる

1 [表示] メニューの [ガイダー] から [吸着させる] をクリックします。

吸着機能の有効（チェックマーク有） / 無効（チェックマーク無）が切り替わります。

2 オブジェクトをガイダーに沿って配置させます。

オブジェクトをドラッグしてガイダーに近づけると、オブジェクトの枠がガイダーに吸着します。



メモ

- 吸着機能を一時的に無効にしたいときは、[Alt] キーを押しながらオブジェクトを移動します。

グリッドを使う

グリッドは、デザインエリア上にマス目を表示する機能で、ガイドバーと同様にオブジェクトの配置や変形に便利なツールです。また、グリッドへの吸着機能を使うと、オブジェクトをグリッドの位置に揃うように配置・変形できます。グリッドは画面に表示されていても印刷されません。

■ グリッドを表示する

1 [表示] メニューの [グリッド] から [表示する] をクリックします。

グリッドの表示 / 非表示が切り替わります。

メモ

- グリッドの形状や色を変更したいときは、[表示] メニューの [グリッド] から [詳細設定] をクリックします。



[スタイル]

グリッドの形状を選びます。

[色]

グリッドの色を選びます。

新しい色を作成して設定したいときは、「複数のガイドバーを一度に作成する」の手順 5 のメモ (P.33) を参考に設定します。

[間隔]

グリッドの間隔を 0.01mm 単位で設定します。

- グリッドの形状や色を標準の設定に戻したいときは [初期化] をクリックします。

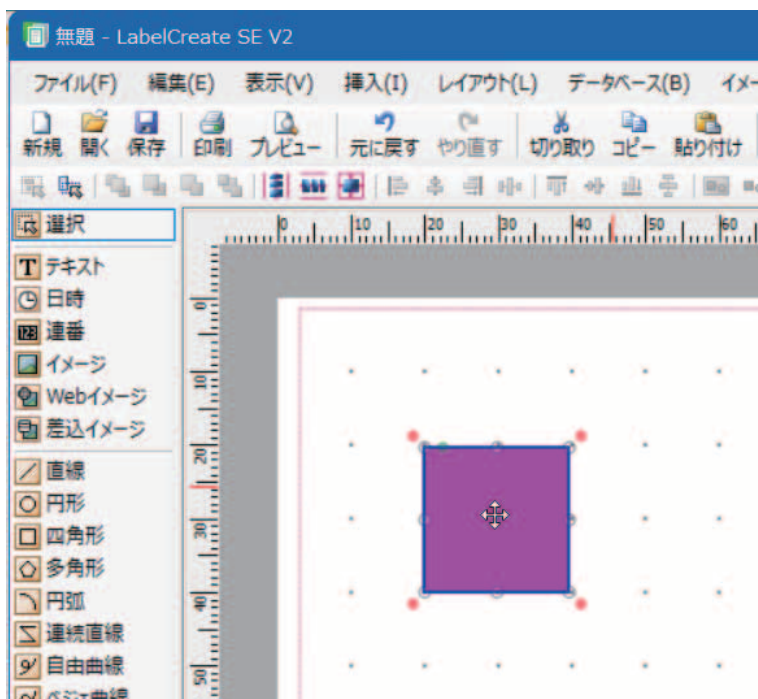
■ グリッドにオブジェクトを吸着させる

1 [表示] メニューの [グリッド] から [吸着させる] をクリックします。

吸着機能の有効（チェックマーク有） / 無効（チェックマーク無）が切り替わります。

2 オブジェクトをグリッドに沿って配置させます。

オブジェクトをドラッグしてグリッドに近づけると、オブジェクトの枠がグリッドに吸着します。



メモ

- 吸着を設定した状態で、キーボードの矢印キーを押すと、オブジェクトが次のグリッドの位置に移動します。
[Ctrl] キーを押しながら矢印キーを押すと、グリッドを無視して移動させることができます。
- グリッドが非表示のときでも、吸着機能は有効となります。
- 吸着機能を一時的に無効にしたいときは、[Alt] キーを押しながらオブジェクトを移動します。

表示倍率を変える

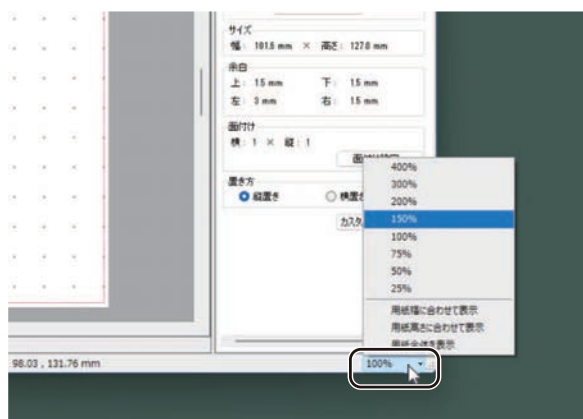
小さいオブジェクトを編集したり、全体のデザインイメージを確認したりできるように、任意の表示倍率に変えることができます。

1 [表示] メニューの [表示倍率] から任意の倍率をクリックします。



メモ

- 画面右下のステータスバーで、現在の表示倍率を確認できます。また、現在の表示倍率をクリックすると、表示倍率の変更ができます。



- 表示倍率を微調整したいときは、標準ツールバーの  および  を使います。

パレットの設定

本ソフトウェアで使う色は、パレットで管理されています。パレットを編集して、新しい色を登録します。

メニューから色を登録する

新しい色をあらかじめ登録するときは、この方法で設定します。

1 [オプション] メニューの [パレット] をクリックします。

[パレット編集] ダイアログボックスが表示されます。

2 新しい色を登録するパレットを選びます。

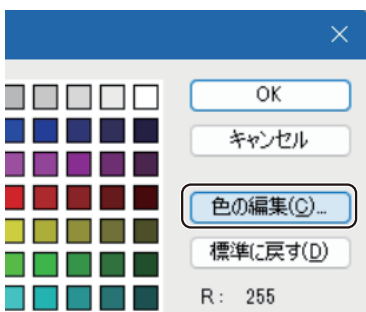


クリックする。



- あらかじめ登録されている標準の色を編集することもできます。

3 [色の編集] をクリックします。



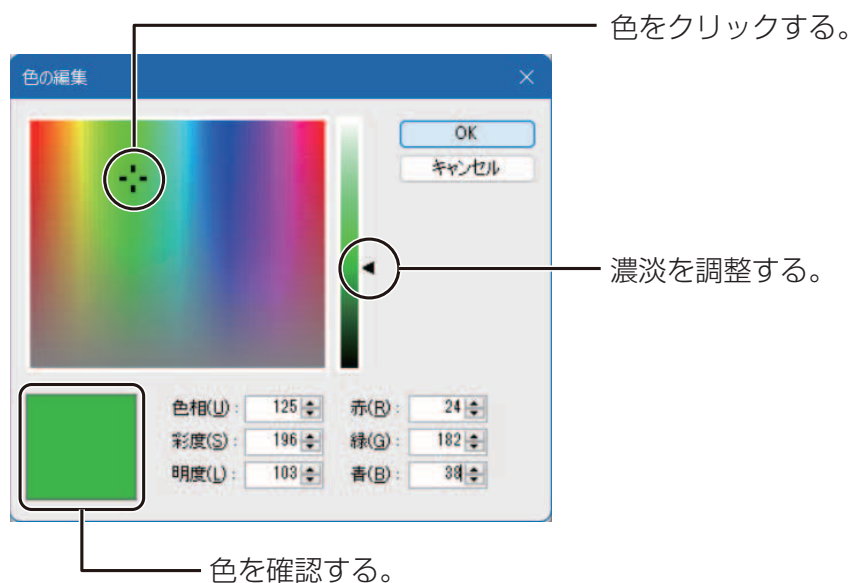
[色の編集] ダイアログボックスが表示されます。

4 新しい色の情報を設定します。

設定は、次のいずれかで行います。

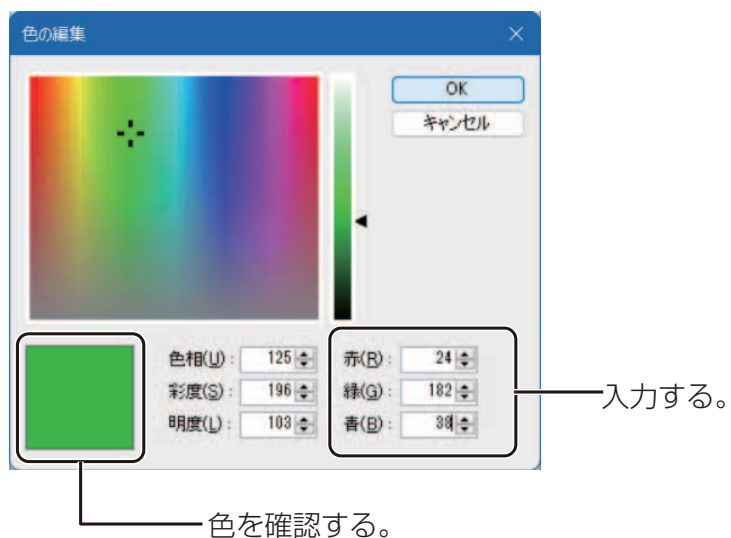
- 色の選択領域とスライダーで設定する

色の選択領域から近い色をクリックし、右側のスライダーで濃淡を調整します。



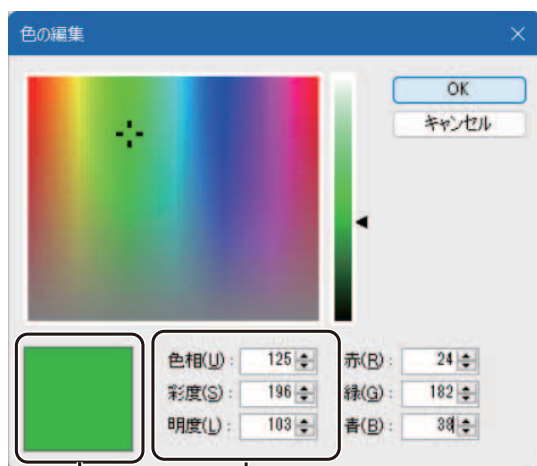
- 赤、緑、青（RGB）で設定する

赤、緑、青を入力して色を設定します。



- 色相、彩度、明度で設定する

色相、彩度、明度を入力して色を設定します。



色を確認する。

入力する。

5 [OK] をクリックします。

新しい色が登録されます。

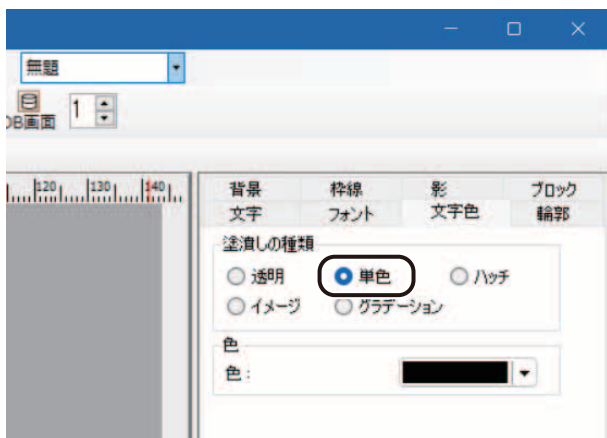


- [標準に戻す] をクリックすると、標準の色は元の色に戻り、任意で登録した色はすべて削除されます。

プロパティから色を登録する

プロパティを編集時に、新しい色を登録することができます。

1 色を設定するプロパティを表示し、[単色] または [ハッチ] を選びます。



2 パレットを表示し、[色の編集] をクリックします。

▼ をクリックすると、パレットが表示されます。



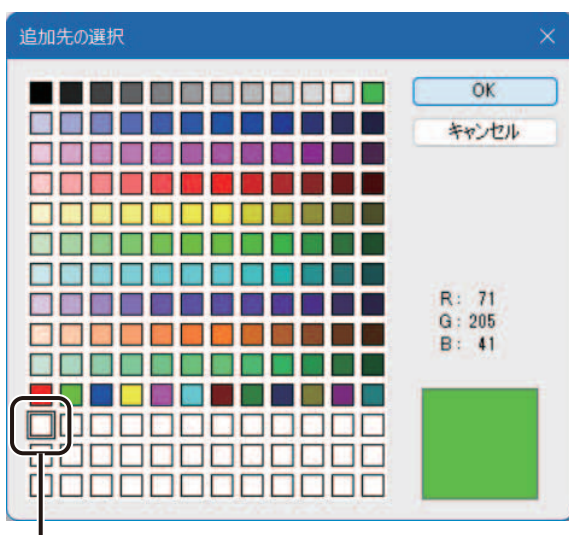
3 新しい色の情報を設定します。

「メニューから色を登録する」の手順4 (P.45) を参考に色を設定します。

4 [パレットに追加] をクリックします。



5 新しい色を登録するパレットを選びます。



クリックする。

メモ

- あらかじめ登録されている色のパレットを選び、上書きすることもできます。

6 [OK] をクリックします。

新しい色がパレットに登録され、その色がオブジェクトに設定されます。

メモ

- メニューから登録した色とプロパティから登録した色は、同じパレット上で管理されます。
- パレットを標準の状態に戻したいときは、メニューからパレットを表示して操作してください。
⇒「メニューから色を登録する (P.44)」

表示画質の設定

本ソフトウェアでは、画面の表示画質を目的に合わせて変更することができます。

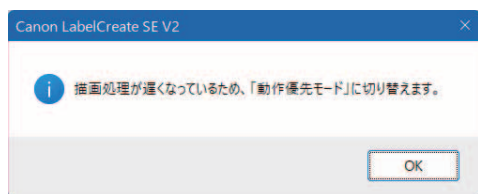
多くの画像や大きな容量の画像を配置している場合、ご使用になられている環境によっては、本ソフトウェアの動きが重く感じられることがあります。そのような場合は、「動作優先モード」に切り替えることで、デザインエリアでの作業性を向上させることができます。

1 「イメージ表示」メニューの「動作優先モード」をクリックします。

動作優先モード（チェックマークあり）/ 通常モード（チェックマークなし）が切り替わります。

メモ

- 初期設定は、「通常モード」（「動作優先モード」にチェックマークなし）となっています。
- 印刷プレビューは、モードの設定に関係なく、通常モードの画質で表示します。
- 表示画質の自動調整、およびモードの設定は、印刷結果に影響を与えません。オリジナル画像と同じ画質で印刷します。
- 「イメージ表示」の設定情報は本ソフトウェアに登録されます。同じ環境で操作する場合は、モードを切り替えない限り設定は保持されます。
- 動作優先モードを設定した状態で多くの画像を配置した場合、通常モードに切り替えられないことがあります。次のメッセージが表示されたときは、通常モードに切り替えられません。



2

操作の流れと概要

簡単なラベル作成の手順を例に、本ソフトウェアの基本的な操作の流れと概要について説明します。

ラベル作成の基本操作
データベースを活用したラベルの作成

ラベル作成の基本操作

ラベル作成の基本操作を説明します。ここでは、本ソフトウェアを使って次のようなラベルを作成し、キャノン カラーラベルプリンター LX-D400 で印刷します。

＜完成例＞

文字、画像およびバーコードを入れたりんごの商品ラベルを作成します。

りんご		
産地	長野県	
入数	3	
価格	280	
 4 912345 671233		

印刷プリンター： キャノン カラーラベルプリンター LX-D400

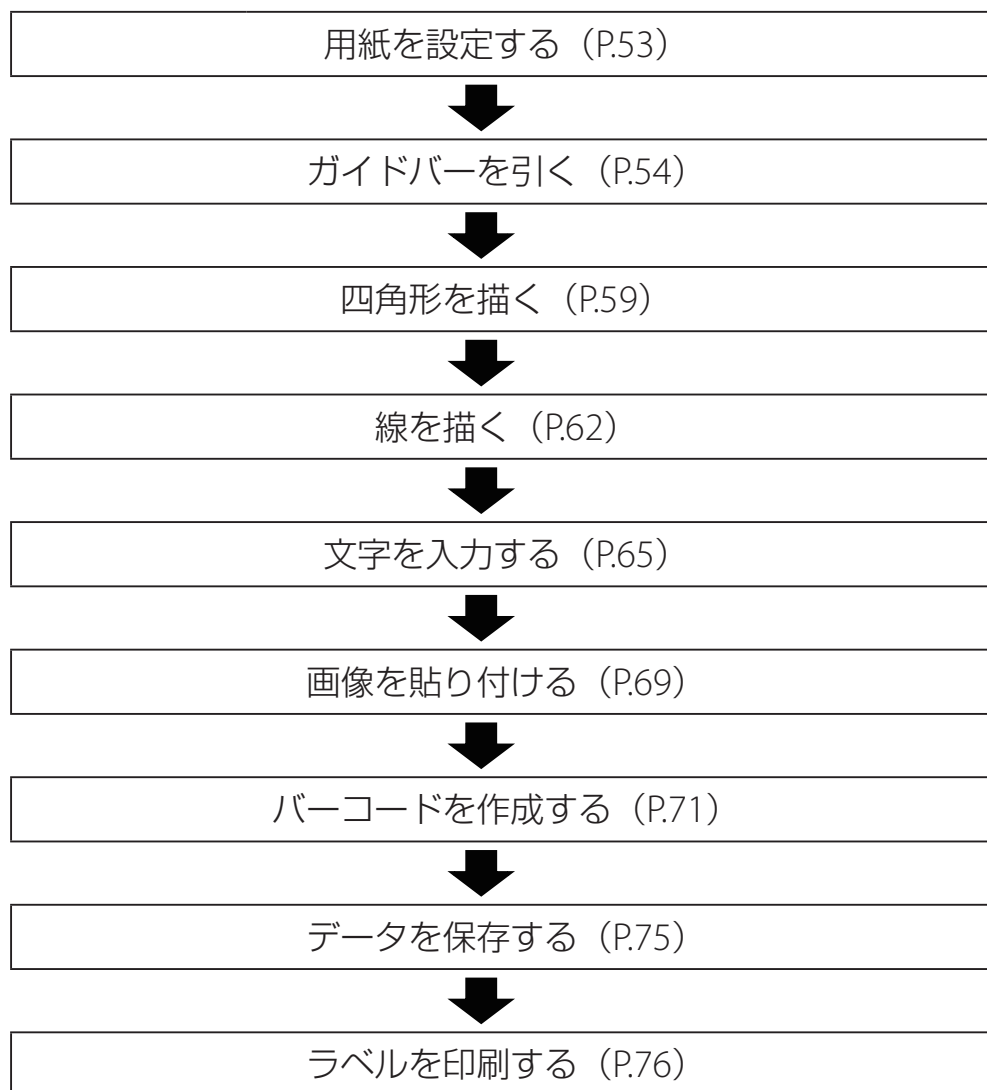
用紙サイズ： 4 × 3 インチ（97.3 × 76.2 mm）

本章で使用する画像は、次の場所に保存されています。

＜ C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample\ サンプル画像 ＞

ラベルの作成は、次のような流れに沿って行います。

<操作の流れ>



用紙を設定する

デザインエリアの用紙サイズを設定します。

1 使用する用紙サイズを選びます。

用紙サイズは、作業画面の右側に表示されている「用紙」プロパティで設定します。
ここでは、次のように入力します。

用紙

用紙

グループ: 既定用紙

用紙名: 4x3 インチ (97.3x76.2mm)

既定用紙

4x3 インチ (97.3x76.2mm)

4x6 インチ (101.6x127.0mm)

4x8 インチ (97.3x203.2mm)

2x1.5 インチ (46.5x38.1mm)

2x3 インチ (46.5x76.2mm)

2x8 インチ (46.5x203.2mm)

42.0x65.0mm

ドライバー用紙選択...

サイズ

幅: 97.3 mm × 高さ: 76.2 mm

余白

上: 1.5 mm 下: 1.5 mm

左: 1.5 mm 右: 1.5 mm

面付け

横: 1 × 縦: 1

面付け設定...

置き方

☒ 縦置き ☐ 横置き

カスタムサイズ編集...

「既定の用紙」

「4 × 3 インチ (97.3 × 76.2 mm)」

「縦置き」



- 「用紙」プロパティに登録されていない用紙サイズを使用するときは、「カスタム用紙」として登録する必要があります。カスタム用紙の登録については、「[カスタム用紙を使う \(P.113\)](#)」を参照してください。

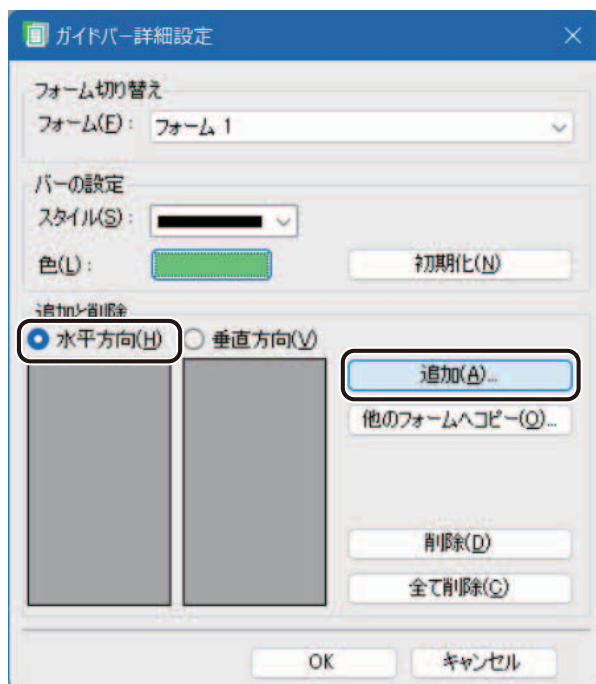
ガイドバーを引く

デザインエリアにガイドバーを引きます。

1 [表示] メニューの [ガイドバー] から [詳細設定] をクリックします。

[ガイドバー詳細設定] ダイアログボックスが表示されます。

2 はじめに、水平方向のガイドバーの位置を入力します。 [水平方向] が選択されていることを確認し、[追加] をクリックします。



[ガイドバー位置] ダイアログボックスが表示されます。

3 ガイドバーを引く位置を入力し、[設定] をクリックします。

ここでは、「3.5」と入力します。

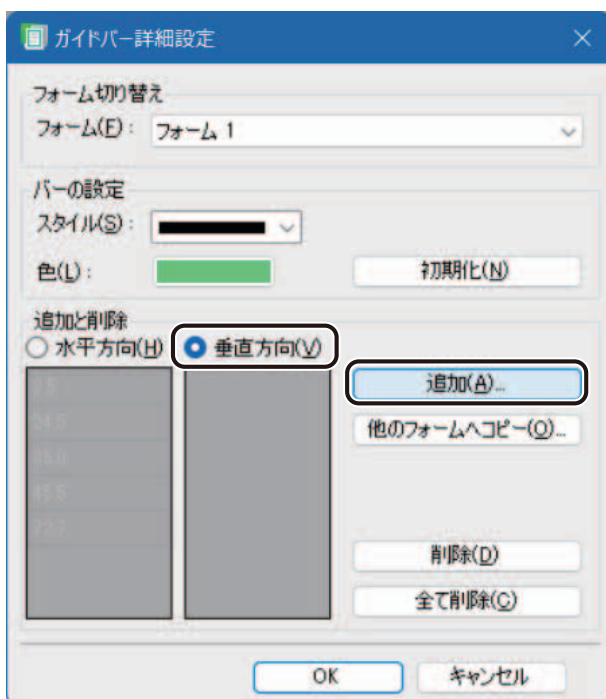


4 手順 2 ～ 3 を行い、水平方向の位置をすべて入力します。

ここでは、次の位置を入力します。

方向	位置 (mm)
水平方向	3.5
	14
	24.5
	35
	45.5
	72.7

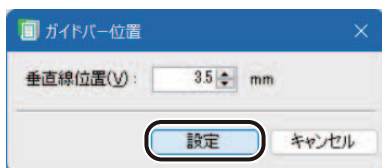
5 次に、垂直方向を入力します。 [垂直方向] を選び、[追加] をクリックします。



[ガイドバー位置] ダイアログボックスが表示されます。

6 ガイドバーを引く位置を入力し、[設定] をクリックします。

ここでは、「3.5」と入力します。

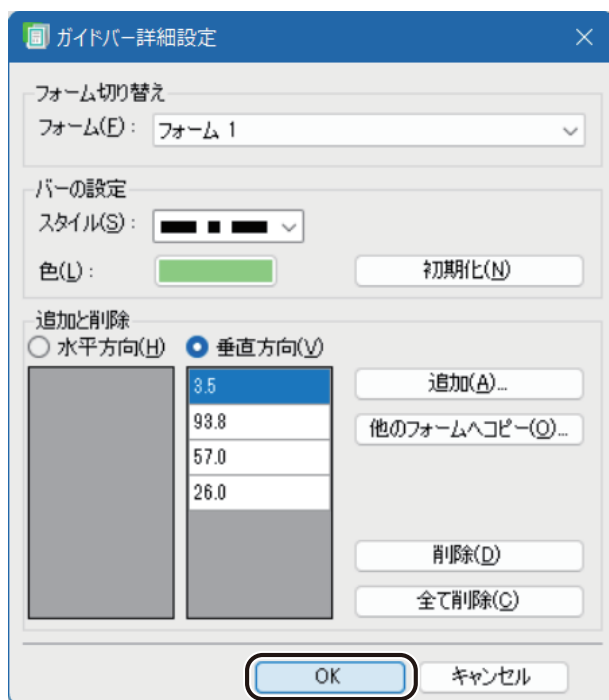


7 手順 5 ～ 6 を行い、水平方向の位置をすべて入力します。

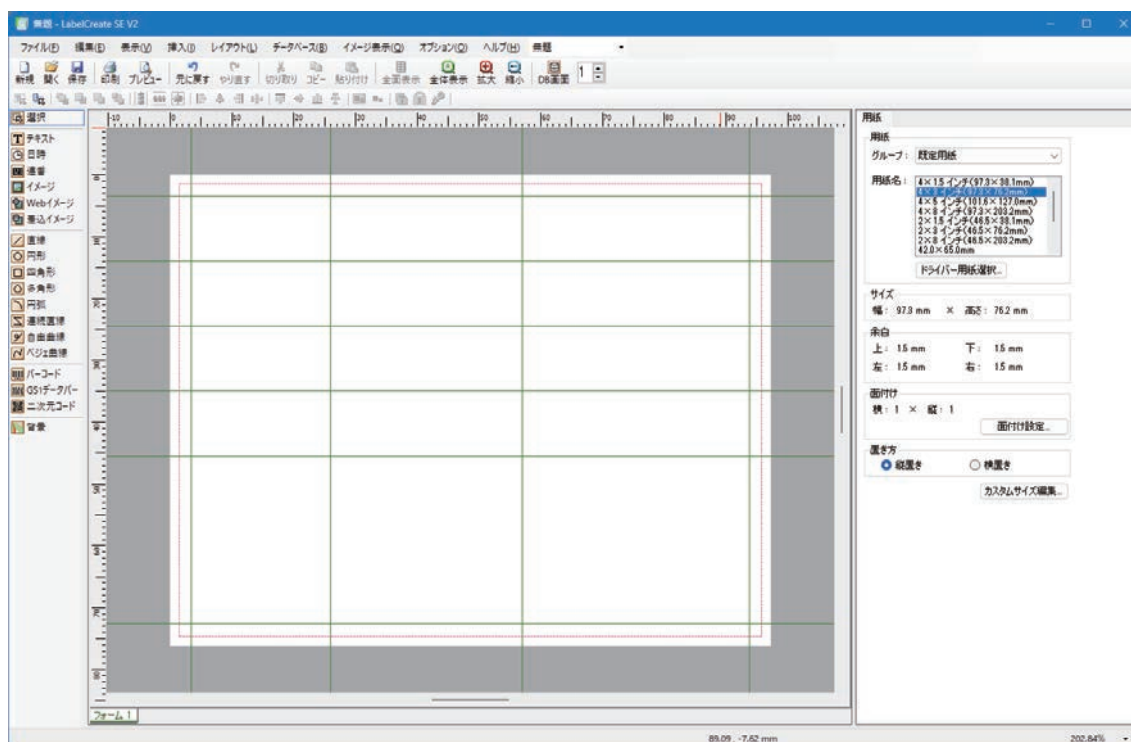
ここでは、次の位置を入力します。

方向	位置 (mm)
垂直方向	3.5
	26
	57
	93.8

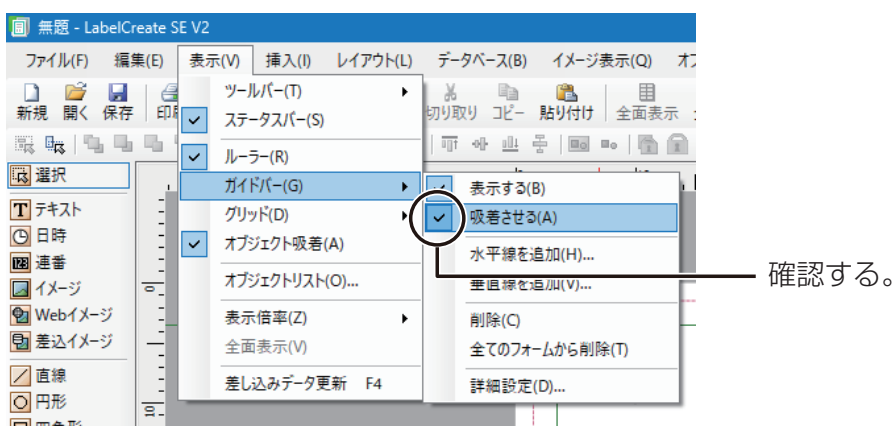
8 [OK] をクリックします。



ガイドバーが設定されます。



- 9 [表示] メニューの [ガイドバー] を表示し、[吸着させる] の右側にチェックマークが入っていることを確認します。



チェックマークが入っていないときは、[吸着させる] をクリックします。

メモ

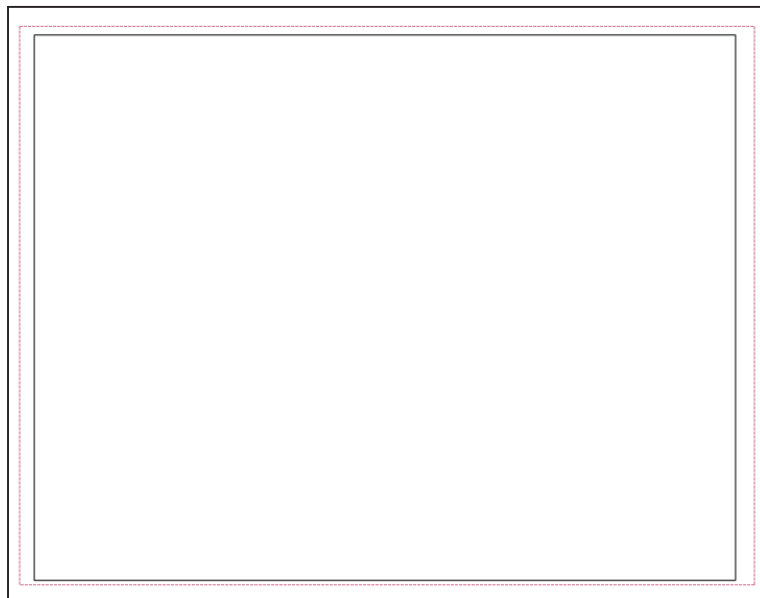
- ガイドバーは、オブジェクトの作成や編集を行いやすくするための補助線です。表示している状態でも印刷はされません。
- ガイドバーの設定について詳しくは、「[ガイドバーを使う \(P.28\)](#)」を参照してください。

四角形を描く

外枠を四角形で作ります。四角形を描くときには、挿入ツールバー [四角形] を使います。

<完成例>

外枠を四角形（幅 0.2 mm）で作成します。

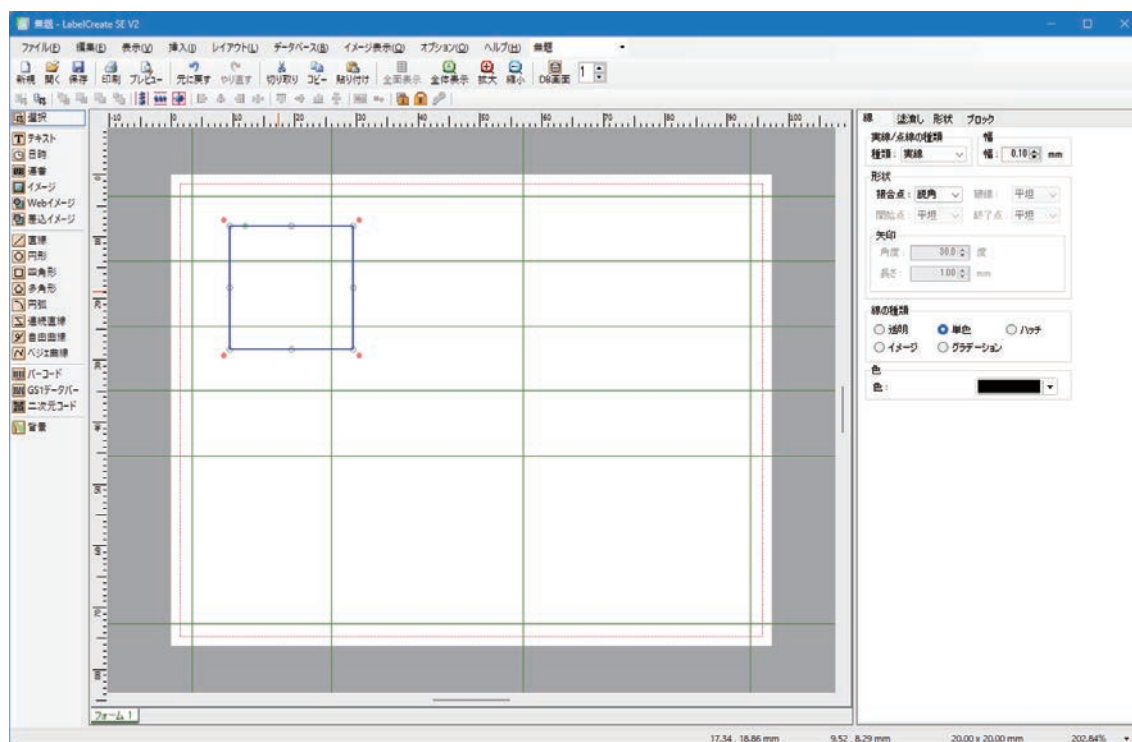


- 1 挿入ツールバー [四角形] をクリックします。



2 四角形オブジェクトを作ります。

デザインエリア上をクリックします。

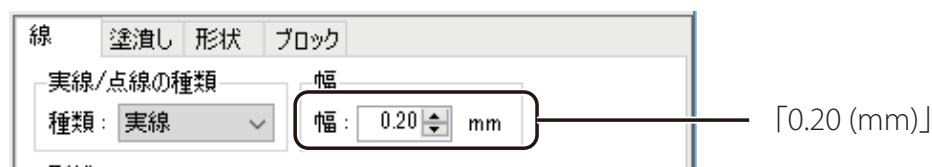


四角形の図形（四角形オブジェクト）が作成されます。

3 四角形オブジェクトの枠線の太さを入力します。

枠線の太さは、[線] プロパティで設定します。

ここでは、次のように入力します。



メモ

- 選んだオブジェクトによって、プロパティエリアの表示が変わります。手順と異なるプロパティが表示されているときは、選んでいるオブジェクトを確認してください。

4 ガイダーに合わせて、四角形オブジェクトの大きさと位置を調整します。



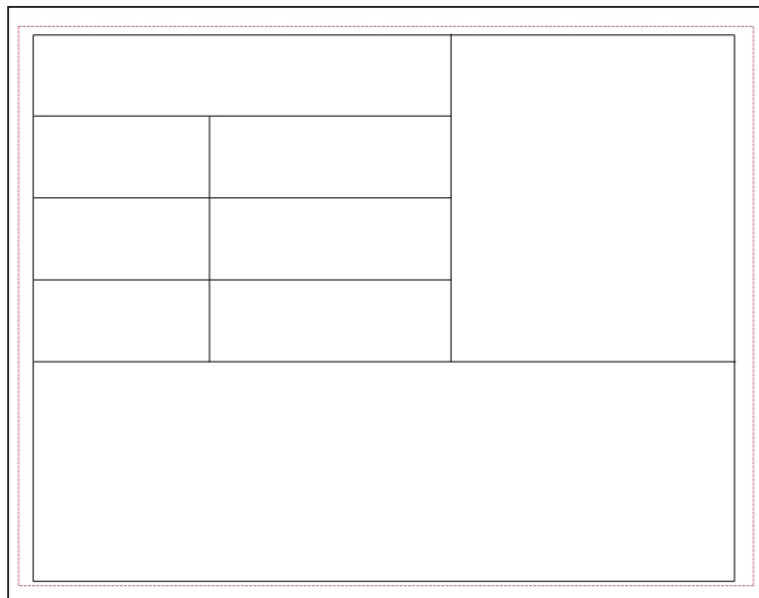
- 基本的なオブジェクトの操作については、「[オブジェクトの操作 \(P.132\)](#)」を参照してください。
- 四角形オブジェクトについて詳しくは、「[四角形を描く \(P.172\)](#)」を参照してください。

線を描く

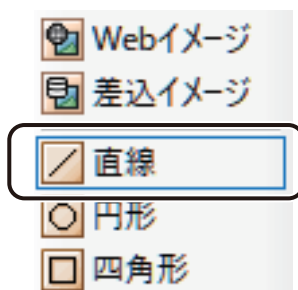
作成した外枠（四角形）に罫線を引きます。直線を描くときには、挿入ツールバー「直線」を使います。

<完成例>

罫線を直線（幅 0.2 mm）で作成します。



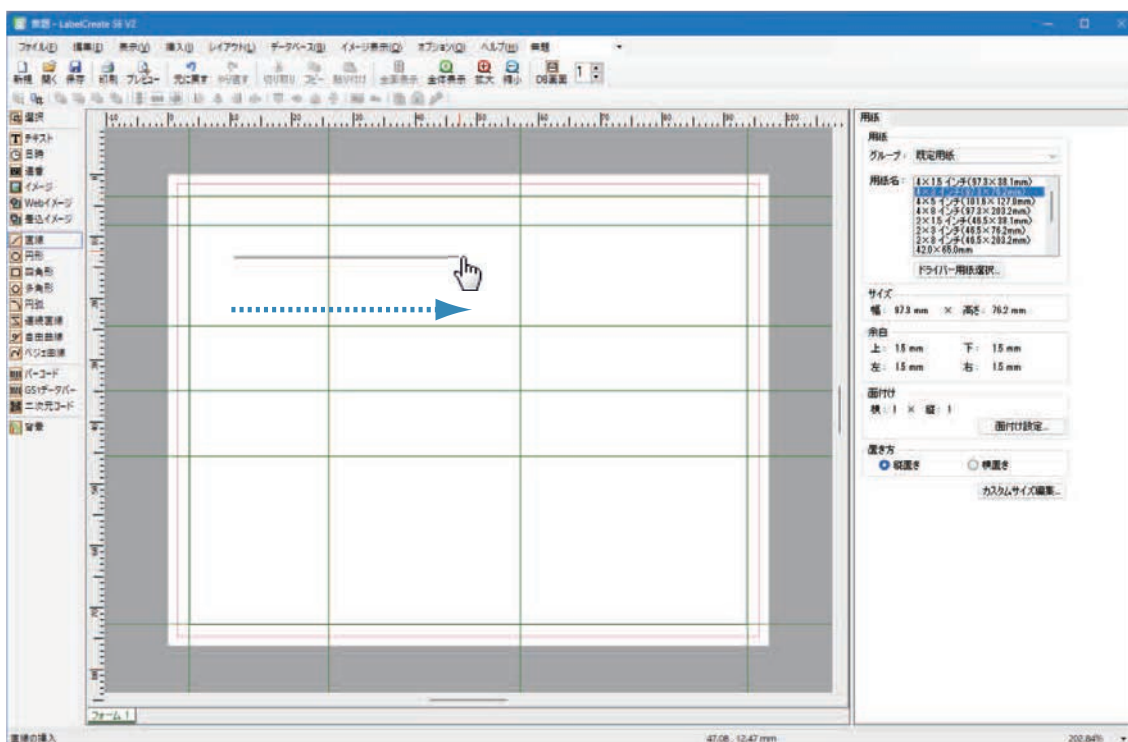
1 挿入ツールバー「直線」をクリックします。



2 直線を作ります。

はじめに、横線を作ります。

始点をクリックしたあと、横方向にドラッグします。このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、用紙に対して水平な直線を引くことができます。

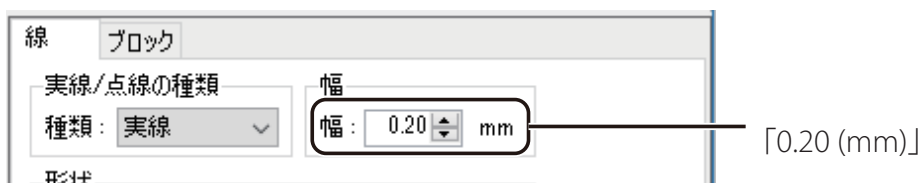


終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、直線（直線オブジェクト）が表示されます。

3 直線オブジェクトの太さを入力します。

線の太さは、[線] プロパティで設定します。

ここでは、次のように入力します。



4 ガイダーに合わせて、直線オブジェクトの長さや位置を調整します。

直線オブジェクトの長さを調整するときは、オブジェクトを選び、頂点（●）をドラッグして長さを調整します。



5 同様の手順ですべての直線オブジェクトを配置します。

縦線を引くときは、縦方向にドラッグします。このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、用紙に対して垂直な直線を引くことができます。



メモ

- 直線オブジェクトについて詳しくは、「[直線を描く \(P.170\)](#)」を参照してください。

文字を入力する

文字を入力します。文字の入力には、挿入ツールバー [テキスト] を使います。

<完成例>

[1] から順番に作成します。

No.	入力データ	フォント	サイズ	文字配置	行配置
[1]	産地	MS ゴシック	16 pt	均等割付	中央揃え
[2]	入数				
[3]	価格				
[4]	りんご			中央揃え	
[5]	長野県				
[6]	3				
[7]	280				

1 挿入ツールバー [テキスト] をクリックします。



2 オブジェクトエリアを作ります。

デザインエリア上をクリックすると、文字を入力する領域が作成されます。

3 [1]「産地」を入力します。

文字は、[文字] プロパティの [入力データ] に入力します。

ここでは、データ種類「固定」を選択されていることを確認してから、「産地」と入力します。



メモ

- テキストオブジェクトの領域を作ると、自動的に [入力データ] へカーソルが移動します。
- テキストオブジェクトをダブルクリックして直接、文字を入力することもできます。

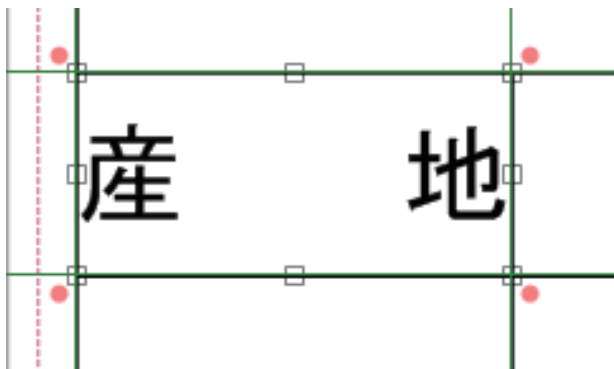
4 文字の大きさや配置を変更します。

文字の大きさや配置は、[フォント] プロパティで設定します。
ここでは、次のように入力します。

The screenshot shows the 'Font' (フォント) tab of a software interface. It contains various settings for text appearance. Annotations with lines pointing to specific controls are as follows:

- 名前:** MS ゴシック (MS Gothic) - Annotated with 「MS ゴシック」
- サイズ:** 16 - Annotated with 「16 (pt)」
- 文字幅:** 2.82 mm
- 文字高さ:** 5.64 mm
- 異体字モード:** (unchecked)
- 方向:** 横書き (Horizontal) - (縦書き is unchecked)
- 文字制御:** (折り返し, 長平体禁止, 自動縮小 are unchecked)
- 文字配置:** 均等割付 (Justified) - Annotated with 「均等割付」
- 行配置:** 中央揃え (Centered) - Annotated with 「中央揃え」
- スタイル:** (太字, 斜体, 下線, 取消し線 are unchecked)
- 間隔:** 文字間: 0.00 mm, 行間: 0.00 mm
- 余白(mm):** 上: 0.00, 下: 0.00, 左: 0.00, 右: 0.00
- 名前:** (名前 is unchecked, 姓名間に空白を挿入する and 姓名のバランスを調整する are checked)
- 文字間隔:** ふつう (Normal), 1.0

5 配置する位置にオブジェクトを移動し、枠の大きさに合わせて大きさを調整します。



メモ

- オブジェクトの領域を小さくしすぎると、文字が欠けてしまいます。また、欠けた部分は印刷されません。
- 文字をフォントサイズに関係なくオブジェクトの領域内に収めたいときは、[フォント] プロパティの [構成] を [枠サイズ優先] に設定します。

6 同様の手順で [2] ~ [7] の文字を作成し、配置します。

メモ

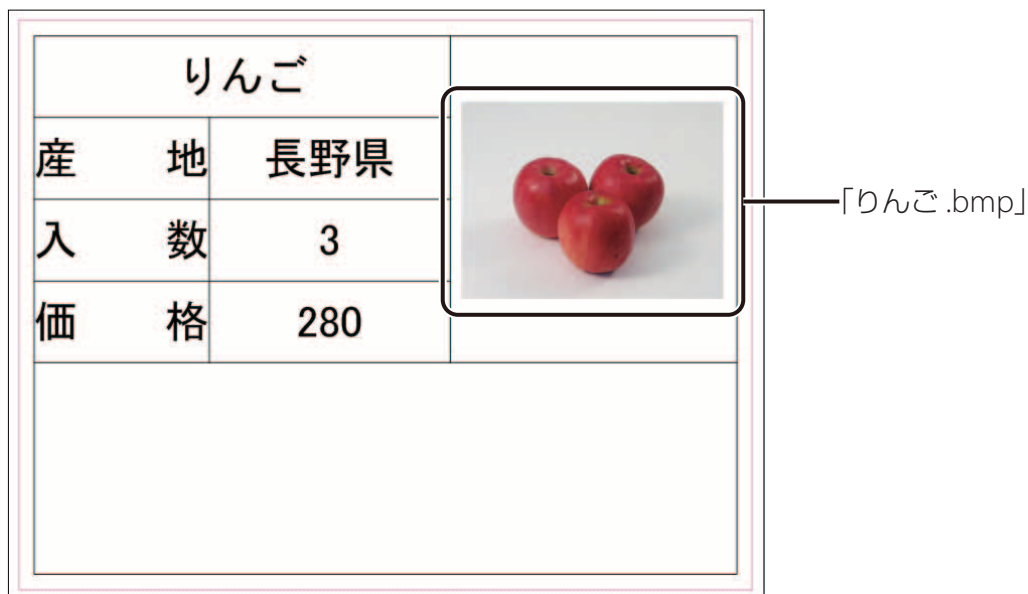
- テキストオブジェクトについて詳しくは、「[文字を入力する \(P.152\)](#)」を参照してください。

画像を貼り付ける

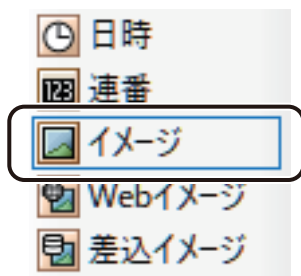
画像を貼り付けます。画像の貼り付けには、挿入ツールバー [イメージ] を使います。

<完成例>

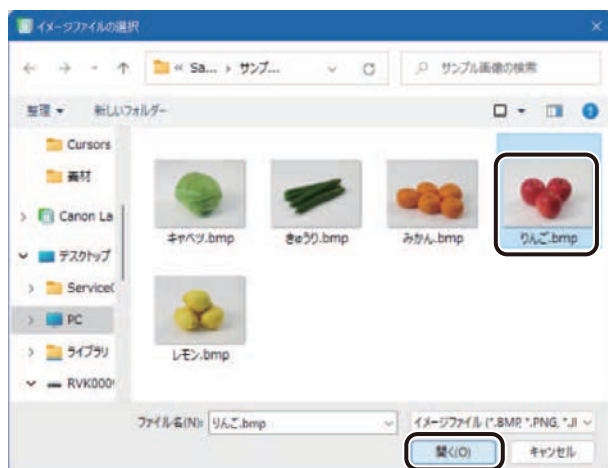
画像ファイル「りんご.bmp」を貼り付けます。



- 1 挿入ツールバー [イメージ] をクリックします。



- 2 追加したい画像を選び、[開く] をクリックします。

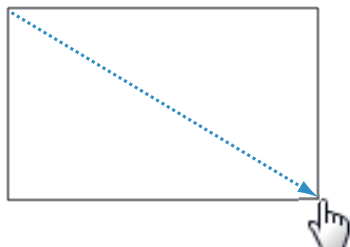


3 デザインエリア上をクリックします。

デザインエリア上をクリックすると、画像が配置されます。

メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、画像が配置されます。



4 オブジェクトの大きさと位置を調整します。

メモ

- イメージオブジェクトについて詳しくは、「[画像を挿入する \(P.162\)](#)」を参照してください。

バーコードを作成する

バーコードを作成します。バーコードの作成には、挿入ツールバー [バーコード] を使います。

<完成例>

バーコード種類「JAN-13」、入力データ「491234567123」のバーコードを作成します。



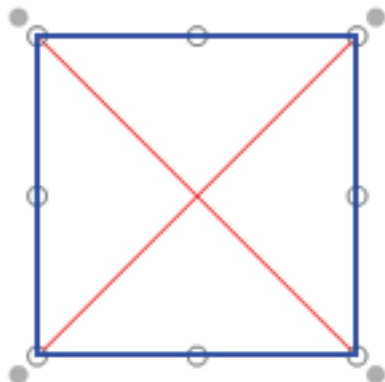
バーコード種類「JAN-13」
入力データ「491234567123」

- 1 挿入ツールバー [バーコード] をクリックします。



2 オブジェクトエリアを作ります。

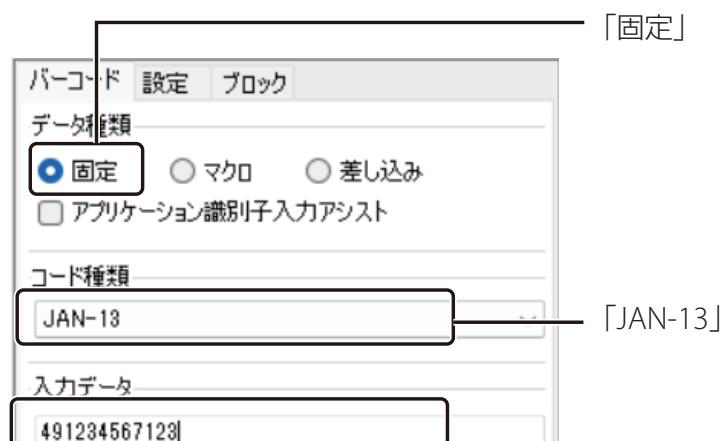
デザインエリア上をクリックすると、バーコードを入力する領域が作成されます。



3 コードの種類を選び、バーコードにする文字列を入力します。

コードの種類とバーコードの数字の入力は、[バーコード] プロパティで設定します。

ここでは、データ種類「固定」を選択されていることを確認してから、「JAN-13」を選び、[入力データ] に「491234567123」と入力します。



4 バーコードのサイズやコード文字などについて入力します。

バーコードのサイズやコード文字などについては、[設定] プロパティで設定します。
ここでは、コード文字の大きさを次のように入力します。

バーコード 設定 ブロック

サイズ

バー高さ: 12.70 mm

バー幅

☒ 自動設定 ☐ 手動設定

黒1値: 7 dot 0.30 mm

手動設定へ反映

解像度: 600dpi

オプション

☒ チェックディジット有り ☒ チェックディジット表示

☒ 左右マージン有り ☒ テキスト表示

フォント

フォント名: MS UI Gothic

サイズ: 12 pt 「12 (pt)」

文字の位置: 0.29 mm

文字配置

☐ 左揃え ☒ 中央揃え ☐ 右揃え ☐ 均等割付

☐ コードサイズに枠サイズを合わせる



- [バー幅] の初期値は、印刷設定で指定されているプリンターによって異なります。

5 バーコードがすべて表示されるように、オブジェクトの大きさと位置を調整します。



- バーコードオブジェクトについて詳しくは、「[バーコードを作成する \(P.185\)](#)」を参照してください。

以上で、ラベルのデザインは完成です。

データを保存する

編集中のデータを保存します。

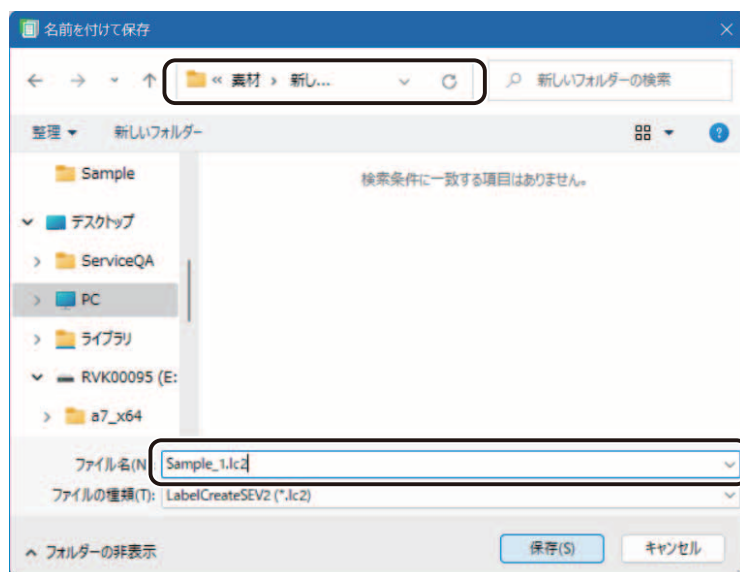
1 標準ツールバー をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [上書き保存] をクリックします。

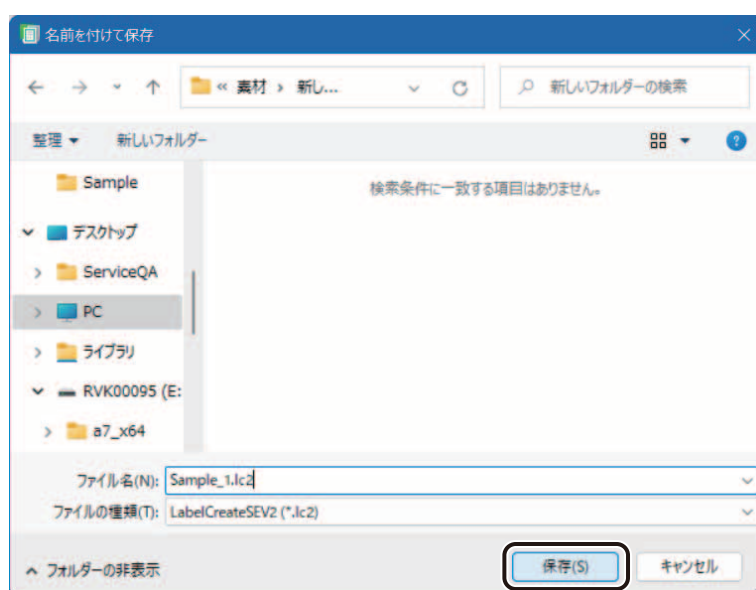
[名前をつけて保存] ダイアログボックスが表示されます。

2 [保存場所] と [ファイル名] を指定します。

ここでは、ファイル名を「Sample_1」 とします。



3 [保存] をクリックします。



データが保存されます。

ラベルを印刷する

印刷設定を行い、ラベルを印刷します。

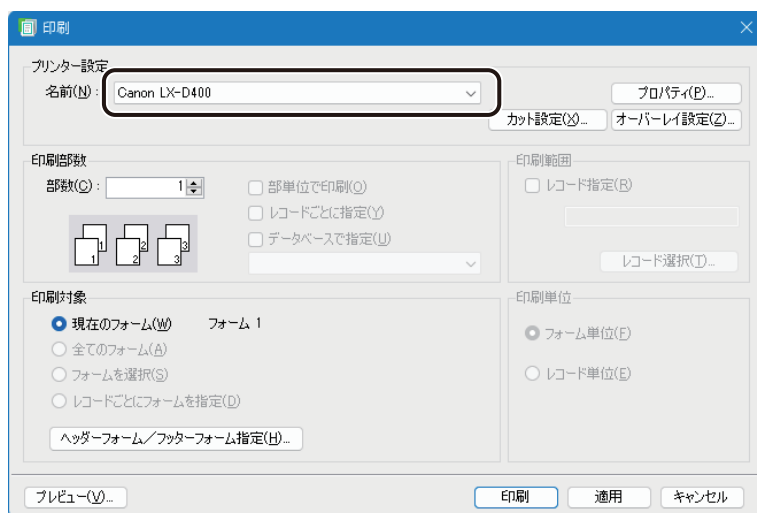
1 標準ツールバー をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。

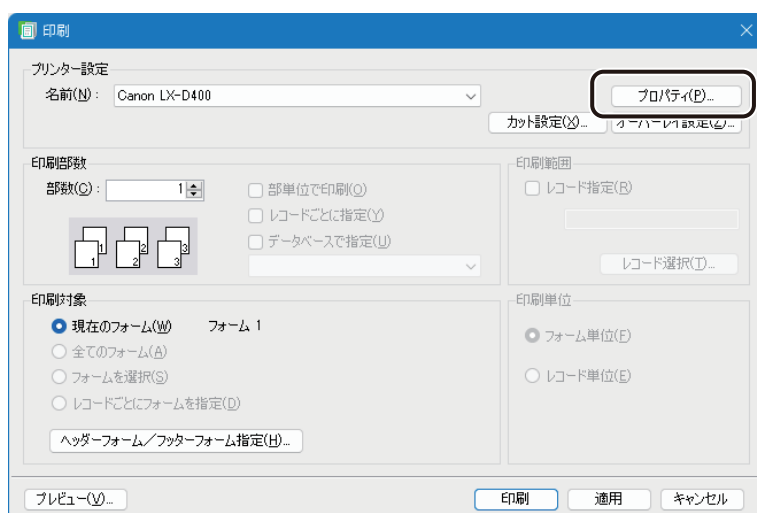
[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

2 印刷に使うプリンターを指定します。

ここでは、「Canon LX-D400」を選びます。



3 [プロパティ] をクリックしてプリンタードライバーの印刷設定を行います。



プリンターにセットした用紙に合わせて設定してください。

ここでは、用紙サイズ「4 × 3 ラベル / ギャップ」、用紙種類「マットコート紙」を選びます。

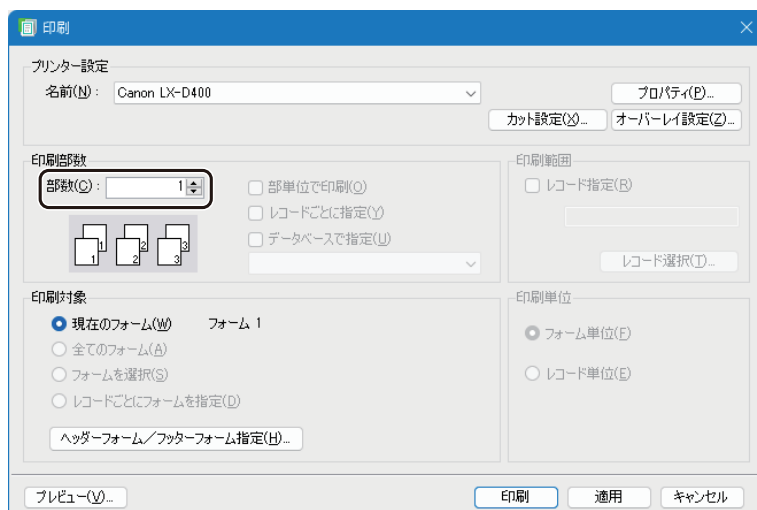


メモ

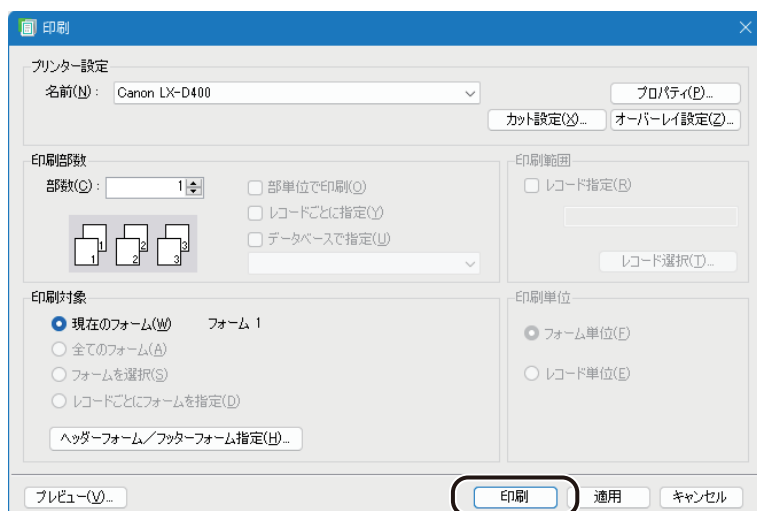
- バーコード、GS1 データバー、二次元コードが配置してあるデータの場合、印刷プリンターの変更またはプリンタードライバーの印刷設定（解像度、用紙種類、「エコノミー印刷」のオン/オフの設定（LX-P5500 をご使用の場合のみ））を変更したときは、バーコード、GS1 データバー、二次元コードを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成したオブジェクトでも大きさが異なります。
- 印刷設定について詳しくは、お使いのプリンターの取扱説明書を参照してください。

4 部数を設定します。

ここでは、「1」とします。

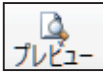


5 [印刷] をクリックします。



印刷が実行されます。

メモ

- [印刷] ダイアログボックスの[プレビュー] (または、標準ツールバー  や[ファイル]メニューの[印刷プレビュー]) をクリックすると、印刷のプレビュー画面が表示されます。印刷プレビューについては、「[印刷イメージを確認する \(P.324\)](#)」を参照してください。
- [印刷] ダイアログボックスの設定については、「[いろいろな印刷 \(P.338\)](#)」を参照してください。
- 印刷を実行すると、印刷設定ファイル「Sample_1.li2」が作成されます。印刷設定ファイル (*.li2) について詳しくは、「[印刷設定ファイル \(*.li2\) について \(P.330\)](#)」を参照してください。
- 印刷中にエラーが発生したときは、ステータスマニターに表示されるエラーの内容を確認して必要な対処を行ってください。エラーの対処については、プリンタードライバーのヘルプまたはお使いのプリンターの取扱説明書を参照してください。
- 印刷したラベルのバーコードが読み取りにくいときは、「バーコード設定」を行ってください。バーコード設定については、「[用紙に合わせてバーコードを調整する \(P.367\)](#)」を参照してください。

データベースを活用したラベルの作成

本ソフトウェアでは、商品管理や在庫管理などのデータベースを元に、ラベルを効率よく作成することができます。たとえば商品ラベルなど、同じフォームの異なるラベルを多量に作成する必要があるときに有効な機能です。ここでは、前節で作成したデザインファイルから Microsoft Excel で作成したデータベースを参照して次のようなラベルを作成します。

<完成例>

前節で作成したラベルと同じフォームで次のような商品ラベルを作成します。

りんご			
産地	長野県		
入数	3個		
価格	¥302		
 4 912345 671233			

キャベツ			
産地	千葉県		
入数	1玉		
価格	¥184		
 4 912345 674562			

レモン			
産地	広島県		
入数	4個		
価格	¥389		
 4 912345 677891			

きゅうり			
産地	宮崎県		
入数	4本		
価格	¥302		
 4 912345 671356			

みかん			
産地	愛媛県		
入数	5個		
価格	¥432		
 4 912345 672469			

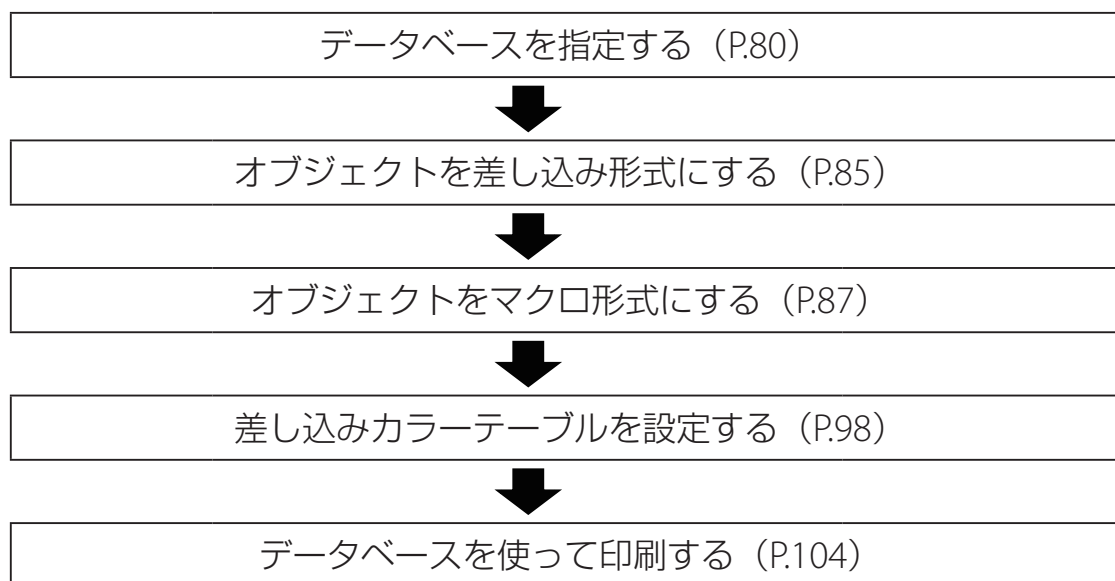
印刷プリンター： キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400
用紙サイズ： 4 × 3 インチ (97.3 × 76.2 mm)

本章で使用する画像は、次の場所に保存されています。

< C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample\ サンプル画像 >

ラベルの作成は、次のような流れに沿って行います。

<操作の流れ>



データベースを指定する

データベースファイルを指定します。

ここでは、Microsoft Excel を使って作成したデータベースファイルを、「内部データベース」として取り込む手順で説明します。



メモ

- 外部データベースおよび内部データベースについては、「[外部データベースと内部データベース \(P.278\)](#)」を参照してください。

1 データベースファイルを用意します。

「青果ラベル.xlsx」は次の場所に保存されています。

< C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample >

ファイル名：青果ラベル.xlsx
シート名：1月

[A]	[B]	[C]	[D]	[E]	[F]	[G]	[H]
品名	産地	入数	単位	価格	コード	画像	部数
りんご	長野県	3	個	280	123BB	C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample\サンプル画像¥りんご.bmp	1
キャベツ	千葉県	1	玉	170	456AA	C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample\サンプル画像¥キャベツ.bmp	5
レモン	広島県	4	個	360	789BB	C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample\サンプル画像¥レモン.bmp	4
きゅうり	宮崎県	4	本	280	135AA	C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample\サンプル画像¥きゅうり.bmp	3
みかん	愛媛県	5	個	400	246BB	C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample\サンプル画像¥みかん.bmp	2

※ 表中の [A] ~ [H] は、Microsoft Excel の列見出しを表している。

1 行目 (表中グレーの部分) は項目名とする。

※ [画像] は、画像ファイルまでのパスを入力する。

メモ

- 指定できる「ファイル形式」および「サーバー形式」は次のとおりです。

ファイル形式：

- ・ Microsoft Excel ファイル形式 (*.xls、*.xlsx)
- ・ Microsoft Access データベースファイル (*.mdb、*.accdb) ※¹
- ・ テキスト形式 (*.txt、*.csv)

※¹ Microsoft Access データベースに OLE オブジェクト型で挿入したファイルは、ビットマップ形式ファイル (.bmp) のみが参照 (またはインポート) 可能

サーバー形式：

- ・ Oracle
- ・ Microsoft SQL Server

- Microsoft Excel ファイル形式の場合、パスワードが設定されている文書は読み込めません。あらかじめパスワードを解除しておいてください。

- 画像ファイルのパスは、デザインファイル (*.lcl2) からの相対パスでも設定可能です。

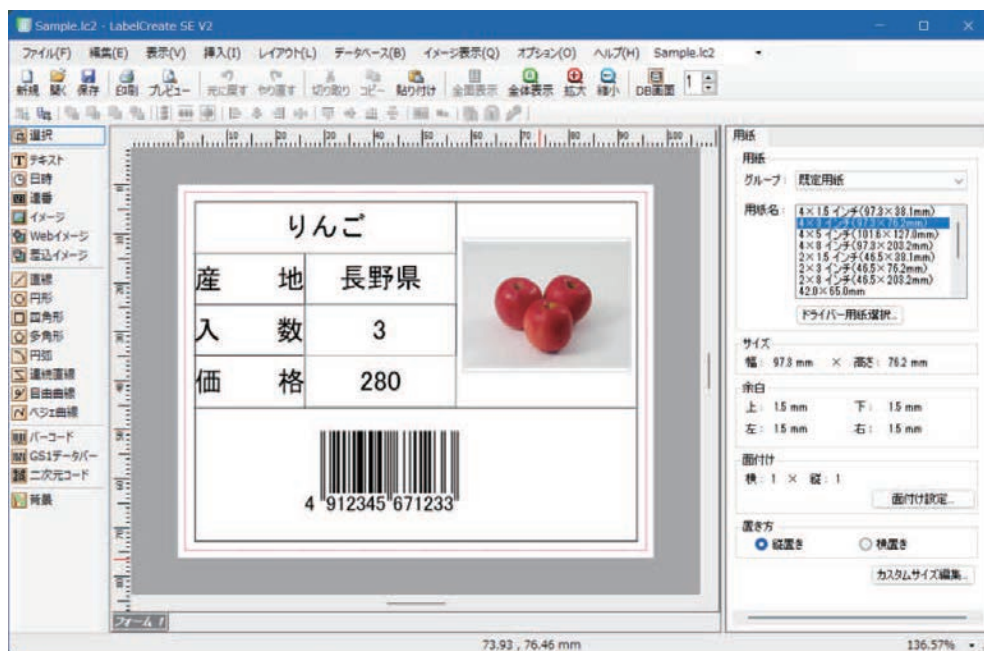
例) 「Sample_1.lcl2」と「サンプル画像」フォルダーを同一階層上においた場合の相対パス (“りんご”の場合)：

サンプル画像¥りんご.bmp

2 標準ツールバーの をクリックし、データを開きます。

または、[ファイル] メニューの [開く] をクリックします。

ここでは、前節で作成したデータを開きます。(ファイル名: Sample_1.lc2)



3 [データベース] メニューの [データベースインポート] をクリックします。

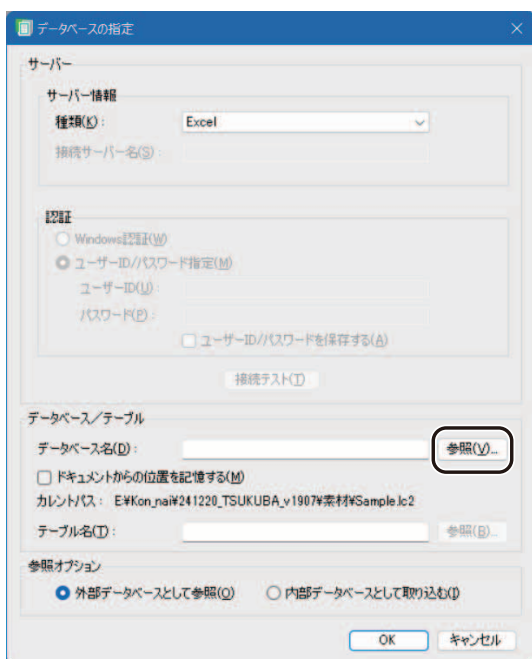
[データベースインポート] ダイアログボックスが表示されます。

4 データベースの種類を選びます。

ここでは、「Excel」を選びます。



5 データベース名の「参照」をクリックします。



6 データベースファイルを選び、「開く」をクリックします。

ここでは、「青果ラベル.xlsx」を選びます。

「テーブル選択」ダイアログボックスが表示されます。

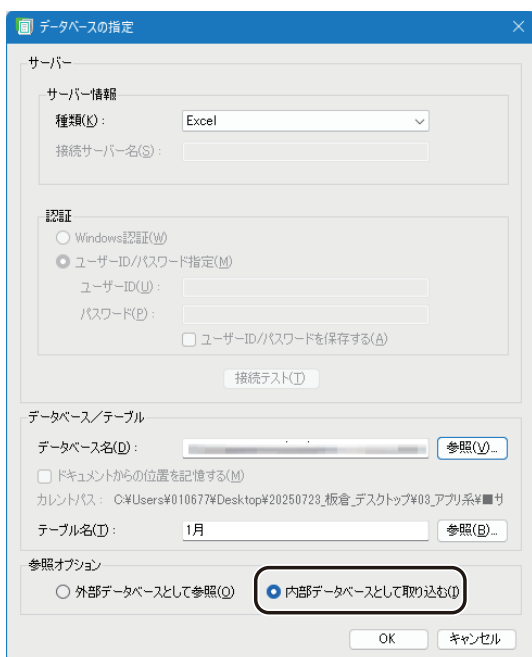
7 シートを指定し、「OK」をクリックします。

「テーブル一覧」には、参照したデータベースのシートの一覧が表示されます。

ここでは、「1月」を選びます。



- 8 データベースの形式を選びます。
ここでは、「内部データベースとして取り込む」を選びます。



メモ

- 外部データベースおよび内部データベースについては、「外部データベースと内部データベース (P.278)」を参照してください。

- 9 [OK] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

- 10 データベースを確認したいときは、[はい] をクリックします。



[はい] をクリックすると、データベース確認画面が表示されます。

- 11 内容を確認したら、 (閉じる) をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。

メモ

- データベース確認画面は、 (または [データベース] メニューの [データベース画面]) をクリックして表示します。

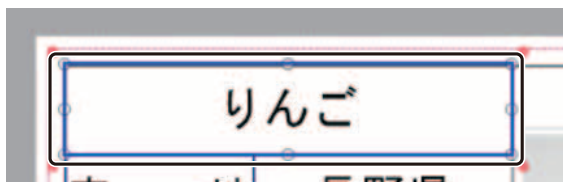
オブジェクトを差し込み形式にする

オブジェクトにデータベースの項目を差し込み形式で設定します。差し込み形式で設定すると、データベースの値をオブジェクトに反映させることができます。

■ テキストオブジェクトを差し込み形式にする

1 データを差し込みたいテキストオブジェクトを選びます。

ここでは、テキストオブジェクト「りんご」を選びます。



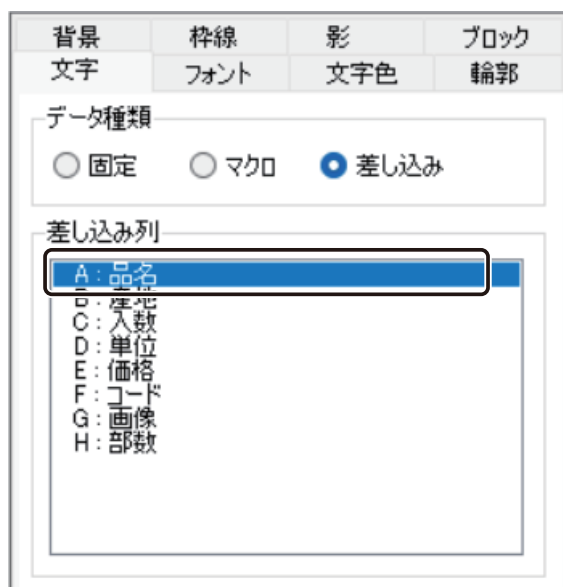
2 [文字] プロパティの [データ種類] で [差し込み] を選びます。



[差し込み列] に項目名が表示されます。

3 [差し込み列] からオブジェクトに割り当てる項目を選びます。

ここでは、「A：品名」を選びます。



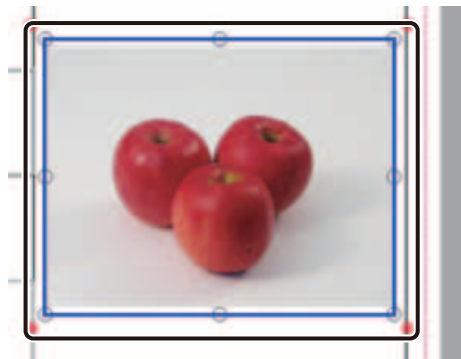
「品名」が差し込み形式となります。

4 同様の手順で、テキストオブジェクト「長野県」を差し込み形式に変更します。

■ イメージオブジェクトを差し込み形式にする

1 差し込み形式に変更するイメージオブジェクトを選びます。

ここでは、りんごのイメージオブジェクトを選びます。



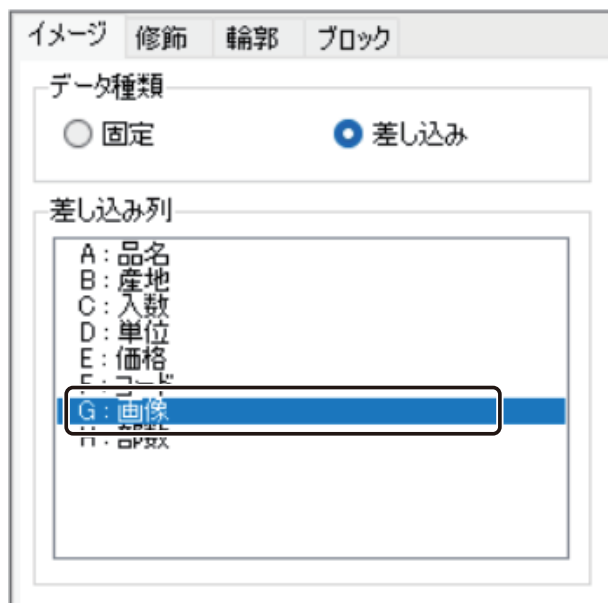
2 [イメージ] プロパティの [データ種類] で [差し込み] を選びます。



[差し込み列] に項目名が表示されます。

3 [差し込み列] からオブジェクトに割り当てる項目を選びます。

ここでは、「G：画像」を選びます。



「画像」が差し込み形式となります。

オブジェクトをマクロ形式にする

オブジェクトにデータベースの項目をマクロ形式で設定します。マクロを使うと、データベースの値を定義した規則にしたがって表示することができます。



- 本ソフトウェアで利用できるマクロについては、「マクロの仕様 (P.311)」を参照してください。

■ 任意の文字列を付加する

ここでは、次の①②のマクロを設定します。

- ① 「入数」の後ろに「単位」を付加する
- ② 国コード「49」（固定値）、メーカーコード「1234567」（固定値）、コード（先頭3桁のみ使用）で「バーコード」を作成する

<完成例>

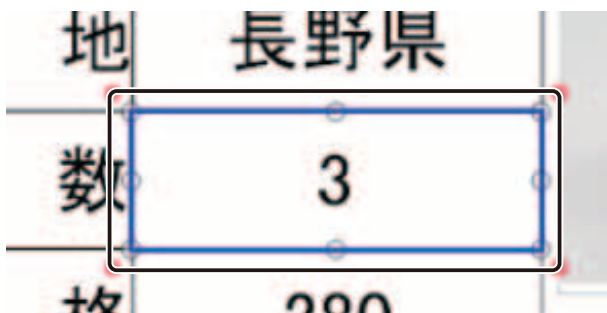
りんご		
産地	長野県	
入数	3個	
価格	280	





1 マクロを設定するオブジェクトを選びます。

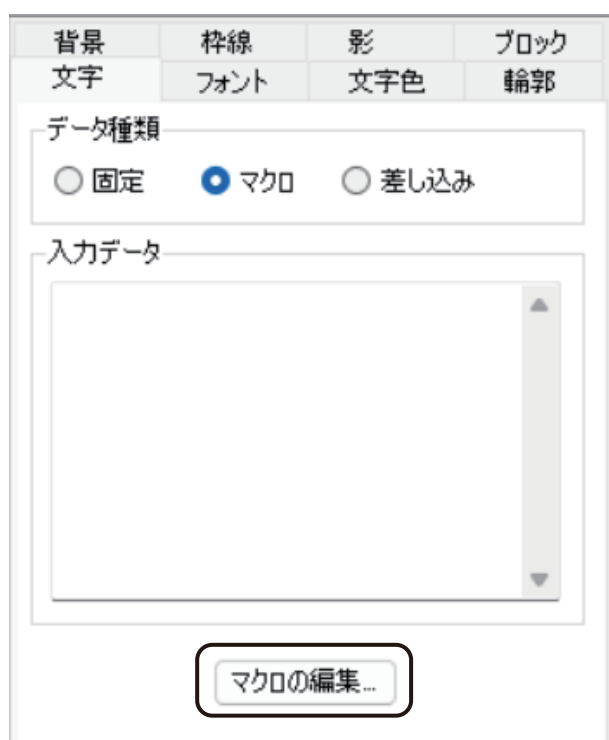
ここでは、テキストオブジェクト「3」を選びます。



2 [文字] プロパティの [データ種類] で [マクロ] を選びます。



3 [マクロの編集] をクリックします。



[マクロの編集] ダイアログボックスが表示されます。

4 [DB フィールドの追加] をクリックします。

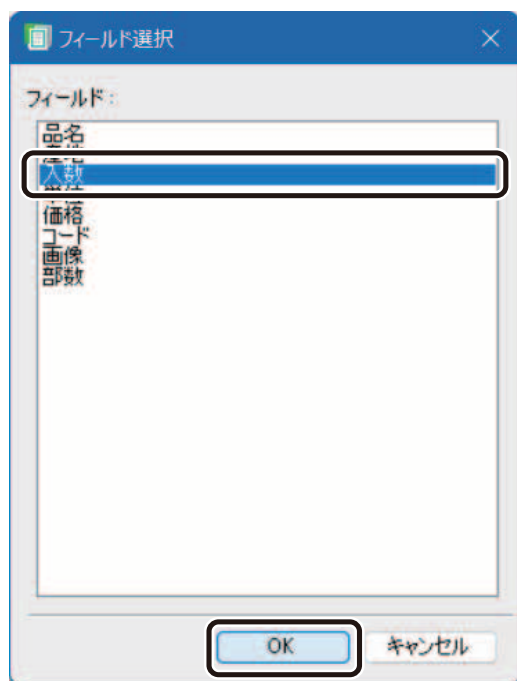
[DB フィールドの追加] を使うと、フィールドを指定するマクロ「FLD(「フィールド名」)」を簡単に入力できます。



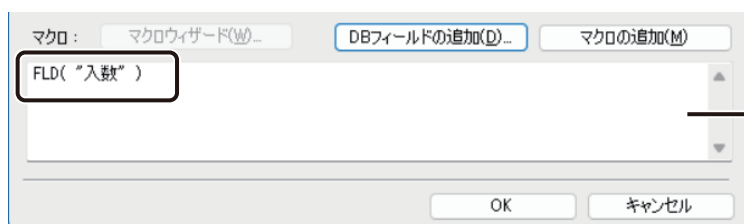
[フィールド選択] ダイアログボックスが表示されます。

5 フィールド（項目）を選び、[OK] をクリックします。

ここでは、「入数」を選びます。



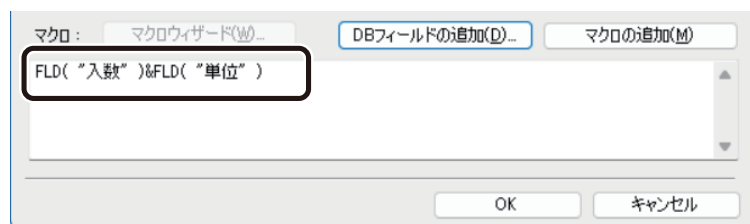
[OK] をクリックすると、マクロテキストボックスに「FLD(“入数”)」と入力されます。



マクロテキストボックス

6 付加する項目を「&」で結びます。

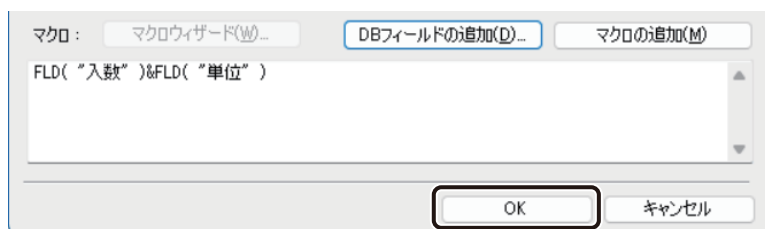
ここでは、「FLD(“入数”)」の後ろにカーソルを移動させ、「&」を入力し、上記の手順4～5を行います。
このとき、手順5では「単位」を選びます。



メモ

- 「 ” ” (ダブルクォーテーション)」で囲んだ文字列以外の、マクロ式に使用する文字はすべて半角で入力してください。全角で入力した文字は、認識されません。

7 [OK] をクリックします。



「入数」にマクロが設定されます。

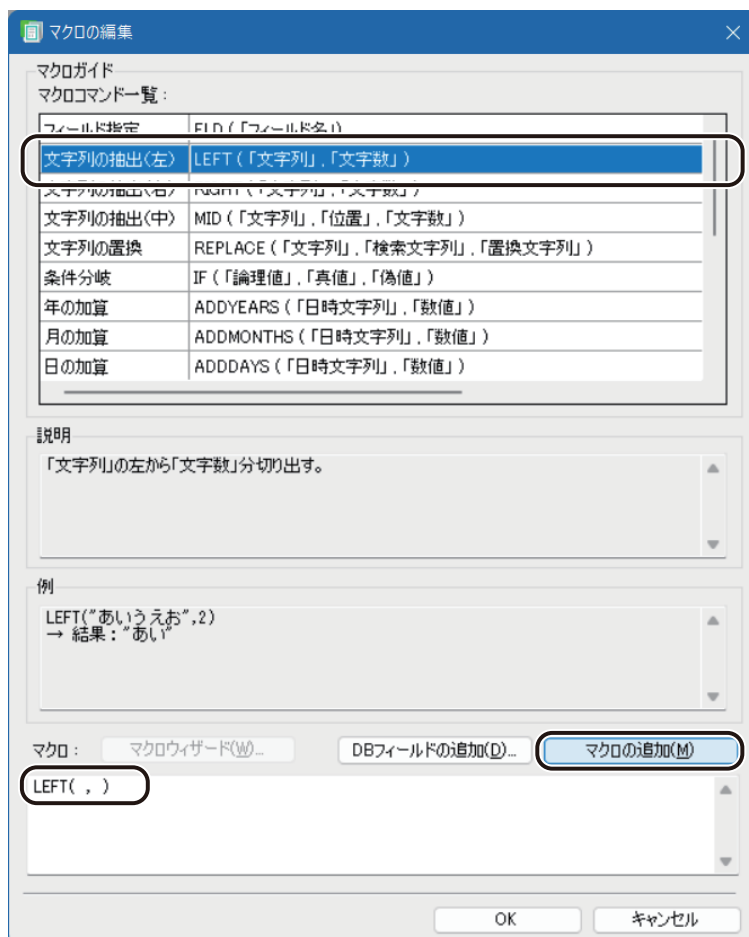
8 同様にバーコードにマクロを設定します。

バーコードオブジェクトを選び、上記の手順 2 ～ 3 を行います。

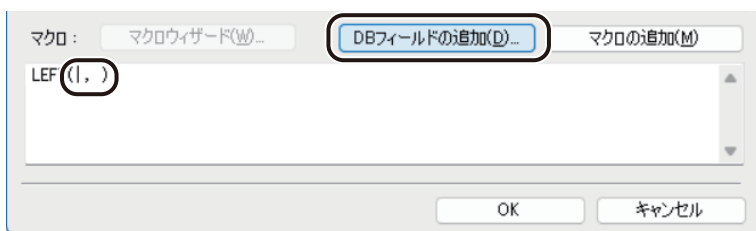


9 マクロコマンド一覧から「文字列の抽出 (左)」を選び、[マクロの追加] をクリックします。

マクロコマンド「LEFT(,)」がマクロテキストボックスに入力されます。

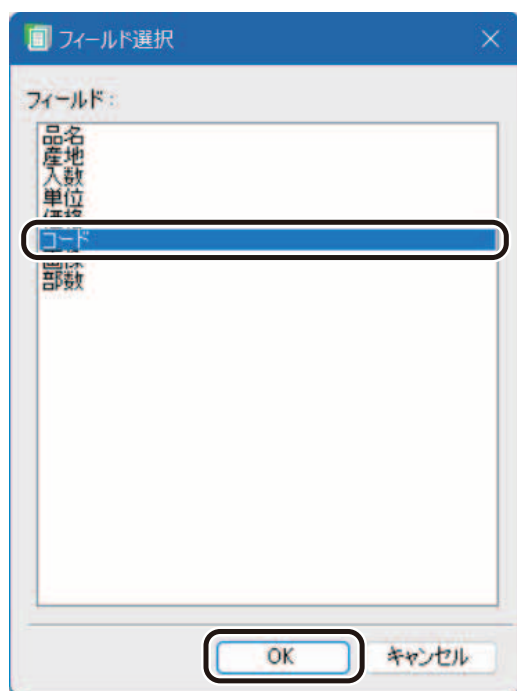


10 「LEFT(」の後にカーソルを移動させ、[DB フィールドの追加] をクリックします。



11 フィールド（項目）を選び、[OK] をクリックします。

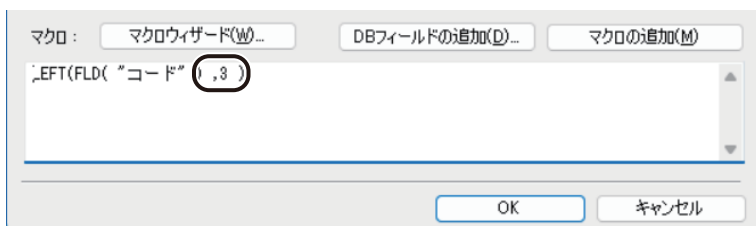
ここでは、「コード」を選びます。



[OK] をクリックすると、マクロテキストボックスに「FLD("コード")」と入力されます。

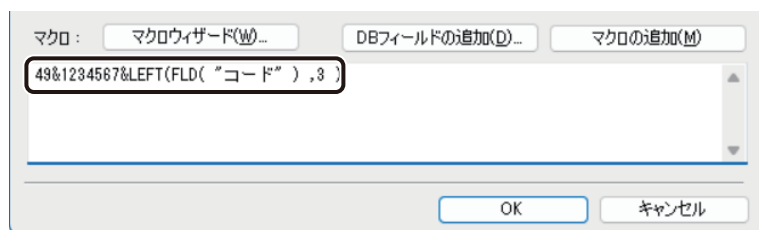


12 「LEFT(FLD("コード"),」の後にカーソルを移動して「3」を入力します。



13 付加する文字列を「&」で結び、入力します。

ここでは、「LEFT(FLD(“コード”),3)」の前にカーソルを移動させ、固定値「49&1234567&」を入力します。



14 [OK] をクリックします。

「コード」にマクロが設定されます。

■ 四則演算を使って計算する

データベースの値に、四則演算（加算（+（プラス））、減算（-（マイナス））、乗算（*（アスタリスク））、除算 /（スラッシュ））を使って計算させた値を表示します。

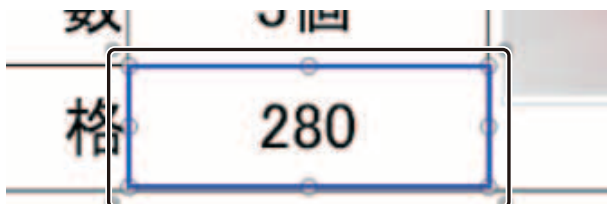
ここでは、データベースの「価格」を税込み価格（消費税 8%とする）で表示させるマクロを設定します。

<完成例>

りんご			
産地	長野県		
入数	3個		
価格	¥302		
			

1 マクロを設定するオブジェクトを選びます。

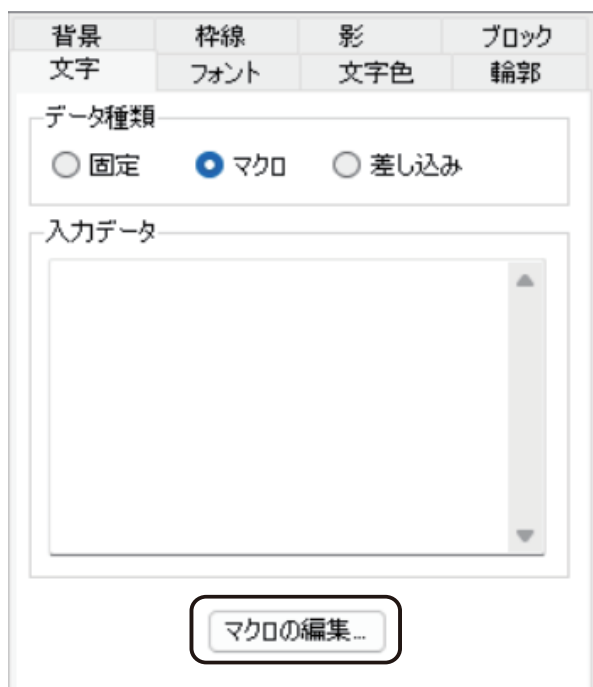
テキストオブジェクト「280」を選びます。



2 [文字] プロパティの [データ種類] で [マクロ] を選びます。

背景	枠線	影	ブロック
文字	フォント	文字色	輪郭
データ種類			
☐ 固定 ☒ マクロ ☐ 差し込み			

3 [マクロの編集] をクリックします。



[マクロの編集] ダイアログボックスが表示されます。

4 [DB フィールドの追加] をクリックします。

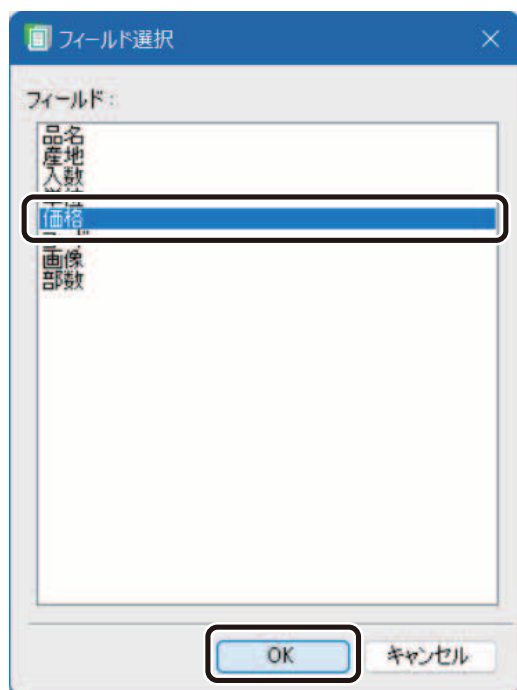
[DB フィールドの追加] を使うと、フィールドを指定するマクロ「FLD(「フィールド名」)」を簡単に入力できます。



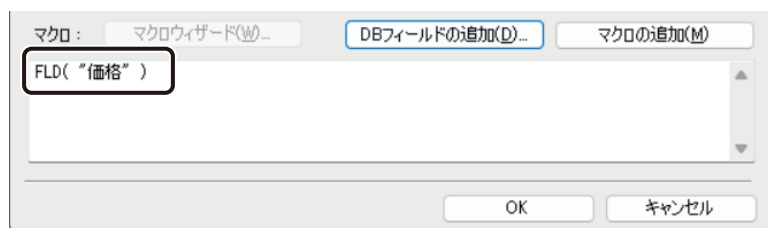
[フィールド選択] ダイアログボックスが表示されます。

5 フィールド（項目）を選び、[OK] をクリックします。

ここでは、「価格」を選びます。

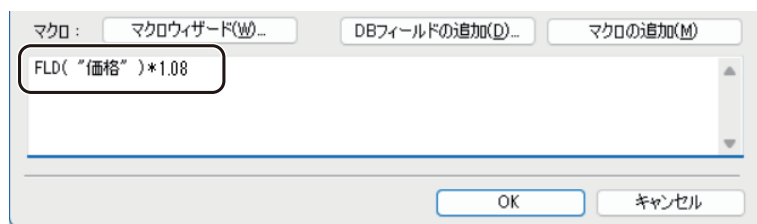


[OK] をクリックすると、マクロ編集画面に戻り、マクロテキストボックスに「FLD(" 価格 ")」と入力されます。



6 計算式を入力します。

ここでは、「FLD(" 価格 ")」の後ろにカーソルを移動させて、「*1.08」と入力します。

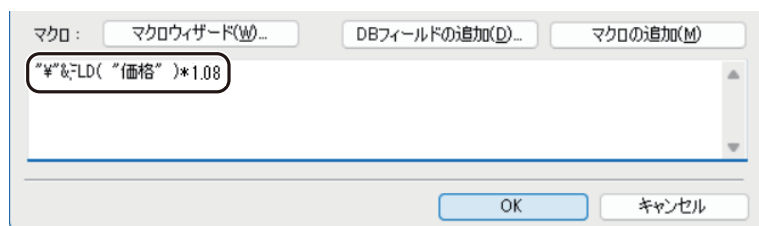


メモ

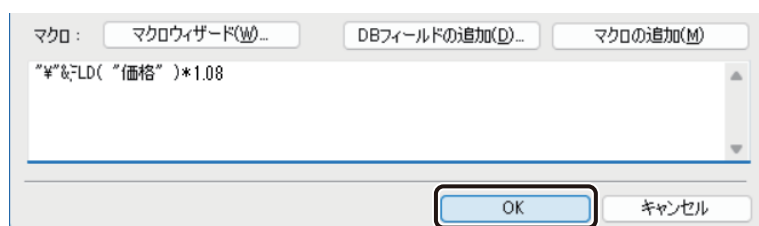
- 「" (ダブルクォーテーション)」で囲んだ文字列以外の、マクロに使用する文字はすべて半角で入力してください。全角で入力した文字は、認識されません。

7 付加する文字列を「&」で結びます。

ここでは、「FLD(" 価格 ")」の前にカーソルを移動させて、「"&」と入力します。



8 [OK] をクリックします。



「価格」にマクロが設定されます。

差し込みカラーテーブルを設定する

差し込みカラーテーブルを使って、オブジェクトの色をレコードごとに変更します。ここでは、「品名」に差し込みカラーテーブルを設定します。

<完成例>

りんご			
産地	長野県		
入数	3個		
価格	¥302		
 4 912345 671233			

1 [データベース] メニューから [差し込みカラーテーブル] を選びます。

[差し込みカラーテーブル設定] ダイアログボックスが表示されます。

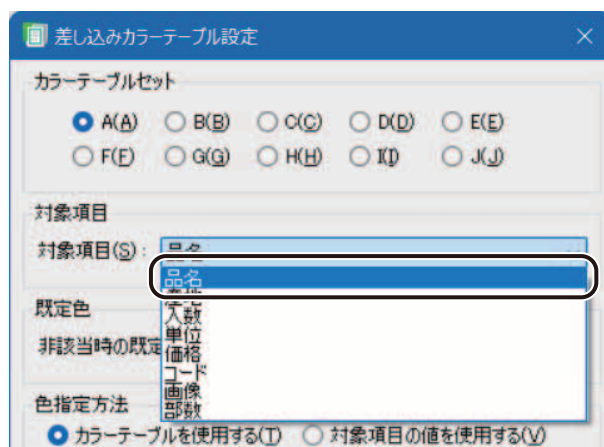
2 作成するカラーテーブルセットを選びます。

ここでは、「A」を選んでください。



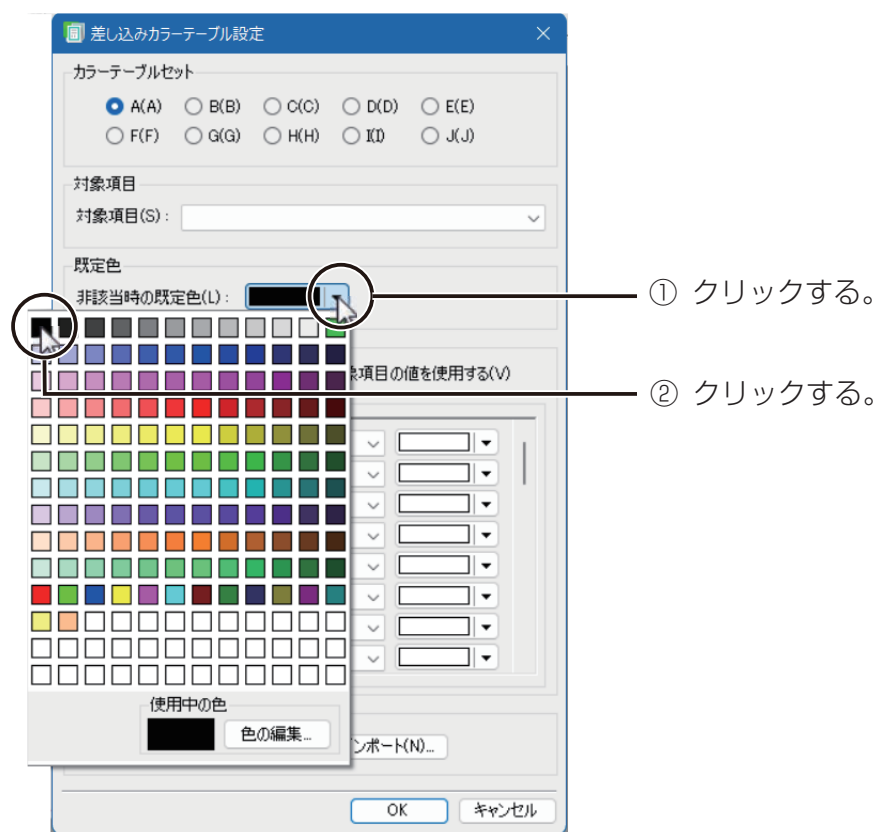
3 「対象項目」で色を判定する条件となる項目を選びます。

ここでは、「品名」を選んでください。

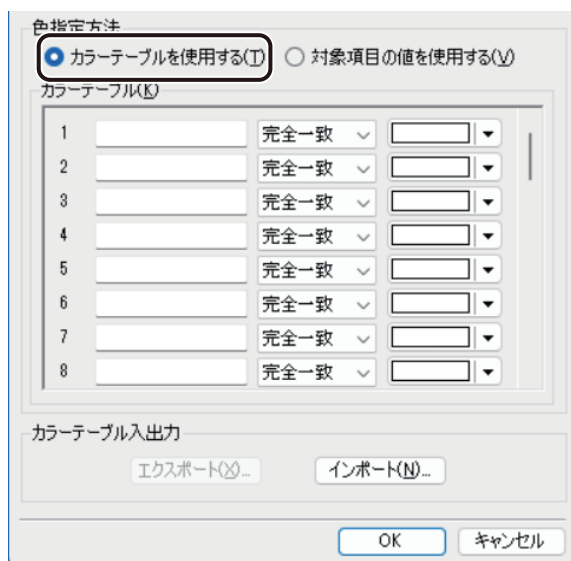


4 「既定色」でカラーテーブルと一致しないデータの表示色を設定します。

▼をクリックすると、パレットが表示されます。ここでは、■（黒色）を選びます。



5 「色指定方法」で「カラーテーブルを使用する」を選びます。



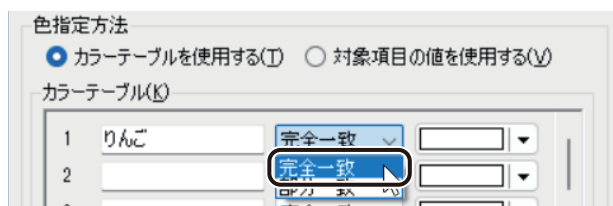
6 カラーテーブルを作成します。

対象項目のデータを入力し、変更したい色を指定します。
ここでは、次のように操作します。

- ① 「1」の入力ボックスに、「りんご」と入力します。



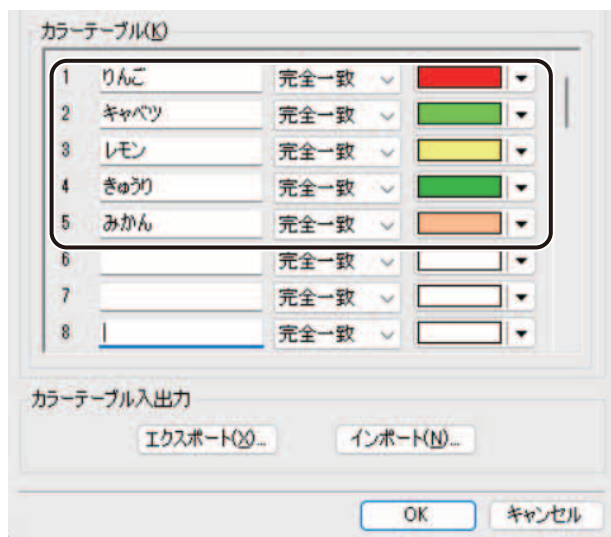
- ② 「完全一致」を選びます。



- ③ ▼をクリックして赤色(■)を選びます。



- ④ 同様の操作で、次のように入力します。



メモ

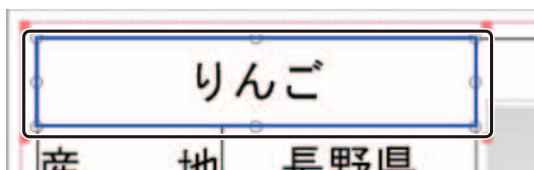
- 文字列の一致条件を「完全一致」に設定した場合は、データベースと同じ表記で入力してください。例えば、「りんご」を「リンゴ」と入力してしまうと、正しく色が反映されません。また、全角と半角も区別されます。

7 [OK] をクリックします。

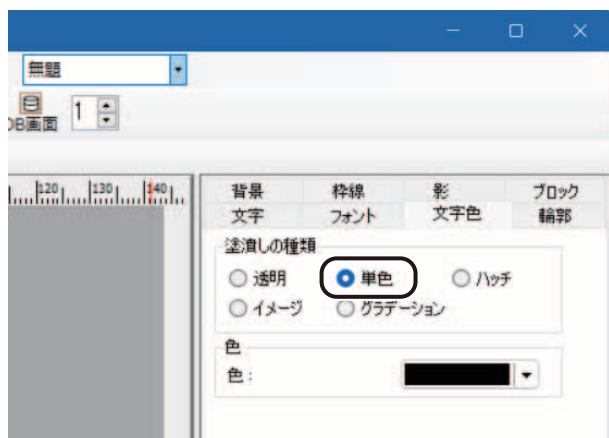
ダイアログボックスを閉じます。

8 カラーテーブルを設定するオブジェクトを選びます。

ここでは、テキストオブジェクト「りんご」を選びます。

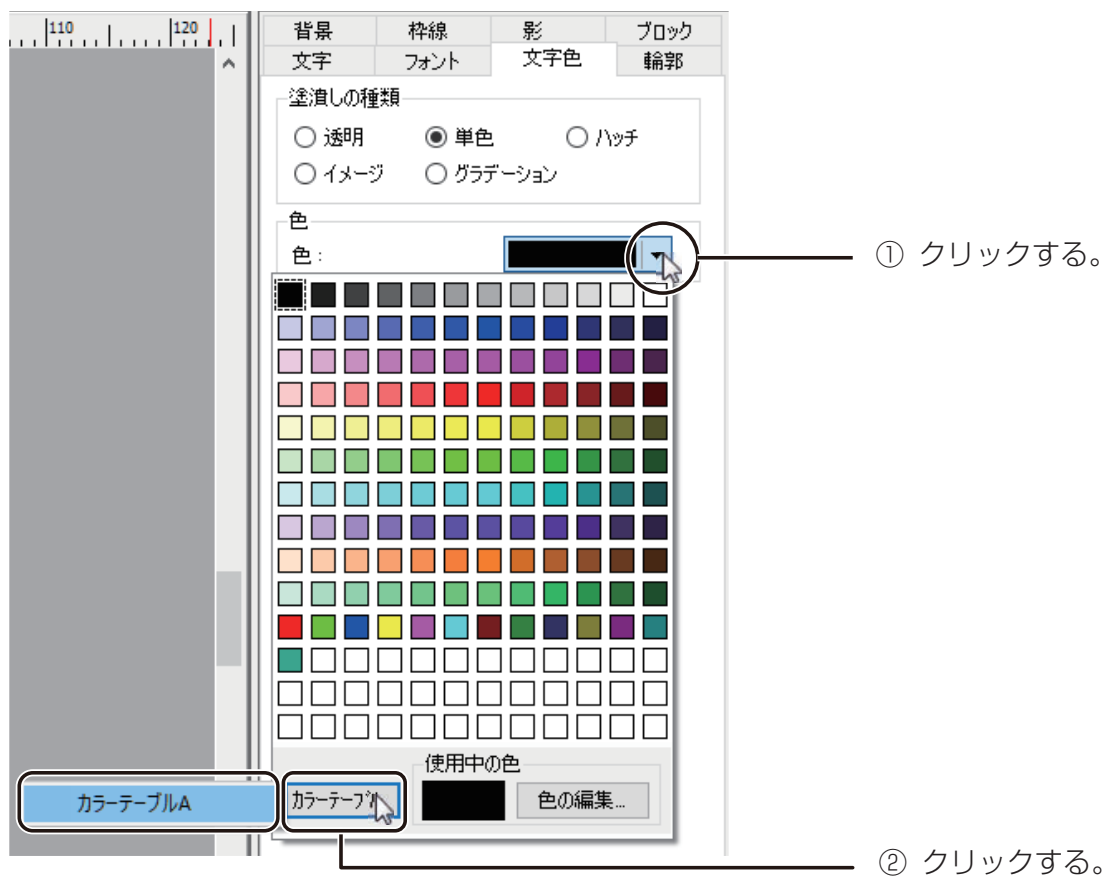


9 [文字色] プロパティの [塗潰しの種類] で [単色] を選びます。



10 パレットより、カラーテーブルを選びます。

ここでは、「カラーテーブル A」を選びます。



11 メニューバーの (差し込みレコード番号) で表示レコードを切り替え、データを確認します。

レコードごとに文字色が変わっていれば完成です。

りんご	
産地	長野県
入数	3個
価格	¥302
	
	

キャベツ	
産地	千葉県
入数	1玉
価格	¥184
	
	

レモン	
産地	広島県
入数	4個
価格	¥389
	
	

きゅうり	
産地	宮崎県
入数	4本
価格	¥302
	
	

みかん	
産地	愛媛県
入数	5個
価格	¥432
	
	

12 「データを保存する (P.75)」の手順に参考に、データを保存します。

ここでは、ファイル名を「Sample_2」とします。

データベースを使って印刷する

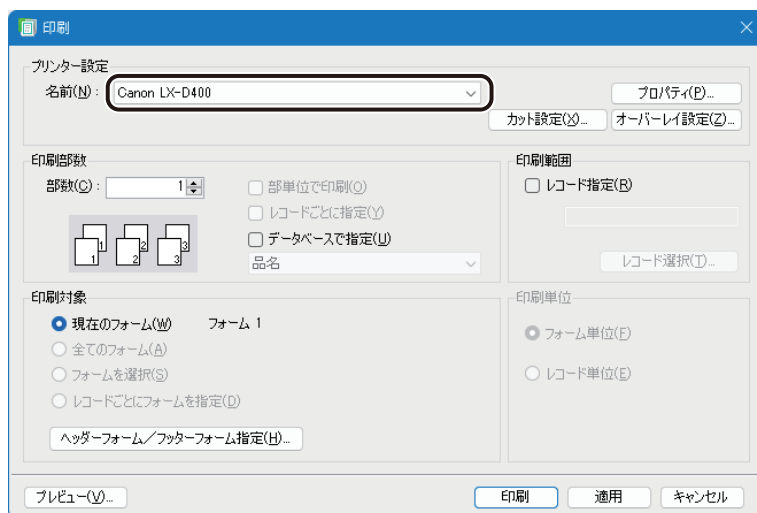
データベースを活用して効率よく印刷を行います。
ここでは、「りんご」のラベルと「みかん」のラベルを印刷します。

1 標準ツールバーの をクリックします。

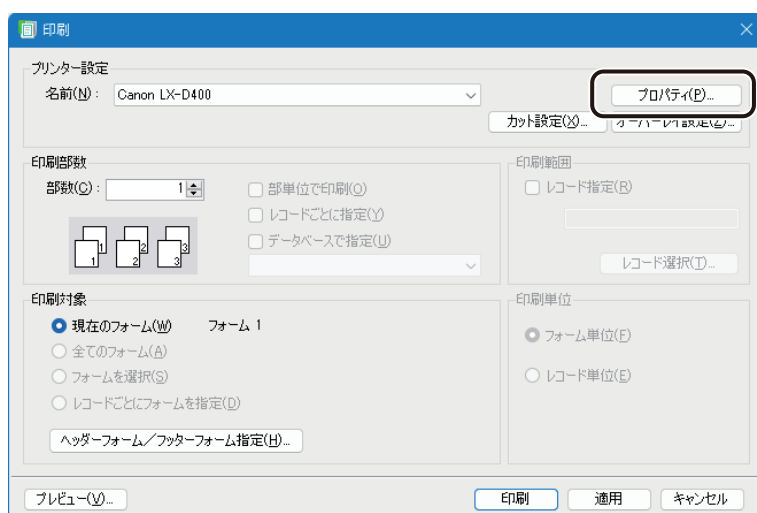
または、[ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。
[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

2 印刷に使うプリンターを指定します。

ここでは、「Canon LX-D400」を選びます。



3 [プロパティ] をクリックしてプリンタードライバーの印刷設定を行います。



プリンターにセットした用紙に合わせて設定してください。

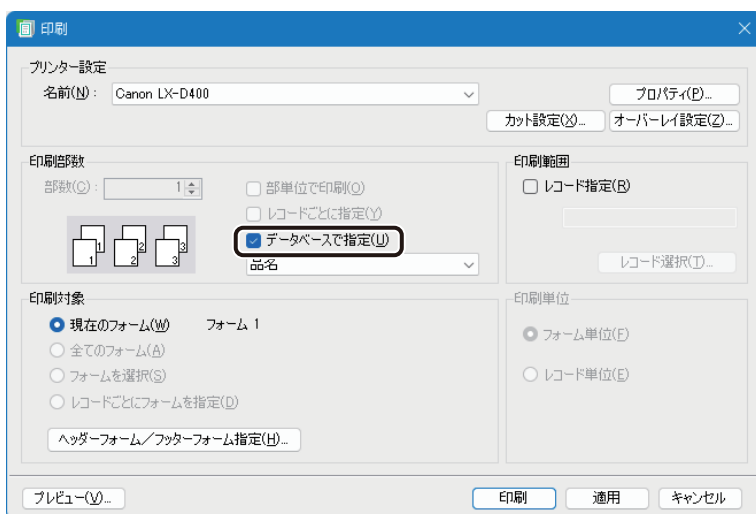
ここでは、用紙サイズ「4 × 3 ラベル / ギャップ」、用紙種類「マットコート紙」を選びます。



メモ

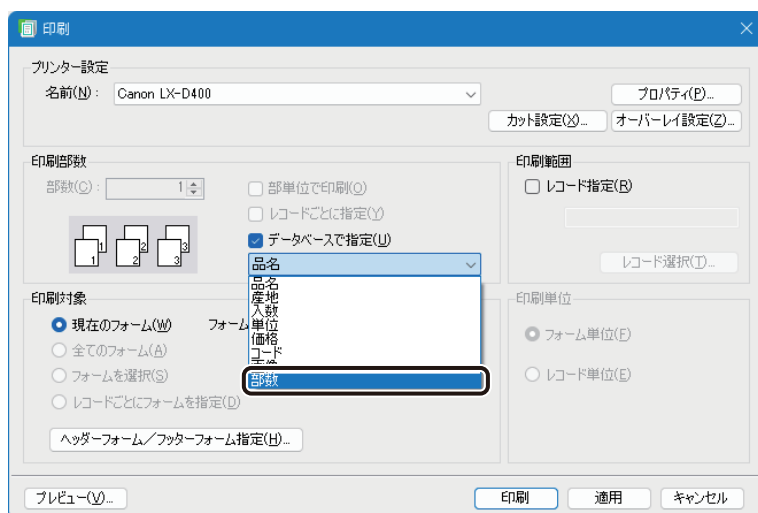
- バーコード、GS1 データバー、二次元コードが配置してあるデータの場合、印刷プリンターの変更またはプリンタードライバーの印刷設定（解像度、用紙種類、「エコノミー印刷」のオン/オフの設定（LX-P5500 をご使用の場合のみ））を変更したときは、バーコード、GS1 データバー、二次元コードを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成したオブジェクトでも大きさが異なります。
- 印刷設定について詳しくは、お使いのプリンターの取扱説明書を参照してください。

4 「データベースで指定」にチェックマークを入れます。

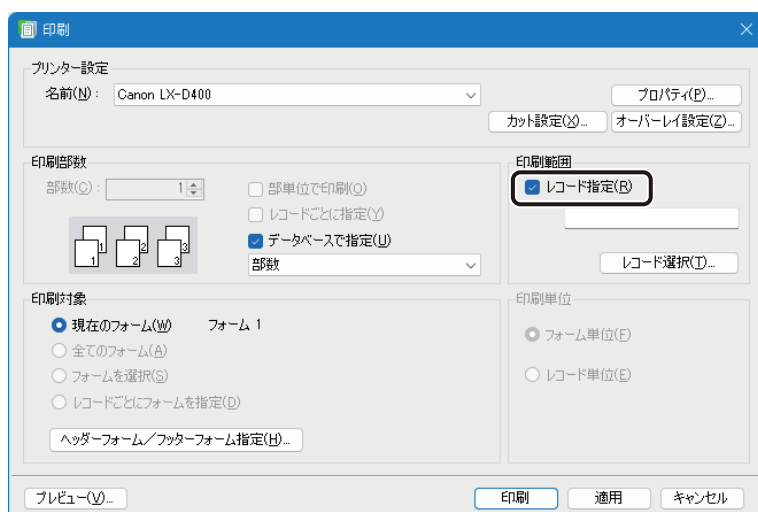


5 印刷部数を指定している項目を選びます。

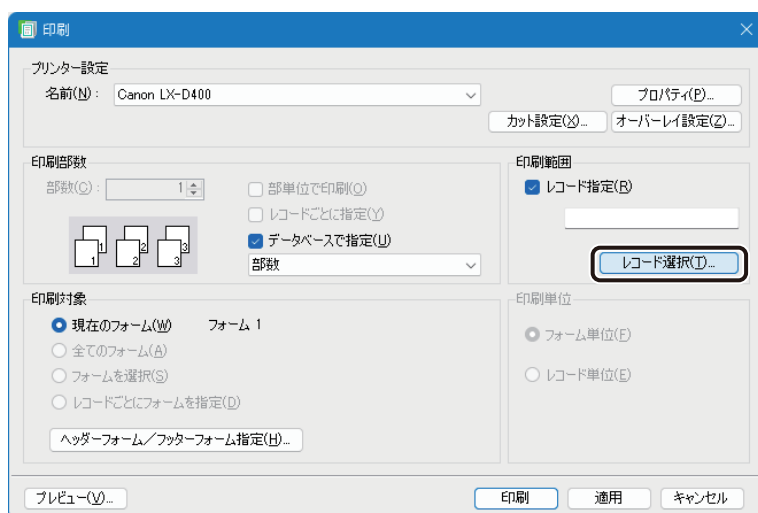
ここでは、ドロップダウンリストより「部数」を選びます。



6 「レコード指定」にチェックマークを入れます。



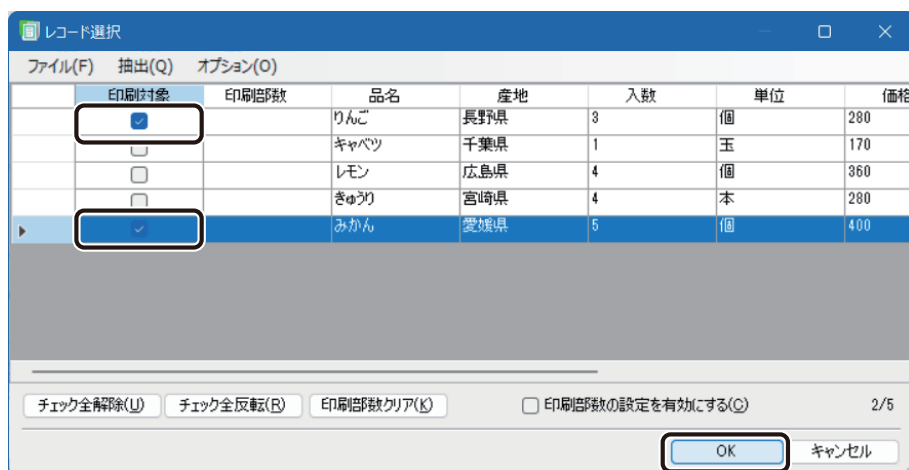
7 「レコード選択」をクリックします。



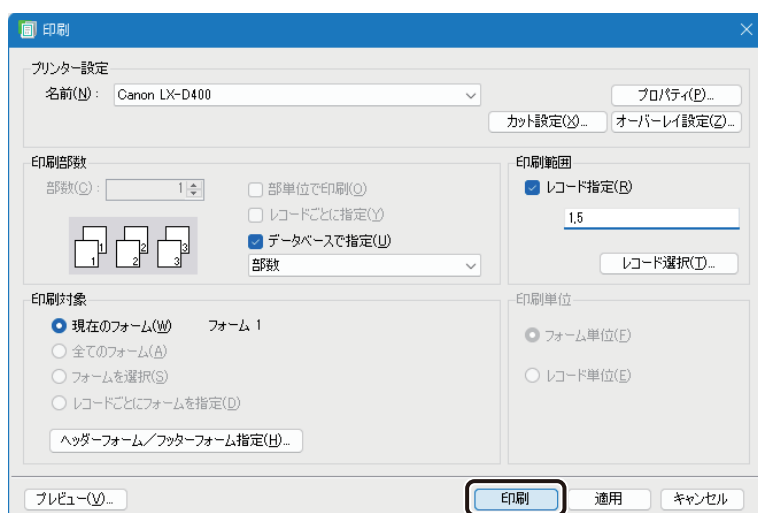
「レコード選択」ダイアログボックスが表示されます。

8 [印刷対象] の列で印刷するレコードを選び、[OK] をクリックします。

ここでは、「りんご」と「みかん」にチェックマークを入れてください。



9 [印刷] をクリックします。



印刷が実行されます。



メモ

- その他の印刷設定については、「[いろいろな印刷 \(P.338\)](#)」を参照してください。
- [印刷] ダイアログボックスの「プレビュー」をクリックすると、現在印刷対象となっているレコードのみを印刷プレビューします。

⇒「[印刷対象のレコードをプレビューする \(P.325\)](#)」

用紙とフォームの設定

デザインエリアの用紙とフォームの設定について説明します。

用紙の設定

フォームの設定

用紙の設定

デザインに使用する用紙の設定について説明します。

用紙は、あらかじめ登録されている用紙サイズから選ぶほか、独自の用紙サイズを登録して利用することもできます。

【用紙】プロパティを設定する

【用紙】プロパティでは、デザインに使用する用紙のサイズや置き方を設定します。

The screenshot shows the 'Paper' (用紙) dialog box. It contains several sections: 'Group' (グループ) with a dropdown menu, 'Paper Name' (用紙名) with a list of sizes and a 'Driver Paper Selection' (ドライバー用紙選択...) button, 'Size' (サイズ) with width and height fields, 'Margins' (余白) with top, bottom, left, and right fields, 'Orientation' (面付け) with horizontal and vertical options and a 'Orientation Setting' (面付け設定...) button, and 'Placement' (置き方) with vertical and horizontal radio buttons. A 'Custom Size Edit' (カスタムサイズ編集...) button is at the bottom right. Numbered callouts point to specific elements: [1] points to the Group dropdown, [2] points to the Paper Name list, [3] points to the Size fields, [4] points to the Margins fields, [5] points to the Orientation section, [6] points to the Placement radio buttons, and [7] points to the Custom Size Edit button.

[1] グループ 用紙のグループを選びます。

[2] 用紙名 ラベルの用紙サイズを選びます。選んだグループによって表示が変わります。
プリンタードライバーに登録されている用紙を追加する場合は、[ドライバー用紙選択]をクリックします。
⇒「用紙サイズについて (P.111)」
⇒「プリンタードライバーに登録されている用紙サイズを登録する (P.118)」

- [3] サイズ 選んだ用紙のサイズ（幅×高さ）が表示されます。
- [4] 余白 選んだ用紙の余白（上、下、左、右）が表示されます。
- [5] 面付け 1 フォームに面付けするラベルの数（縦、横）が表示されます。面付け用紙以外の場合は「横：1×縦：1」が表示されます。
面付け用紙の新規登録や、登録した面付け用紙を修正する場合は、[面付け設定]をクリックします。
⇒「[カスタム用紙を登録する（P.113）](#)」
⇒「[カスタム用紙を修正する（P.119）](#)」
- [6] 置き方 用紙の置き方を選びます。
- [7] カスタムサイズ編集 カスタム用紙の設定を行います。
⇒「[カスタム用紙を使う（P.113）](#)」



メモ

- [用紙] プロパティは、オブジェクトを選んでいない状態で表示されます。
- 既定用紙サイズは、[用紙] プロパティから選択できます。グループ「既定用紙」に 19 種類、LX-P1500 対応の用紙サイズとしてグループ「LX-P1500 用紙」に 12 種類用紙サイズがあらかじめ登録されています。「[用紙サイズについて（P.111）](#)」を参照してください。
- 登録したカスタム用紙は、本ソフトウェア内に保存されます。本ソフトウェア内に保存されていない用紙サイズを読み込むと、[用紙] プロパティに次のようなメッセージとボタンが表示されます。[用紙追加] をクリックして用紙を登録する、または別の用紙を選んでください。

登録されていない用紙が読み込まれました。
登録しますか？

用紙追加

■ 用紙サイズについて

〔用紙〕 プロパティには、次の用紙サイズがあらかじめ登録されています。ご使用になるプリンターの用紙グループから用紙サイズを選びます。

- ・ LX-D400/LG-P800/LX-P5500/LX-D5500 のとき
グループ〔既定用紙〕から用紙サイズを選びます。
- ・ LX-P1500 のとき
グループ〔LX-P1500 用紙〕から用紙サイズを選びます。



メモ

- 印刷したい用紙サイズが登録されていないときは、幅や高さを自由に設定した用紙サイズを登録します。[「カスタム用紙を登録する \(P.113\)」](#)を参照してください。

<グループ「既定用紙」>

用紙の名称	サイズ (幅×高さ) mm	余白 mm			
		上余白	下余白	左余白	右余白
4 × 1.5 インチ (97.3 × 38.1 mm)	97.3 × 38.1	1.5	1.5	1.5	1.5
4 × 3 インチ (97.3 × 76.2 mm)	97.3 × 76.2	1.5	1.5	1.5	1.5
4 × 5 インチ (101.6 × 127.0 mm)	101.6 × 127.0	1.5	1.5	3.0	1.5
4 × 8 インチ (97.3 × 203.2 mm)	97.3 × 203.2	1.5	1.5	1.5	1.5
2 × 1.5 インチ (46.5 × 38.1 mm)	46.5 × 38.1	1.5	1.5	1.5	1.5
2 × 3 インチ (46.5 × 76.2 mm)	46.5 × 76.2	1.5	1.5	1.5	1.5
2 × 8 インチ (46.5 × 203.2 mm)	46.5 × 203.2	1.5	1.5	1.5	1.5
42.0 × 65.0 mm	42.0 × 65.0	1.5	1.5	1.5	1.5
60.0 × 55.0 mm	60.0 × 55.0	1.5	1.5	1.5	1.5
75.0 × 50.0 mm	75.0 × 50.0	1.5	1.5	1.5	1.5
100.0 × 75.0 mm	100.0 × 75.0	1.5	1.5	2.5	2.5
100.0 × 100.0 mm	100.0 × 100.0	1.5	1.5	2.5	2.5
100.0 × 148.0 mm	100.0 × 148.0	1.5	1.5	2.5	2.5
199.2 × 76.2 mm (8 × 3 インチ)	199.2 × 76.2	1.5	1.5	1.5	1.5
199.2 × 152.4 mm (8 × 6 インチ)	199.2 × 152.4	1.5	1.5	1.5	1.5
210.0 × 147.5 mm (A5)	210.0 × 147.5	1.5	1.5	1.5	1.5
210.0 × 297.0 mm (A4)	210.0 × 297.0	1.5	1.5	1.5	1.5
90.0 × 199.0 mm (Beer1)	90.0 × 199.0	1.5	1.5	1.5	1.5
A4 カット紙	210.0 × 297.0	20	3.0	3.0	3.0

<グループ「LX-P1500 用紙」>

用紙の名称	サイズ (幅×高さ) mm	余白 mm			
		上余白	下余白	左余白	右余白
25.4 × 38.1 mm ラベル / ギャップ	25.4 × 38.1	1.5	1.5	2.0	2.0
50.8 × 38.1 mm ラベル / ギャップ	50.8 × 38.1	1.5	1.5	2.0	2.0
50.8 × 76.2 mm ラベル / ギャップ	50.8 × 76.2	1.5	1.5	2.0	2.0
63.0 × 91.0 mm (B8) タグ / マーク無	63.0 × 91.0	1.5	1.5	3.5	3.5
63.0 × 182.0 mm (B6 ハーフ) タグ / マーク無	63.0 × 182.0	1.5	1.5	3.5	3.5
52.5 × 148.5 mm (チケット) タグ / マーク有	52.5 × 148.5	1.5	1.5	3.5	3.5
57.0 × 210.0 mm (チケット) タグ / マーク有	57.0 × 210.0	1.5	1.5	3.5	3.5
54.0 × 85.6 mm (JIS カードサイズ) タグ / マーク無	54.0 × 85.6	1.5	1.5	3.5	3.5
55.0 × 91.0 mm タグ / マーク無	55.0 × 91.0	1.5	1.5	3.5	3.5
55.0 × 182.0 mm タグ / マーク無	55.0 × 182.0	1.5	1.5	3.5	3.5
46.5 × 38.1 mm ラベル / ギャップ	46.5 × 38.1	1.5	1.5	1.5	1.5
46.5 × 76.2 mm ラベル / ギャップ	46.5 × 76.2	1.5	1.5	1.5	1.5

カスタム用紙を使う

印刷したい用紙サイズが登録されていないときは、幅や高さを自由に設定した用紙サイズを「カスタム用紙」として登録しておきます。

また、登録した用紙サイズは、エクスポート/インポートを行うことによって、別環境にインストールされた本ソフトウェアで利用することができます。

■ カスタム用紙を登録する

1 [用紙] プロパティの [用紙名] で基本となる用紙サイズを選びます。



2 [用紙] プロパティの [カスタムサイズ編集] をクリックします。

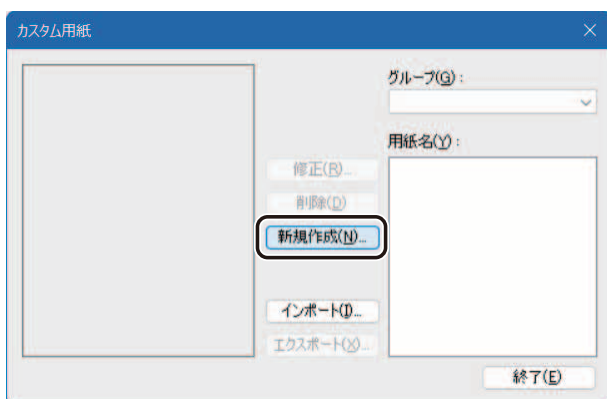


[カスタム用紙] ダイアログボックスが表示されます。



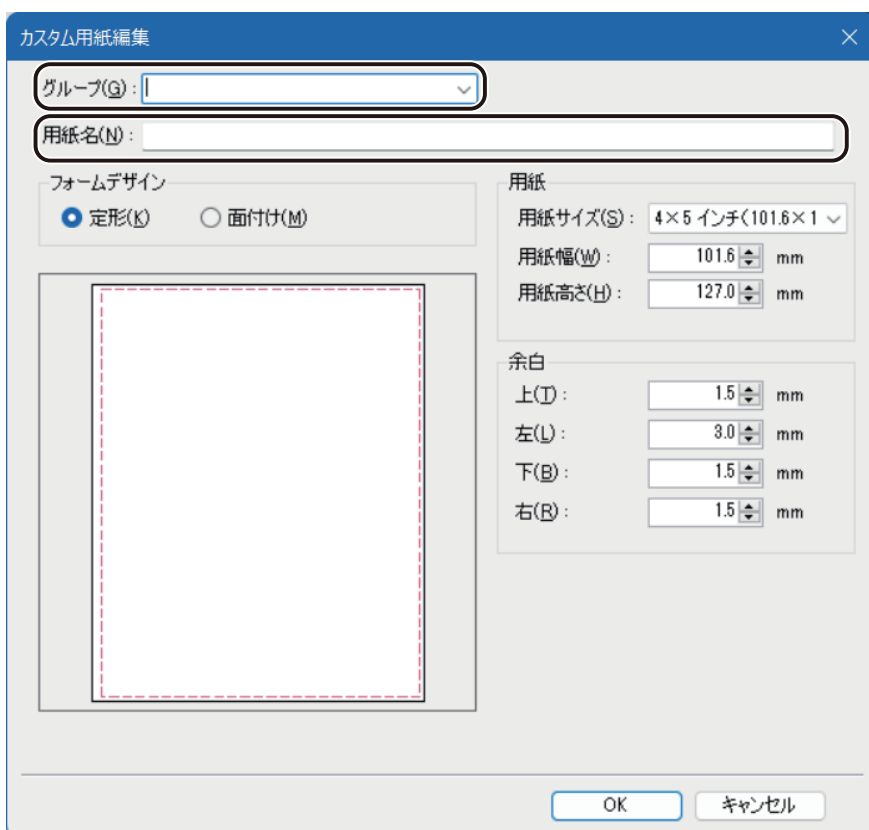
- 面付け用紙の登録は、[用紙] プロパティの [面付け設定] から登録することもできます。
[面付け設定] から登録する場合は、[面付け設定] をクリックしたあと、手順4から操作してください。

3 [新規作成] をクリックします。



「カスタム用紙編集」ダイアログボックスが表示されます。

4 新しい用紙の「グループ」および「用紙名」を入力します。



「グループ」

新しいグループ名を入力します。また、入力ボックスのドロップダウンリストから登録済みの既存のグループを選択することもできます。

「用紙名」

新しい用紙の名称を入力します。



- グループ名に「既定用紙」および「LX-P1500 用紙」は登録できません。

5 [フォームデザイン] を選びます。



[定形]

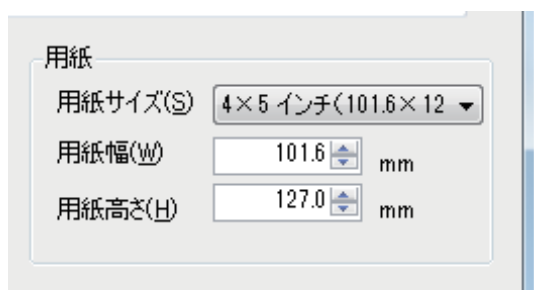
1 フォームに 1 つのラベルを設定します。

[面付け]

1 フォームに複数のラベルを設定します。

6 新しい用紙のサイズを入力します。

[用紙サイズ] で新しい用紙の基準となる用紙サイズを選び、用紙プレビュー画面で確認しながら [幅] と [高さ] を変更します。また、あらかじめ用紙サイズが決まっているときは、[幅] と [高さ] に数値を入力します。



[用紙サイズ]

新しい用紙の基準となる用紙サイズを選びます。

グループ「既定用紙」の用紙サイズおよび「ドライバー用紙サイズ」が選択できます。

[幅]

用紙の幅を指定します。

[高さ]

用紙の高さを指定します。

メモ

- 用紙の幅、高さの設定可能範囲は使用するプリンターによって異なります。各プリンターのユーザズガイドを参照してください。

7 余白または、ラベル用紙の情報を入力します。

「フォームデザイン」で「定形」を選んだときと、「面付け」を選んだときでは、次のように表示が異なります。表示された内容について入力を行ってください。

● フォームデザイン「定形」のとき

余白

上(T)	1.5	mm
左(L)	3.0	mm
下(B)	1.5	mm
右(R)	1.5	mm

【余白】

用紙の上下左右の余白を入力します。プレビュー画面上では余白領域は赤枠で示されます。

● フォームデザイン「面付け」のとき

面付け

横(X) 1 × 縦(Y) 1

一面のサイズ

幅(Q)	50.0	mm
高さ(P)	50.0	mm

左余白(L)	0.0	mm
上余白(T)	0.0	mm
左右間隔(Y)	0.0	mm
上下間隔(Z)	0.0	mm

【横】 × 【縦】

1 フォームに面付けするラベルの数（縦、横）を入力します。

【一面のサイズ】

一面のラベルのサイズ（幅、高さ）を入力します。

【左余白】、【上余白】

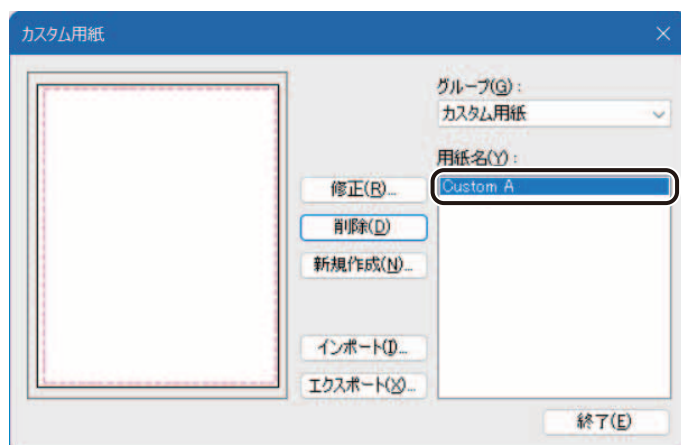
用紙と、用紙の左上に配置されるラベルとの間の左、上の余白を入力します。

【左右間隔】、【上下間隔】

ラベルの左右、上下の間隔を入力します。

8 [OK] をクリックします。

指定した用紙名で新しい用紙サイズが登録されます。



9 [終了] をクリックします。

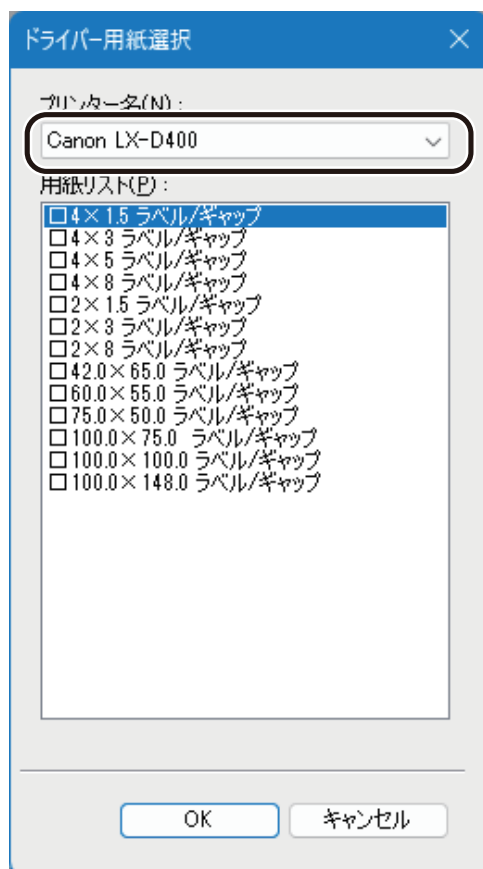
■ プリンタードライバーに登録されている用紙サイズを登録する

- 1 [用紙] プロパティの [ドライバー用紙選択] をクリックします。



[ドライバー用紙選択] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「プリンター名」で用紙サイズを取得したいプリンターを選びます。



- 3 「用紙リスト」から任意の用紙を選び、[OK] をクリックします。

選んだ用紙サイズがカスタム用紙として登録されます。

■ カスタム用紙を修正する

1 [用紙] プロパティの [カスタムサイズ編集] をクリックします。

余白
上: 1.5 mm 下: 1.5 mm
左: 3 mm 右: 1.5 mm

面付け
横: 1 × 縦: 1
面付け設定...

置き方
☒ 縦置き ☐ 横置き
カスタムサイズ編集...

[カスタム用紙] ダイアログボックスが表示されます。



- 面付け用紙の場合は、[用紙] プロパティの [面付け設定] から修正することもできます。
[面付け設定] から修正する場合は、以下のように操作します。
- ① [用紙] プロパティの [用紙名] で編集する用紙を選びます。
- ② [面付け設定] をクリックします。
- ③ 手順 3 から操作してください。

2 編集する用紙を選び、[修正] をクリックします。

カスタム用紙

グループ(G): カスタム用紙

用紙名(N): Custom A, Custom C

修正(B)...
削除(D)
新規作成(N)...
インポート(I)...
エクスポート(E)...

終了(E)

[カスタム用紙編集] ダイアログボックスが表示されます。

3 カスタム用紙の用紙情報を変更します。



- カスタム用紙の修正では、[フォームデザイン] の設定を変更することはできません。変更したいときは、新規作成から行ってください。

4 [OK] をクリックします。

カスタム用紙情報が修正されます。

5 [終了] をクリックします。

■ カスタム用紙を削除する

- 1 [用紙] プロパティの [カスタムサイズ編集] をクリックします。

[カスタム用紙] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 削除する用紙サイズを選び、[削除] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

- 3 [はい] をクリックします。

指定したカスタム用紙が削除されます。

- 4 [終了] をクリックします。



- 用紙の削除によりグループに用紙の登録がなくなると、そのグループ名も同時に削除されます。

■ カスタム用紙をエクスポートする

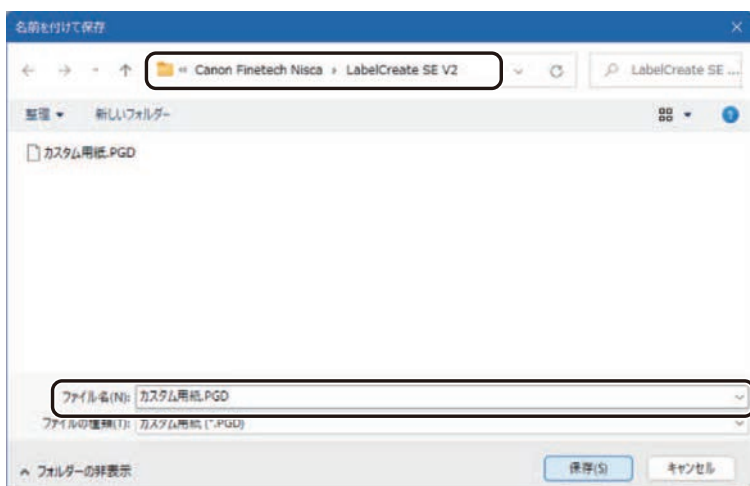
- 1 [用紙] プロパティの [カスタムサイズ編集] をクリックします。

[カスタム用紙] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 エクスポートする用紙グループを選び、[エクスポート] をクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

3 [保存場所] と [ファイル名] を指定します。



4 [保存] をクリックします。

カスタム用紙情報ファイル (*.PGD) が保存されます。

■ カスタム用紙をインポートする

1 カスタム用紙情報ファイル (*.PGD) を用意します。

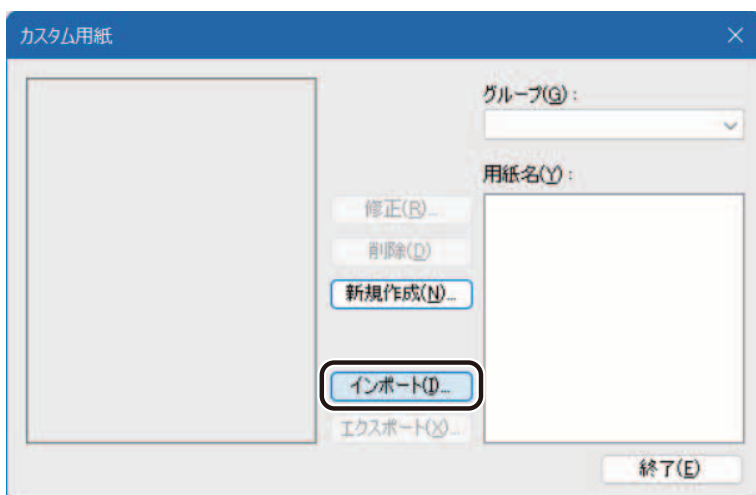
⇒「カスタム用紙をエクスポートする (P.122)」

2 [用紙] プロパティの [カスタムサイズ編集] をクリックします。



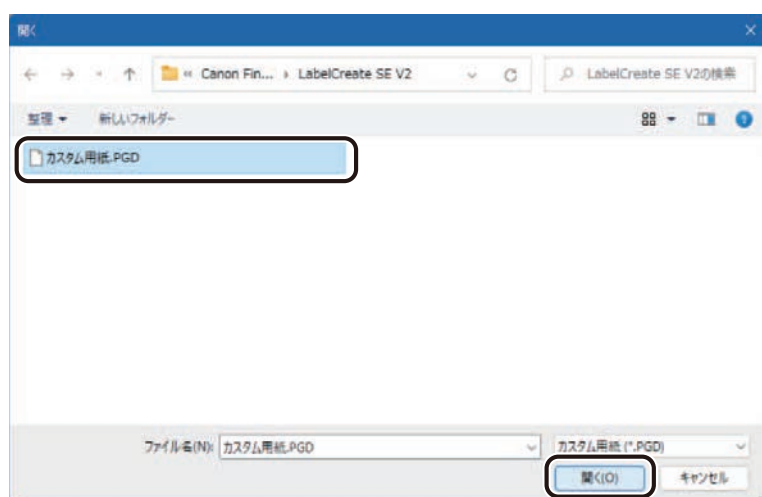
[カスタム用紙] ダイアログボックスが表示されます。

3 [インポート] をクリックします。



[開く] ダイアログボックスが表示されます。

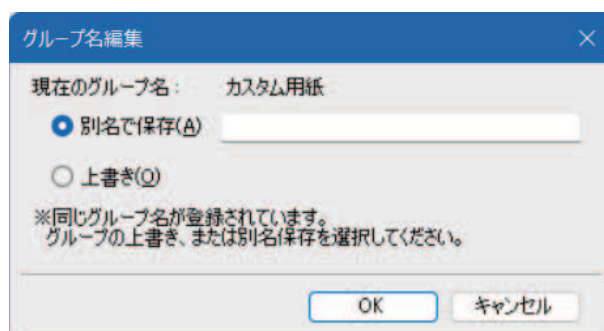
4 エクスポートしたファイルを指定し、[開く] をクリックします。



カスタム用紙情報が読み込まれます。

メモ

- エクスポートしたファイルを読み込んだとき、同じ用紙グループ名が存在する場合は、次のようなダイアログボックスが表示されます。[別名で保存] または [上書き] を選んで [OK] をクリックしてください。



フォームの設定

フォームの設定について説明します。

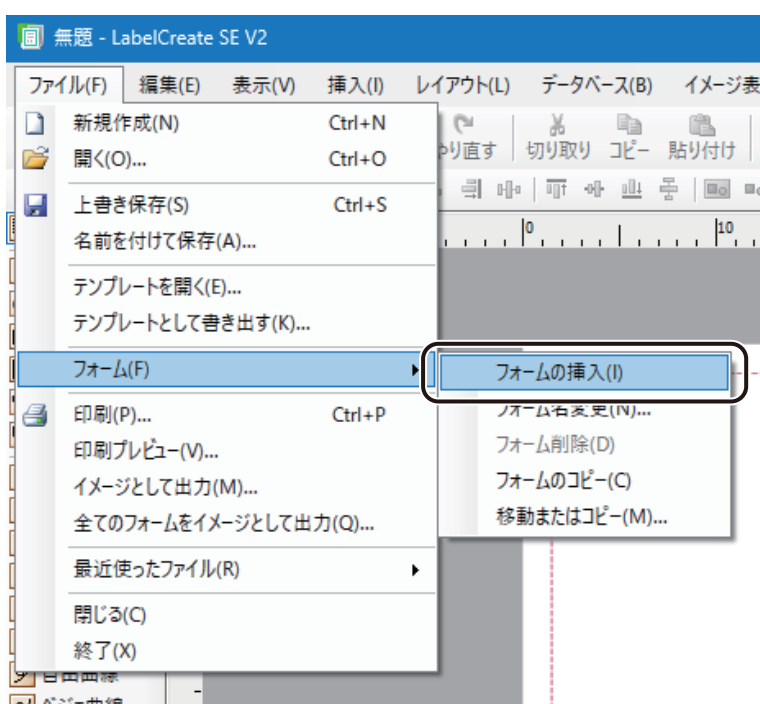
フォーム機能を使うと、ひとつのファイルに複数のデザインを作成できます。

新しいフォームを挿入する

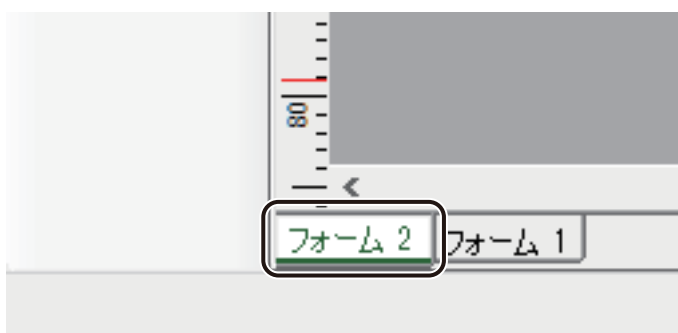
新しいフォームを挿入します。

フォームは、8 フォームまで作成できます。

- 1 [ファイル] メニューの [フォーム] から [フォームの挿入] をクリックします。



表示しているフォームの左側に新しいフォームが挿入されます。



- フォームの見出しを右クリックすると、フォームの操作メニューが表示されます。

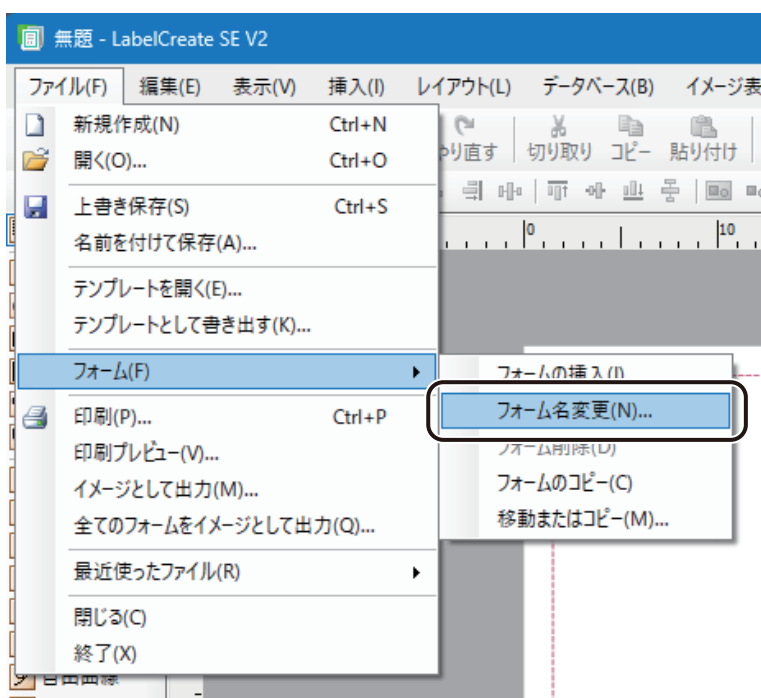
フォームを編集する

フォーム名の変更やコピー、削除のしかたについて説明します。

■ フォーム名を変更する

1 名前を変更するフォームを表示します。

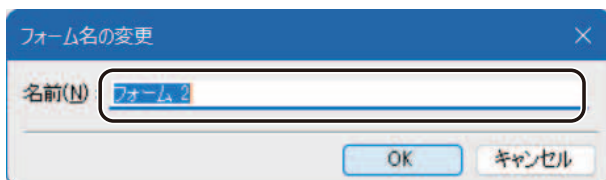
2 [ファイル] メニューの [フォーム] から [フォーム名変更] をクリックします。



[フォーム名の変更] ダイアログボックスが表示されます。

3 [名前] に新しい名前を入力します。

名前は半角、全角ともに 32 文字まで入力できます。



4 [OK] をクリックします。

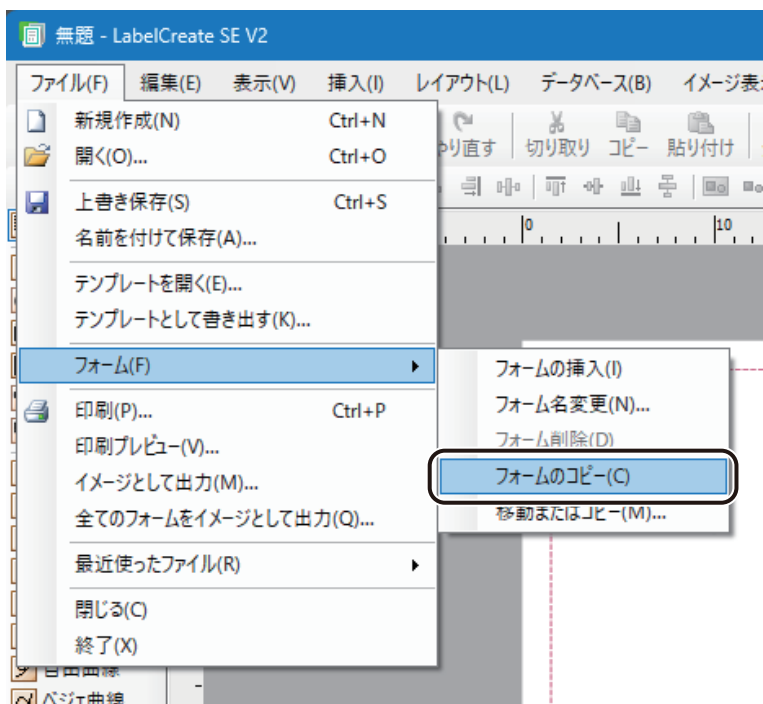


- フォーム名の変更は、フォームのタブをダブルクリックして設定することもできます。

■ フォームをコピーする

1 コピーするフォームを表示します。

2 [ファイル] メニューの [フォーム] から [フォームのコピー] をクリックします。

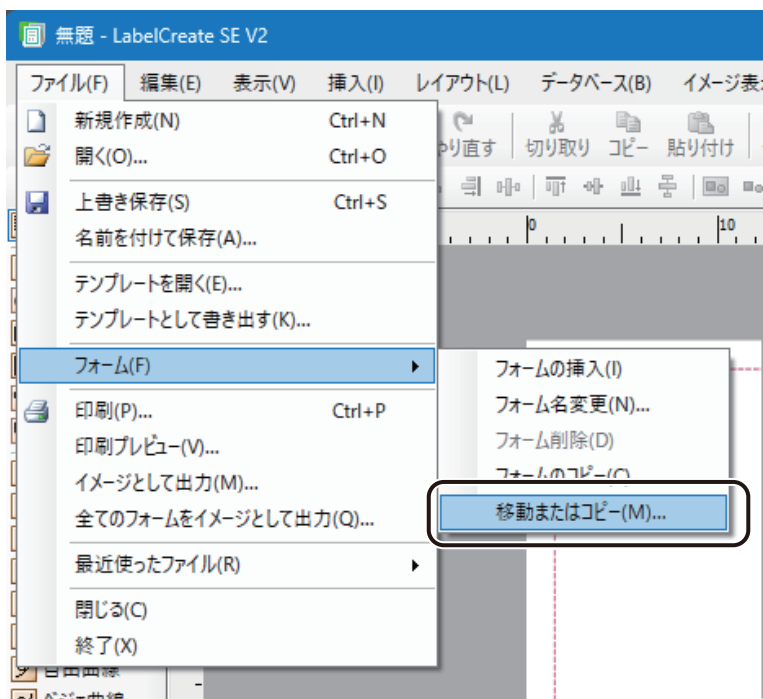


コピー元のフォームの左側にコピーされたフォームが挿入されます。

■ フォームを移動またはコピーする

1 移動またはコピーするフォームを表示します。

2 [ファイル] メニューの [フォーム] から [移動またはコピー] をクリックします。



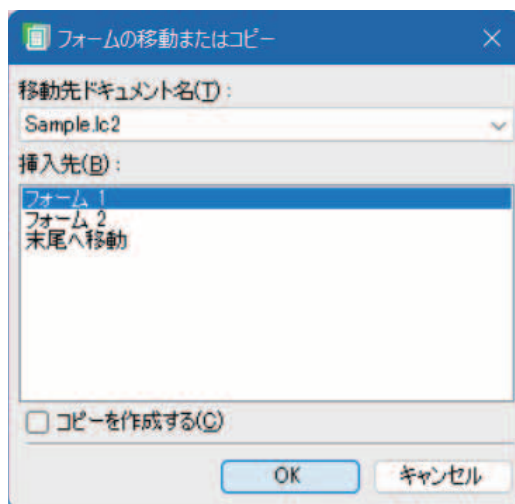
[フォームの移動またはコピー] ダイアログボックスが表示されます。

3 作業に合わせてダイアログボックスを設定します。

- フォームを移動させるとき

- ① [移動先ドキュメント名] でフォームを移動するファイルを選びます。
- ② [挿入先] でフォームの挿入位置を選びます。
- ③ [OK] をクリックします。

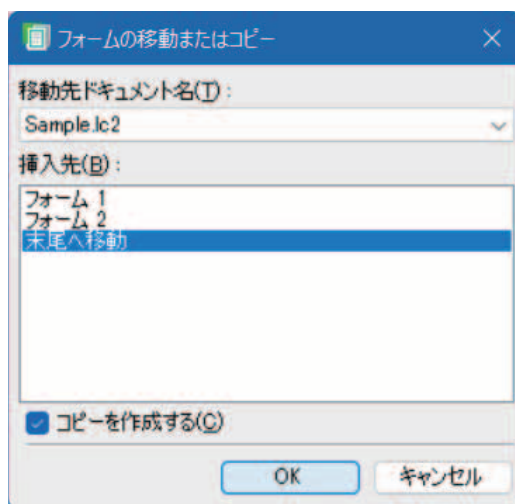
[OK] を押すと、選んだフォームの左側に移動します。また、[末尾へ移動] を選んだときは、一番右側に移動します。



- フォームをコピーするとき

- ① [移動先ドキュメント名] でフォームを移動するファイルを選びます。
- ② [挿入先] でフォームの挿入位置を選びます。
- ③ [コピーを作成する] にチェックマークを入れます。
- ④ [OK] をクリックします。

[OK] を押すと、選んだフォームの左側にコピーを作成します。[末尾へ移動] を選んだときは、一番右側にコピーを作成します。



4 [OK] をクリックします。

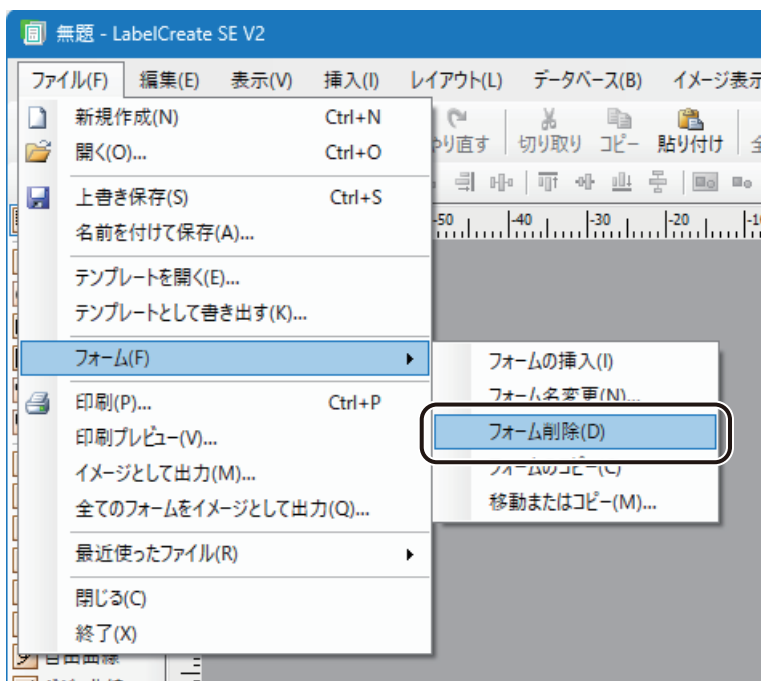
メモ

- フォームの移動は、フォームのタブを移動したい位置までドラッグして行うこともできます。
- フォームのコピーは、Ctrl キーを押しながらフォームタブをドラッグ&ドロップして行うこともできます。

■ フォームを削除する

1 削除するフォームを表示します。

2 [ファイル] メニューの [フォーム] から [フォーム削除] をクリックします。



次のダイアログボックスが表示されます。

3 [OK] をクリックします。

フォームが削除されます。

4

オブジェクトの操作と作成

基本的なオブジェクトの操作方法と、各オブジェクトの作成とその編集について説明します。

オブジェクトの操作

オブジェクトの作成

オブジェクトの編集

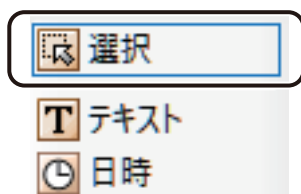
オブジェクトの操作

文字や線、図形など、ラベルをデザインするものをオブジェクトといいます。ここでは、オブジェクトの操作方法について説明します。

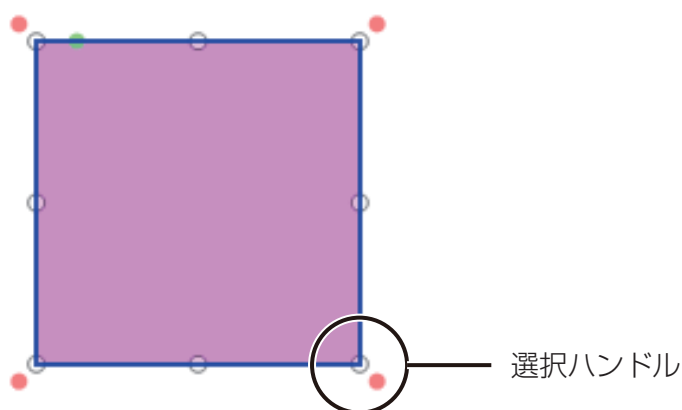
各オブジェクトの作成のしかたについては、「[オブジェクトの作成 \(P.152\)](#)」を参照してください。

オブジェクトを選択する

オブジェクトを選択するときは、挿入ツールバー [選択] ツールが選ばれている状態でオブジェクトをクリックします。

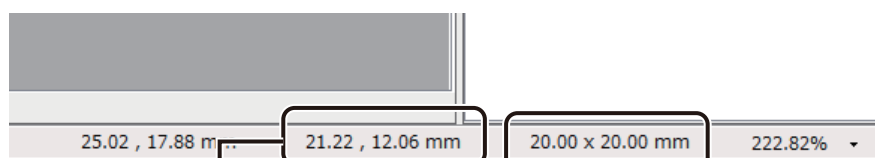


オブジェクトが選択されると、オブジェクトの四隅および辺の中央に選択ハンドル（○）が表示されます。



メモ

- 他のオブジェクトツールを選んでいないときは、常に [選択] ツールが選ばれている状態となります。
- オブジェクトを選択すると、画面下部のステータスバーに選んでいるオブジェクトの情報が表示されます。



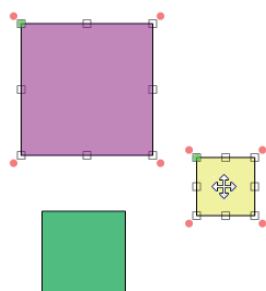
オブジェクト位置

オブジェクトサイズ

複数のオブジェクトを選択するときは、次のいずれかで行います。

■ マウスと [Shift] キーを使って選択する

[Shift] キーを押しながらオブジェクトをクリックします。数個のオブジェクトを選ぶときに便利です。



■ マウスで範囲を指定して選択する

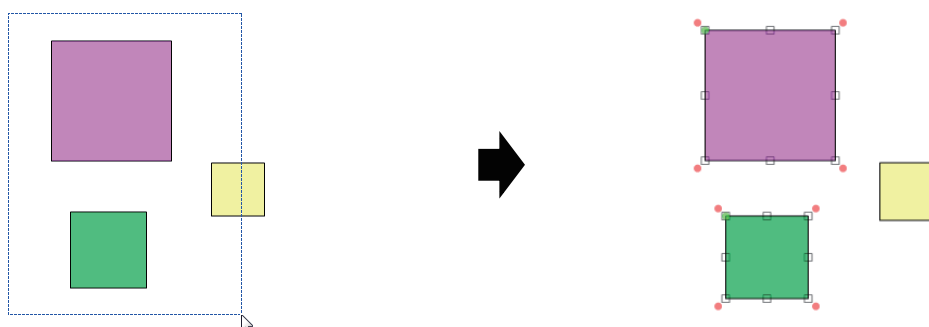
ドラッグして、オブジェクトを囲みます。多くのオブジェクトを一度に選ぶときに便利です。

範囲を指定して選択する方法は、[囲み選択] と [交差選択] があり、レイアウトツールバーで切り替えができます。
⇒「レイアウトツールバー (P.16)」

[囲み選択]

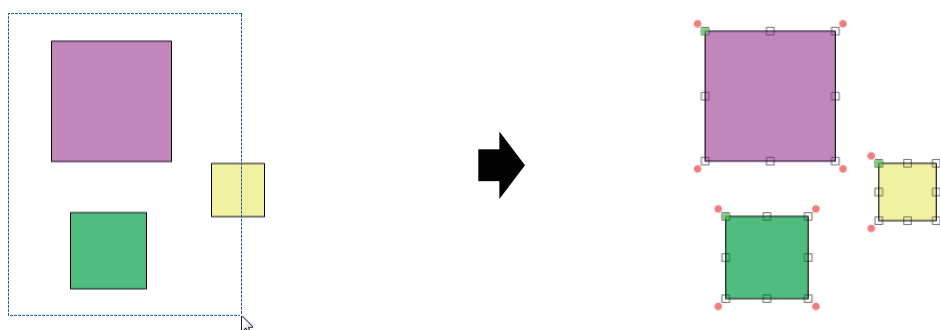
指定した範囲に含まれるオブジェクトを選びます。

指定した範囲からはみ出した部分があるオブジェクトは選択されません。



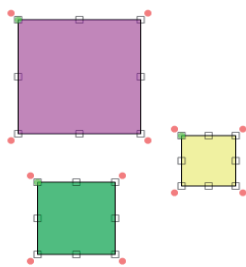
[交差選択]

指定した範囲に含まれるか触れているオブジェクトはすべて選びます。



■ メニューから選択する

すべてのオブジェクトを選択するときは、[編集] メニューの [すべてを選択] を選びます。



メモ

- 複数のオブジェクトを選択すると、共通する項目のプロパティを一括編集することができます。プロパティは、選んだオブジェクトの組み合わせに関係なく、[フォント] プロパティ、[文字色] プロパティ、[線] プロパティ、[塗潰し] プロパティおよび [ブロック] プロパティが表示されます。

■ オブジェクトリストから選択する

[表示] メニューの [オブジェクトリスト] をクリックすると、オブジェクトリストが開きます。

⇒「[オブジェクトリストを使う \(P.149\)](#)」

オブジェクトリストを使うと、重なり合い背面に隠れているオブジェクトを選択するときに便利です。

オブジェクト	表示	印刷	クリップ対象	枠のみロック	ロック
バーコード : マクロ	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト : マクロ	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト : マクロ	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト : B : 産地	☒	☒	☒	☒	☒
テキスト : A : 品名	☒	☒	☐	☐	☐
イメージ : G : 画像	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト : 価格	☒	☒	☒	☒	☒
テキスト : 産地	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト : 入数	☒	☒	☐	☐	☐
図形 : 直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形 : 直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形 : 直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形 : 直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形 : 直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形 : 直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形 : 四角形	☒	☒	☐	☐	☐

複数のオブジェクトを選択するときは、次のいずれかで行います。

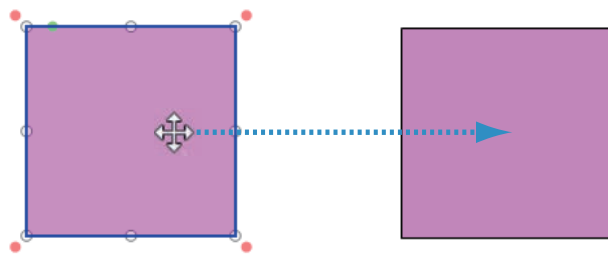
- ・ 連続した複数のオブジェクトを選択するとき
始点をクリックして選び、次にキーボードの [Shift] キーを押しながら終点をクリックします。選択が終わったら、[Shift] キーを離します。
- ・ 連続していない複数のオブジェクトを選択するとき
キーボードの [Ctrl] キーを押しながら選びます。選択が終わったら、[Ctrl] キーを離します。

オブジェクトを移動する

オブジェクトの移動は、次のいずれかで行います。

■ マウスで移動する

オブジェクトを選び、任意の位置にドラッグします。通常はこの方法でオブジェクトの移動を行います。



■ 矢印キーで移動する

オブジェクトを選び、キーボードの矢印キーで任意の位置に移動します。オブジェクトの位置を微調整するときに有効です。

より小さい単位で微調整したいときは、[Ctrl] キーを押しながら矢印キーを押します。

■ [切り取り] で移動する

オブジェクトを切り取って移動します。別のファイルやフォームにオブジェクトを移動するときに有効です。

- 1 オブジェクトを選びます。
- 2 [編集] メニューの [切り取り] をクリックします。
- 3 切り取ったオブジェクトの貼り付け位置をクリックします。
- 4 [編集] メニューの [貼り付け] をクリックします。



- [切り取り] および [貼り付け] は、右クリックで表示されるメニューから選ぶこともできます。

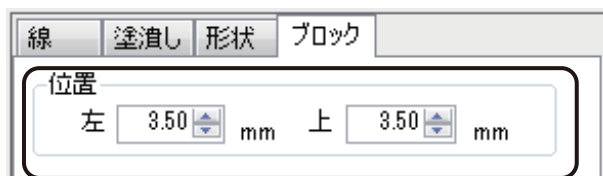
■ [ブロック] プロパティを設定して移動する

[ブロック] プロパティで、用紙の左端および上端からの位置を入力してオブジェクトを移動させます。正確な位置にオブジェクトを移動したいときに有効です。

1 オブジェクトを選びます。

2 [ブロック] プロパティを設定します。

[位置] の [左] および [上] を入力します。



設定した位置にオブジェクトが移動します。

オブジェクトを削除する

作成したオブジェクトを削除します。

1 オブジェクトを選びます。

2 [編集] メニューの [削除] をクリックします。

選んだオブジェクトが削除されます。



メモ

- [Delete] キーを押す、または、右クリックで表示されるメニューから削除することもできます。

オブジェクトをコピーする

同じオブジェクトを作成したいときは、[コピー] と [貼り付け] を利用するのが便利です。

1 オブジェクトを選びます。

2 [編集] メニューの [コピー] をクリックします。



- [コピー] は、右クリックで表示されるメニューから選ぶこともできます。

3 コピーしたオブジェクトの貼り付け位置をクリックします。

4 [編集] メニューの [貼り付け] をクリックします。

コピーしたオブジェクトが貼り付けられます。



- [貼り付け] は、右クリックで表示されるメニューから選ぶこともできます。
- 他のアプリケーションソフトウェアでコピーしたオブジェクトやテキストは、次のようにデザインエリア上へ貼り付けることができます。
 - ・イメージ、イラスト、表、グラフ
デザインエリア上で [貼り付け] を行うと、イメージオブジェクトとして貼り付けられます。
 - ・テキスト
あらかじめテキストオブジェクトを作成しておき、[文字] プロパティの [入力データ] に貼り付けます。

オブジェクトを变形する

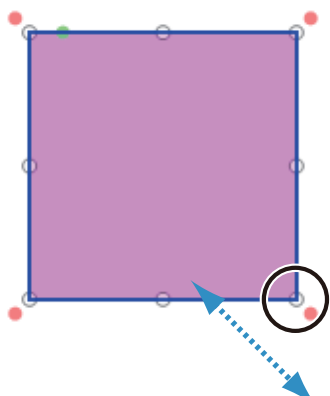
オブジェクトの变形のしかたを説明します。

■ オブジェクトを拡大 / 縮小する

1 オブジェクトを選びます。

2 オブジェクトの四隅または辺の中央に表示される選択ハンドル（）をドラッグして動かします。

このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながら四隅の選択ハンドルをドラッグすると、縦横等倍率で拡大 / 縮小できます。



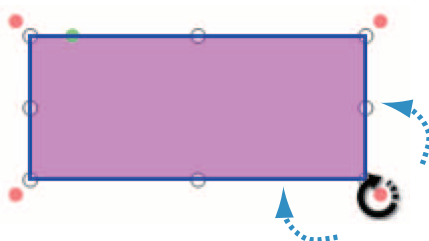
■ オブジェクトを回転する

1 オブジェクトを選びます。

2 [レイアウト] メニューの [回転] から [右 90 度回転] または [左 90 度回転] をクリックします。
選んだ方向にオブジェクトが回転します。

メモ

- 回転ハンドル（）をドラッグして回転することもできます。[Shift] キーを押しながらドラッグすると、15 度単位で回転します。



- 回転したオブジェクトを元に戻すときは、[レイアウト] メニューの [回転] から [回転の解除] をクリックします。
- オブジェクトの回転は、[ブロック] プロパティから設定することもできます。[ブロック] プロパティの設定については、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.253\)](#)」を参照してください。
- 直線オブジェクトの場合、回転ハンドルは表示しません。

■ オブジェクトを反転する

1 オブジェクトを選びます。

2 [レイアウト] メニューの [反転] から [水平] または [垂直] をクリックします。
選んだ方向にオブジェクトが反転します。

オブジェクトの重ね順を設定する

重なったオブジェクトを前面に出したり、背面に送ったりすることができます。

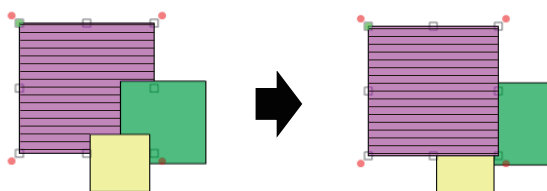
1 オブジェクトを選びます。

2 [レイアウト] メニューの [重ね順] からオブジェクトの移動する位置を選びます。

選んだ位置にオブジェクトが移動します。

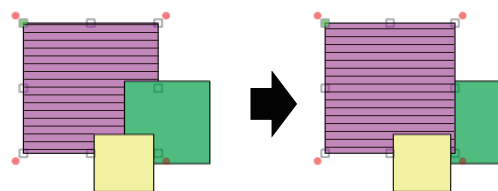
[最前面へ]

一番前に配置されます。



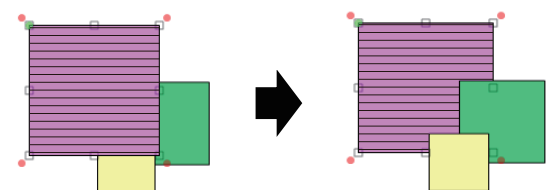
[前面へ]

ひとつ前に配置されます。



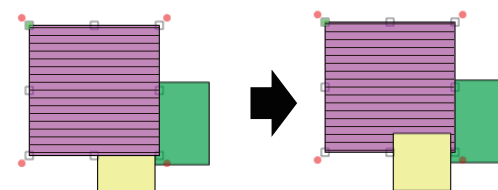
[最背面へ]

一番後ろに配置されます。



[背面へ]

ひとつ後ろに配置されます。



- [重ね順] は次のいずれかでも設定できます。
 - ・ 右クリックで表示されるメニューから選ぶ。
 - ・ レイアウトツールバー  をクリックする。
 - ・ オブジェクトリストで設定する。

オブジェクトを揃える

オブジェクトを整列させてレイアウトを整えることができます。

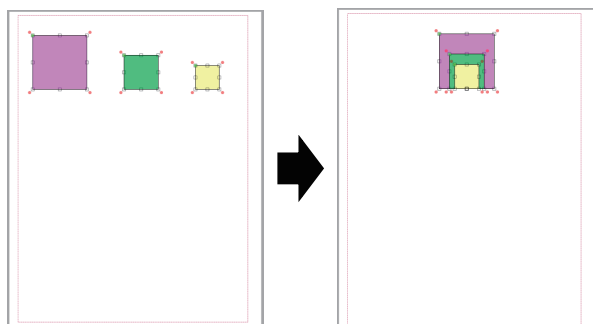
■ 用紙サイズに合わせた配置にする

1 オブジェクトを選びます。

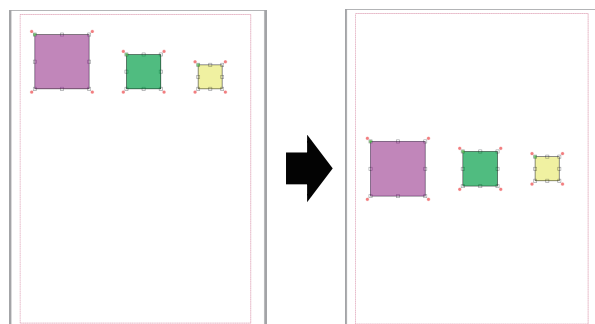
2 [レイアウト] メニューの [配置] から整列方法をクリックします。

オブジェクトが決められた位置で整列します。

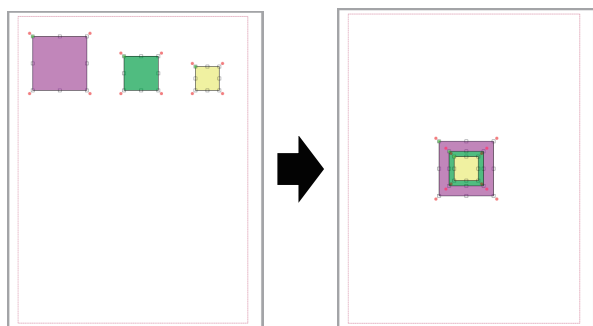
[用紙の左右中央に合わせる]



[用紙の上下中央に合わせる]



[用紙の上下左右中央に合わせる]



メモ

● [配置] は、レイアウトツールバー  をクリックして設定することもできます。

■ 複数のオブジェクトを整列させる

1 複数のオブジェクトを選びます。

2 [レイアウト] メニューの [位置合わせ] から整列方法をクリックします。

オブジェクトが決められた位置で整列します。

メモ

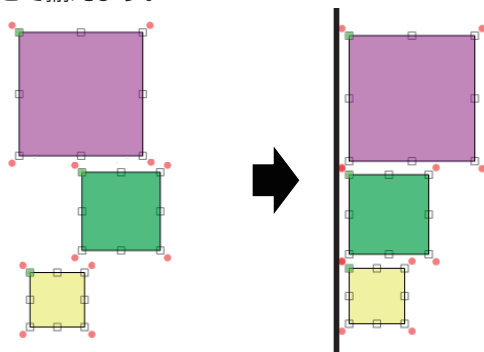
● [位置合わせ] は次のいずれかでも設定できます。

・ 右クリックで表示されるメニューから選ぶ。

・ レイアウトツールバー  をクリックする。

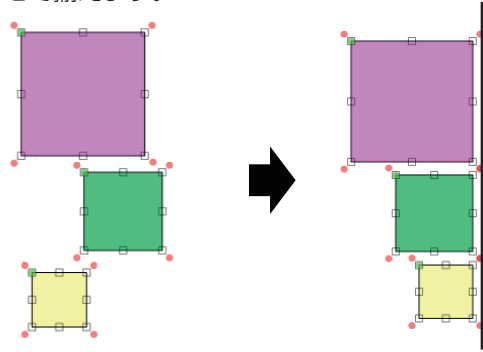
[左端で揃える]

選んでいるオブジェクトの一番左のオブジェクトに合わせて揃えます。



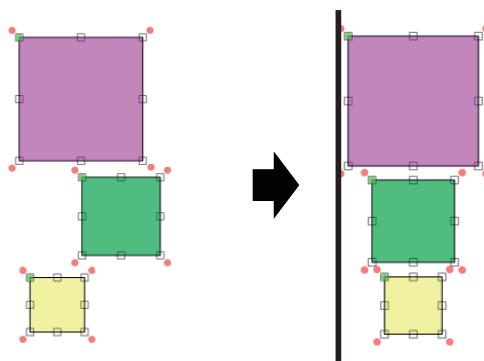
[右端で揃える]

選んでいるオブジェクトの一番右のオブジェクトに合わせて揃えます。



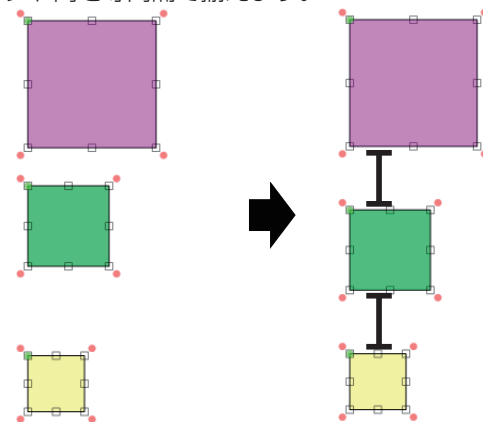
[左右中央で揃える]

選んでいるオブジェクトの左右方向に対して中心になる位置で揃えます。



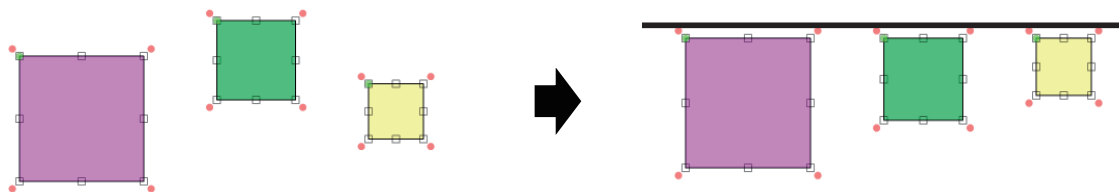
[上下に等間隔で揃える]

選んでいるオブジェクトの一番上と一番下のオブジェクト間を等間隔で揃えます。



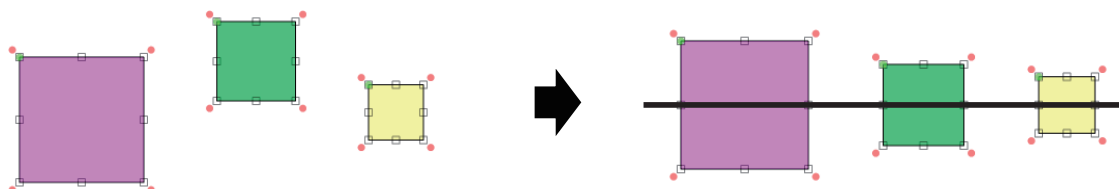
【上端で揃える】

選んでいるオブジェクトの一番上のオブジェクトに合わせて揃えます。



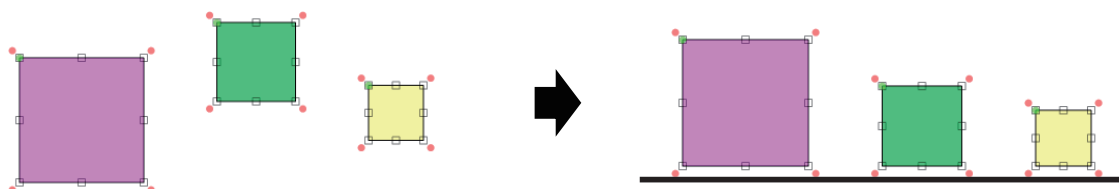
【上下中央で揃える】

選んでいるオブジェクトの上下方向に対して中心になる位置で揃えます。



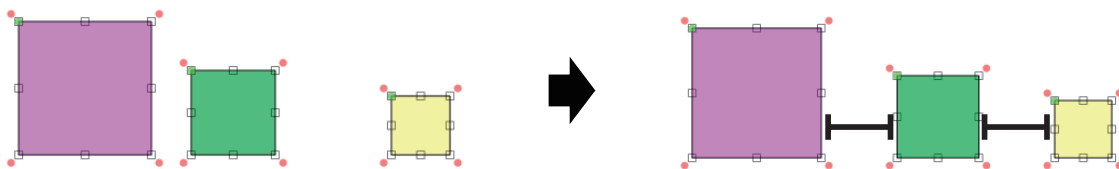
【下端で揃える】

選んでいるオブジェクトの一番下のオブジェクトに合わせて揃えます。



【左右に等間隔で揃える】

選んでいるオブジェクトの一番左と一番右のオブジェクト間を等間隔で揃えます。



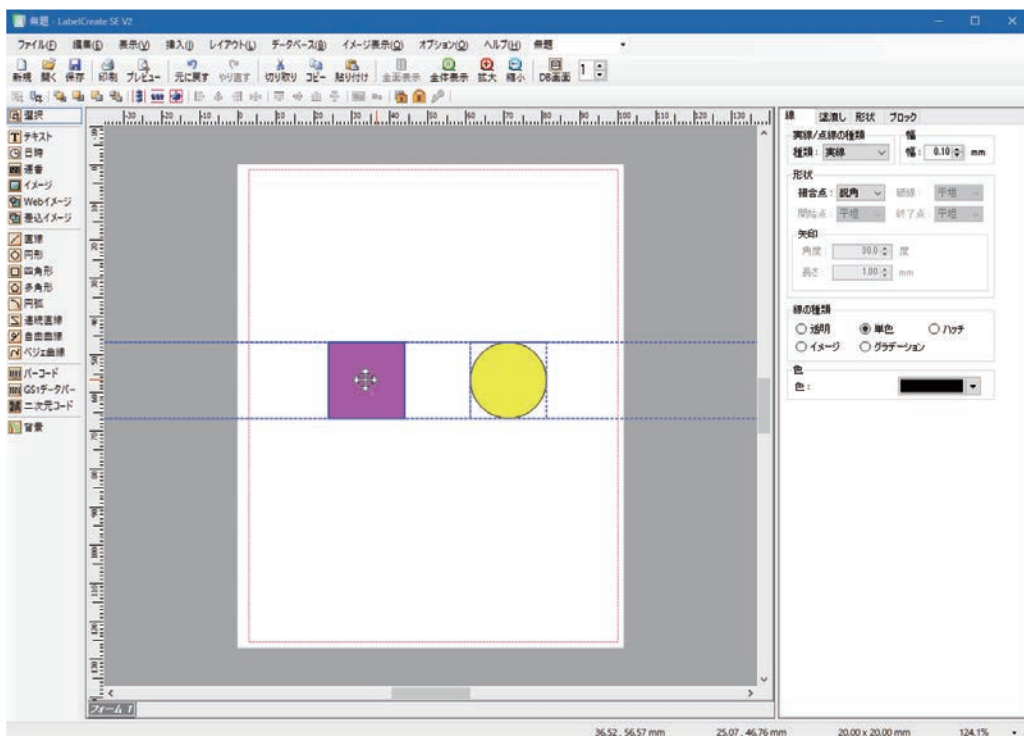
■ オブジェクト同士を吸着させて位置を揃える

1 [表示] メニューの [オブジェクト吸着] をクリックします。

吸着機能の有効（チェックマーク有） / 無効（チェックマーク無）が切り替わります。

2 操作中のオブジェクトを、位置を揃えたいオブジェクトに近づけて配置します。

操作中のオブジェクトを他のオブジェクトに近づけると、オブジェクト間の位置を揃えるガイドラインが表示されます。



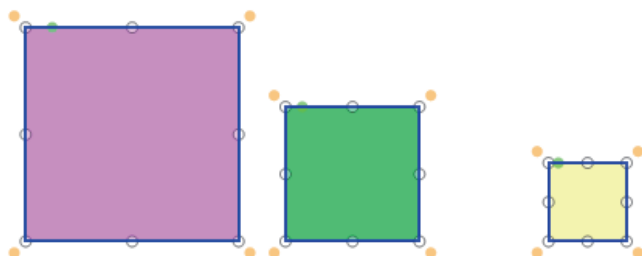
メモ

- 吸着の対象オブジェクトが複数存在する場合、8色で表示します。8色以上は同じ色の繰り返しになります。
- 吸着機能を一時的に無効にしたいときは、[Alt] キーを押しながらオブジェクトを移動します。

オブジェクトをグループ化する

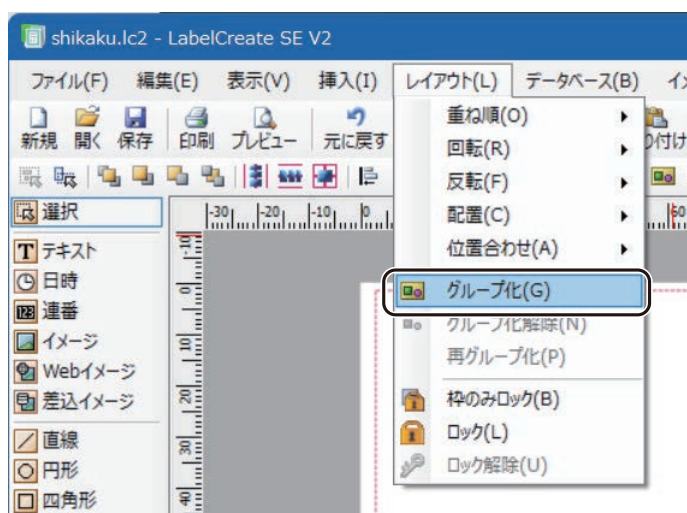
複数のオブジェクトをグループ化すると、グループ化したオブジェクトを1つのオブジェクトとして操作できるようになります。

1 複数のオブジェクトを選びます。

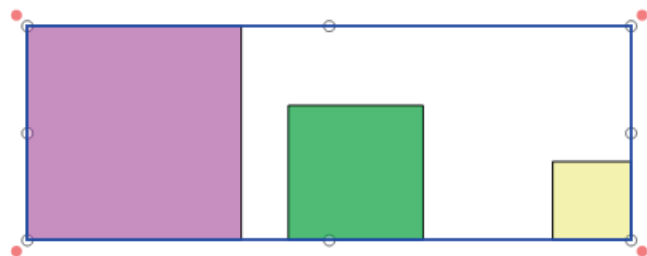


2 レイアウトツールバー をクリックします。

または、[レイアウト] メニューの [グループ化] を選びます。



複数のオブジェクトが1つのオブジェクトになります。





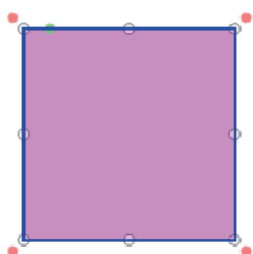
- [グループ化] は、次のいずれかでも行えます。
 - ・ 右クリックで表示されるメニューから [グループ化] を選ぶ。
 - ・ ショートカットキー：Ctrl + G
 - ・ オブジェクトリストで設定する。
- オブジェクトのグループ化を解除するときは、次のいずれかで行います。
 - ・ レイアウトツールバー  をクリックする。
 - ・ [レイアウト] メニューの [グループ化解除] を選択する。
 - ・ 右クリックで表示されるメニューから [グループ化解除] を選ぶ。
 - ・ ショートカットキー：Ctrl + Shift + G
 - ・ オブジェクトリストで設定する。
- グループ化を解除したオブジェクトを再度グループ化したいときは、対象のオブジェクトのひとつをクリックした状態で、[レイアウト] メニューの [再グループ化] を選びます。
- グループ化されたオブジェクトは、[ブロック] プロパティを設定できます。[ブロック] プロパティの設定については、「[オブジェクトの編集 \(P.227\)](#)」を参照してください。
また、グループ化を解除するとプロパティの設定は削除されます。
- グループ化するオブジェクトに印刷対象外を設定（[ブロック] プロパティ「印刷対象」にチェックマークなし）していた場合、オブジェクトのグループ化によってその設定は無効となります。（オブジェクトのグループ化を解除すると、印刷対象外の設定は有効になります。）
- オブジェクトに非表示を設定（[ブロック] プロパティ「表示対象」にチェックマークなし）していた場合、そのオブジェクトはグループ化できません。
- グループ化したオブジェクトに非表示を設定（[ブロック] プロパティ「表示対象」にチェックマークなし）しているときは、グループ化を解除できません。[ブロック] プロパティの「表示対象」にチェックマークをいれてからグループ化の解除を行ってください。

オブジェクトの枠のみをロックする

配置したオブジェクトを誤って移動させたり変形させたりしないように、オブジェクトの位置情報（位置、サイズなど）を保護（ロック）しておくことができます。

文字や画像の変更など、位置情報以外の編集は可能です。

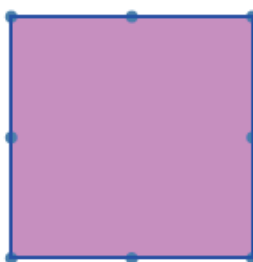
1 オブジェクトを選びます。



2 レイアウトツールバー をクリックします。

または［レイアウト］メニューの［枠のみロック］を選びます。

選択ハンドルが青色に変わり、オブジェクトの位置情報が固定されます。



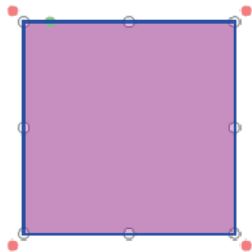
メモ

- [枠のみロック] は、右クリックで表示されるメニューから選んで設定することもできます。
- 設定を解除するときは、次のいずれかで行います。
 - ・レイアウトツールバー  をクリックする。
 - ・［レイアウト］メニューの［ロック解除］を選択する。
 - ・右クリックで表示されるメニューから［ロック解除］を選択する。
 - ・オブジェクトリストで設定する。
- [枠のみロック] を設定したオブジェクトは、下記の機能を利用できません。
 - ・枠サイズを文字サイズに合わせる（テキストオブジェクト、連番オブジェクト）
 - ・コードサイズに枠サイズを合わせる（バーコードオブジェクト、QRコードオブジェクト）
 - ・余白をなくす（イメージオブジェクト）
 - ・閉じた形状にする（ベジェ曲線オブジェクト）
 - ・ブロックタブ（印刷対象・表示対象を除く）

オブジェクトをロックする

配置したオブジェクトを誤って編集したり移動したりしないように保護（ロック）しておくことができます。

1 オブジェクトを選びます。



2 レイアウトツールバー をクリックします。

または［レイアウト］メニューの［ロック］を選びます。

選択ハンドルが灰色になり、オブジェクトはロックされます。



メモ

- [ロック] は、右クリックで表示されるメニューから選んで設定することもできます。
- 設定を解除するときは、次のいずれかで行います。
 - ・ レイアウトツールバー  をクリックする。
 - ・ [レイアウト] メニューの [ロック解除] を選択する。
 - ・ 右クリックで表示されるメニューから [ロック解除] を選択する。
 - ・ オブジェクトリストで設定する。

オブジェクトリストを使う

デザインエリア上に配置したすべてのオブジェクトを、オブジェクトリストで管理できます。
オブジェクトリストでは、以下を設定することができます。

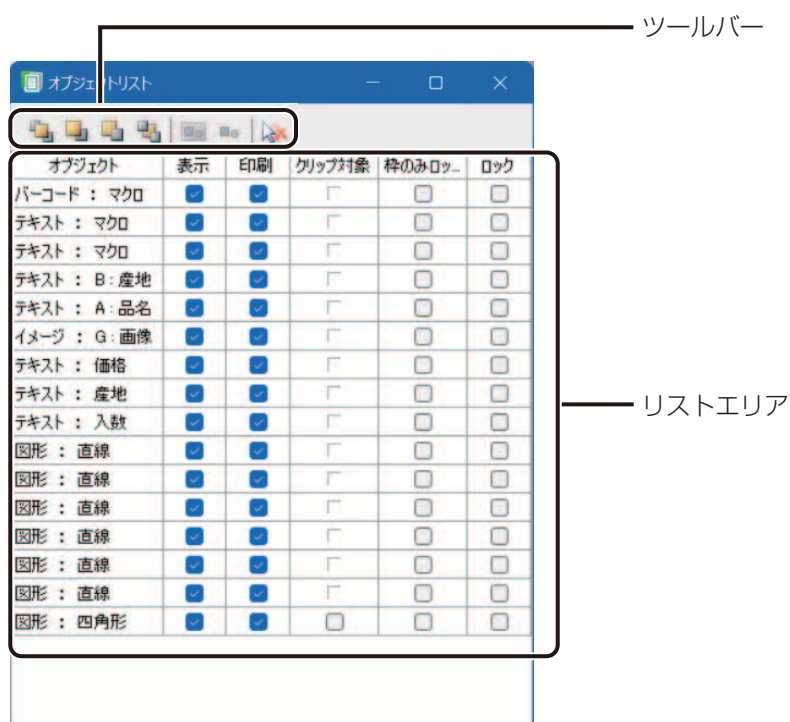
- ・重ね順
- ・グループ化
- ・削除
- ・表示対象の切り替え
- ・印刷対象の切り替え
- ・枠のみロック
- ・ロック

■ オブジェクトリストを表示する

1 [表示] メニューの [オブジェクトリスト] をクリックします。

[オブジェクトリスト] ダイアログボックスの表示 / 非表示が切り替わります。

■ オブジェクトリストを設定する



● ツールバー

【重ね順】 	選んだオブジェクトの重ね順を設定します。 左側から「最前面へ」、「前面へ」、「背面へ」、「最背面へ」となります。
【グループ化】 	選んだ複数のオブジェクトをグループ化します。
【グループ化解除】 	グループ化を解除します。
【削除】 	選んだオブジェクトを削除します。



メモ

- 「重ね順」、「グループ化」、「グループ化解除」、「削除」は、リストエリア上で右クリックして表示されるメニューから選んで設定することもできます。

● リストエリア

オブジェクトは作成した順番に前面に配置されます。(上に積み上がっていくイメージ)

各オブジェクトの「表示」、「印刷」、「クリップ対象」、「枠のみロック」、「ロック」の有効/無効は、チェックマークのオン/オフで切り替えることができます。

オブジェクト	表示	印刷	クリップ対象	枠のみロック	ロック
バーコード：マクロ	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト：マクロ	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト：マクロ	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト：B：産地	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト：A：品名	☒	☒	☐	☐	☐
イメージ：G：画像	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト：価格	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト：産地	☒	☒	☐	☐	☐
テキスト：入数	☒	☒	☐	☐	☐
図形：直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形：直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形：直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形：直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形：直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形：直線	☒	☒	☐	☐	☐
図形：四角形	☒	☒	☐	☐	☐

前面

背面



メモ

- 「表示」、「印刷」、「クリップ対象」については、「**【ブロック】プロパティを設定する (P.253)**」を参照してください。
- 「枠のみロック」については、「**オブジェクトの枠のみをロックする (P.147)**」を参照してください。
- 「ロック」については、「**オブジェクトをロックする (P.148)**」を参照してください。

「オブジェクト」には、次のようにオブジェクト名を表示します。

オブジェクト	データ種類	オブジェクト名の表示
テキスト バーコード GS1 データバー 二次元コード	固定	「オブジェクト名」:「入力データ」の文字列
	マクロ	「オブジェクト名」: マクロ
	差し込み	「オブジェクト名」:「差し込み列名」
日時	-	日時
連番	-	連番
イメージ（イメージ /Web イメージ / 差し込みイメージ）	固定	イメージ:「ファイル名」
	差し込み	イメージ:「差し込み列名」
図形（直線、円形、四角形、多角形、円弧、 連続直線、自由曲線、ベジエ曲線）	-	図形:「図形の種類」
グループ	-	グループ

オブジェクトの作成

各オブジェクトの作成のしかたについて説明します。作業に適したツールを選び、オブジェクトを作成していきます。



メモ

- バーコードオブジェクト、GS1 データバーおよび二次元コードの作成のしかたについては、「[バーコードの作成 \(P.185\)](#)」を参照してください。
- オブジェクトの操作方法については、「[オブジェクトの操作 \(P.132\)](#)」を参照してください。

文字を入力する

文字を入力するときは、[テキスト] ツールを使います。

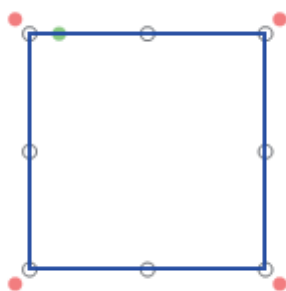
1 挿入ツールバー [テキスト] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [テキスト] をクリックします。



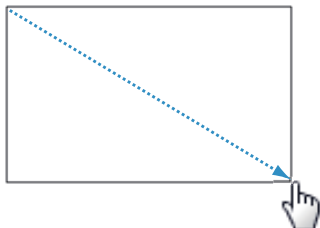
2 デザインエリア上をクリックします。

文字を入力する領域（テキストオブジェクト）が作成されます。(20 mm× 20 mm)



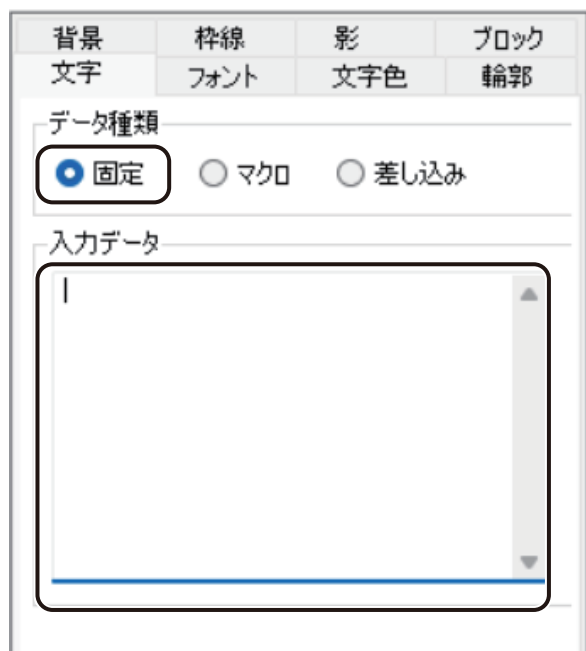
 メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、オブジェクトが配置されます。



3 [文字] プロパティを設定します。

- [入力データ] に入力した文字列で表示するとき
データ種類「固定」をクリックし、[入力データ] に任意の文字列を入力します。

 メモ

- テキストオブジェクトの領域を作ると、自動的に [入力データ] へカーソルが移動します。
- テキストオブジェクトをダブルクリックして直接、文字を入力することもできます。

● マクロ式から返される値を表示するとき

データ種類「マクロ」をクリックし、[マクロの編集] をクリックします。

背景 枠線 影 ブロック
文字 フォント 文字色 輪郭

データ種類

☐ 固定 ☒ マクロ ☐ 差し込み

入力データ

マクロの編集...

● データベースの値を表示するとき

データ種類「差し込み」をクリックし、[差し込み列] を選びます。

背景 枠線 影 ブロック
文字 フォント 文字色 輪郭

データ種類

☐ 固定 ☐ マクロ ☒ 差し込み

差し込み列

A:品名
B:産地
C:入数
D:単位
E:価格
F:コード
G:画像
H:部数



- [マクロ] の設定については、「マクロ形式に設定する (P314)」を参照してください。
- [差し込み] の設定については、「差し込み形式に設定する (P277)」を参照してください。

4

〔フォント〕プロパティ、〔文字色〕プロパティ、〔背景〕プロパティ、〔輪郭〕プロパティ、〔枠線〕プロパティ、〔影〕プロパティ、および〔ブロック〕プロパティを設定します。

 メモ

- 〔フォント〕プロパティについては、「〔フォント〕プロパティを設定する (P.229)」を参照してください。
- 〔文字色〕プロパティについては、「〔文字色〕プロパティを設定する (P.246)」を参照してください。
- 〔背景〕プロパティについては、「〔背景〕プロパティを設定する (P.259)」を参照してください。
- 〔輪郭〕プロパティについては、「〔輪郭〕プロパティを設定する (P.247)」を参照してください。
- 〔枠線〕プロパティについては、「〔枠線〕プロパティを設定する (P.249)」を参照してください。
- 〔影〕プロパティについては、「〔影〕プロパティを設定する (P.251)」を参照してください。
- 〔ブロック〕プロパティについては、「〔ブロック〕プロパティを設定する (P.253)」を参照してください。
- フォント種類やサイズなどの違う文字を入力したいときは、それぞれオブジェクトを作ります。1つのエリア内に複数のフォント種類やサイズなどは設定できません。

日時を入力する

日時を入力するときは、〔日時〕ツールを使います。

1

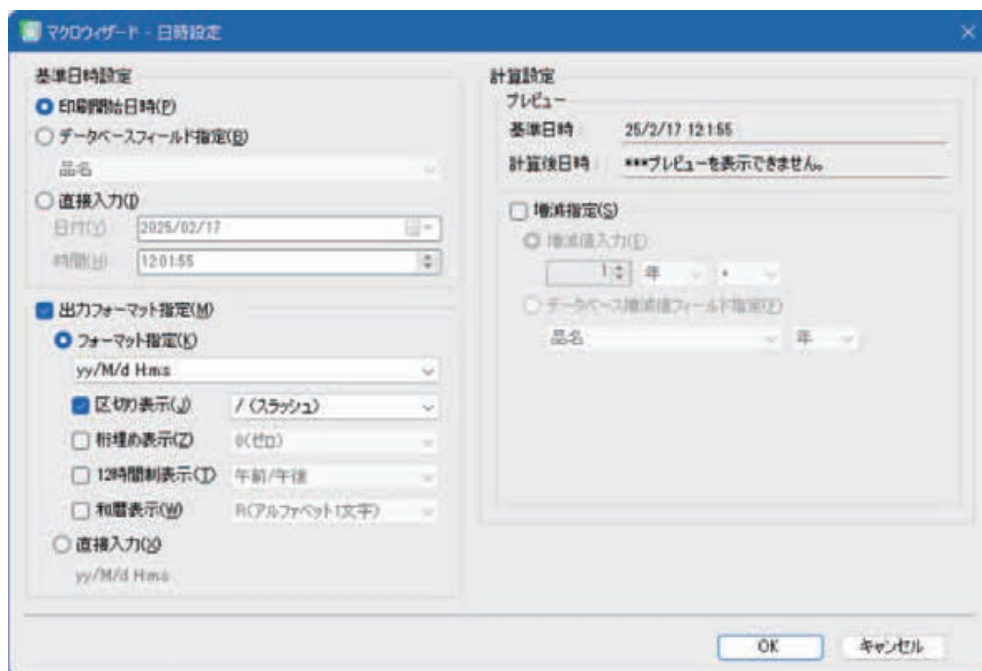
挿入ツールバー〔日時〕をクリックします。

または、〔挿入〕メニューの〔日時〕をクリックします。



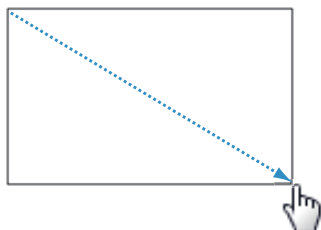
2 デザインエリア上をクリックします。

日時を入力する領域（日時オブジェクト）が作成（20 mm× 20 mm）されたあと、日時設定のマクロウィザードが起動します。



メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、オブジェクトが配置されます。



3 日時オブジェクトに表示するデータを指定します。

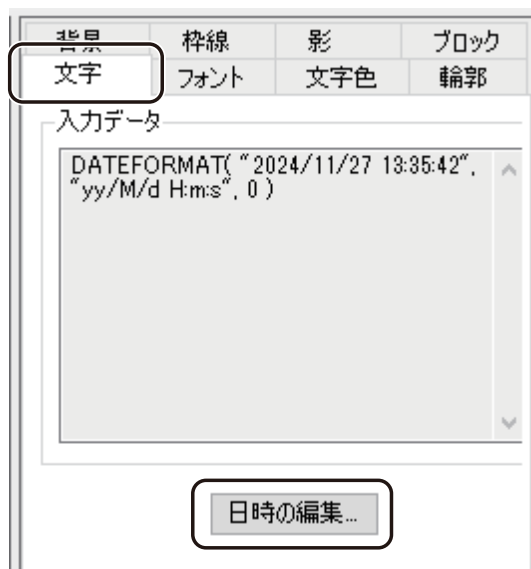
「日時計算マクロを設定する（P317）」の手順を参照して設定してください。

4

〔フォント〕プロパティ、〔文字色〕プロパティ、〔背景〕プロパティ、〔輪郭〕プロパティ、〔枠線〕プロパティ、〔影〕プロパティ、および〔ブロック〕プロパティを設定します。

 メモ

- 〔フォント〕プロパティについては、「〔フォント〕プロパティを設定する (P.229)」を参照してください。
- 〔文字色〕プロパティについては、「〔文字色〕プロパティを設定する (P.246)」を参照してください。
- 〔背景〕プロパティについては、「〔背景〕プロパティを設定する (P.259)」を参照してください。
- 〔輪郭〕プロパティについては、「〔輪郭〕プロパティを設定する (P.247)」を参照してください。
- 〔枠線〕プロパティについては、「〔枠線〕プロパティを設定する (P.249)」を参照してください。
- 〔影〕プロパティについては、「〔影〕プロパティを設定する (P.251)」を参照してください。
- 〔ブロック〕プロパティについては、「〔ブロック〕プロパティを設定する (P.253)」を参照してください。
- 日時設定を変更したい場合は、〔文字〕プロパティから〔日時の編集〕をクリックします。

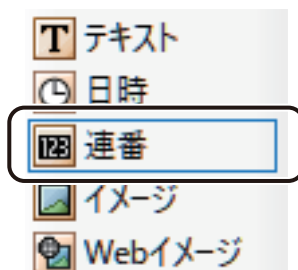


連番を入力する

連番とは、任意で指定した番号を、指定した増分で印刷ごとに自動で繰り上げて印刷する機能です。
連番機能をもったオブジェクトを作成ときは、「連番」ツールを使います。

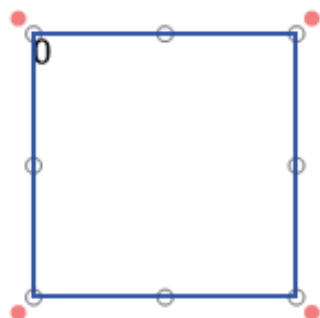
1 挿入ツールバー「連番」をクリックします。

または、「挿入」メニューの「連番」をクリックします。



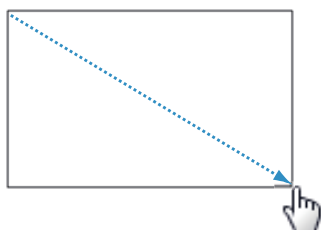
2 デザインエリア上をクリックします。

連番を入力する領域（連番オブジェクト）が作成されます。（20 mm× 20 mm）



メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、オブジェクトが配置されます。



3 [設定] プロパティの [初期値] と [増分] を入力します。

設定 フォント 文字色 輪郭 背景 枠線 ブロック

設定
初期値: 増分:

書式
桁数
整数部: 小数部:

進数
進数:

☐ 桁区切り ☐ ゼロ埋め

追加文字列
先頭:
末尾:

サンプル
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9

オプション
☐ レコードごとに値を初期化する



- 設定している内容は [サンプル] で確認できます。

4 書式を入力します。

設定 フォント 文字色 輪郭 背景 枠線 ブロック

設定
初期値: 0 増分: 1

書式
桁数
整数部: 3 小数部: 0
進数
進数: 10進数 2
☐ 桁区切り ☒ ゼロ埋め

追加文字列
先頭: 末尾:

サンプル
000
001
002
003
004
005
006
007
008
009

オプション
☐ レコードごとに値を初期化する

[整数部]

「ゼロ埋め」が設定されている場合に、0埋めする桁数を指定します。(1~12を指定)

[小数部]

小数部分の桁数を指定します。(0~3を指定)

[進数]

「10進数」、「16進数」、「N進数」(2~36を指定)、「アルファベット」から選びます。

[桁区切り]

桁区切りを「あり」/「なし」を指定します。「あり」を指定する場合は、チェックマークを入れます。

[ゼロ埋め]

指定した桁数に数値が満たないときに「0で埋めて表示する」/「0を表示しない」を指定します。「0で埋めて表示する」を指定する場合は、チェックマークを入れます。

5 追加文字列を入力します。

数値の先頭または末尾に任意の文字列を挿入できます。

設定 フォント 文字色 輪郭 背景 枠線 ブロック

設定
初期値: 0 増分: 1

書式
桁数
整数部: 3 小数部: 0

進数
進数: 10進数 2

☐ 桁区切り ☒ ゼロ埋め

追加文字列
先頭: A
末尾: P

サンプル
A000P
A001P
A002P
A003P
A004P
A005P
A006P
A007P
A008P
A009P

オプション
☒ レコードごとに値を初期化する

6 [オプション] を設定します。

レコードごとに連番の値を初期化するときには、チェックマークを入れます。チェックマークを入れないときは、レコードに関係なくカウントアップを行います。

オプション
☒ レコードごとに値を初期化する

7 [フォント] プロパティ、[文字色] プロパティ、[輪郭] プロパティ、[枠線] プロパティおよび[ブロック] プロパティを設定します。

メモ

- [フォント] プロパティについては、「[フォント] プロパティを設定する (P.229)」を参照してください。
- [文字色] プロパティについては、「[文字色] プロパティを設定する (P.246)」を参照してください。
- [輪郭] プロパティについては、「[輪郭] プロパティを設定する (P.247)」を参照してください。
- [枠線] プロパティについては、「[枠線] プロパティを設定する (P.249)」を参照してください。
- [ブロック] プロパティについては、「[ブロック] プロパティを設定する (P.253)」を参照してください。

画像を挿入する

画像を挿入するときは、[イメージ] ツール、[Web イメージ] ツールまたは[差込イメージ] ツールを使います。いずれも画像を挿入する領域（イメージオブジェクト）を作成できますが、目的に合わせて使い分けると便利です。

- ・ [イメージ] ツール
ご使用のパソコンやネットワーク上にある画像データを挿入する場合に使用します。
⇒「[イメージ] ツールを使う (P.162)」
- ・ [Web イメージ] ツール
ストックフォト（オンラインの写真素材集）の画像を挿入する場合に使用します。
⇒「[Web イメージ] ツールを使う (P.166)」
- ・ [差込イメージ] ツール
データベースに登録されている画像を挿入する場合に使用します。
⇒「[差込イメージ] ツールを使う (P.168)」

メモ

- 挿入できる画像ファイルの形式は次のとおりです。

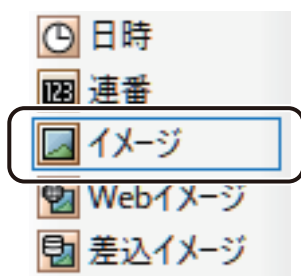
・ ビットマップファイル形式 (*.BMP)	・ GIF 形式 (*.GIF)	・ PDF 形式 (*.PDF)
・ PNG 形式 (*.PNG)	・ ICO 形式 (*.ICO)	・ PSD 形式 (*.PSD)
・ JPEG 形式 (*.JPG, *.JPEG)	・ WMF 形式 (*.WMF)	・ PCX 形式 (*.PCX)
・ TIFF 形式 (*.TIF, *.TIFF) *	・ EMF 形式 (*.EMF)	

* TIFF 形式は、無圧縮（インターリーブ）、LZW 圧縮のみ対応
- 多くの画像や大きな容量の画像を配置している場合、ご使用になられている環境によっては、操作性に影響が出ることがあります。そのような場合は、「動作優先モード」に切り替えることで、操作性を向上させることができます。詳しくは、「表示画質の設定 (P.49)」を参照してください。

■ [イメージ] ツールを使う

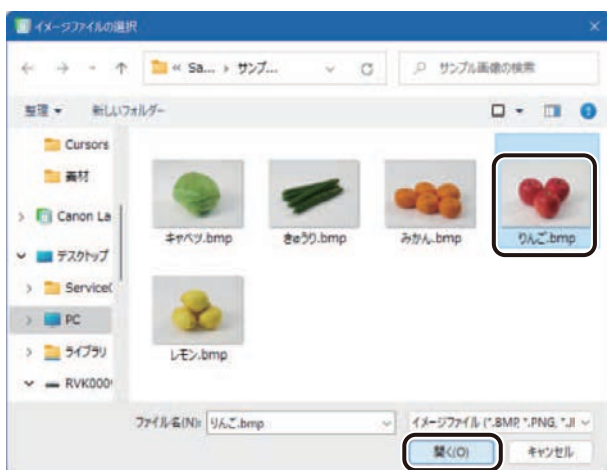
1 挿入ツールバー [イメージ] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [イメージ] をクリックします。

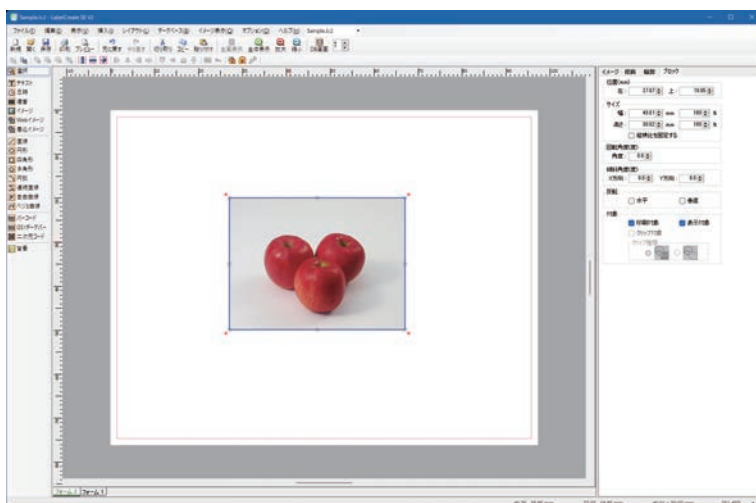


[イメージファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。

2 追加したい画像を選び、[開く] をクリックします。

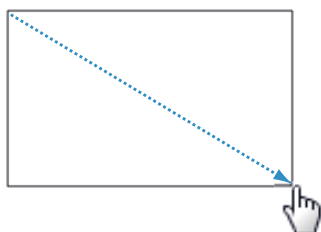


3 デザインエリア上をクリックします。



メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、画像が配置されます。



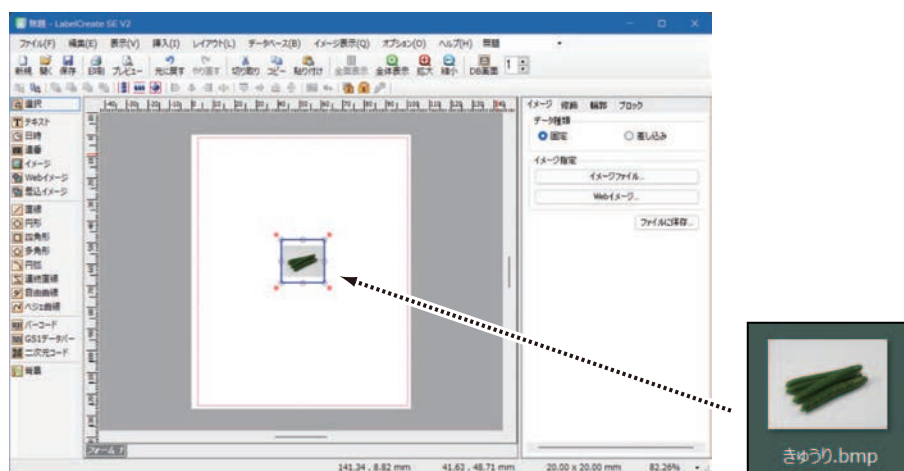
4

〔修飾〕プロパティ、〔輪郭〕プロパティ、および〔ブロック〕プロパティを設定します。

メモ

- 〔修飾〕プロパティについては、「〔修飾〕プロパティを設定する (P255)」を参照してください。
- 〔輪郭〕プロパティについては、「〔輪郭〕プロパティを設定する (P247)」を参照してください。
- 〔ブロック〕プロパティについては、「〔ブロック〕プロパティを設定する (P253)」を参照してください。
- 次の方法で画像を配置することもできます。

・画像ファイルをデザインエリア上にドラッグして配置する。



・他のアプリケーションソフトウェアでコピーしたオブジェクト（イメージ、イラスト、表、グラフ）をデザインエリア上で貼り付ける。



- デザインファイルに「固定」で挿入されている画像は、画像ファイルとして保存できます。ただし、Web イメージは保存できません。

① 対象の画像を選んで、[ファイルに保存] をクリックします。



名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

② [保存場所]、[ファイル名] および [ファイルの種類] を指定します。

指定できる画像ファイルの形式は次のとおりです。

- ・ビットマップファイル形式 (*.BMP)
- ・GIF 形式 (*.GIF)
- ・PNG 形式 (*.PNG)
- ・WMF 形式 (*.WMF)
- ・JPEG 形式 (*.JPG, *.JPEG)
- ・EMF 形式 (*.EMF)
- ・TIFF 形式 (*.TIF, *.TIFF) *
- ・PDF 形式 (*.PDF)

* TIFF 形式は、無圧縮 (インターリーブ)、LZW 圧縮のみ対応

③ [保存] をクリックします。

- CMYK カラーモードの画像 (TIFF、JPEG、PDF、または PSD 形式) を [ファイルに保存] を使って画像ファイルとして保存すると、元のデータと比べて色が変わる場合があります。

■ [Web イメージ] ツールを使う

1 挿入ツールバー [Web イメージ] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [Web イメージ] をクリックします。



[Web イメージ] ダイアログボックスが表示されます。

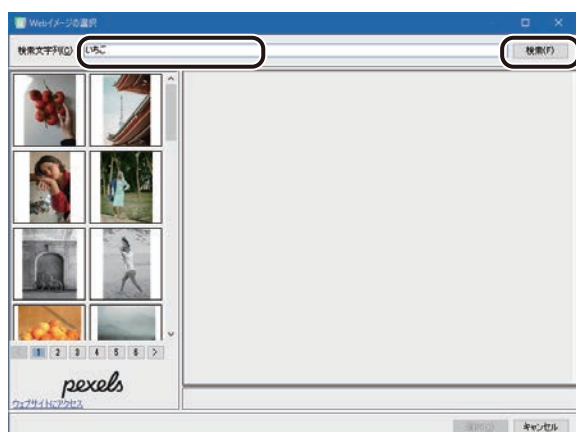
重要

- 本ソフトウェアで初めてストックフォトをご利用になる場合は、Pexels 社の利用規約とプライバシーポリシーが適用されることに同意する必要があります。利用規約とプライバシーポリシーを確認したら、[同意する] をクリックしてください。



- キヤノンファインテックニスカは、お客様が画像をご利用になったことにより生じたいかなる結果についても責任を負いません。

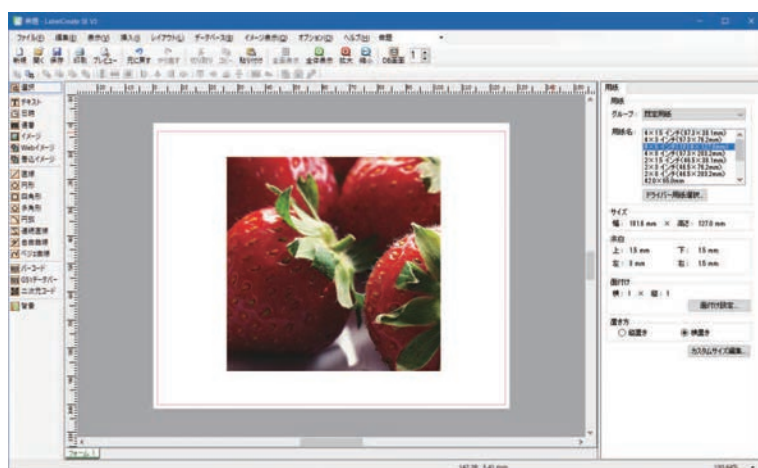
2 [検索文字列] に検索したい画像のキーワードを入力して [検索] をクリックします。



3 追加したい画像を選び、[選択] をクリックします。

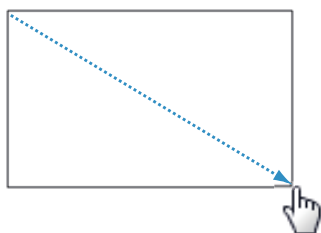


4 デザインエリア上をクリックします。



メモ

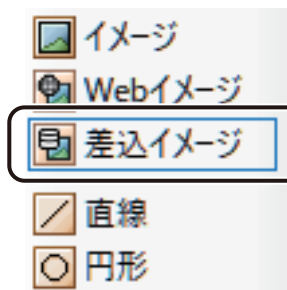
- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、画像が配置されます。



■ [差込イメージ] ツールを使う

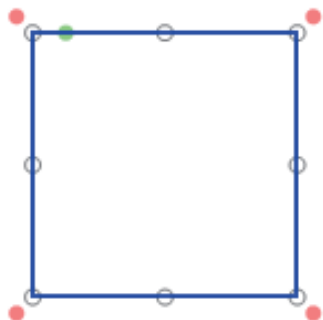
1 挿入ツールバー [差込イメージ] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [差込イメージ] をクリックします。



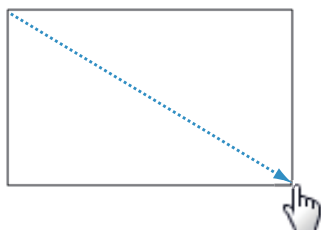
2 デザインエリア上をクリックします。

画像を挿入する領域（イメージオブジェクト）が作成されます。（20 mm× 20 mm）

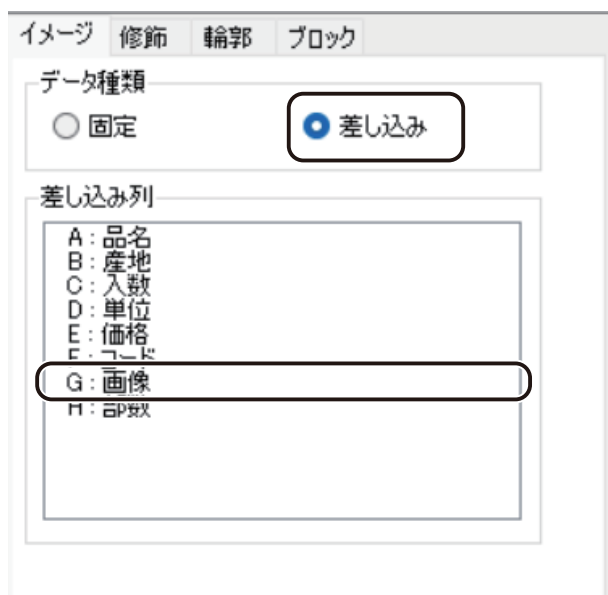


メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、画像が配置されます。



3 [イメージ] プロパティで [差し込み] を選び、差し込み画像を選びます。



メモ

- [差し込み] の設定については、「[差し込み形式に設定する \(P.277\)](#)」を参照してください。

4 [修飾] プロパティ、[輪郭] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

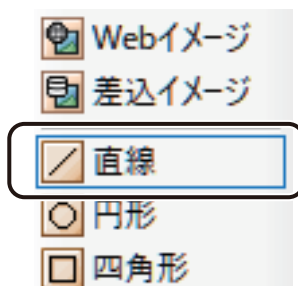
- [修飾] プロパティについては、「[\[修飾\] プロパティを設定する \(P.255\)](#)」を参照してください。
- [輪郭] プロパティについては、「[\[輪郭\] プロパティを設定する \(P.247\)](#)」を参照してください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.253\)](#)」を参照してください。

直線を描く

直線を描くときは、[直線] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [直線] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [直線] をクリックします。



2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。

このとき、用紙に対して垂直または水平な直線を引くときは、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグします。



終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、直線（直線オブジェクト）が表示されます。



3 [線] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

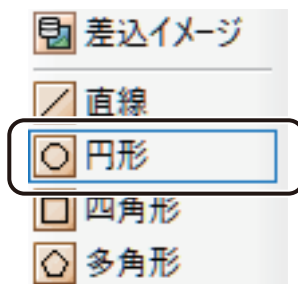
- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P.257\)](#)」を参照してください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.253\)](#)」を参照してください。

円を描く

楕円や正円を描くときは、[円形] ツールを使います。

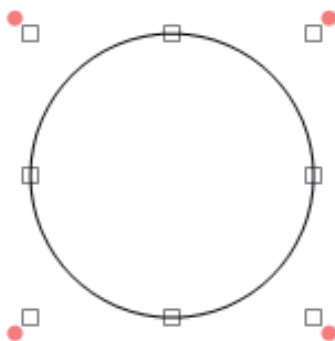
1 挿入ツールバー [円形] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [円形] をクリックします。



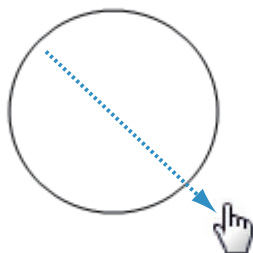
2 デザインエリア上をクリックします。

20 mm × 20 mm の円の図形（円形オブジェクト）が表示されます。



メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、始点をクリックしたあとドラッグし、終点の位置でマウスの左ボタンを外します。このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、正円を描くことができます。



3 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P.257\)](#)」を参照してください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P.234\)](#)」を参照してください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.253\)](#)」を参照してください。

四角形を描く

長方形や正方形を描くときは、[四角形] ツールを使います。

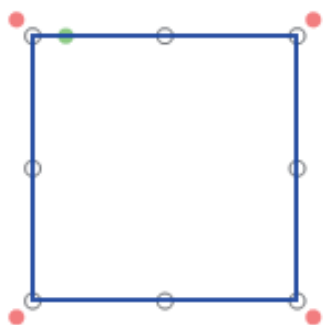
1 挿入ツールバー [四角形] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [四角形] をクリックします。



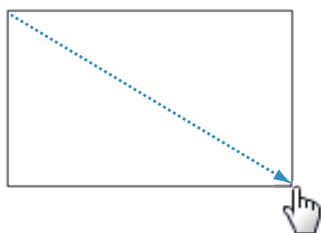
2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。

20 mm × 20 mm の四角形の図形（四角形オブジェクト）が表示されます。



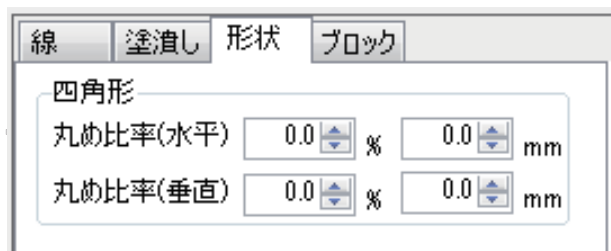
メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、画像が配置されます。



3 角丸の四角形を作成するときは、[形状] プロパティを設定します。

[丸め比率 (水平)] および [丸め比率 (垂直)] を入力します。数値が大きいほど、丸まり方は大きくなります。



[丸め比率 (水平)]

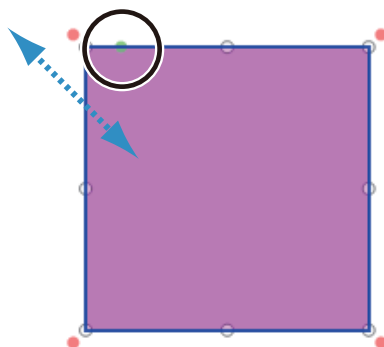
横方向の丸みを付ける位置を、% (パーセント) または、mm (ミリ) で指定します。

[丸め比率 (垂直)]

縦方向の丸みを付ける位置を、% (パーセント) または、mm (ミリ) で指定します。

メモ

- 角丸の四角形は、角丸調整用の変形ハンドル (■) をオブジェクトの中央に向かってドラッグして作成することもできます。このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、四隅が均等な角丸になります。



4 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P.257\)](#)」を参照してください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P.234\)](#)」を参照してください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.253\)](#)」を参照してください。

多角形を描く

三角形や五角形などの多角形を描くときは、[多角形] ツールを使います。作成した多角形のプロパティを設定すると、星形を作成することもできます。

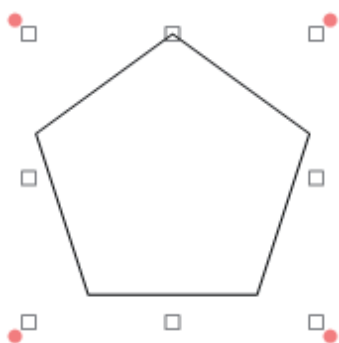
1 挿入ツールバー [多角形] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [多角形] をクリックします。



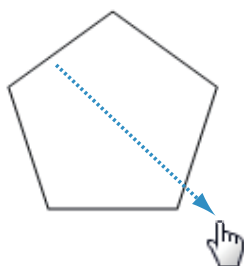
2 デザインエリア上をクリックします。

20 mm × 20 mm の五角形（多角形オブジェクト）が表示されます。



メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、始点をクリックしたあとドラッグし、終点の位置でマウスの左ボタンを外します。このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、正多角形を描くことができます。



3 [形状] プロパティを設定します。

- 多角形を作成するとき

「多角形」をクリックし、[角数] を入力します。

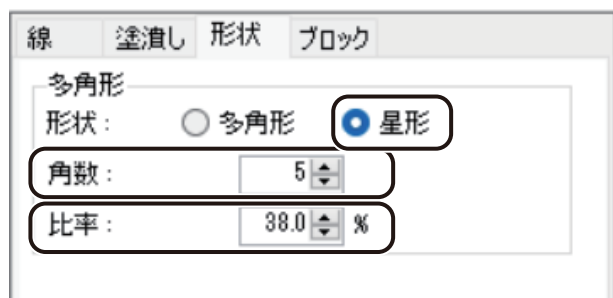


[角数]

角の数を入力します。(入力範囲：3 ～ 60)

- 星形を作成するとき

「星形」をクリックし、[角数] および [比率] を入力します。



[角数]

角の数を入力します。(入力範囲：3 ～ 60)

[比率]

比率を入力します。比率が大きいほど、角の角度は大きくなります。(入力範囲：0.0 ～ 100.0 %)

4 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。



- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P.257\)](#)」を参照してください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P.234\)](#)」を参照してください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.253\)](#)」を参照してください。

円弧を描く

円弧を描くときは、[円弧] ツールを使います。作成した円弧のプロパティを設定すると、扇形や弓形を作成することもできます。

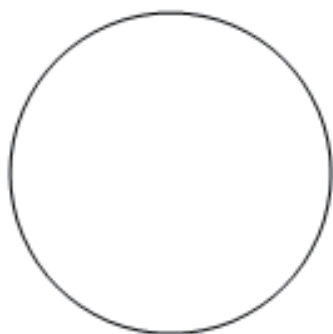
1 挿入ツールバー [円弧] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [円弧] をクリックします。



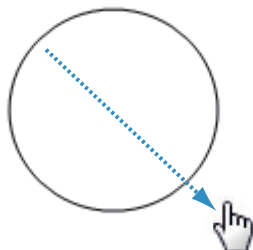
2 デザインエリア上をクリックします。

20 mm × 20 mm の円が表示されます。



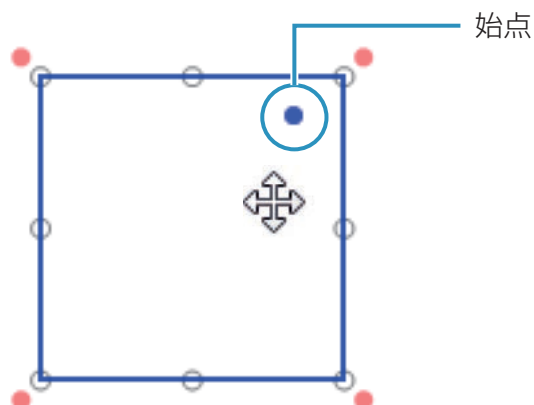
メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、始点をクリックしたあとドラッグし、終点の位置でマウスの左ボタンを外します。このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、正円を描くことができます。

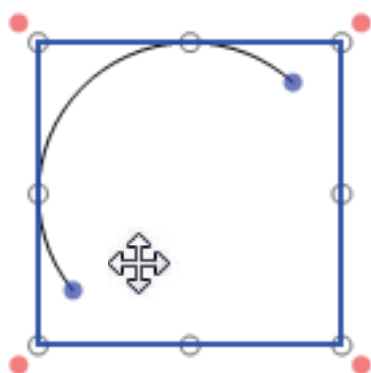


3 円弧の始点にしたい位置をポインターでクリックします。

円弧オブジェクトの始点（●）が表示されます。



4 円弧の始点をドラッグすると、終点が表示されます。円弧の始点または終点をドラッグして、任意の形にします。



5 [形状] プロパティを設定します。

[形状] を「円弧」、「扇形」、または「弓形」から選びます。



[開始角度]

開始角度を設定します。

[終了角度]

終了角度を設定します。

[回転方向を時計回りにする]

チェックマークの有無で、円弧の向きを切り替えることができます。

6 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。



- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P257\)](#)」を参照してください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P234\)](#)」を参照してください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P253\)](#)」を参照してください。

連続直線を描く

任意の直線で形成された図形を描くときは、[連続直線] ツールを使います。

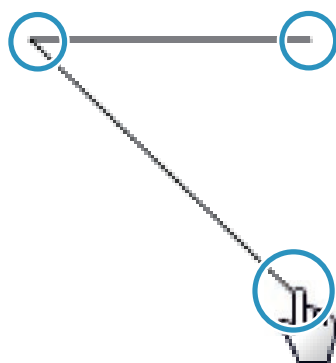
1 挿入ツールバー [連続直線] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [連続直線] をクリックします。



2 デザインエリア上で頂点となる位置をクリックする操作を繰り返し、連続した線を描きます。

このとき、キーボードの [Shift] キーを押すと、水平方向または垂直方向にまっすぐな線を描くことができます。

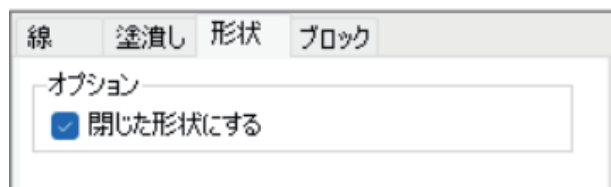


終点をダブルクリックすると、デザインエリアにオブジェクト（連続直線オブジェクト）が作成されます。



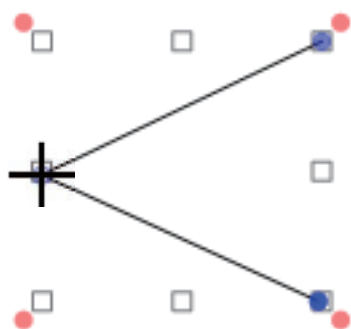
メモ

- オブジェクトの作成中に、キーボードの「スペース」キーを押すと、始点と終点を繋いだ図形を描くことができます。繋いだ点を解除するときは再度「スペース」キーを押します。
また、オブジェクトを作成したあと（終点をダブルクリックしたあと）に繋いだ点を解除したいときは、「形状」プロパティの「閉じた形状にする」のチェックマークを外します。



3 必要に応じて、オブジェクトを微調整します。

オブジェクトの頂点（●）をドラッグして形状を調整します。



4 「線」プロパティ、「塗潰し」プロパティ、および「ブロック」プロパティを設定します。



メモ

- 「線」プロパティについては、「[「線」プロパティを設定する（P.257）](#)」を参照してください。
- 「塗潰し」プロパティについては、「[「塗潰し」プロパティを設定する（P.234）](#)」を参照してください。
- 「ブロック」プロパティについては、「[「ブロック」プロパティを設定する（P.253）](#)」を参照してください。

自由曲線を描く

任意の曲線を描くときは、[自由曲線] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [自由曲線] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [自由曲線] をクリックします。



2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグしながら線を描きます。

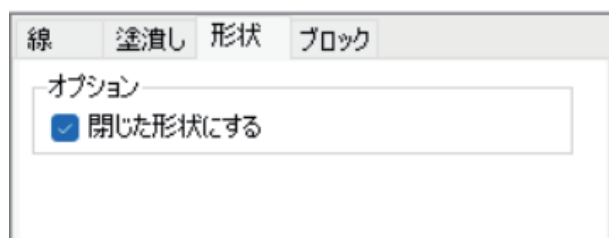


終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、デザインエリアにオブジェクト(自由曲線オブジェクト)が作成されます。

メモ

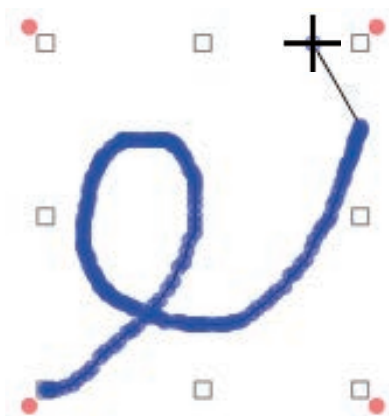
- オブジェクトの作成中に、キーボードの [スペース] キーを押すと、始点と終点を繋いだ図形を描くことができます。繋いだ点を解除するときは再度 [スペース] キーを押します。

また、オブジェクトを作成したあと（終点の位置でマウスの左ボタンを外したあと）に繋いだ点を解除したいときは、[形状] プロパティの [閉じた形状にする] のチェックマークを外します。



3 必要に応じて、オブジェクトを微調整します。

オブジェクトの頂点（●）をドラッグして形状を調整します。



4 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P.257\)](#)」を参照してください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P.234\)](#)」を参照してください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.253\)](#)」を参照してください。

ベジェ曲線を描く

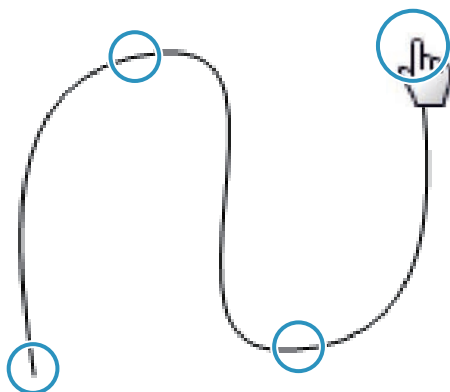
滑らかな曲線で図形を描くときは、[ベジェ曲線] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [ベジェ曲線] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [ベジェ曲線] をクリックします。



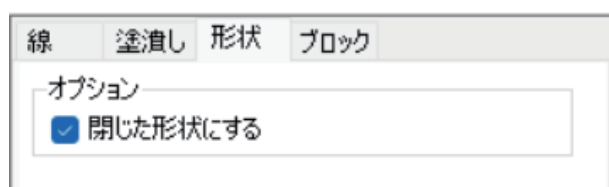
2 デザインエリア上で制御点となる位置をクリックする操作を繰り返し、連続した線を描きます。



終点をダブルクリックすると、デザインエリアにオブジェクト（ベジェ曲線オブジェクト）が作成されます。

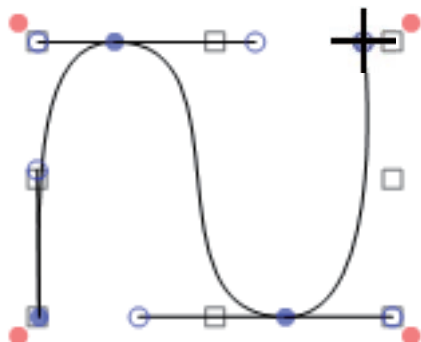
メモ

- オブジェクトの作成中に、キーボードの [スペース] キーを押すと、始点と終点を繋いだ図形を描くことができます。繋いだ点を解除するときは再度 [スペース] キーを押します。
また、オブジェクトを作成したあと（終点をダブルクリックしたあと）に繋いだ点を解除したいときは、[形状] プロパティの [閉じた形状にする] のチェックマークを外します。



3 必要に応じて、オブジェクトを微調整します。

オブジェクトの制御点（●）をドラッグして形状を調整します。また、白抜き制御点（○）をドラッグすると、曲線の接線の長さや方向を変更できます。接線の長さや方向を変えることで、曲線の形状を調整することができます。



4 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。



- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P257\)](#)」を参照してください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P234\)](#)」を参照してください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P253\)](#)」を参照してください。

背景を設定する

用紙の背景に色を付けたり、画像を配置したりすることができます。
背景を設定するときは、[背景] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [背景] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [背景] をクリックします。



2 [背景] プロパティを設定します。



- [背景] プロパティについては、[「\[背景\] プロパティを設定する \(P.259\)」](#)を参照してください。

3 [ブロック] プロパティを設定します。

初期設定はすべてチェックマークが入った状態になっています。



[編集対象]

背景の編集の可 / 不可を切り替えます。

[印刷対象]

背景を印刷する / しないを切り替えます。

[表示対象]

背景の表示 / 非表示を切り替えます。

バーコードの作成

バーコードオブジェクト、GS1 データバーおよび二次元コードの作成のしかたについて説明します。



メモ

- オブジェクトの操作方法については、「[オブジェクトの操作 \(P.132\)](#)」を参照してください。

バーコードを作成する

バーコードを作成するときは、「バーコード」ツールを使います。

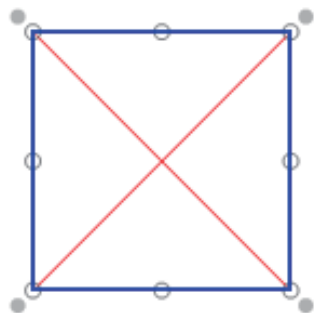
1 挿入ツールバー「バーコード」をクリックします。

または、「挿入」メニューの「バーコード」をクリックします。



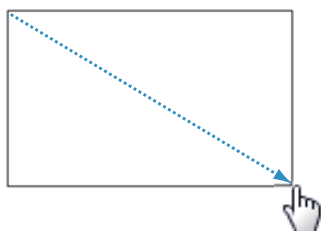
2 デザインエリア上をクリックします。

バーコードを入力する領域（バーコードオブジェクト）が作成されます。（20 mm × 20 mm）



メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、オブジェクトが配置されます。



3 [バーコード] プロパティで [データ種類] を選びます。

- [入力データ] に入力したコードで表示するとき
データ種類「固定」をクリックします。

The screenshot shows the 'Barcode' settings window with tabs for 'Barcode', 'Settings', and 'Block'. Under the 'Settings' tab, the 'Data Type' section has three radio buttons: 'Fixed' (selected), 'Macro', and 'Difference'. Below these is a checkbox for 'Application Identifier Input Assist'. The 'Code Type' field is set to 'JAN-13'. The 'Input Data' field is empty.

- マクロ式から返される値を表示するとき
データ種類「マクロ」をクリックします。

The screenshot shows the 'Barcode' settings window with the 'Macro' radio button selected under 'Data Type'. The 'Code Type' field is set to 'JAN-13'. The 'Input Data' field is empty. Below the 'Input Data' field is a 'Macro Formula' section with a text area. At the bottom right, there is a button labeled 'Edit Macro...'.

- データベースの値を表示するとき

データ種類「差し込み」をクリックします。

- 「アプリケーション識別子入力アシスト」を使って入力するとき

「アプリケーション識別子入力アシスト」にチェックマークを入れます。

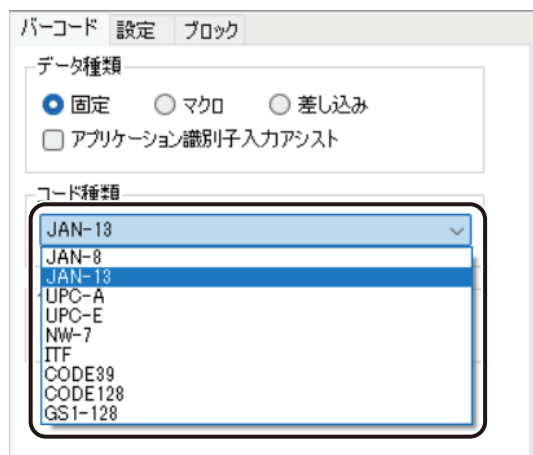
「アプリケーション識別子入力アシスト」を使ったコードの入力については、「[アプリケーション識別子（AI）入力アシスト機能を使ってオブジェクトを作成する（P.213）](#)」を参照してください。



- 「アプリケーション識別子入力アシスト」にチェックマークを入れると、コード種類「GS1-128」に設定が固定されます。

4 [コード種類] を選びます。

バーコードは、次の9種類を作成できます。



[コード種類]

- ・ JAN-8
- ・ JAN-13
- ・ UPC-A
- ・ UPC-E
- ・ NW-7
- ・ ITF
- ・ CODE39
- ・ CODE128
- ・ GS1-128

5 次のように操作します。

- データ種類「固定」のとき
[入力データ] にコードを入力します。
- データ種類「マクロ」のとき
[マクロの編集] をクリックします。
[マクロ] の設定については、「[マクロ形式に設定する \(P.314\)](#)」を参照してください。
- データ種類「差し込み」のとき
[差し込み列] を選びます。
[差し込み] の設定については、「[差し込み形式に設定する \(P.277\)](#)」を参照してください。



- バーコードの入力桁数は次のようになっています。

コード種類	桁数	
	チェックディジット有り	チェックディジット無し
JAN-8	7 桁	8 桁
JAN-13	12 桁	13 桁
UPC-A	11 桁	12 桁
UPC-E	6 桁	7 桁
NW-7	制限無し	制限無し
ITF	制限無し	制限無し
CODE39	制限無し	制限無し
CODE128 *	最大 128 桁	
GS1-128 *	最大 128 桁	

* コード文字にはチェックディジットデータを表示しない

- ・初期値は「チェックディジット有り」となっています。
- ・「チェックディジット無し」のときは、次のことに注意して入力してください。

「JAN-8、JAN-13、UPC-A、UPC-E」のとき

「モジュラス 10 ウェイト 3」で算出した値をチェックディジットとして入力してください。(JAN-8:8 桁目、JAN-13:13 桁目、UPC-A:12 桁目、UPC-E:7 桁目) 入力が正しくない場合、バーコードは表示されません。

「NW-7、ITF、CODE39、CODE128、GS1-128」のとき

入力されたデータのままでバーコードを作成します。入力データのチェックは行いません。

- [入力データ] は、すべて半角で入力してください。全角で入力した文字は認識されません。
- 「NW-7」の場合、入力データに「A」、「B」、「C」、「D」は入力できません。入力が正しくない場合、バーコードは表示されません。
- 「ITF」の場合、奇数桁でコードを入力したときは、先頭に「0」が入り、偶数桁に自動調整します。
- 「GS1-128」の場合、半角括弧“(”と”)”をコードとして入力することはできません。(アプリケーション識別子を入力するため。)
- 「GS1-128」の場合、スタートキャラクタ直後の[FNC1]は自動的に付加されます。
- 「CODE128」および「GS1-128」の制御コードは次の書式で入力してください。(すべて半角入力。)

ASCII コード	書式	ASCII コード	書式	ASCII コード	書式	固有制御コード	書式
0	[NUL]	13	[CR]	25	[EM]	FNC1	[FNC1]
1	[SOH]	14	[SO]	26	[SUB]	FNC2	[FNC2]
2	[STX]	15	[SI]	27	[ESC]	FNC3	[FNC3]
3	[ETX]	16	[DLE]	28	[FS]	FNC4	[FNC4]
4	[EOT]	17	[DC1]	29	[GS]	CODE A	[CODEA]
5	[ENQ]	18	[DC2]	30	[RS]	CODE B	[CODEB]
6	[ACK]	19	[DC3]	31	[US]	CODE C	[CODEC]
7	[BEL]	20	[DC4]	32	[SP]	START(CODE A)	[STARTA]
8	[BS]	21	[NAK]	127	[DEL]	START(CODE B)	[STARTB]
9	[HT]	22	[SYN]			START(CODE C)	[STARTC]
10	[LF]	23	[ETB]			SHIFT	[SHIFT]
11	[VT]	24	[CAN]				
12	[NP]						

- 「CODE128」および「GS1-128」のとき、コードとして “[”を入力したいときは、“ [[”と入力すると “[”一文字と判定されます。この場合は、以降に “] ” があるときでも通常の文字として処理されます。

例) “[41]” → “[41]” の文字列として認識

6 [設定] タブをクリックし、[バー高さ] を入力します。

ミリ (mm) 単位で入力します。(入力範囲：1.00 mm ～ 100.00 mm)



7 [バー幅] を入力します。

通常は、[自動設定] でバー幅の設定を行います。「黒1値」を入力すると、その他のバー幅を自動で計算します。入力は、ドット (dot) 単位、またはミリ (mm) 単位のいずれかで行います。



入力範囲は次のようになっています。

- ・ドット (dot) 単位で入力するとき
 - 1 dot ～ 150 dot (解像度 300 dpi のとき)
 - 1 dot ～ 300 dot (解像度 600 dpi のとき)
 - 1 dot ～ 600 dot (解像度 1200 dpi のとき)
- ・ミリ (mm) 単位で入力するとき
 - 0.08 mm ～ 12.70 mm (解像度 600 dpi のとき)
 - 0.04 mm ～ 12.70 mm (解像度 600 dpi のとき)
 - 0.02 mm ～ 12.70 mm (解像度 1200 dpi のとき)

メモ

- キヤノン カラーラベルプリンター LX-P5500 をご使用の場合、プリンタードライバーの「エコノミー印刷」がオンに設定されているときは、[バー幅（エコノミー）] と表示されます。
- [解像度] は、印刷設定で指定されているプリンターから解像度を取得して表示します。
- 印刷設定で指定されているプリンターがキヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 の場合、[自動設定] に設定すると、プリンタードライバーから取得した解像度に合わせて補正を行います。なお、上記のプリンター以外の場合、補正は行われません。補正する場合は[手動設定] にて設定してください。
- キヤノン カラーラベルプリンター LX-P5500 をご使用の場合、プリンタードライバーの「エコノミー印刷」がオンに設定されているときは自動補正を行いませんが、入力値に 4dot (1200dpi の場合) または、2dot (600dpi の場合) を加算してバーコードを生成します。
- [自動設定] から [手動設定] に切り替えてバー幅の調整を行うときは次のように操作してください。

① [手動設定へ反映] をクリックします。

バー幅の設定が [手動設定] に切り替わります。

② バー幅をドット (dot) 単位で入力します。

- ・コード種類「JAN-8」「JAN-13」「UPC-A」「UPC-E」
- ・コード種類「ITF」「NW-7」「CODE39」のとき
- 「CODE128」「GS1-128」のとき

入力範囲は、次のようになっています。

- 1 dot ~ 150 dot (解像度 300 dpi のとき)
- 1 dot ~ 300 dot (解像度 600 dpi のとき)
- 1 dot ~ 600 dot (解像度 1200 dpi のとき)

- [手動設定へ反映] をクリックせずに手動設定に切り替えた場合は、自動設定で入力した内容が反映されません。

8 [オプション] を設定します。

- コード種類「JAN-8」「JAN-13」「UPC-A」「UPC-E」「CODE39」のとき
- コード種類「CODE128」「GS1-128」のとき

オプション

☒ チェックディジット有り ☐ チェックディジット表示

☒ 左右マージン有り ☒ テキスト表示

フォント

フォント名: MS UI Gothic

サイズ: 10 pt

文字の位置: 0.29 mm

文字配置

☐ 左揃え

☒ 中央揃え

☐ 右揃え

☐ 均等割付

☐ コードサイズに枠サイズを合わせる

オプション

☒ チェックディジット有り ☐ チェックディジット表示

☒ 左右マージン有り ☒ テキスト表示

フォント

フォント名: MS UI Gothic

サイズ: 10 pt

文字の位置: 0.29 mm

文字配置

☐ 左揃え

☒ 中央揃え

☐ 右揃え

☐ 均等割付

☐ コードサイズに枠サイズを合わせる

コード生成

☒ 自動

☐ 手動

☐ スタートキャラクタ CODE A

- コード種類「NW-7」のとき

オプション

☒ チェックディジット有り ☒ チェックディジット表示

☒ 左右マージン有り ☒ テキスト表示

フォント

フォント名: MS UI Gothic

サイズ: 10 pt

文字の位置: 0.29 mm

文字配置

☐ 左揃え

☒ 中央揃え

☐ 右揃え

☐ 均等割付

☐ コードサイズに枠サイズを合わせる

スタート/エンドキャラ

スタートキャラ A

エンドキャラ A

- コード種類「ITF」のとき

オプション

☒ チェックディジット有り ☒ チェックディジット表示

☒ 左右マージン有り ☒ テキスト表示

フォント

フォント名: MS UI Gothic

サイズ: 10 pt

文字の位置: 0.29 mm

文字配置

☐ 左揃え

☒ 中央揃え

☐ 右揃え

☐ 均等割付

☐ コードサイズに枠サイズを合わせる

ITF

☐ 物流用枠追加

[チェックディジット有り]

チェックディジットを自動で付加させないときは、チェックマークを外します。

[チェックディジット表示]

チェックディジットの表示 / 非表示を切り替えます。

ただし、コード種類が「CODE128」「GS1-128」の場合は常に非表示（チェックマークなし）、「JAN-8」「JAN-13」の場合は常に表示（チェックマークあり）となります。

[左右マージン有り]

バーコードの左右にマージン（余白）を設定しないときは、チェックマークを外します。

[テキスト表示]

コード文字を表示しないときは、チェックマークを外します。

[フォント]

コード文字のフォント種類とサイズを指定します。

[文字の位置]

バーコードとコード文字の間の余白量を設定します。

[文字の配置]

コード文字の配置を設定します。

ただし、コード種類が「JAN-8」「JAN-13」「UPC-A」「UPC-E」の場合は設定できません。

[コードサイズに枠サイズを合わせる]

バーコードの大きさに合わせて枠サイズを自動で設定します。

[コード生成]

スタートキャラクタを指定します。コード種類「CODE128」「GS1-128」のときのみ表示されます。

[自動]

入力データを解析して、最適なスタートキャラクタを設定します。

[手動]

入力データに文字列でスタートキャラクタを設定します。

[スタートキャラクタ]

「CODE A」「CODE B」「CODE C」から選びます。

[スタート/エンドキャラ]

スタートキャラクタとエンドキャラクタを指定します。A～Dを選択できます。コード種類「NW-7」のときのみ表示されます。

[ITF]

物流用枠の有無を設定します。コード種類「ITF」のときのみ表示されます。

9 [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.253\)](#)」を参照してください。
- 印刷プリンターの変更またはプリンタードライバーの印刷設定（解像度、用紙種類、「エコノミー印刷」のオン/オフの設定（LX-P5500 をご使用の場合のみ））を変更したときは、配置済みのバーコードを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成したバーコードでも大きさが異なります。
- 印刷したラベルのバーコードが読み取りにくいときは、「バーコード設定」を行ってください。バーコード設定については、「[用紙に合わせてバーコードを調整する \(P.367\)](#)」を参照してください。
また、現在のバーコード設定の情報は、[設定] プロパティに表示されます。

GS1 データバーを作成する

GS1 データバーを作成するときは、[GS1 データバー] ツールを使います。

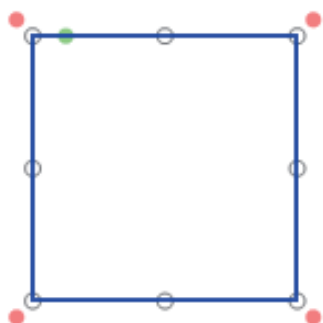
1 挿入ツールバー [GS1 データバー] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [GS1 データバー] をクリックします。



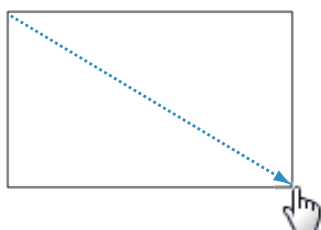
2 デザインエリア上をクリックします。

GS1 データバーを入力する領域 (GS1 データバーオブジェクト) が作成されます。(20 mm× 20 mm)



メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、オブジェクトが配置されます。



3 [GS1 データバー] プロパティで [データ種類] を選びます。

- [入力データ] に入力したコードで表示するとき
データ種類「固定」をクリックします。

GS1データバー 設定 ブロック

データ種類

☒ 固定 ☐ マクロ ☐ 差し込み

☐ アプリケーション識別子入力アシスト

コード種類

Omnidirectional

入力データ

- マクロ式から返される値を表示するとき
データ種類「マクロ」をクリックします。

GS1データバー 設定 ブロック

データ種類

☐ 固定 ☒ マクロ ☐ 差し込み

☐ アプリケーション識別子入力アシスト

コード種類

Omnidirectional

入力データ

マクロ式

● データベースの値を表示するとき

データ種類「差し込み」をクリックします。

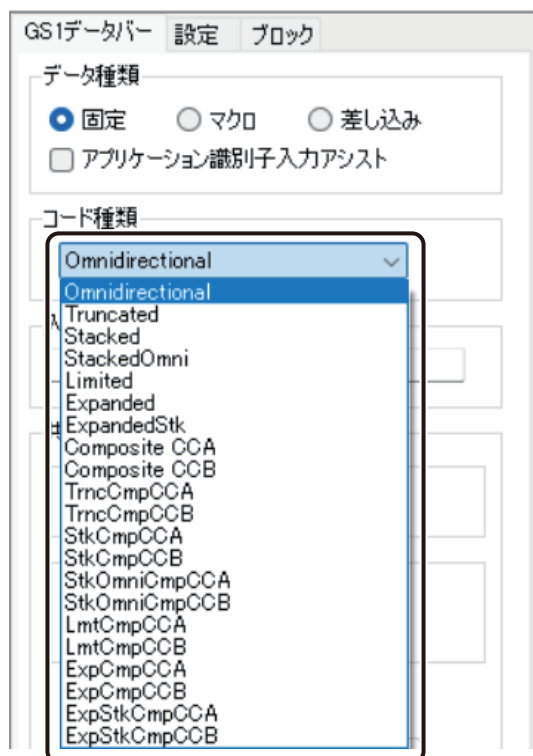
● 「アプリケーション識別子入力アシスト」を使って入力するとき

「アプリケーション識別子入力アシスト」にチェックマークを入れます。

「アプリケーション識別子入力アシスト」を使ったコードの入力については、「[アプリケーション識別子（AI）入力アシスト機能を使ってオブジェクトを作成する（P.213）](#)」を参照してください。

4 [コード種類] を選びます。

GS1 データバーは、次の 21 種類（通常：7 種類、コンポジット形式：14 種類）を作成できます。



[コード種類]

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ・ Omnidirectional | ・ StkCmpCCA |
| ・ Truncated | ・ StkCmpCCB |
| ・ Stacked | ・ StkOmniCmpCCA |
| ・ StackedOmni | ・ StkOmniCmpCCB |
| ・ Limited | ・ LmtCmpCCA |
| ・ Expanded | ・ LmtCmpCCB |
| ・ ExpandedStk | ・ ExpCmpCCA |
| ・ Composite CCA | ・ ExpCmpCCB |
| ・ Composite CCB | ・ ExpStkCmpCCA |
| ・ TrncCmpCCA | ・ ExpStkCmpCCB |
| ・ TrncCmpCCB | |



- 以下のコード種類の場合は、一次元用、二次元用の 2 つの入力データ欄が表示されます。
「Composite CCA」「Composite CCB」「TrncCmpCCA」「TrncCmpCCB」「StkCmpCCA」「StkCmpCCB」
「StkOmniCmpCCA」「StkOmniCmpCCB」「LmtCmpCCA」「LmtCmpCCB」「ExpCmpCCA」「ExpCmpCCB」
「ExpStkCmpCCA」「ExpStkCmpCCB」

5 次のように操作します。

- データ種類「固定」のとき
[入力データ] にコードを入力します。
- データ種類「マクロ」のとき
[マクロの編集] をクリックします。
- データ種類「差し込み」のとき
[差し込み列] を選びます。



- [マクロ] の設定については、「マクロ形式に設定する (P314)」を参照してください。
- [差し込み] の設定については、「差し込み形式に設定する (P277)」を参照してください。

6 「最小単位」を入力します。

入力は、ドット（dot）単位、またはミリ（mm）単位のいずれかでいきます。

入力範囲は次のようになっています。

- ・ドット（dot）単位で入力するとき
 - 1 dot ～ 23 dot（解像度 300 dpi のとき）
 - 1 dot ～ 47 dot（解像度 600 dpi のとき）
 - 1 dot ～ 94 dot（解像度 1200 dpi のとき）
- ・ミリ（mm）単位で入力するとき
 - 0.08 mm ～ 1.95 mm（解像度 300 dpi のとき）
 - 0.04 mm ～ 1.99 mm（解像度 600 dpi のとき）
 - 0.02 mm ～ 1.99 mm（解像度 1200 dpi のとき）

7 「補正量」を入力します。

補正のしかたを「自動」または「手動」から選びます。

「手動」で補正を行うときは、補正量をドット（dot）単位で入力します。

メモ

- 印刷設定で指定されているプリンターがキヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 の場合、補正量を「自動」に設定すると、プリンタードライバーから取得した解像度に合わせて補正を行います。なお、上記のプリンター以外の場合、補正は行われません。補正する場合は「手動」にて設定してください。
- キヤノン カラーラベルプリンター LX-P5500 をご使用の場合、プリンタードライバーの「エコノミー印刷」がオンに設定されているときは自動補正を行いません。

8 余白の入力およびコードの色を選びます。

共通設定

最小単位
11 dot 0.47 mm

補正量
☒ 自動 ☐ 手動 600dpi
補正量: 0 dot

余白: 5 cell

バー色: 背景色:

☒ コードサイズに枠サイズを合わせる

[余白]

0 cell ～ 10 cell の範囲で指定します。

[バー色]

バーの色を指定します。パレットから使用する色を選びます。

[背景色]

コードの背景の色を指定します。パレットから使用する色を選びます。

[コードサイズに枠サイズを合わせる]

バーコードの大きさに合わせて枠サイズを自動で設定します。



メモ

- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、[色の編集] をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」を参照してください。

9 [設定] タブをクリックし、[バー高さ] と [水平シンボル数] を入力します。

GS1データバー 設定 ブロック

GS1データバー

バー高さ 33

水平シンボル数 4

[バー高さ]

1 ～ 100 の範囲で指定します。

[水平シンボル数]

2、4、6、8、10、12、14、16、18、20 から選びます。

コード種類「ExpandedStk」、「ExpStkCmpCCA」および「ExpStkCmpCCB」のときのみ設定します。

10 [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P253\)](#)」を参照してください。
- コードの種類によっては、入力できる文字列の種類や情報量に制限があります。
- 印刷プリンターの変更またはプリンタードライバーの印刷設定（解像度、用紙種類、「エコノミー印刷」のオン/オフの設定（LX-P5500 をご使用の場合のみ））を変更したときは、配置済みの GS1 データバーを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成した GS1 データバーでも大きさが異なります。
- 印刷したラベルの GS1 データバーが読み取りにくいときは、「バーコード設定」を行ってください。バーコード設定については、「[用紙に合わせてバーコードを調整する \(P367\)](#)」を参照してください。
また、現在のバーコード設定の情報は、[GS1 データバー] プロパティに表示されます。

補正量
☒ 自動 ☐ 手動 600dpi
補正量: -1 dot
余白: 5 cell
バー色: 背景色:
☐ コードサイズに枠サイズを合わせる

バーコード設定
用紙種類: 高品位 マットコート紙
用紙形状: ラベル/ギャップ
調整値: 0

二次元コードを作成する

二次元コードを作成するときは、[二次元コード] ツールを使います。

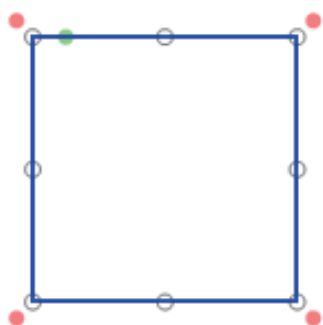
1 挿入ツールバー [二次元コード] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [二次元コード] をクリックします。



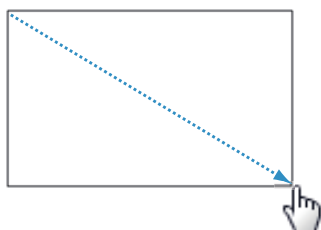
2 デザインエリア上をクリックします。

二次元コードを入力する領域（二次元コードオブジェクト）が作成されます。（20 mm× 20 mm）



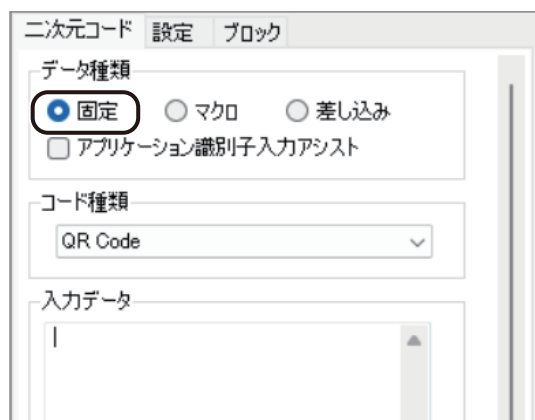
メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、オブジェクトが配置されます。

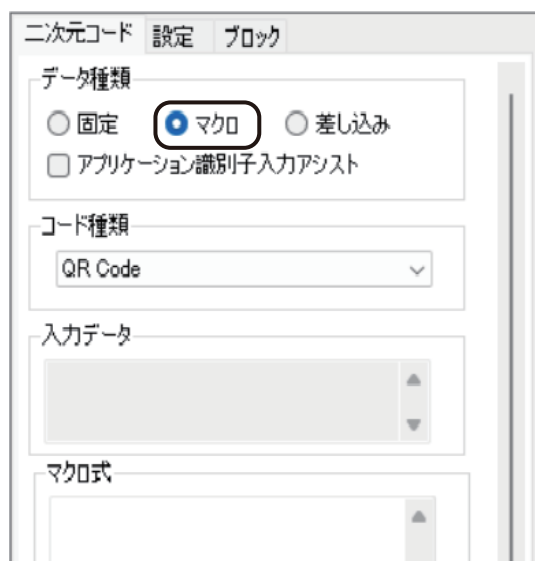


3 [二次元コード] プロパティで [データ種類] を選びます。

- [入力データ] に入力したコードで表示するとき
データ種類「固定」をクリックします。



- マクロ式から返される値を表示するとき
データ種類「マクロ」をクリックします。



- データベースの値を表示するとき

データ種類「差し込み」をクリックします。

- 「アプリケーション識別子入力アシスト」を使って入力するとき

「アプリケーション識別子入力アシスト」にチェックマークを入れます。

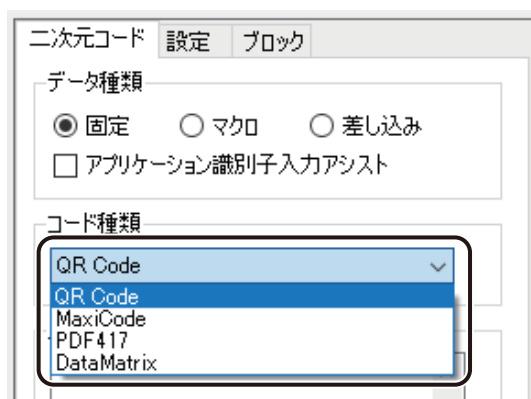
「アプリケーション識別子入力アシスト」を使ったコードの入力については、「[アプリケーション識別子 \(AI\) 入力アシスト機能を使ってオブジェクトを作成する \(P.213\)](#)」を参照してください。

メモ

- 「アプリケーション識別子入力アシスト」にチェックマークを入れると、コード種類「QR Code」、「DataMatrix」の2種類からの選択に設定が固定されます。

4 コードの種類を選びます。

二次元コードは、次の4種類を作成できます。



【コード種類】

- ・ QR Code
- ・ MaxiCode
- ・ PDF417
- ・ DataMatrix

5 次のように操作します。

- データ種類「固定」のとき
[入力データ] にコードを入力します。
- データ種類「マクロ」のとき
[マクロの編集] をクリックして、マクロ式を作成します。
- データ種類「差し込み」のとき
[差し込み列] を選びます。

メモ

- [マクロ] の設定については、「マクロ形式に設定する (P.314)」を参照してください。
- [差し込み] の設定については、「差し込み形式に設定する (P.277)」を参照してください。
- QR コードの場合、「設定」タブで「バイナリデータを含む」にチェックしたときにバイナリコードの埋め込みが可能になります。バイナリコードの入力は、次のようになっています。
 - ・ バイナリコードは、“[”と”]”で括った16進数表現の文字で指定します。
例) “[64]” → 10進で100 (サイズは1バイト) が入力されます。
 <連続したバイト列の指定するとき>
例) “[3264]” → 1バイト目に50、2バイト目に100が入力されます。
 <通常の文字を挟んで複数指定するとき>
例) “A[32]B[64]C” → “A (バイナリの50) B (バイナリの100) C”として認識
 - ・ バイナリコードは、必ず1バイトを2桁単位で指定する必要があり、次のような指定はエラーとなります。
例) “[]” → 中身なし “[0]” → 1桁 “[123]” → 3桁
 - ・ コードとして “[”を入力したいときは、“[[”と入力すると “[”一文字と判定されます。この場合は、以降に “] ”があるときでも通常の文字として処理されます。
例) “[[41] ” → “[41] ”の文字列として認識
 - ・ “] ”はその前に “[”が存在しない限り、通常の文字として処理されます。
例) “AB41] ” → “AB41] ”の文字列として認識
 “[64]AAA] ” → “ (バイナリの100) AAA] ”として認識
 - ・ 16進数表現のアルファベットは、大文字/小文字どちらも使用できます。
例) “FF”, “ff”, “Ff”, “fF” → すべてバイナリの255として認識

6 [最小単位] を入力します。

入力は、ドット（dot）単位、またはミリ（mm）単位のいずれかで行います。

入力範囲は次のようになっています。

- ・ドット（dot）単位で入力するとき
 - 1 dot ～ 23 dot（解像度 300 dpi のとき）
 - 1 dot ～ 47 dot（解像度 600 dpi のとき）
 - 1 dot ～ 94 dot（解像度 1200 dpi のとき）
- ・ミリ（mm）単位で入力するとき
 - 0.08 mm ～ 1.95 mm（解像度 300 dpi のとき）
 - 0.04 mm ～ 1.99 mm（解像度 600 dpi のとき）
 - 0.02 mm ～ 1.99 mm（解像度 1200 dpi のとき）

メモ

- ・ MaxiCode の場合、[最小単位] は印刷に使用するプリンターの解像度に合わせて以下の値に固定されます。
また、mm 値は、解像度と dot 値より算出されます。
 - 1200 dpi の場合：42dot
 - 600 dpi の場合：21dot
 - 300 dpi の場合：10dot

7 「補正量」を入力します。

補正のしかたを「自動」または「手動」から選びます。

共通設定

最小単位
11 dot 0.47 mm

補正量
☒ 自動 ☐ 手動 600dpi
補正量: 0 dot

余白: 5 cell

バー色: 背景色:

☐ コードサイズに枠サイズを合わせる

「手動」で補正を行うときは、補正量をドット（dot）単位で入力します。

メモ

- 印刷設定で指定されているプリンターがキヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 の場合、補正量を「自動」に設定すると、プリンタードライバーから取得した解像度に合わせて補正を行います。なお、上記のプリンター以外の場合、補正は行われません。補正する場合は「手動」にて設定してください。
- キヤノン カラーラベルプリンター LX-P5500 をご使用の場合、プリンタードライバーの「エコノミー印刷」がオンに設定されているときは自動補正を行いません。

8 余白の入力およびコードの色を選びます。

共通設定

最小単位
11 dot 0.47 mm

補正量
☒ 自動 ☐ 手動 600dpi
補正量: 0 dot

余白: 5 cell

バー色: 背景色:

☐ コードサイズに枠サイズを合わせる

[余白]

0 cell ～ 10 cell の範囲で指定します。

[バー色]

バーの色を指定します。パレットから使用する色を選びます。

[背景色]

コードの背景の色を指定します。パレットから使用する色を選びます。

[コードサイズに枠サイズを合わせる]

バーコードの大きさに合わせて枠サイズを自動で設定します。

メモ

- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、[色の編集] をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」を参照してください。

9 「設定」タブをクリックし、コード種類に合わせた設定を行います。

● 「QRコード」のとき

【モデル番号】

「Model1」、「Model2」、「microQR」、「QR_GS1」、「rMQR」、「rMQR_GS1」から選びます。

【バージョン】

QRコードの大きさを指定します。

- ・モデル番号「Model1」のとき
「自動」または、任意（1～14）で指定します。
- ・モデル番号「Model2」「QR_GS1」のとき
「自動」または、任意（1～40）で指定します。
- ・モデル番号「microQR」のとき
「自動」または、任意（1～4）で指定します。
- ・モデル番号「rMQR1」「rMQR_GS1」のとき
「自動」または、任意（1～32）で指定します。

【誤り訂正レベル】

レベルが高いほど誤り訂正能力は向上します。訂正能力は、L、M、Qの順に高くなります。

ただし、「microQR」の場合は「バージョン」の値によって選択できる「誤り訂正レベル」が次のようになります。

- ・バージョン「1」のとき：L
- ・バージョン「2」、「3」のとき：L、M
- ・バージョン「4」、「自動」のとき：L、M、Q

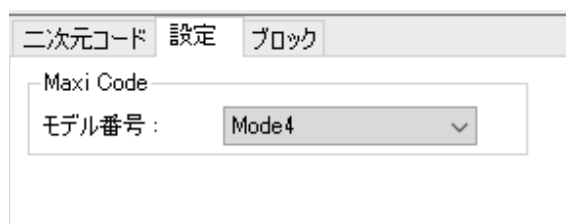
【バイナリデータを含む】

〔入力データ〕がバイナリデータを含むときは、チェックマークを入れます。入力に誤りがあるときは、QRコードが正しく表示されません。



- 「アプリケーション識別子入力アシスト」にチェックマークを入れると、モデル番号「QR_GS1」、「rMQR」の2種類からの選択に設定が固定されます。

● 「MaxiCode」 のとき



【モデル番号】

「 Mode2 」、 「 Mode3 」、 「 Mode4 」、 「 Mode 5 」 から選びます。

● 「PDF417」 のとき



【モデル番号】

「 Standard 」、 「 Truncated 」、 「 Micro PDF417 」 から選びます。

【段数】

「 自動 」 または、任意（ 3 ～ 90 ） で指定します。

任意で指定するときは、「 自動 」 のチェックマークを外して値を設定します。

【桁数】

「 自動 」 または、任意（ 1 ～ 30 ） で指定します。

任意で指定するときは、「 自動 」 のチェックマークを外して値を設定します。

【縦横比】

「 PDFratio81 」、 「 PDFratio41 」、 「 PDFratio21 」、 「 PDFratio11 」、 「 PDFratio12 」、 「 PDFratio14 」、 「 PDFratio18 」 から選びます。

【 段数 】 および 【 桁数 】 が 「 自動 」 のときに設定できます。

【段高さ】

1 ～ 10 で指定します。

【エラー訂正レベル】

「 Auto 」 または、PDF 0 ～ PDF 8 で指定します。

● 「DataMatrix」 のとき

【モデル番号】

「Square」、「Rectangular」、「Sqr_GS1」、「Rect_GS1」から選びます。

【バージョン】

- ・モデル番号「Square」、「Sqr_GS1」、「Rect_GS1」のとき
「自動」または、任意（1～24）で指定します。
- ・モデル番号「Rectangular」のとき
「自動」または、任意（1～6）で指定します。

メモ

- 「アプリケーション識別子入力アシスト」にチェックマークを入れると、モデル番号「Sqr_GS1」、「Rect_GS1」の2種類からの選択に設定が固定されます。

10 【ブロック】 プロパティを設定します。

メモ

- 【ブロック】 プロパティについては、[「【ブロック】 プロパティを設定する \(P.253\)」](#)を参照してください。
- コードの種類によっては、入力できる文字列の種類や情報量に制限があります。
- 印刷プリンターの変更またはプリンタードライバの印刷設定（解像度、用紙種類、「エコノミー印刷」のオン/オフの設定（LX-P5500 をご使用の場合のみ））を変更したときは、配置済みの二次元コードを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成した二次元コードでも大きさが異なります。
- 印刷したラベルの二次元コードが読み取りにくいときは、「バーコード設定」を行ってください。バーコード設定については、[「用紙に合わせてバーコードを調整する \(P.367\)」](#)を参照してください。
また、現在のバーコード設定の情報は、【二次元コード】 プロパティに表示されます。

アプリケーション識別子（AI）入力アシスト機能を使う

バーコードオブジェクト、GS1 データバーオブジェクト、または二次元コードオブジェクトの作成では、アプリケーション識別子とデータの入力をサポートする機能「アプリケーション識別子（AI）入力アシスト」を使うことができます。

メモ

- アプリケーション識別子（AI）とは、GS1 が標準化した、様々な情報の種類とフォーマット（データの内容、長さ、および使用可能な文字）を管理する 2 桁から 4 桁の数字のコードです。
- 本ソフトウェアには、以下のアプリケーション識別子（AI）が初期登録されています。

AI	項目	桁数	固定長 / 可変長
00	出荷梱包シリアル番号 (SSCC)	n18	固定長
01	商品識別コード (GTIN)	n14	固定長
02	商品識別コード (GTIN)	n14	固定長
10	バッチ番号、ロット番号	an...20	可変長
11	製造年月日	n6	固定長
15	賞味期限日	n6	固定長
17	消費期限日	n6	固定長
37	数量	an...8	可変長
410	企業・事業所識別コード (GLN)：出荷先（納品先）	n13	固定長
411	企業・事業所識別コード (GLN)：請求先	n13	固定長
412	企業・事業所識別コード (GLN)：商品仕入先企業	n13	固定長
413	企業・事業所識別コード (GLN)：最終納品場所	n13	固定長
414	企業・事業所識別コード (GLN)：物理ロケーション	n13	固定長
415	企業・事業所識別コード (GLN)：請求書発行者（支払先）	n13	固定長
416	企業・事業所識別コード (GLN)：生産場所	n13	固定長
417	企業・事業所識別コード (GLN)：事業者コード	n13	固定長
8003	リターナブル資産識別番号 (GRAI)	n14[+an...16]	固定長 + 可変長
8004	資産管理識別番号 (GIAI)	an...30	可変長

・桁数の見かた

n：数字

an：英数字

...：可変長

[]：任意項目

■ アプリケーション識別子 (AI) 入力アシスト機能を使ってオブジェクトを作成する

ここでは、次のバーコードオブジェクト (GS1-128) を作成する手順を説明します。



(00) 出荷梱包シリアル番号 (SSCC)

(11) 製造年月日

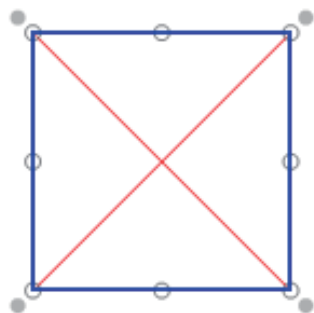
1 挿入ツールバー [バーコード] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [バーコード] をクリックします。



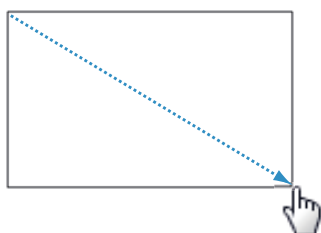
2 デザインエリア上をクリックします。

バーコードを入力する領域 (バーコードオブジェクト) が作成されます。(20 mm × 20 mm)



メモ

- 任意のサイズで配置したいときは、デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、オブジェクトが配置されます。



3

[バーコード] プロパティの[データ種類]で「アプリケーション識別子入力アシスト」にチェックマークを入れます。

The screenshot shows the 'Barcode' settings dialog box with the 'Data Type' tab selected. Under 'Data Type', the 'Application Identifier Input Assist' checkbox is checked and highlighted with a red rectangle. Other options include 'Fixed', 'Macro', and 'Difference'. Below this, the 'Code Type' is set to 'GS1-128'. The 'Input Data' section has an 'Input Assist...' button and two empty text input fields.

4

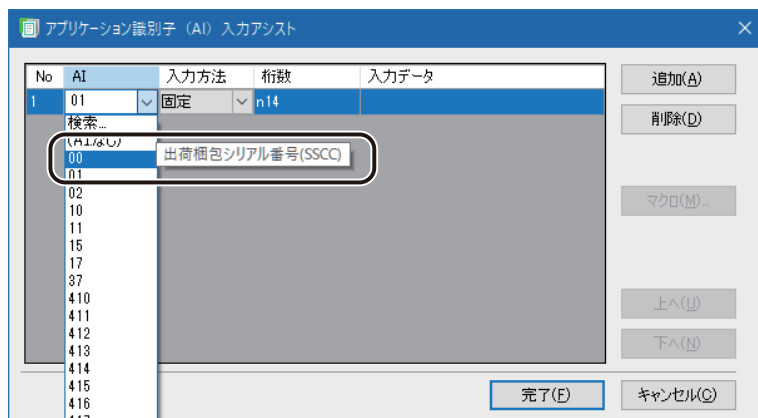
[入力アシスト] をクリックします。

The screenshot shows the same 'Barcode' settings dialog box. The 'Input Assist...' button in the 'Input Data' section is now highlighted with a red rectangle. The 'Application Identifier Input Assist' checkbox remains checked.

[アプリケーション識別子 (AI) 入力アシスト] ダイアログボックスが表示されます。

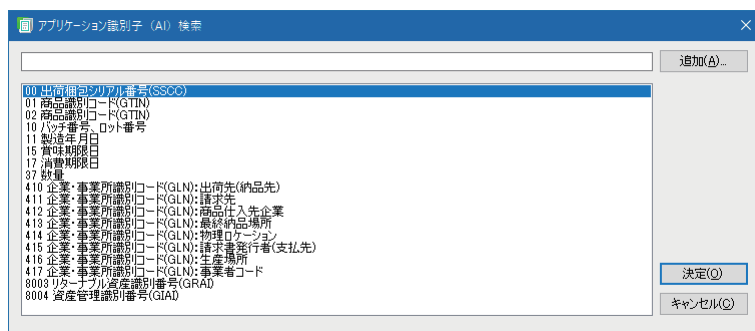
5 AI（アプリケーション識別子）を選びます。

ここでは、「00」を選びます。



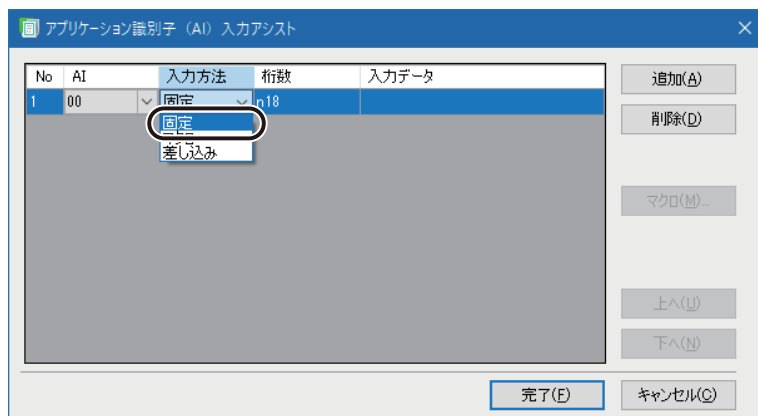
メモ

- 「01 商品識別コード (GTIN)」 から始まるコード種類の場合、AI の変更はできません。
- 「検索」を選択すると、アプリケーション識別子の一覧から AI を検索することができます。また、アプリケーション識別子の追加については「[アプリケーション識別子 \(AI\) を編集する \(P.219\)](#)」を参照してください。



6 入力方法を選びます。

「固定」、「マクロ」、「差し込み」の3種類から選択できます。ここでは、「固定」を選びます。

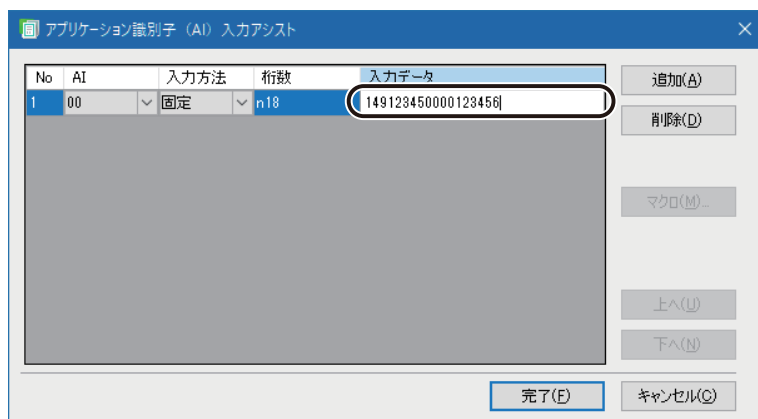


メモ

- 「マクロ」を選ぶと、[マクロ] が有効になります。[マクロ] の設定については、「マクロ形式に設定する (P314)」を参照してください。
- 「差し込み」を選んだときは、[入力データ] で差し込み列を選びます。

7 データを入力します。

ここでは、「149123450000123456」を入力します。



メモ

- この画面で「桁数」は編集できません。

8 「追加」をクリックします。

選んでいる行の下に、行が追加されます。

No	AI	入力方法	桁数	入力データ
1	00	固定	n18	149123450000123456
2	01	固定	n14	

メモ

- 選んだ行を削除したいときは「削除」をクリックします。
- 選択された行を移動したいときは、「上へ」または「下へ」をクリックします。
- 「01 商品識別コード (GTIN)」から始まるコード種類の場合、1 行目の削除や移動はできません。
- 複数の AI を設定できないコード種類の場合、行の追加や削除はできません。

9 手順 5 ～手順 7 を繰り返し、「(11) 製造年月日」の情報を入力します。

AI：11

入力方法：固定

入力データ：250108

No	AI	入力方法	桁数	入力データ
1	00	固定	n18	149123450000123456
2	11	固定	n6	250108

10 [完了] をクリックします。

[バーコード] プロパティの [入力データ] にコード情報が表示されます。

バーコード 設定 ブロック

データ種類

☐ 固定 ☒ マクロ ☐ 差し込み

☒ アプリケーション識別子入力アシスト

コード種類

GS1-128

入力データ

入力アシスト...

(00)149123450000123456(11)250108

"(00)" & "149123450000123456" & "(11)" & "250108"

メモ

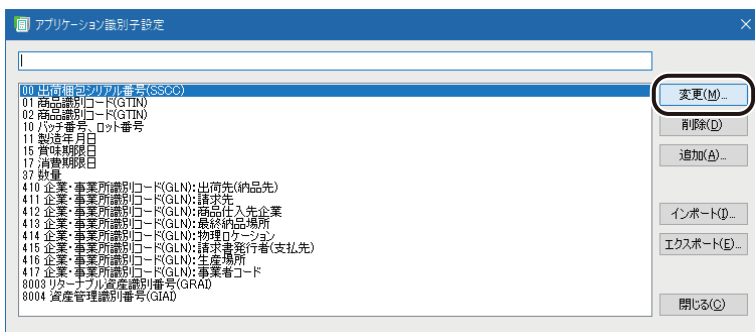
- 入力した情報が不正な場合は、メッセージが表示されます。メッセージに表示されている番号の情報を修正してください。
- データの桁数が可変長の場合、データの区切りを表すため「FNC1」は自動的に付加されます。

■ アプリケーション識別子 (AI) を編集する

1 [オプション] メニューの [アプリケーション識別子設定] をクリックします。

[アプリケーション識別子設定] ダイアログボックスが表示されます。

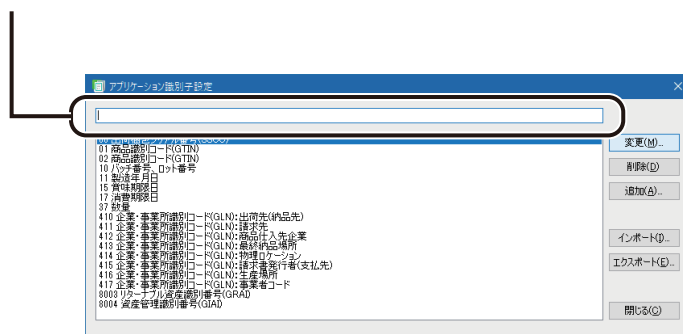
2 一覧から情報を編集したいアプリケーション識別子 (AI) を選んで [変更] をクリックします。



メモ

- 一覧には、AI 番号とその AI の説明文が表示されます。
- 一覧にある AI を削除したいときは、削除したい AI を選んで [削除] をクリックします。ただし、「01 商品識別コード (GTIN)」は削除できません。
- 検索ボックスに AI 番号または説明文の一部を入力すると、指定した条件に合致する AI のみを表示することができます。

検索ボックス



3 フォーマット情報（データ長の種類、使用可能な文字、桁数）および説明文を編集します。

アプリケーション識別子の変更

AI(A): 01

フォーマット(F): 固定長 数字 14

説明(D): 商品識別コード(GTIN)

変更(M) キャンセル

メモ

- AI 番号は変更できません。
- データ長の種類は、「固定長」「可変長」「固定長 + 固定長」「固定長 + 可変長」「固定長 + 任意固定長」「固定長 + 任意可変長」から選びます。
- 使用可能な文字の種類は、「数字」と英数字です。英数字では、英数字および「! "% & ' () * + , - . : ; < = > ? _ 」が使用できます。
- 桁数は、1~100 の範囲で指定します。
- 説明文の最大文字数は全角 32 文字（半角 64 文字）です。

4 [変更] をクリックします。

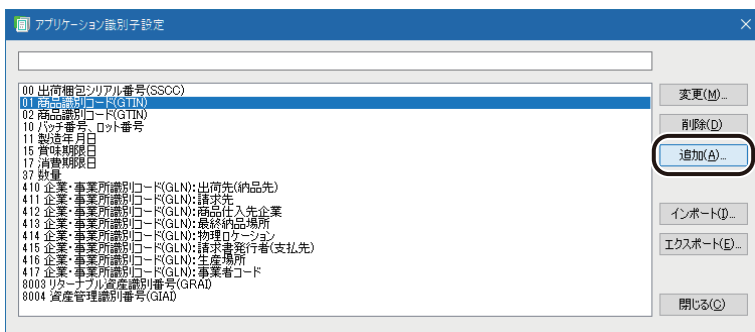
5 [閉じる] をクリックします。

■ アプリケーション識別子 (AI) を追加する

1 [オプション] メニューの [アプリケーション識別子設定] をクリックします。

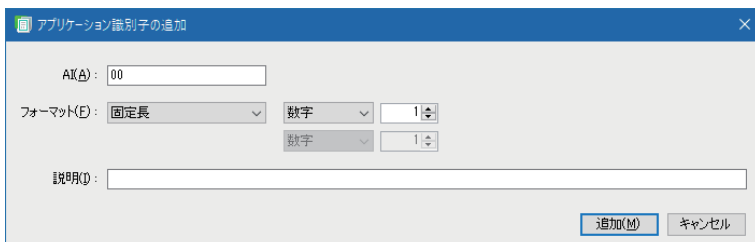
[アプリケーション識別子設定] ダイアログボックスが表示されます。

2 [追加] をクリックします。



- 一覧にある AI を削除したいときは、削除したい AI を選んで [削除] をクリックします。ただし、「01 商品識別コード (GTIN)」は削除できません。

3 AI 番号、フォーマット情報（データ長の種類、使用可能な文字、桁数）および説明文を入力します。



- データ長の種類は、「固定長」「可変長」「固定長 + 固定長」「固定長 + 可変長」「固定長 + 任意固定長」「固定長 + 任意可変長」から選びます。
- 使用可能な文字の種類は、「数字」と英数字です。英数字では、英数字および「! "% & ' () * + , - . / : ; < = > ? _」が使用できます。
- 桁数は、1~100 の範囲で指定します。
- 説明文の最大文字数は全角 32 文字（半角 64 文字）です。

4 [追加] をクリックします。



- AI が重複する場合は、上書きを確認するメッセージが表示されます。

5 [閉じる] をクリックします。

■ アプリケーション識別子（AI）をインポート / エクスポートする

ここでは、エクスポートしたアプリケーション識別子（AI）の一覧に、任意の AI を追加してインポートする手順を説明します。



- インポート操作では、本ソフトウェアに登録されている AI と、インポートファイルの AI を比較し、その差分情報のみが更新されます。

- ・「AI」が一致したとき

インポートした情報で上書き保存します。

（本ソフトウェアに登録されている AI 一覧）

AI	intro	format	type1	length1	type2	length2
90	A	0	1	20	0	1
91	B	0	1	20	0	1
92	C	0	1	20	0	1

（インポートする AI 情報）

AI	intro	format	type1	length1	type2	length2
90	A	0	1	10	0	1



（インポート後の AI 一覧）

AI	intro	format	type1	length1	type2	length2
90	A	0	1	10	0	1
91	B	0	1	20	0	1
92	C	0	1	20	0	1

※ 青色部分が上書きされたデータ

- ・「AI」が一致しないとき

新規レコードとして情報を追加します。

（本ソフトウェアに登録されている AI 一覧）

AI	intro	format	type1	length1	type2	length2
90	A	0	1	20	0	1
91	B	0	1	20	0	1
92	C	0	1	20	0	1

（インポートする AI 情報）

AI	intro	format	type1	length1	type2	length2
93	D	0	1	20	0	1



（インポート後の AI 一覧）

AI	intro	format	type1	length1	type2	length2
90	A	0	1	20	0	1
91	B	0	1	20	0	1
92	C	0	1	20	0	1
93	D	0	1	20	0	1

※ 青色部分が追加されたデータ

(例) 次の AI 情報を追加する

1 [オプション] メニューの [アプリケーション識別子設定] をクリックします。

[アプリケーション識別子設定] ダイアログボックスが表示されます。

2 [エクスポート] をクリックします。

3 [保存場所] と [ファイル名] を指定します。

4 [保存] をクリックします。

本ソフトウェアに登録されている AI の一覧が CSV 形式でファイル保存されます。

5

保存したファイルを任意のアプリケーションソフトウェアで開き、追加したいAIの情報を入力します。

「AI一覧ファイル (*.CSV) の見かた」を参考に、AIの情報を入力します。

情報を入力したら、CSV形式でファイルを保存します。

ここでは、以下のように入力します。

(例) Microsoft Excel で編集

AI	intro	format	type1	length1	type2	length2
00	出荷梱包シリアル番号 (SSCC)	0	0	18	0	1
.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.
8004	資産管理識別番号 (GIAI)	1	1	30	0	1
91	企業内部使用	1	1	30	0	1

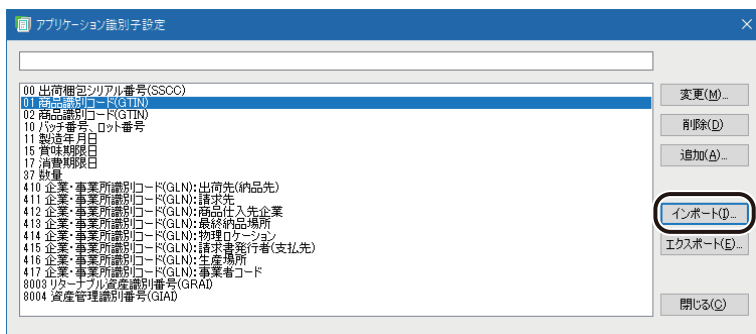
メモ

● AI一覧ファイル (*.CSV) の見かた

項目	入力値
AI	入力可能範囲：00~9999
intro	全角 32 文字（半角 64 文字）
format	0：固定長、1：可変長、2：固定長 + 固定長、3：固定長 + 可変長、 4：固定長 + 任意固定長、5：固定長 + 任意可変長
type1	0：数字、1：英数字
length1	入力可能範囲：1~100
type2 *	0：数字、1：英数字
length2 *	入力可能範囲：1~100

* 「type2」と「length2」は、「format」が「固定長 + 固定長」「固定長 + 可変長」「固定長 + 任意固定長」「固定長 + 任意可変長」の場合に有効

6 [インポート] をクリックします。

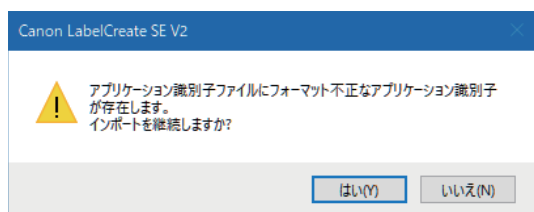


7 インポートするファイルを選んで、[開く] をクリックします。

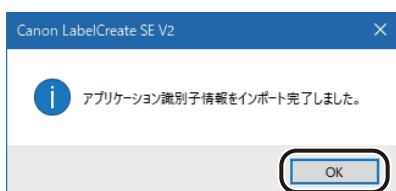
正常にファイルがインポートされると、メッセージが表示されます。



- インポートファイルに問題がある場合は、以下のメッセージが表示されます。ファイルを修正する場合は [いいえ] をクリックしてください。



8 [OK] をクリックします。



9 アプリケーション識別子 (AI) の一覧に、追加した AI が表示されます。



オブジェクトの編集

オブジェクトの編集は、オブジェクトを選んだときに表示されるプロパティを設定して行います。プロパティは、項目ごとにシート分けされており、選んだオブジェクトによって表示されるプロパティは異なります。ここでは、各プロパティの設定のしかたについて説明します。

＜オブジェクトとプロパティの組み合わせ＞

プロパティ オブジェクト	文字	フォント	文字色	輪郭	枠線	影	ブロック	塗潰し	イメージ	修飾	線	形状	背景	バーコード	GS1 データバー	二次元コード	設定
文字	○ P.153	○ P.229	○ P.246	○ P.247	○ P.249	○ P.251	○ P.253	-	-	-	-	-	○ P.259	-	-	-	-
日時	○ P.157	○ P.229	○ P.246	○ P.247	○ P.249	○ P.251	○ P.253	-	-	-	-	-	○ P.259	-	-	-	-
連番	-	○ P.229	○ P.246	○ P.247	○ P.249	-	○ P.253	-	-	-	-	-	○ P.259	-	-	-	○ P.159
イメージ (イメージ/ Web イメージ/ 差込イメージ)	-	-	-	○ P.247	-	-	○ P.253	-	○ P.245	○ P.255	-	-	-	-	-	-	-
直線	-	-	-	-	-	-	○ P.253	-	-	-	○ P.257	-	-	-	-	-	-
円	-	-	-	-	-	-	○ P.253	○ P.234	-	-	○ P.257	-	-	-	-	-	-
四角形	-	-	-	-	-	-	○ P.253	○ P.234	-	-	○ P.257	○ P.173	-	-	-	-	-
多角形	-	-	-	-	-	-	○ P.253	○ P.234	-	-	○ P.257	○ P.175	-	-	-	-	-
円弧	-	-	-	-	-	-	○ P.253	○ P.234	-	-	○ P.257	○ P.177	-	-	-	-	-
連続直線	-	-	-	-	-	-	○ P.253	○ P.234	-	-	○ P.257	○ P.179	-	-	-	-	-
自由曲線	-	-	-	-	-	-	○ P.253	○ P.234	-	-	○ P.257	○ P.180	-	-	-	-	-
ベジェ曲線	-	-	-	-	-	-	○ P.253	○ P.234	-	-	○ P.257	○ P.182	-	-	-	-	-
バーコード	-	-	-	-	-	-	○ P.253	-	-	-	-	-	-	○ P.186	-	-	○ P.190
GS1 データバー	-	-	-	-	-	-	○ P.253	-	-	-	-	-	-	-	○ P.196	-	○ P.200
二次元コード	-	-	-	-	-	-	○ P.253	-	-	-	-	-	-	-	-	○ P.203	○ P.209
背景	-	-	-	-	-	-	○ P.184	-	-	-	-	-	○ P.259	-	-	-	-

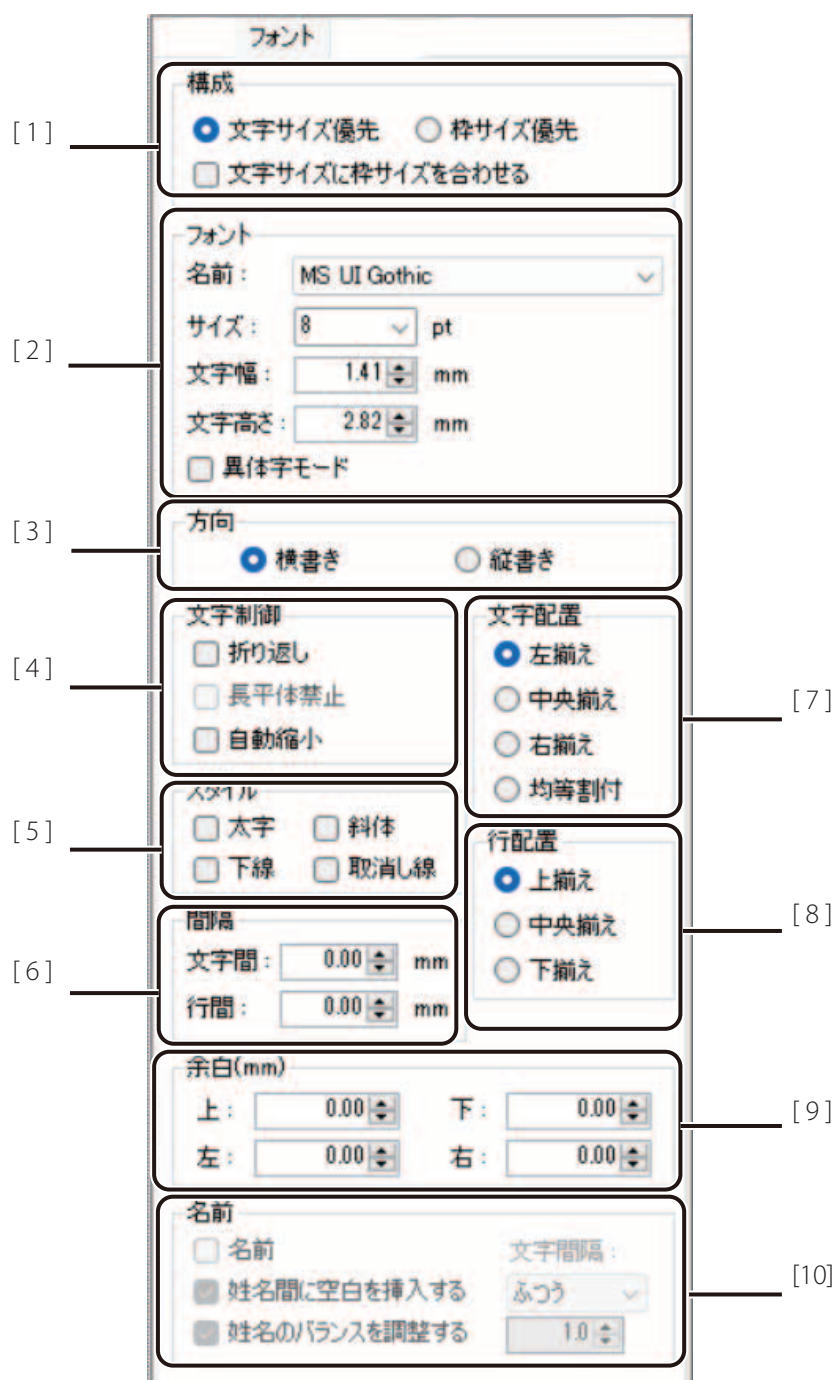


メモ

- グループ化したオブジェクトは、[ブロック] プロパティを設定できます。
- 複数のオブジェクトを選択すると、共通する項目のプロパティを一括編集することができます。
プロパティは、選んだオブジェクトの組み合わせに関係なく、[フォント] プロパティ、[文字色] プロパティ、[線] プロパティ、[塗潰し] プロパティおよび [ブロック] プロパティが表示されます。

[フォント] プロパティを設定する

[フォント] プロパティでは、文字の種類やサイズなどを設定します。



[1] 構成

文字の構成を設定します。

[文字サイズ優先]

入力された文字は、[サイズ]、[文字幅]、[文字高さ]などで指定した文字サイズが優先されます。指定した文字サイズで文字を作成するときに選びます。

[枠サイズ優先]

オブジェクトの大きさにあわせて文字サイズが決まります。

[フォント]の設定は無効となります。

[文字サイズに枠サイズを合わせる]

チェックマークを入れると、入力された文字にあわせて枠サイズを自動で設定します。固定オブジェクトかつ、[文字サイズ優先]のときに指定できます。

[2] フォント

フォントに関する設定をします。

[名前]

フォントをプルダウンリストから選びます。

ご使用の環境にインストールされているフォントが選択できます。(初期設定: MS UI Gothic)

[サイズ]

フォントの大きさを指定します。

ショートカットキー:

- ・フォントサイズを大きくする (+1pt): Ctrl + Shift + .
- ・フォントサイズを小さくする (-1pt): Ctrl + Shift + ,

[文字幅]

フォントの文字幅を 0.01 mm 単位で入力します。

[文字高さ]

フォントの文字高さを 0.01 mm 単位で入力します。

[異字体モード]

入力した文字を異体字で表示させたいときにチェックマークを入れます。チェックマークを入れたあとは、表示したい異字体に対応したフォントをプルダウンリストから選びます。

[3] 方向

文字の方向を設定します。

[横書き]

左から右へ文字を入力します。

[縦書き]

上から下へ文字を入力します。

[4] 文字制御

文字制御を設定します。

[折り返し]

オブジェクトの幅に合わせて、文字列を自動的に折り返します。

[長平体禁止]

文字の形を正体で表示します。

[枠サイズ優先] のときに指定できます。

[自動縮小]

オブジェクトの幅に合わせて、文字列の幅を自動的に縮小します。
文字列の高さ方向は縮小されません。

[5] スタイル

文字のスタイルを設定します。

[太字] (ショートカットキー: Ctrl + B)

文字を太くします。

[斜体] (ショートカットキー: Ctrl + I)

文字を斜めにします。

[下線] (ショートカットキー: Ctrl + U)

文字の下に線を描きます。

〔取消し線〕（ショートカットキー：Ctrl + 5）

文字の中心に直線を引きます。

[6] 間隔

文字と行の間隔を設定します。

〔文字サイズ優先〕のときに設定できます。

〔文字間〕

文字間隔を設定します。（入力範囲：0.00 ～ 50.00 mm）

キー入力では、0.01 単位、スピンドット入力では 0.1 単位となります。

〔行間〕

行間隔を設定します。（入力範囲：0.00 ～ 50.00 mm）

キー入力では、0.01 単位、スピンドット入力では 0.1 単位となります。

[7] 文字配置

文字配置を設定します。

〔左揃え〕

オブジェクト内の左側に配置します。

〔中央揃え〕

オブジェクト内の中央に配置します。

〔右揃え〕

オブジェクト内の右側に配置します。

〔均等割付〕

オブジェクト内で左右に均等に配置します。

[8] 行配置

行の配置を設定します。

〔上揃え〕

オブジェクト内の上側に配置します。

〔中央揃え〕

オブジェクト内の中央に配置します。

〔下揃え〕

オブジェクト内の下側に配置します。

[9] 余白

余白を設定します。

〔上〕〔下〕〔左〕〔右〕

オブジェクト内の上下左右の余白を入力します。

キー入力では、0.01 単位、スピンドット入力では 0.1 単位となります。

[10] 名前

姓と名の間をスペースで区切った文字（名前）をバランス良く表示させる機能です。

姓名間の空白設定や姓名バランスの調整が行えます。

※ 日時オブジェクトおよび連番オブジェクトのときは、名前を設定できません。

※ 姓と名の間をスペースで区切っていない場合は、設定が反映されません。

〔名前〕

チェックマークを入れると、名前に関する設定が有効になります。

〔姓名間に空白を挿入する〕および〔姓名のバランスを調整する〕にチェックマークが入り、姓および名の文字数に応じて最適なバランスで文字間隔が調整されます。（⇒ P233）

【姓名間に空白を挿入する】、【姓名のバランスを調整する】

チェックマークの ON/OFF によって次のように調整されます。

（〔名前〕の初期設定は、〔姓名間に空白を挿入する〕および〔姓名バランスを調整する〕がいずれも ON）

		姓名間に空白を挿入する	
		ON	OFF
姓名バランスを調整する	ON	姓および名の文字数に応じて最適なバランスで文字間隔が調整されます。 ^{*1}	枠サイズ内に文字を均等割付します。
	OFF	姓と名の間に空白を挿入します。 ^{*1}	

^{*1}〔文字間隔〕で文字間隔や空白が調整可。

【文字間隔】

文字間隔を設定します。（⇒ P.233）

〔狭め〕 基準値（「ふつう」）の 0.8 倍に設定します。

〔ふつう〕 文字間隔の基準値です。

〔広め〕 基準値（「ふつう」）の 1.2 倍に設定します。

〔倍率指定〕 基準値（「ふつう」）に対して、任意の倍率を指定します。（範囲：0.0 ～ 2.0）



メモ

- 英数字を縦書きにする場合は、全角で入力してください。半角英数字は縦書き入力できません。
- 〔折り返し〕を設定したときは、折り返した文字が欠けていないことを確認してください。文字列が欠けていたときは、オブジェクト枠（高さ方向）を広げてください。
〔折り返し〕はオブジェクトの幅に合わせて文字を折り返しますが、折り返しに合わせてオブジェクト枠は広がらないため、オブジェクトの高さに余裕がなく、文字が多い場合は折り返し部分が欠けることがあります。
- 〔自動縮小〕を使用した場合、文字列の高さ方向は縮小されません。そのため、高さ方向で文字が欠けてしまうことがあります。文字が正しく表示されない場合は、以下のいずれかの方法で調整してください。
 - ・オブジェクト枠の高さ方向を広げる
 - ・枠内に文字を収める設定に変更する（〔枠サイズ優先〕および〔長平体禁止〕にチェックを入れる）
- 〔異字体モード〕を設定したときは、以下のプロパティを設定できません。
 - ・〔輪郭〕プロパティ
 - ・〔影〕プロパティ
 - ・〔背景〕プロパティ
- 〔異字体モード〕を設定したときは、以下を設定できません。
 - ・枠サイズ優先
 - ・文字サイズに枠サイズを合わせる
 - ・折り返し
 - ・長平体禁止
 - ・自動縮小
 - ・下線
 - ・取消し線
- 〔文字サイズに枠サイズを合わせる〕が設定された状態でグループ化され、グループ化オブジェクトのサイズが変更された場合は、〔文字サイズに枠サイズを合わせる〕の設定が自動的に無効になります。



メモ

- [文字間隔] を変えたときの空白は次のように変化します。
例) 「田中 まり子」に [姓名間の空白を挿入する] を設定したとき

[狭め]

田中 まり子

[ふつう]

田中 まり子

[広め]

田中 まり子

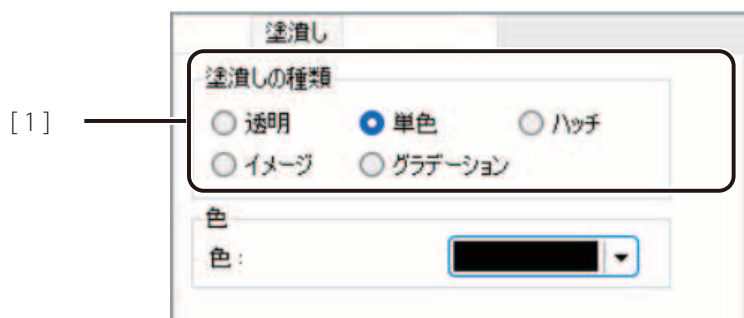
- [姓名間に空白を挿入する] および [姓名のバランスを調整する] にチェックマークが入っているとき ([名前] の初期設定) は、姓および名の文字数に応じて最適なバランスで文字間隔が調整されます。

例) 姓と名の文字数が異なる名前の文字バランスの一例 (文字間隔: ふつう)

姓	名	[姓名間に空白を挿入する] のみ	[姓名間に空白を挿入する]+[姓名のバランスを調整する]
2文字	3文字	田中 まり子	田 中 ま り 子
2文字	2文字	千葉 健斗	千 葉 健 斗
3文字	1文字	小宮山 実	小 宮 山 実
2文字	1文字	津田 真	津 田 真
1文字	3文字	橘 ひとみ	橘 ひ と み
3文字	3文字	佐々木 由美子	佐 々 木 由 美 子

[塗潰し] プロパティを設定する

[塗潰し] プロパティでは、オブジェクトの塗潰しについて設定します。



[1] 塗潰しの種類

オブジェクトの塗潰しの種類を選びます。

[透明]

塗潰し「なし」に設定します。

[単色]

色を設定します。パレットで使用する色を選びます。

⇒「[単色で塗潰す \(P.235\)](#)」

[ハッチ]

線の模様を付けます。

⇒「[ハッチングで塗潰す \(P.236\)](#)」

[イメージ]

画像を取り込みます。[イメージファイル] または [使用] にて使用する画像を選択します。

⇒「[イメージで塗潰す \(P.238\)](#)」

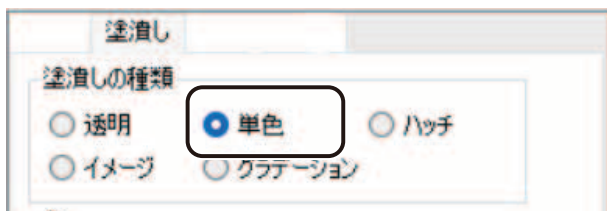
[グラデーション]

グラデーションを設定します。

⇒「[グラデーションで塗潰す \(P.242\)](#)」

■ 単色で塗潰す

1 [塗潰し] プロパティで [単色] を選びます。



2 パレットより使用する色を選びます。

▼ をクリックすると、パレットが表示されます。

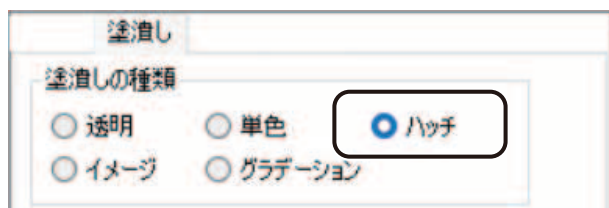


メモ

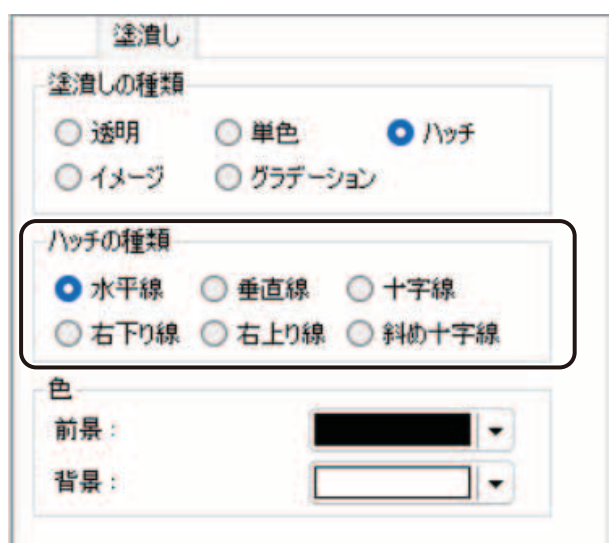
- カラーテーブルを使うときは、[カラーテーブル] をクリックして使用するカラーテーブルを選びます。カラーテーブルの設定については、「[差し込みカラーテーブルの設定 \(P.298\)](#)」を参照してください。
- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、[色の編集] をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」を参照してください。

■ ハッチングで塗潰す

1 [塗潰し] プロパティで [ハッチ] を選びます。



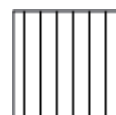
2 [ハッチの種類] を選びます。



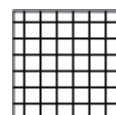
[水平線]



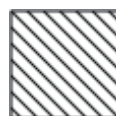
[垂直線]



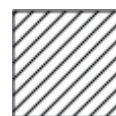
[十字線]



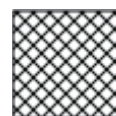
[右下り線]



[右上り線]

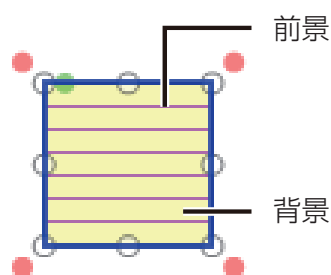
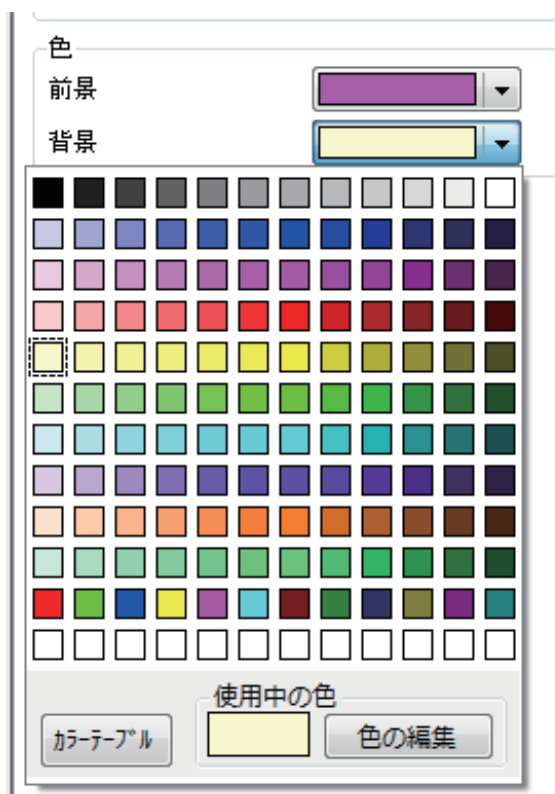


[斜め十字線]



3 前景と背景の色を選びます。

▼をクリックすると、パレットが表示されます。



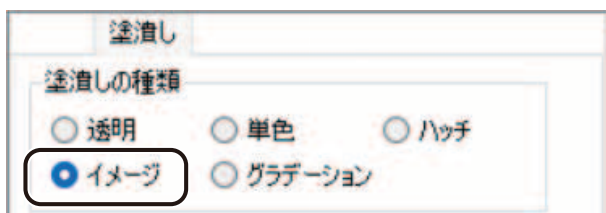
メモ

- カラーテーブルを使うときは、[カラーテーブル] をクリックして使用するカラーテーブルを選びます。カラーテーブルの設定については、「[差し込みカラーテーブルの設定 \(P.298\)](#)」を参照してください。
- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、[色の編集] をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」を参照してください。

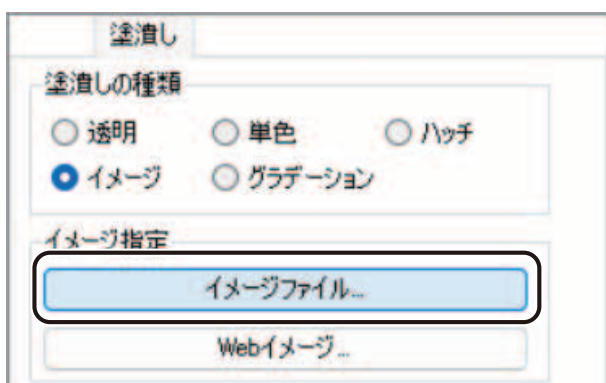
■ イメージで塗潰す

ここでは、例として四角形オブジェクト（40 mm× 30 mm）を「きゅうり.bmp」の画像で塗潰します。

1 [塗潰し] プロパティで [イメージ] を選びます。



2 [イメージファイル指定] をクリックします。

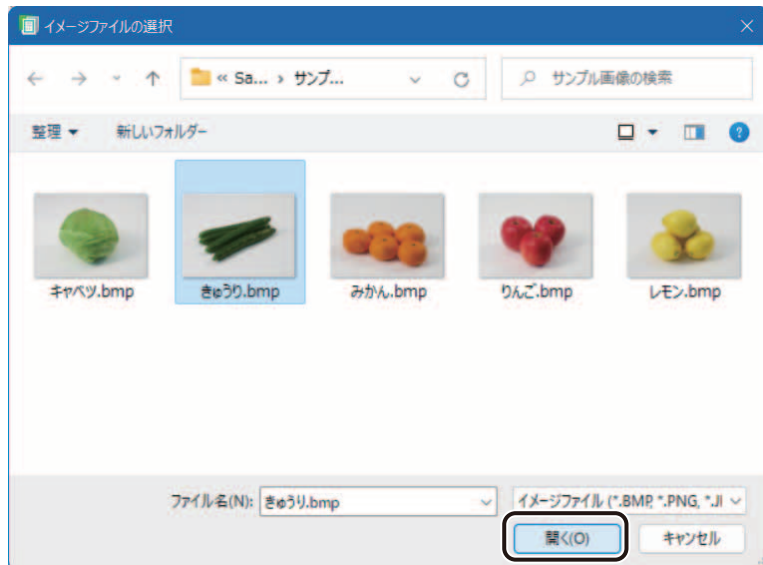


[イメージファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。

3 使用する画像を選び、[開く] をクリックします。

「きゅうり.bmp」は、次の場所に保存されています。

< C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample\ サンプル画像 >



画像がオブジェクトの背景に取り込まれます。



メモ

● 挿入できる画像ファイルの形式は次のとおりです。

- | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|
| ・ビットマップファイル形式 (*.BMP) | ・ GIF 形式 (*.GIF) | ・ PDF 形式 (*.PDF) |
| ・ PNG 形式 (*.PNG) | ・ ICO 形式 (*.ICO) | ・ PSD 形式 (*.PSD) |
| ・ JPEG 形式 (*.JPG, *.JPEG) | ・ WMF 形式 (*.WMF) | ・ PCX 形式 (*.PCX) |
| ・ TIFF 形式 (*.TIF, *.TIFF) * | ・ EMF 形式 (*.EMF) | |

* TIFF 形式は、無圧縮 (インターリーブ)、LZW 圧縮のみ対応

4 [タイル表示] について設定します。

タイル表示を設定すると、選んだ画像を X 方向および Y 方向に指定した数で表示することができます。
表示方法を次の 5 種類から選び、[タイル数] で画像の数を設定します。

[なし]

1 枚の画像を表示します。



[通常]

画像をタイル状に並べて表示します。

(タイル数 : X=2、Y=2 のとき)



[X反転]

画像をタイル状に並べたとき、X 方向に隣り合う画像を左右反転させて表示します。

(タイル数 : X=2、Y=2 のとき)



[Y反転]

画像をタイル状に並べたとき、Y 方向に隣り合う画像を上下反転させて表示します。

(タイル数 : X=2、Y=2 のとき)



[XY反転]

画像をタイル状に並べたとき、X方向およびY方向に隣り合う画像を左右および上下反転させて表示します。

(タイル数：X=2、Y=2 のとき)



[タイル数]

取り込んだ画像の分割数を設定します。

[X] (X方向) および [Y] (Y方向) に 1～10 を入力します。

5 [伸縮] および配置 ([X 位置]、[Y 位置]) について設定します。

(背景オブジェクトのとき)

タイル表示 ☒ なし ☐ 通常 ☐ X反転 ☐ Y反転 ☐ XY反転	タイル数 X: 1 Y: 1
伸縮 ☒ なし ☐ 幅合せ ☐ 高さ合せ ☐ サイズ合せ	X位置 ☐ 左 ☒ 中央 ☐ 右 Y位置 ☐ 上 ☒ 中央 ☐ 下

タイル表示 ☒ なし ☐ 通常 ☐ X反転 ☐ Y反転 ☐ XY反転	タイル数 X: 1 Y: 1
伸縮 ☒ 自動フィット ☐ 幅合せ ☐ 高さ合せ ☐ サイズ合せ	X位置 ☐ 左 ☒ 中央 ☐ 右 Y位置 ☐ 上 ☒ 中央 ☐ 下

[伸縮]

画像の伸縮を設定します。

[なし]

画像を取り込んだ大きさで表示します。

[幅合せ]

オブジェクトの幅に合わせて画像を調整します。

[高さ合せ]

オブジェクトの高さに合わせて画像を調整します。

[サイズ合せ]

オブジェクトの大きさに合わせて均等に画像を調整します。

[自動フィット] (背景オブジェクトのとき)

取り込んだ画像サイズと用紙サイズに合わせて [幅合せ] または [高さ合せ] のいずれかを自動で設定します。

[X 位置]

オブジェクトに対して X 方向の画像の配置を設定します。[左]、[中央]、[右] から選びます。

[Y 位置]

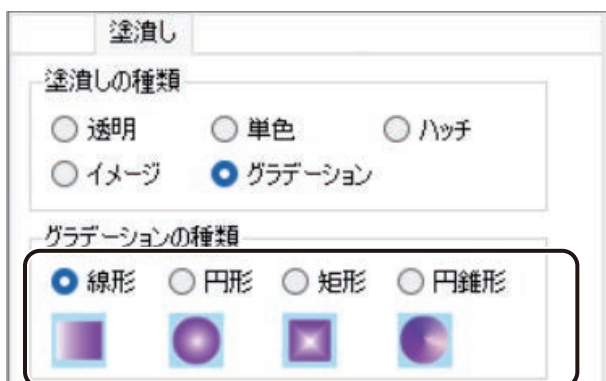
オブジェクトに対して Y 方向の画像の配置を設定します。[上]、[中央]、[下] から選びます。

■ グラデーションで塗潰す

- 1 [塗潰し] プロパティで [グラデーション] を選びます。

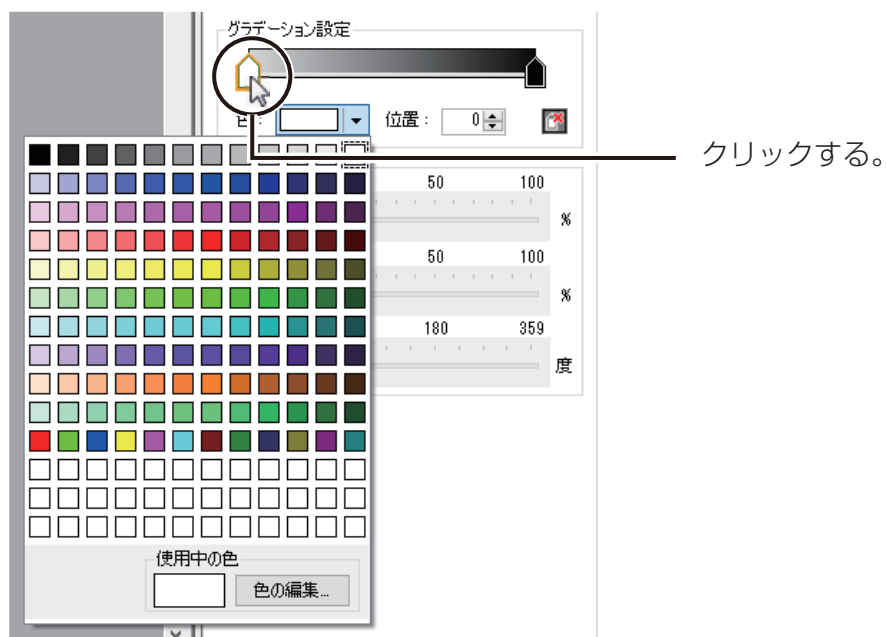


- 2 グラデーションの種類を選びます。

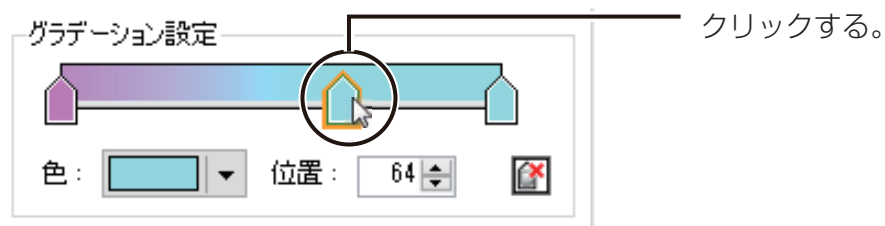


3 グラデーションの色を設定します。

スライダーをクリックして、グラデーションの始点と終点の色を選びます。

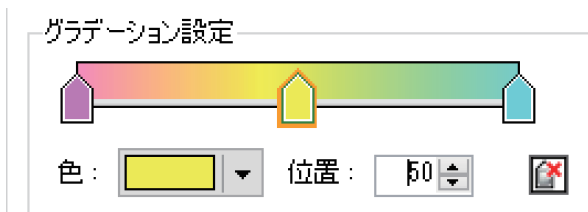


中間色を設定するときは、図の位置をクリックしてスライダーを追加します。



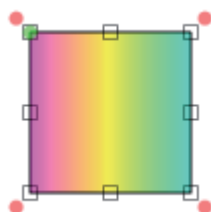
- 追加したスライダーを削除するときは、削除したいスライダーを選んで をクリックします。

4 スライダーを移動して、グラデーションの色の割合を設定します。



グラデーション設定した色がオブジェクトに反映されます。

（グラデーションの種類「線形」のとき）

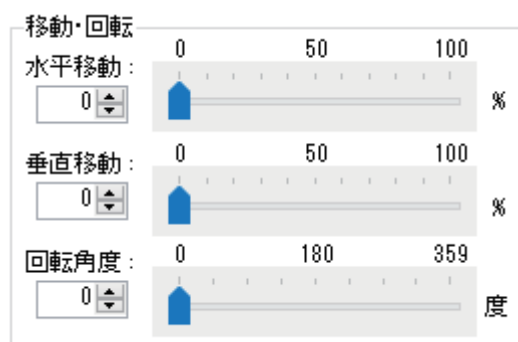


メモ

- グラデーションの色の割合は、「位置」に入力して設定することもできます。

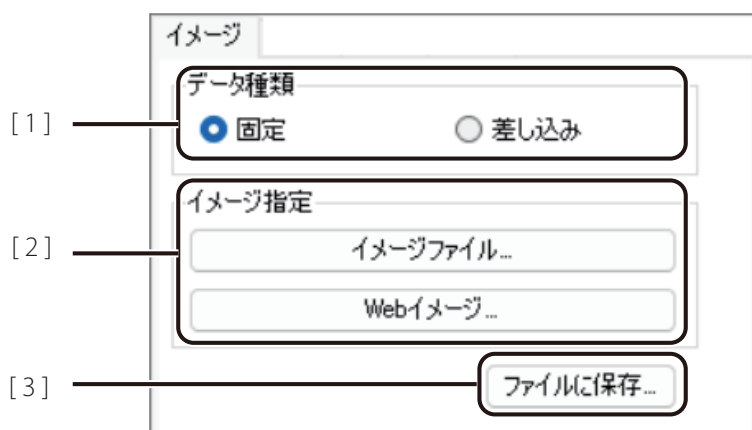
5 グラデーションの波の方向を設定します。

オブジェクトを確認しながら、スライダーを動かして設定します。



[イメージ] プロパティを設定する

[イメージ] プロパティでは、オブジェクトに表示するイメージを指定します。



- [1] **データ種類** [固定] または [差し込み] を選びます。
- [固定]**
 [イメージ指定] で選んだ画像を挿入します。
- [差し込み]**
 データベースで指定している画像を挿入します。[差し込み列] からオブジェクトに割り当てる項目を選びます。
- [2] **イメージ指定** 画像を指定します。[データ種類] が [差し込み] の場合は表示されません。
- [イメージファイル]**
 ご使用のパソコンやネットワーク上にある画像データを指定します。
- [Web イメージ]**
 ストックフォト (オンラインの写真素材集) から画像を検索して指定します。
- [3] **ファイルに保存** イメージオブジェクトに表示している画像を、画像ファイルとして保存することができます。

メモ

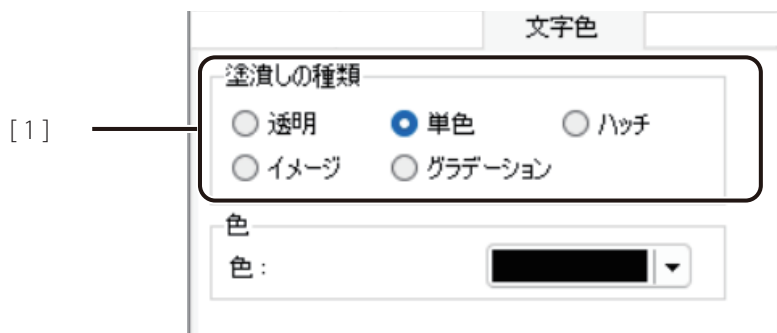
● 挿入できる画像ファイルの形式は次のとおりです。

- ・ビットマップファイル形式 (*.BMP)
- ・PNG 形式 (*.PNG)
- ・JPEG 形式 (*.JPG, *.JPEG)
- ・TIFF 形式 (*.TIF, *.TIFF) *
- ・GIF 形式 (*.GIF)
- ・ICO 形式 (*.ICO)
- ・WMF 形式 (*.WMF)
- ・EMF 形式 (*.EMF)
- ・PDF 形式 (*.PDF)
- ・PSD 形式 (*.PSD)
- ・PCX 形式 (*.PCX)

* TIFF 形式は、無圧縮 (インターリーブ)、LZW 圧縮のみ対応

[文字色] プロパティを設定する

[文字色] プロパティでは、文字の色について設定します。



[1] 塗潰しの種類

文字色の種類を選びます。

[透明]

文字色「なし」に設定します。

[単色]

色を設定します。

パレットで使用する色を選びます。

[ハッチ]

線の模様を付けます（ハッチング）。

[イメージ]

画像を取り込みます。

[イメージファイル] または [Web イメージ] にて使用する画像を選択します。

[グラデーション]

グラデーションを設定します。



メモ

- [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.235\)](#)」を参照してください。
- [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.236\)](#)」を参照してください。
- [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.238\)](#)」を参照してください。
- [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.242\)](#)」を参照してください。

[輪郭] プロパティを設定する

[輪郭] プロパティでは、文字や画像の輪郭について設定します。



- [1] 実線 / 点線の種類 輪郭の線種を設定します。
[実線]、[破線]、[一点鎖線]、[二点鎖線]、[点線] から選びます。
- [2] 幅 輪郭の線幅を設定します。（入力範囲：0.1 mm ～ 50.0 mm）
- [3] 形状 輪郭の線種が [破線]、[一点鎖線]、[二点鎖線]、[点線] のときに、破線の形状を設定します。
[平坦]、[丸み]、[四角形]、[三角形] から選びます。
- [4] 線の種類 輪郭の種類を設定します。
- [透明]
 輪郭「なし」に設定します。
- [単色]
 色を設定します。
 パレットで使用する色を選びます。
- [ハッチ]
 線の模様を付けます（ハッチング）。
- [イメージ]
 画像を取り込みます。
 [イメージファイル] または [Web イメージ] にて使用する画像を選択します。
- [グラデーション]
 グラデーションを設定します。

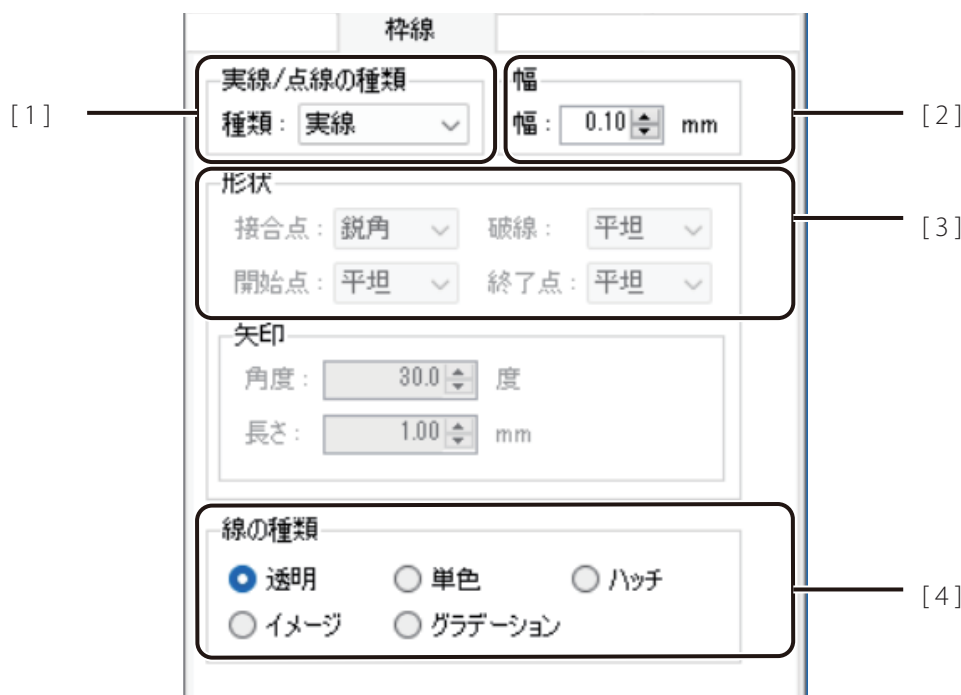


メモ

- 線の種類 [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.235\)](#)」を参照してください。
- 線の種類 [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.236\)](#)」を参照してください。
- 線の種類 [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.238\)](#)」を参照してください。
- 線の種類 [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.242\)](#)」を参照してください。

[枠線] プロパティを設定する

[枠線] プロパティでは、テキストオブジェクト領域の枠線について設定します。



- [1] **実線 / 点線の種類** 枠線の線種を設定します。
[実線]、[破線]、[一点鎖線]、[二点鎖線]、[点線] から選びます。
- [2] **幅** 枠線の線幅を設定します。（入力範囲：0.1 mm ～ 50.0 mm）
- [3] **形状** 枠線の線種が [破線]、[一点鎖線]、[二点鎖線]、[点線] のときに、破線の形状を設定します。
[平坦]、[丸み]、[四角形]、[三角形] から選びます。
- [4] **線の種類** 枠線の種類を設定します。
- [透明]**
枠線「なし」に設定します。
- [単色]**
色を設定します。
パレットで使用する色を選びます。
- [ハッチ]**
線の模様を付けます（ハッチング）。
- [イメージ]**
画像を取り込みます。
[イメージファイル] または [Web イメージ] にて使用する画像を選択します。
- [グラデーション]**
グラデーションを設定します。



メモ

- 線の種類 [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.235\)](#)」を参照してください。
- 線の種類 [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.236\)](#)」を参照してください。
- 線の種類 [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.238\)](#)」を参照してください。
- 線の種類 [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.242\)](#)」を参照してください。

[影] プロパティを設定する

[影] プロパティでは、文字の影について設定します。



[1] 影の種類

影の種類を設定します。

[なし]

影「なし」に設定します。

[移動]

文字に対して伸ばす影の長さ（X 方向、Y 方向）を設定します。
（入力範囲：-50.00 mm ～ 50.00 mm）

[伸長]

文字に対して伸ばす影の角度を設定します。
（入力範囲：-70 度～ 70 度）

[2] 塗潰しの種類

影の塗潰しの種類を設定します。

[透明]

塗潰し「なし」に設定します。

[単色]

色を設定します。
パレットで使用する色を選びます。

[ハッチ]

線の模様を付けます（ハッチング）。

[イメージ]

画像を取り込みます。
[イメージファイル] または [Web イメージ] にて使用する画像を選択します。

[グラデーション]

グラデーションを設定します。



メモ

- 塗潰しの種類 [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.235\)](#)」を参照してください。
- 塗潰しの種類 [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.236\)](#)」を参照してください。
- 塗潰しの種類 [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.238\)](#)」を参照してください。
- 塗潰しの種類 [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.242\)](#)」を参照してください。

[ブロック] プロパティを設定する

[ブロック] プロパティでは、オブジェクトの位置や大きさ、および操作制御について設定します。

The image shows a 'Block' property dialog box with the following sections and controls:

- 位置(mm)**: Left (左) and Top (上) coordinates with spin buttons. Values: 16.69, 50.53.
- サイズ**: Width (幅) and Height (高さ) in mm and percentage. Values: 6.67 mm, 9.63 mm. A checkbox for '縦横比を固定する' (Fix aspect ratio).
- 回転角度(度)**: Rotation angle in degrees. Value: 0.0.
- 傾斜角度(度)**: Tilt angle in degrees for X and Y directions. Values: 0.0, 0.0.
- 反転**: Flip options: Horizontal (水平) and Vertical (垂直) checkboxes.
- 対象**: Target options: Print target (印刷対象), Display target (表示対象), and Clip target (クリップ対象) checkboxes. A 'クリップ種類' (Clip type) dropdown with icons.

- [1] **位置** 用紙に対するオブジェクトの位置を入力します。
キー入力では、0.01 単位、スピンボタン入力では 0.1 単位となります。
- [2] **サイズ** オブジェクトの大きさ（幅、高さ）を入力します。
キー入力では、0.01 単位、スピンボタン入力では 0.1 単位となります。
「縦横比を固定する」にチェックマークを入れてサイズを変更すると、幅と高さの比率を変えないように拡大縮小できます。
イメージオブジェクトの場合のみ、ミリ単位に加えてパーセント単位で設定が可能です。パーセント表示は、対象の画像が保持する解像度で算出した値です。（画像が解像度情報を保持しないフォーマットであった場合は、96dpi で算出）
- [3] **回転角度** オブジェクトの回転角度を設定します。（入力範囲：0.0 度～ 359.9 度）
- [4] **傾斜角度** オブジェクトの傾き（X 方向、Y 方向）を設定します。（入力範囲：-75 度～ 75 度）
バーコードオブジェクト、GS1 データバーオブジェクト、および二次元コードオブジェクトのときは表示されません。
- [5] **反転** オブジェクトを「水平」または「垂直」方向へ反転させます。

[6] 対象

選んでいるオブジェクトの印刷および表示について設定します。

[印刷対象]

オブジェクトを印刷する / しないを切り替えます。

[表示対象]

オブジェクトの表示 / 非表示を切り替えます。

[クリップ対象]

オブジェクトの形状で印刷範囲を指定できます。印刷の対象 / 対象外は、[クリップ種類] で切り替えます。

円形オブジェクト、四角形オブジェクト、多角形オブジェクト、円弧オブジェクトの場合に設定できます。



(対象)

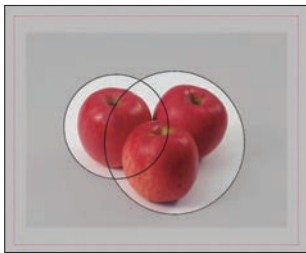
オブジェクトの内側を印刷対象に指定します。外側は印刷対象外となります。



(対象外)

オブジェクトの内側と外側がいずれも印刷対象外となります。

円形オブジェクト (大) と円形オブジェクト (小) を [クリップ対象] とした場合の例:

「クリップ種類」 の設定	円形 (大):  (対象)	円形 (大):  (対象)
	円形 (小):  (対象)	円形 (小):  (対象外)
デザインエリア の表示		
印刷プレビュー		



メモ

- 背景オブジェクトのブロックプロパティについては、「背景を設定する (P184)」を参照してください。
- グループ化オブジェクトの場合は、[クリップ対象] を設定できません。
- クリップ対象を設定したオブジェクトをグループ化すると、クリップ対象の設定は無効となります。
- クリップ対象を設定したオブジェクトに反転 (水平 / 垂直) を設定すると、オブジェクト同士が重なった部分は印刷対象外となります。

[修飾] プロパティを設定する

[修飾] プロパティでは、画像の効果について設定します。



[1] 透過

画像に透過効果を適用します。
「透過指定する」にチェックマークを入れたときに設定できます。

[透過色]

透過させる色を指定します。

[透過率]

画像の透過色の割合を指定します。(入力範囲：0 % ～ 100 %)

[2] 濃度変換

画像の画質に関する設定をします。

[明るさ]

画像の明るさを調整します。(入力範囲：-100 ～ 100)

[コントラスト]

画像のコントラストを調整します。(入力範囲：-100 ～ 100)

[ガンマ補正]

画像のガンマ値を補正します。(入力範囲：0.01 ～ 5.00)

- [3] 縦横比を固定 縦と横の比率が変わることなく、画像を拡大 / 縮小したいときに設定します。
[縦横比を固定]のチェックマークを外すと[余白をなくす]のチェックマークも同時に外れます。
- [縦横比を固定]
チェックマークを入れると、オブジェクトの枠の拡大 / 縮小に合わせて、画像を縦横比固定で表示します。
- [余白をなくす]
画像の大きさにオブジェクトの枠を合わせるように設定して、画像とオブジェクト枠の余白をなくします。固定オブジェクトのときに設定できます。
- [4] ぼかし 画像にぼかし効果を適用します。(入力範囲: 1 ~ 10)
「変換する」にチェックマークを入れたときに設定できます。
- [5] モザイク変換 画像にモザイク効果を適用します。(入力範囲: 2 ~ 32)
「変換する」にチェックマークを入れたときに設定できます。
- [6] 単色効果 画像に単色効果を適用します。
- [なし]
単色効果を適用しません。
- [モノクロ]
モノクロ色に変換します。
- [セピア]
セピア色に変換します。
- [色指定]
指定した色相、彩度に変換します。
[指定色]のパレットより色を選びます。



メモ

- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、[色の編集]をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」を参照してください。

[線] プロパティを設定する

[線] プロパティでは、線の種類や色を設定します。



- [1] 実線 / 点線の種類 線の種類を設定します。
[実線]、[破線]、[一点鎖線]、[二点鎖線]、[点線]から選びます。
- [2] 幅 線の幅を指定します。（入力範囲：0.1 mm ～ 50.0 mm）
- [3] 形状 線の形状を設定します。
- [接合点]
 線の端と端が重なる点の形状を設定します。
 [鋭角]、[面取り]、[角丸]から選びます。
- [破線]
 破線の形状を設定します。
 [平坦]、[丸み]、[四角形]、[三角形]から選びます。
- [開始点]
 線の開始点の形状を設定します。
 [平坦]、[丸み]、[四角形]、[三角形]、[矢印]（線オブジェクトのみ）から選びます。
- [終了点]
 線の終了点の形状を設定します。
 [平坦]、[丸み]、[四角形]、[三角形]、[矢印]（線オブジェクトのみ）から選びます。

[矢印]

[開始点] または [終了点] で [矢印] を選んだときに設定します。
矢印の [角度] および [長さ] を入力します。

[4] 線の種類

線の種類を設定します。

[透明]

色「なし」に設定します。

[単色]

色を設定します。

パレットで使用する色を選びます。

[ハッチ]

線の模様を付けます (ハッチング)。

[イメージ]

画像を取り込みます。

[イメージファイル] または [Web イメージ] にて使用する画像を選択します。

[グラデーション]

グラデーションを設定します。

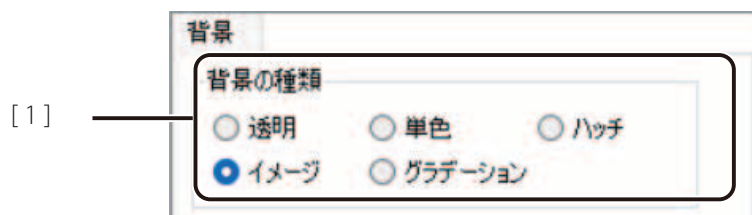


メモ

- 線の種類 [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.235\)](#)」を参照してください。
- 線の種類 [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.236\)](#)」を参照してください。
- 線の種類 [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.238\)](#)」を参照してください。
- 線の種類 [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.242\)](#)」を参照してください。

【背景】プロパティを設定する

【背景】プロパティでは、デザイン全体の背景やオブジェクトの背景について設定します。



[1] 背景の種類

背景の種類を設定します。

【透明】

背景「なし」に設定します。

【単色】

色を設定します。
パレットで使用する色を選びます。

【ハッチ】

線の模様を付けます（ハッチング）。

【イメージ】

画像を取り込みます。
[イメージファイル] または [Web イメージ] にて使用する画像を選択します。

【グラデーション】

グラデーションを設定します。

メモ

- [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.235\)](#)」を参照してください。
- [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.236\)](#)」を参照してください。
- [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.238\)](#)」を参照してください。
- [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.242\)](#)」を参照してください。

5

データベース機能の設定

データベースを活用したラベル作成について説明します。

データベース機能の操作
外部データベースと内部データベース
差し込みカラーテーブルの設定

データベース機能の操作

本ソフトウェアのデータベース機能の操作について説明します。

本ソフトウェアのデータベース機能について

本ソフトウェアでは、Microsoft Excel や Microsoft Access などで作成したデータベースを参照（または読み込み）、文字や画像など可変するオブジェクトにデータベースの情報を反映して表示させることができます。
本機能を活用すると多種多様なラベル印刷を簡単に行うことができます。

データベースの情報を反映することができるオブジェクトは次のようになっています。

- ・テキストオブジェクト
- ・日時オブジェクト
- ・イメージオブジェクト（イメージ / Web イメージ / 差込イメージ）
- ・バーコードオブジェクト
- ・GS1 データバーオブジェクト
- ・二次元コードオブジェクト

データベースを参照（またはインポート）する

外部データベースのときは、参照するデータベースの指定を行い、内部データベースのときは、指定したデータベースの内容を読み込みます。



メモ

- 指定できる「ファイル形式」および「サーバー形式」は次のとおりです。

ファイル形式：

- ・ Microsoft Excel ファイル形式 (*.xls、*.xlsx)
- ・ Microsoft Access データベースファイル (*.mdb、*.accdb) ※1
- ・ テキスト形式 (*.txt、*.csv)

※1 Microsoft Access データベースに OLE オブジェクト型で挿入したファイルは、ビットマップ形式ファイル（.bmp）のみがインポート（または参照）可能

サーバー形式：

- ・ Oracle
- ・ Microsoft SQL Server

- Microsoft Excel ファイル形式の場合、パスワードが設定されている文書は読み込めません。あらかじめパスワードを解除しておいてください。
- 画像ファイルを差し込むときは、データベースに差し込みたい画像ファイルの絶対パス（またはデザインファイル（*.lcl2）からの相対パス）を入力します。入力例は、「[データベースを指定する（P80）](#)」を参照してください。
- 内部データベースとしてインポートするデータベースが Microsoft Access のとき、OLE オブジェクト型の画像ファイル（ビットマップ形式ファイル（.bmp）のみ）を本ソフトウェアのデータベースに取り込むことは可能ですが、本ソフトウェアからは画像の差し替えができません。
- 本ソフトウェアが取り込めるデータベースの項目数は、最大 255 項目までです。
- データベースに文字列と数値が混在している列がある場合は、その列を正しく読み込めないことがあります。
- 外部データベースおよび内部データベースについては、「[外部データベースと内部データベース（P278）](#)」を参照してください。
- データベースのインポートを行わないで、直接内部データベースを作成する場合は、「[内部データベースを編集する（P281）](#)」を参照してください。

1 [データベース] メニューの [データベースインポート] をクリックします。

メモ

- 参照している外部データベースファイルを指定しなおすときは、[データベース] メニューの [データベース参照] をクリックします。
- [データベースインポート] (またはデータベース参照) は、「データベース編集画面」(またはデータベース確認画面) のメニューから選択することもできます。
- 内部データベースが取り込まれた状態で別のデータベースをインポートすると、データベースの保存を確認するメッセージが表示されます。データベースを保存 (エクスポート) するときは [はい] をクリックしてください。データベースの保存については、「[内部データベースをエクスポートする \(P.294\)](#)」を参照してください。

2 データベースの種類を選びます。

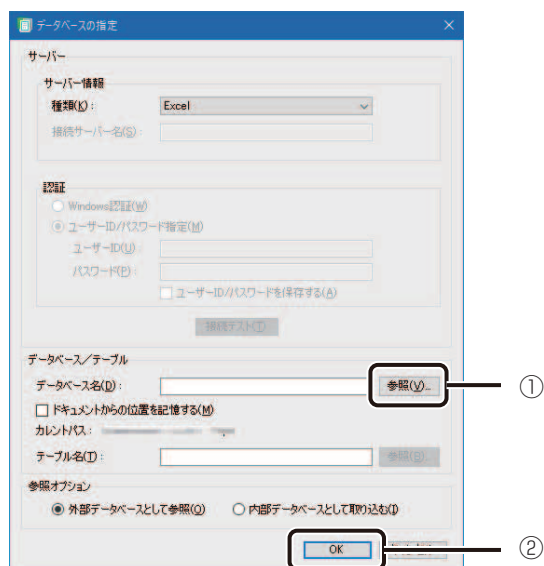
次の 6 種類を選択できます。

[種類]

- ・ Excel
- ・ Access
- ・ Csv
- ・ Text
- ・ Oracle
- ・ Microsoft SQL Server

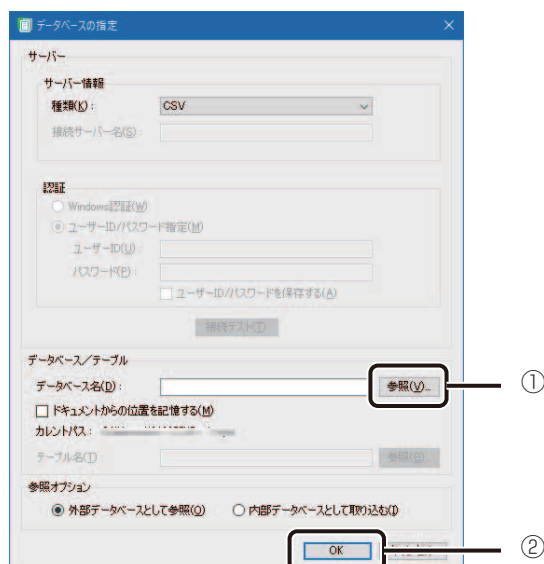
3 次のように操作します。

● 種類「Excel」のとき



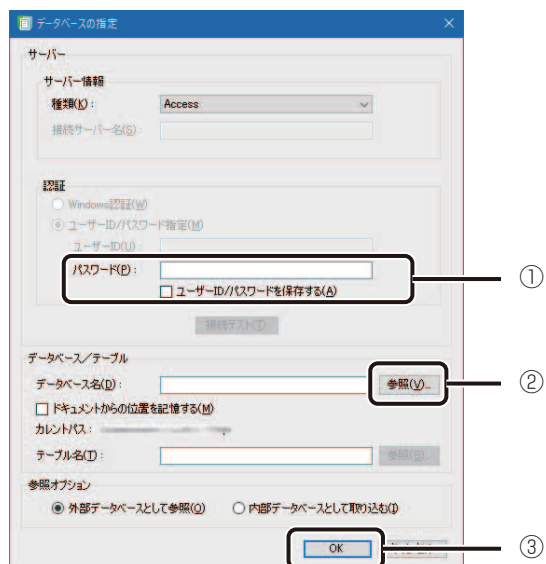
- ① データベース名の [参照] をクリックして、データベースファイルを選び、表示された画面でシートを指定します。
- ② [OK] をクリックします。

● 種類「CSV」、「Text」のとき



- ① データベース名の [参照] をクリックして、データベースファイルを選びます。
- ② [OK] をクリックします。

● 種類「Access」のとき



- ① パスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。



- 「ユーザー ID/ パスワードを保存する」にチェックマークを入れると、ユーザー ID とパスワードを記憶します。

- ② データベース名の [参照] をクリックして、データベースファイルを選び、表示された画面でテーブルを指定します。
- ③ [OK] をクリックします。

● 種類「Oracle」のとき

- ① サーバー名を入力します。
- ② 認証に使用する「ユーザー ID」および「パスワード」を入力します。

メモ

- 「ユーザー ID/ パスワードを保存する」にチェックマークを入れると、ユーザー ID とパスワードを記憶します。
- [接続テスト] をクリックすると、サーバーとの接続を確認することができます。

- ③ データベース名の [参照] をクリックしてテーブルを指定します。
- ④ [OK] をクリックします。

● 種類「Microsoft SQL Server」のとき

- ① サーバー名を入力します。
- ② 認証方法を選びます。
[ユーザー ID/パスワード指定] を選んだ場合は、「ユーザー ID」および「パスワード」を入力します。



- 「ユーザー ID/パスワードを保存する」にチェックマークを入れると、ユーザー ID とパスワードを記憶します。
- [接続テスト] をクリックすると、サーバーとの接続を確認することができます。

- ③ データベース名の [参照] をクリックして、データベースファイルを選び、表示された画面でテーブル名を指定します。
- ④ [OK] をクリックします。

4 データベースの形式を選びます。

データベース形式の初期設定は、「外部データベースとして参照」です。



- 外部データベースおよび内部データベースについては、「外部データベースと内部データベース (P.278)」を参照してください。
- 外部データベースを参照するとき、データベースのファイルパス指定について設定できます。

「ドキュメントからの位置を記憶する」にチェックマークを入れると、デザインファイルを基準とした相対パスでデータベースファイルを保持します。チェックマークを外している場合は、データベースファイルの絶対パスを保持します。

相対パスは、デザインファイルとデータベースファイルを同じフォルダー構成で管理する場合に便利です。絶対パスは、作業中のフォルダー構成に左右されないため、どの場所からでも同じファイルを正確に参照できます。

5 [OK] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

6 データベースを確認したいときは、[はい] をクリックします。



[はい] をクリックすると、データベース確認画面（またはデータベース編集画面）が表示されます。

- 外部データベースのとき
(データベース編集画面)

	A:品名	B:産地	C:入数	D:単位	E:価格	F:コード	G:画像	H:部数
▶	りんご	長野県	3	個	280	123	C:\Program Files\Canon\LabelCreate\Images\apple.jpg	1
	キャベツ	千葉県	1	玉	170	456	C:\Program Files\Canon\LabelCreate\Images\cabbage.jpg	5
	レモン	広島県	4	個	360	789	C:\Program Files\Canon\LabelCreate\Images\lemon.jpg	4
	きゅうり	宮崎県	4	本	280	135	C:\Program Files\Canon\LabelCreate\Images\cucumber.jpg	3
	みかん	愛媛県	5	個	400	246	C:\Program Files\Canon\LabelCreate\Images\mikan.jpg	2

- 内部データベースのとき
(データベース編集画面)

印刷対象	印刷部数	A:品名	B:産地	C:入数	D:単位	E:価格
☐		りんご	長野県	3	個	280
☐		キャベツ	千葉県	1	玉	170
☐		レモン	広島県	4	個	360
☐		きゅうり	宮崎県	4	本	280
☐		みかん	愛媛県	5	個	400

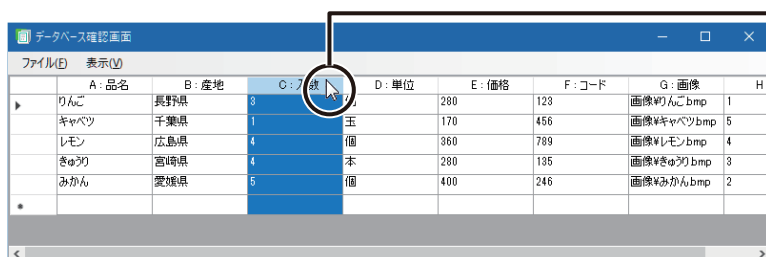
7 内容を確認したら、 (閉じる) をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。

メモ

- データベース確認画面 (またはデータベース編集画面) は、 (または [データベース] メニューの [データベース画面]) をクリックして表示します。

(外部データベースのとき)

- ・表示したデータをソートしたいときは、キーボードの [Alt] キーを押しながら、ソート対象の項目の見出しをクリックします。



[Alt] キー + クリックする。

	A:品名	B:産地	C:数量	D:単位	E:価格	F:コード	G:画像	H:
▶	りんご	長野県	3	個	280	123	画像りんご.bmp	1
	キャベツ	千葉県	1	玉	170	456	画像キャベツ.bmp	5
	レモン	広島県	4	個	360	789	画像レモン.bmp	4
	きゅうり	宮崎県	4	本	280	135	画像きゅうり.bmp	3
	みかん	愛媛県	5	個	400	246	画像みかん.bmp	2

(内部データベースのとき)

- ・指定した条件に該当するデータのみを表示したいときは、レコードの抽出を行います。詳しくは、「[レコードを抽出する \(P.295\)](#)」を参照してください。
- ・表示したデータをソートしたいときは、キーボードの [Alt] キーを押しながら、ソート対象の項目の見出しをクリックします。ただし、レコードの抽出を行っているときは、ソート機能を使用できません。



[Alt] キー + クリックする。

	印刷対象	印刷対象	A:品名	B:産地	C:数量	D:単位	E:価格	F:
▶	☒	3	りんご	長野県	3	個	280	123
	☐		キャベツ	千葉県	1	玉	170	456
	☐		レモン	広島県	4	個	360	789
	☐		きゅうり	宮崎県	4	本	280	135
	☐		みかん	愛媛県	5	個	400	246

データベースの差分をインポートする

内部データベースに新規のレコード情報を追加したり、特定のレコード情報のみを上書きしたりすることができます。



メモ

- 指定できる「ファイル形式」および「サーバー形式」は次のとおりです。

ファイル形式：

- ・ Microsoft Excel ファイル形式 (*.xls、*.xlsx)
- ・ Microsoft Access データベースファイル (*.mdb、*.accdb) ※¹
- ・ テキスト形式 (*.txt、*.csv)

※¹ Microsoft Access データベースに OLE オブジェクト型で挿入したファイルは、ビットマップ形式ファイル (.bmp) のみがインポート（または参照）可能

サーバー形式：

- ・ Oracle
- ・ Microsoft SQL Server

- Microsoft Excel ファイル形式の場合、パスワードが設定されている文書は読み込めません。あらかじめパスワードを解除しておいてください。
- 差分インポートで指定したファイルと内部データベース間で、データベースの項目名およびその項目名の並び順が異なるときは、差分インポートができません。

1 新規のレコード情報、または更新したいレコード情報のデータベースファイルを作成します。

データベースの項目名およびその項目名の並び順は、既存の内部データベースと同じにしてください。

ここでは、「青果ラベル.xlsx」の「特売」シートの情報を追加します。

2 [データベース] メニューの [差分インポート] をクリックします。

3 データベースの種類を選びます。

ここでは、「Excel」を選びます。

4 データベース名の [参照] をクリックして、差分情報が入力されたデータベースファイルを選びます。

メモ

- Microsoft Excel ファイル以外のデータベースファイルを指定する手順について、詳しくは「[データベースを参照（またはインポート）する（P.262）](#)」を参照してください。

5 データベースファイルを選び、[開く] をクリックします。

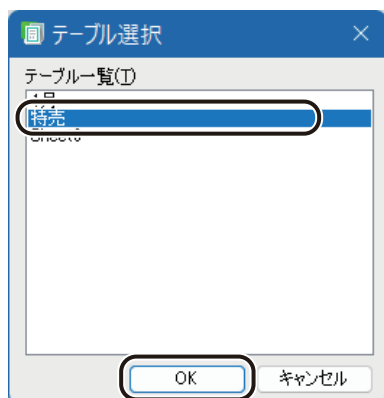
ここでは、「青果ラベル.xlsx」を選びます。

[テーブル選択] ダイアログボックスが表示されます。

6 シート（またはテーブル）を指定し、[OK] をクリックします。

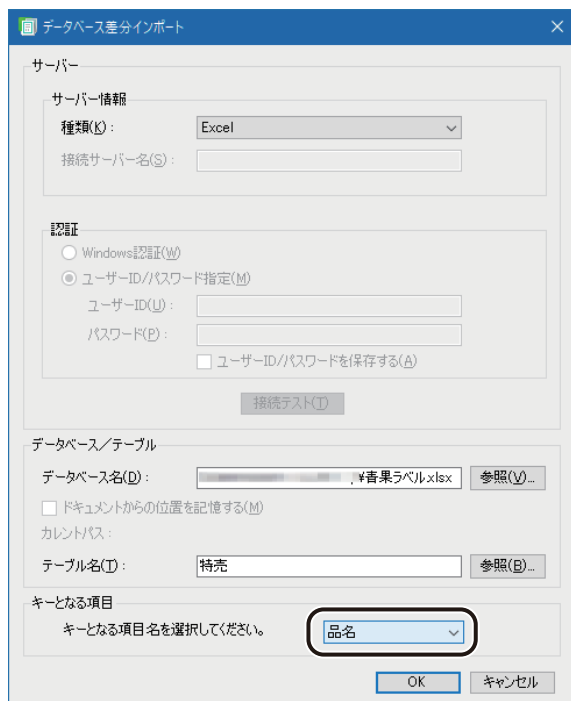
[テーブル一覧] には、参照したデータベースのシートの一覧が表示されます。

ここでは、「特売」を選びます。



7 キーとなる項目名を選びます。

デザインファイル内のレコードを上書きするか、新規レコードとして追加するかを判断する項目を選びます。



例えば、キーとなる項目を「品名」とした場合、デザインファイル内のデータベースの項目「品名」と、差分インポートするデータベースの項目「品名」をインポート時に比較し、次のように動作します。

● 「品名」が一致したとき

一致したレコードを差分インポートした情報で上書き保存します。

（デザインファイルのデータベース）

品名	項目 1	項目 2	項目 3
A	a1	a2	a3
B	b1	b2	b3
C	c1	c2	c3

（差分インポートのデータ）

品名	項目 1	項目 2	項目 3
A	x1	a2	a3



（差分インポート後のデザインファイルのデータベース）

品名	項目 1	項目 2	項目 3
A	x1	a2	a3
B	b1	b2	b3
C	c1	c2	c3

※ 一致した「品名」→「A」
青色部分が上書きされたデータ

● 「品名」が一致しないとき

新規レコードとして情報を追加します。

（デザインファイルのデータベース）

品名	項目 1	項目 2	項目 3
A	a1	a2	a3
B	b1	b2	b3
C	c1	c2	c3

（差分インポートのデータ）

品名	項目 1	項目 2	項目 3
D	d1	d2	d3



（差分インポート後のデザインファイルのデータベース）

品名	項目 1	項目 2	項目 3
A	a1	a2	a3
B	b1	b2	b3
C	c1	c2	c3
D	d1	d2	d3

※ 一致しない「品名」→「D」
青色部分が追加されたデータ

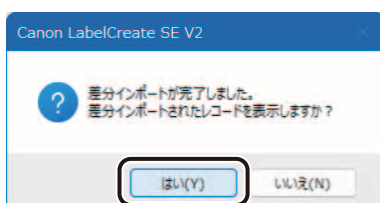
8 [OK] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

メモ

- 差分インポートで指定したデータベースファイルとデザインファイル内のデータベース間で、データベースの項目名およびその項目名の並び順が異なる場合は、差分インポートができません。差分インポートで指定したデータベースファイルを修正してください。

9 データベースを確認したいときは、[はい] をクリックします。

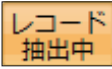


[はい] をクリックすると、追加または更新されたデータのみが抽出された状態でデータベース編集画面が表示されます。また、[抽出解除] をクリックすると、すべてのデータが表示されます。



10 内容を確認したら、 (閉じる) をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。

メモ

- データベースは、[抽出解除] をクリックするまで、追加または更新されたデータのみが抽出された状態で表示されます。すべてのデータを表示したいときは、[抽出解除] をクリックしてください。ダイアログボックスを閉じてでも抽出は解除されません。
- データベースが抽出している状態のときは、標準ツールバーに  が表示されます。ボタンをクリックすると、データベースの抽出は解除されます。

データベースを解除（または削除）する

外部データベースのときは、参照しているデータベースを解除し、内部データベースのときは、読み込んだデータベースを削除します。

1 データベースの形式に合わせて、次のように操作します。

- 外部データベースのとき
[データベース] メニューの [データベース解除] をクリックします。
- 内部データベースのとき
[データベース] メニューの [データベース削除] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

2 [OK] をクリックします。

データベースが解除（または削除）されます。



- 内部データベースが取り込まれた状態で [データベース削除] を行うと、データベースの保存を確認するメッセージが表示されます。データベースの保存については、「[内部データベースをエクスポートする \(P.294\)](#)」を参照してください。
- 内部データベースの場合は、「データベース編集画面」を開き、[ファイル] メニューの [データベース削除] から選択することもできます。

差し込み形式に設定する

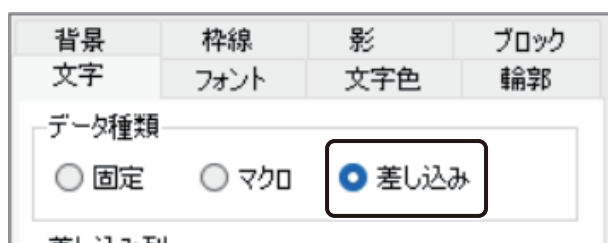
オブジェクトにデータベースの項目を差し込み形式で設定します。

1 データベースをインポート（または参照）します。

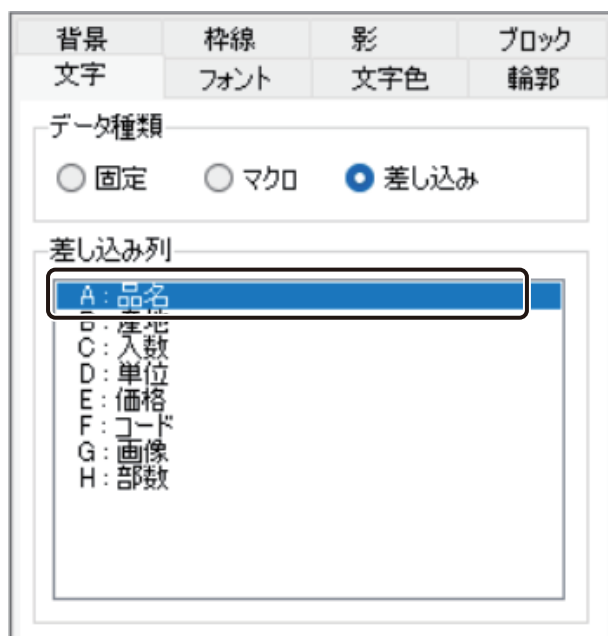
⇒「データベースを参照（またはインポート）する（P.262）」

2 データベースの項目を設定するオブジェクトを選びます。

3 [データ種類] で [差し込み] を選びます。



4 [差し込み列] からオブジェクトに割り当てる項目を選びます。



- 項目の見出し（列タイトル）が入力されていないデータは「差し込み」が設定できません。

外部データベースと内部データベース

データベース形式の設定とそれぞれのデータベースの編集のしかたについて説明します。

「外部データベース」と「内部データベース」について

本ソフトウェアは、データベースの形式として、「外部データベース」と「内部データベース」を選択できるようになっています。

<外部データベース>

「Microsoft Excel」や「Microsoft Access」などで作成した既存のデータベースファイルから内容を参照します。既存のデータベースファイルを参照してラベル作成に利用するため、ラベル作成用として別のデータベースを管理する必要がありません。そのため、ひとつのデータベースファイルで「データ管理」と「ラベル作成」の2つの目的を兼ねることができます。

<内部データベース>

「Microsoft Excel」や「Microsoft Access」などで作成した既存のデータベースファイルの内容を本ソフトウェア内に読み込みます（インポート）。

内部データベースは、デザインファイル内に保持されるデータベースのため、本ソフトウェア上で内容の編集が可能です。ラベル作成専用のデータベースとして管理する場合に選びます。



メモ

- 外部データベース形式を設定しているデザインファイルは、内部データベース形式を設定しているデザインファイルに比べて、ファイルを開くときに時間がかかります。

外部データベースを参照する

外部データベース形式で設定したデータベースの参照方法について説明します。

1 標準ツールバー をクリックします。

または、[データベース] メニューの [データベース画面] をクリックします。

[データベース確認画面] ダイアログボックスが表示されます。

2 データベースを表示します。

● [ファイル] メニュー

[データベース参照]	参照するデータベースを指定します。 ⇒「データベースを参照（またはインポート）する（P262）」
[印刷]	印刷ダイアログボックスを表示します。 ⇒「印刷する（P328）」
[終了]	ダイアログボックスを閉じます。

● [表示] メニュー

[画像プレビュー]	Microsoft Access、Oracle SQL Server などのデータベースに画像ファイルデータ（バイナリ形式）が登録されている場合に有効になります。 * 参考：バイナリ形式のデータ型 - Microsoft Access: 「OLE オブジェクト」型 - Oracle: 「BLOB」型 - SQL Server: 「varbinary(max)」型
デザイン差し込み連動	チェックマークが付いているときは、常にデザインエリアの表示が最新に更新されます。 チェックマークを外しているときは、デザインエリアの表示が自動では更新されないため、表示を更新する場合は、作業画面の [表示] メニューから [差し込みデータ更新] をクリックします。

外部データベースの参照情報を更新する

更新された外部データベース情報を本ソフトウェアに反映する方法について説明します。

1 参照元のデータベースを編集します。

2 [データベース] メニューの [データベース更新] をクリックします。

または、キーボードの「F5」をクリックします。



メモ

- デザインファイルを閉じている状態で参照元のデータベースの内容を変更したときは、再度ファイルを開いたときに自動で更新が行われます。

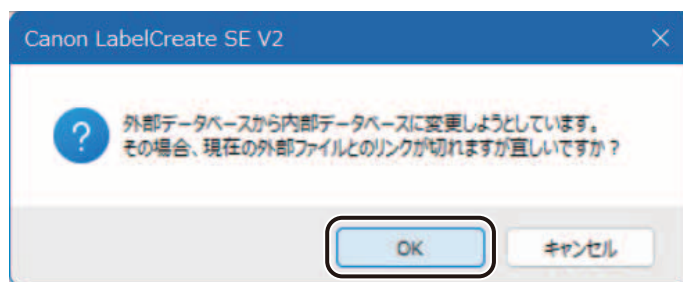
内部データベースに変更する

参照している外部データベースを内部データベースに変更します。

1 [データベース] メニューの [内部データベースとして取り込む] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

2 [OK] をクリックします。



内部データベースに変更されます。

内部データベースを編集する

内部データベース形式で設定したデータベースの編集について説明します。

1 標準ツールバー をクリックします。

または、[データベース] メニューの [データベース画面] をクリックします。

[データベース編集画面] が表示されます。

2 データを編集します。



● [ファイル] メニュー

[データベースエクスポート]	データベースを任意のファイル形式で保存します。 ⇒「内部データベースをエクスポートする (P.294)」
[データベースインポート]	データベースを読み込みます。 ⇒「データベースを参照 (またはインポート) する (P.262)」
[データベース削除]	データベースを削除します。 ⇒「データベースの差分をインポートする (P.271)」
[印刷]	印刷ダイアログボックスを表示します。 ⇒「印刷する (P.328)」
[終了]	ダイアログボックスを閉じます。

● [編集] メニュー

[元に戻す]	直前に実行した操作を無効とします。
[やり直し]	「元に戻す」で無効にした操作を、再び有効にします。
[切り取り]	選んでいるセルを切り取ります。
[コピー]	選んでいるセルをコピーします。
[貼り付け]	コピーしたセルを貼り付けます。
[クリア]	選んでいるセルの内容を削除します。クリアしたセルは、空白セルとなります。

【削除】	選んでいる行または列を削除します。行または列を削除すると、自動的に上方向または左方向にシフトします。
【列タイトルの設定】	列のタイトルを設定します。 ⇒「列タイトルを設定する (P.283)」
【データ項目設定】	【データ項目フォーマット設定】ダイアログボックスを表示し、データの項目数と種類（データ型）を設定します。 ⇒「データベースの項目とデータ型を設定する (P.284)」
【画像一括取り込み】	画像の参照先パスを、指定した項目のセルに一括で設定します。 ⇒「画像を一括で設定する (P.286)」
【検索】	データベースから任意の文字列を検索します。 ⇒「文字列を検索する (P.290)」
【置換】	データベースから任意の文字列を検索し、指定した文字列に置換します。 ⇒「文字列を置換する (P.291)」



メモ

- 【切り取り】、【コピー】、【貼り付け】、【クリア】、【削除】、【列タイトルの設定】、【画像一括取り込み】は、右クリックで表示されるメニューから設定することもできます。

● 【表示】メニュー

【画像プレビュー】	データベース内の画像データをプレビュー表示します。データ型が「画像」の場合に有効になります。 ⇒「データベースの項目とデータ型を設定する (P.284)」
デザイン差し込み連動	チェックマークが付いているときは、常にデザインエリアの表示が最新に更新されます。 チェックマークを外しているときは、デザインエリアの表示が自動では更新されないため、表示を更新する場合は、作業画面の【表示】メニューから【差し込みデータ更新】をクリックします。

● 【挿入】メニュー

【セル】	セルを挿入します。 【セル挿入方法】ダイアログボックスが表示されますので、周辺のセルをシフトする方向を選びます。
【行】	行を挿入します。
【列】	列を挿入します。
【イメージを開く】	【イメージファイルの選択】ダイアログボックスを表示して、登録する画像ファイルを指定します。データ型が「画像」の場合に有効になります。
【Web イメージを開く】	【Web イメージの選択】ダイアログボックスを表示して、ストックフォトサービスより登録する画像をダウンロードします。データ型が「画像」の場合に有効になります。



メモ

- 【挿入】メニューは、右クリックで表示されるメニューから設定することもできます。

● [オプション] メニュー

[印刷部数の設定を有効にする]	データベースごとに印刷部数を設定した印刷をするときにチェックマークを入れます。 ⇒「データベース編集画面から指定する (P346)」
[印刷部数設定]	印刷部数を入力するダイアログボックスが表示されます。[印刷部数の設定を有効にする] にチェックマークがあるときのみ表示されます。
[印刷フォーム切り替え設定]	レコードごとに印刷するフォームを切り替えることができます。複数のフォームがあるときに有効になります。 ⇒「フォームを指定して印刷する (P353)」

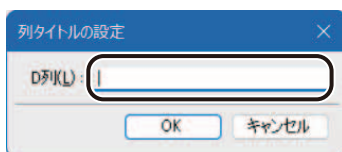
- 3** データベースの編集が完了したら、 (閉じる) をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。
または、[ファイル] メニューの [終了] をクリックします。

■ 列タイトルを設定する

- 1** 設定する項目の見出しをクリックします。
選んだ項目が選ばれます。

- 2** [編集] メニューの [列タイトルの設定] をクリックします。
[列タイトルの設定] ダイアログボックスが表示されます。

- 3** 列タイトル名を入力します。



- 4** [OK] をクリックします。



メモ

- 列タイトルの設定は、次のいずれかでも設定できます。
 - ・ 右クリックで表示されるメニューから選ぶ。
 - ・ 項目の見出しをダブルクリックして設定する。
- 列タイトルが入力されていないデータは [差し込み] が設定できません。

■ データベースの項目とデータ型を設定する

データベースに登録するデータの項目数と種類（データ型）を設定します。
各項目に対して、データ型を指定することで間違った入力を防ぐことができます。

1 [編集] メニューの [データ項目設定] をクリックします。

[データ項目フォーマット設定] ダイアログボックスが表示されます。

2 データ項目数を設定します。

データ項目数は、1 ～ 255 の範囲で指定します。

現在の項目数より数値を大きくすると、一番右側に列が追加されます。

現在の項目数より数値を小さくすると、一番右側の列から削除されます。

3 データ型を設定します。

データ型	内容
テキスト	データをそのまま表示します。
数値	数値を表示します。数値以外が入力されていた場合は、データが削除されて空欄になります。

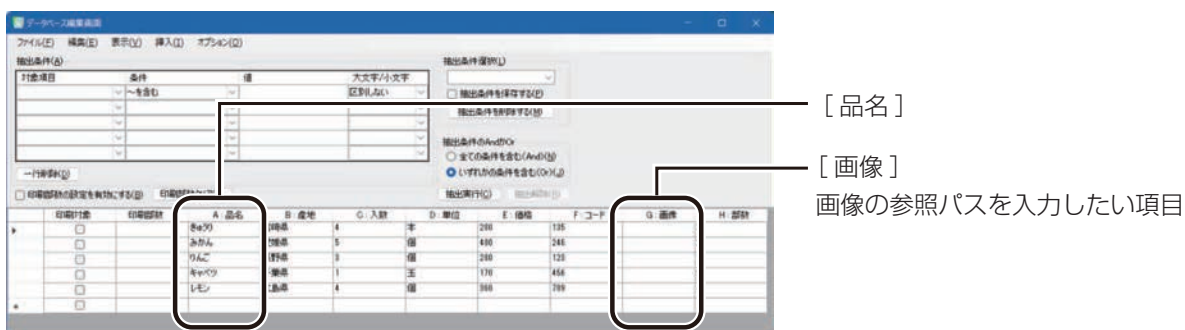
データ型	内容
日時	「日時書式設定」で設定されたフォーマットで表示します。実際の表示は、「日時プレビュー」で確認できます。 日時に変換できないデータが入力されていた場合は、データが削除されて空欄になります。 日時書式設定 日時プレビュー: 2025/01/02 03:04:05 種類(T): 日時 ▼ ☒ 西暦表示(W) 4桁数字 ▼ ☐ 和暦表示(J) 2字漢字 + 2桁数字 ▼ 区切り表示(S): / ▼ 桁埋め表示(P): 0 ▼ [種類] 日時 / 日付 / 時間から選びます。 [西暦表示] [和暦表示] 西暦 / 和暦のいずれかを選びます。 [区切り表示] 日時を区切る記号を選びます。 例) 「.(ピリオド)」を選んだ場合 2024/12/2 17:41:31 → 2024.12.2 17:41:31 [桁埋め表示] 「0」(ゼロ)または半角スペースを追加して表示します。 例) 「0(ゼロ)」を選んだ場合 2024/12/2 17:41:31 → 2024/12/02 17:41:31
画像	画像ファイルのパス (または画像プレビュー) を表示します。 画像パス設定 ☒ フルパス(F) ☐ 相対パス(R) 画像ファイルのパスは、「画像パス設定」で「フルパス」または「相対パス」を選びます。ただし、保存されていない「無題」ドキュメントの場合は、「相対パス」は選択できません。 [表示]メニューの[画像プレビュー]のチェックマークあり / なしにより、以下のように表示します。 チェックマークあり: 画像ファイルのパスを表示します。 チェックマークなし: 画像プレビューを表示します。 プレビューできない場合は  を表示します。

4 設定が完了したら、[適用] をクリックします。

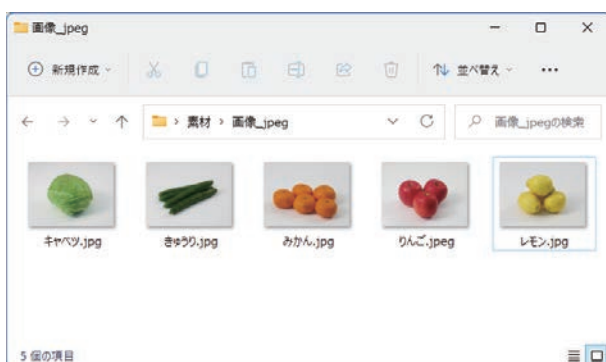
■ 画像を一括で設定する

画像の参照先パスを、指定した項目のセルに一括で設定します。
ここでは、以下の場合を例に説明します。

・ データベース

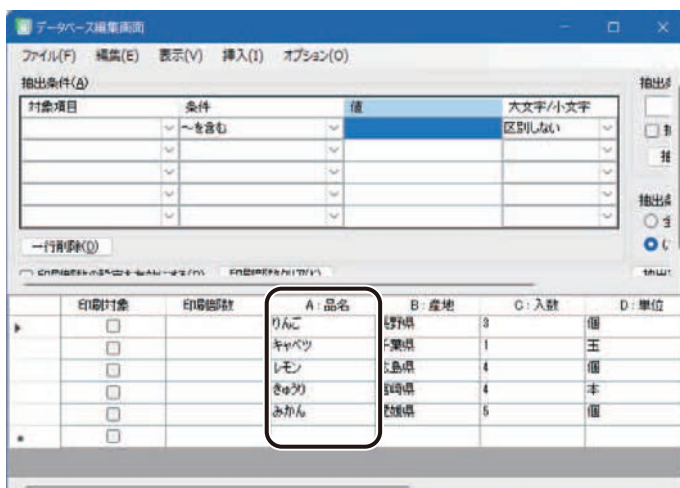


・ 画像ファイル（ファイル名は「品名」）



1 画像ファイル名の項目をデータベースに入力します。

画像ファイル名の項目を既存の項目から選択するときは、「手順 2」から操作します。



2 [編集] メニューの [画像一括取り込み] をクリックします。

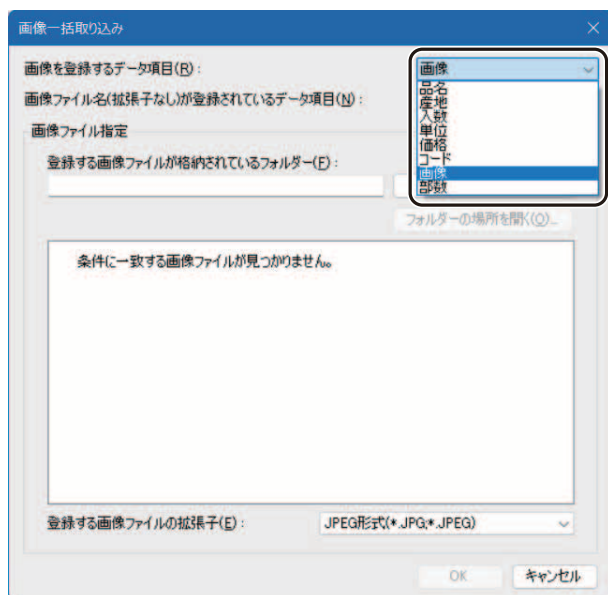
[画像一括取り込み] ダイアログボックスが表示されます。

メモ

- 画像一括取り込みは、設定したい項目のセルを右クリックして、表示されたメニューから設定することもできます。

3 画像を登録する項目をドロップダウンリストより選びます。

ここでは「画像」を選びます。

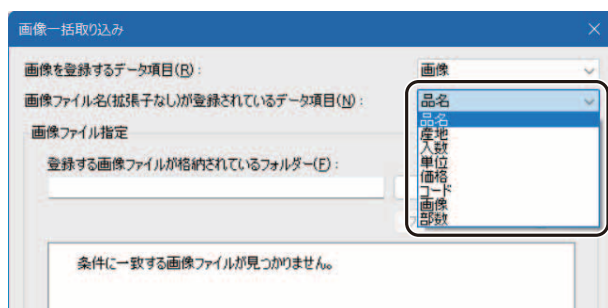


メモ

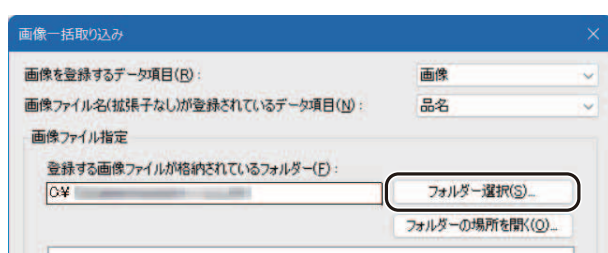
- 手順 2 にて右クリックで表示されるメニューから実行した場合は、選んだセルの列タイトルが初期値になります。

4 画像ファイルの検索条件となる項目をドロップダウンリストより選びます。

ここでは「品名」を選びます。



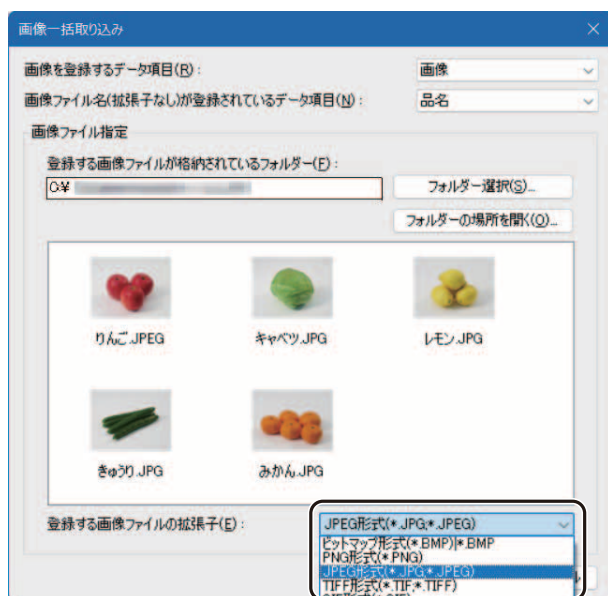
5 「フォルダー選択」をクリックし、画像ファイルが格納されているフォルダーを指定します。



条件に一致する画像ファイルがプレビューされます。

6 画像ファイルの拡張子を選びます。

ここでは「JPEG 形式 (*JPG, *JPEG)」を選びます。



- プレビューは最大 100 件表示します。条件に一致するファイルが 100 件を超える場合は、先頭の 100 件のみを表示します。

7 [OK] をクリックします。

手順 3 で選んだ項目のセルに、手順 4 で設定した項目のデータと一致した画像ファイル名のパスが設定されます。画像ファイルのパスが取り込まれたセルは青色で表示されます。



メモ

- JPEG 形式 (*.JPG, *.JPEG) と TIFF 形式 (*.TIF, *.TIFF) の場合、ファイル名の重複があったときは「取り込みファイルの選択」画面が表示されます。画像ファイルを選び、「取り込む」をクリックしてください。



- ・いずれの画像も取り込まない場合は「スキップ」をクリックします。
- ・「同じ処理を以降の重複時に適用」にチェックマークを入れて「取り込む」をクリックすると、再度ファイル名の重複が見つかった場合でも同じ処理を行います。

■ 文字列を検索する

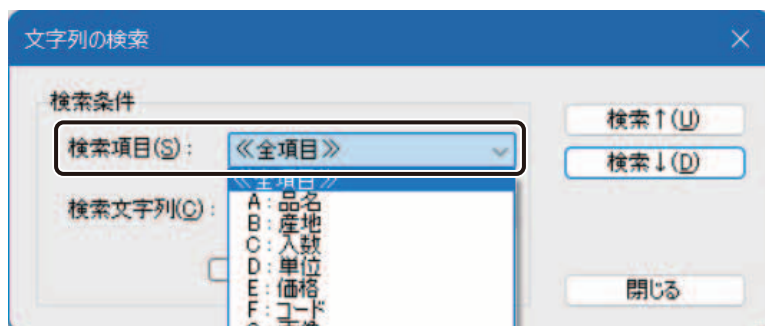
ここでは、データベースから「千葉県」を検索する操作を例とします。

1 [編集] メニューの [検索] をクリックします。

[文字列の検索] ダイアログボックスが表示されます。

2 検索対象の項目を指定します。

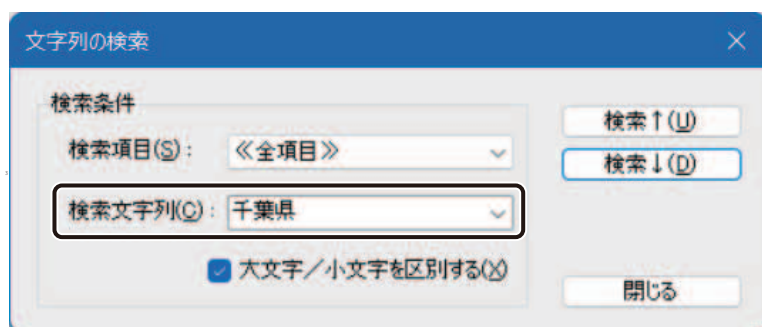
データベース全体を検索するときは、「全項目」を、ある特定の項目内を検索するときは、対象の項目を指定します。



3 [検索文字列] を入力します。

ここでは、「千葉県」と入力します。

大文字と小文字が一致するデータだけを検索するときは、[大文字 / 小文字を区別する] にチェックマークを入れます。



- 入力ボックスのドロップダウンリストから検索文字列の履歴を選択することもできます。

4 [検索↑] または [検索↓] をクリックします。



[検索↑]

現在選択されているセル（青色セル）から上のレコードを検索します。

[検索↓]

現在選択されているセル（青色セル）から下のレコードを検索します。

5 [閉じる] をクリックします。

■ 文字列を置換する

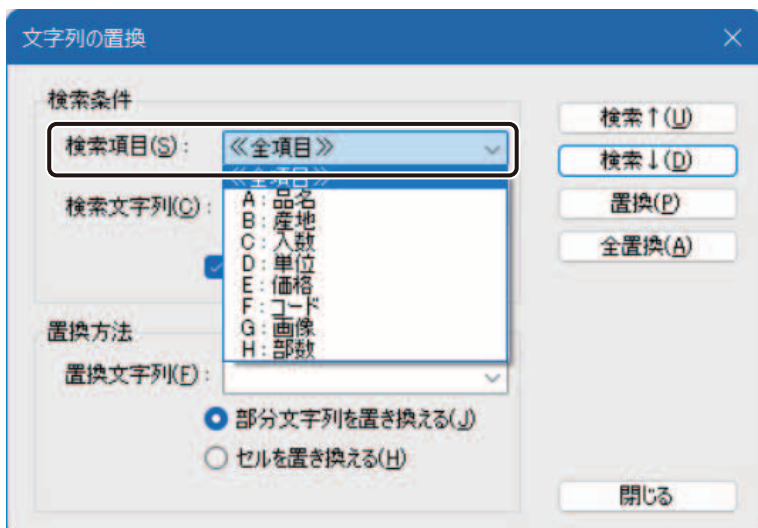
ここでは、データベースから「千葉県」を検索して「茨城県」に置換する操作を例とします。

1 [編集] メニューの [置換] をクリックします。

[文字列の置換] ダイアログボックスが表示されます。

2 検索対象の項目を指定します。

データベース全体を検索するときは、「全項目」を、ある特定の項目内を検索するときは、対象の項目を指定します。



3 [検索文字列] を入力します。

メモ

- 大文字と小文字が一致するデータだけを検索するときは、[大文字 / 小文字を区別する] にチェックマークを入れます。
- 入力ボックスのドロップダウンリストから検索文字列の履歴を選択することもできます。

4 [置換文字列] を入力し、文字列の置換形式を選びます。

[部分文字列を置き換える]

一致する部分の文字列だけを置換します。

[セルを置き換える]

検索文字列を含むセルのデータを置換文字列で置換します。

メモ

- 入力ボックスのドロップダウンリストから置換文字列の履歴を選択することもできます。

5 [検索↑] または [検索↓] をクリックします。



[検索↑]

現在選択されているセル（青色セル）から上のレコードを検索します。

[検索↓]

現在選択されているセル（青色セル）から下のレコードを検索します。

6 [置換] または [全置換] をクリックします。



[置換]

現在検索した文字列を置換します。

[全置換]

検索文字列と一致するデータベース内の文字列をすべて置換します。全置換すると、置換した数を表示メッセージが表示されます。

7 [閉じる] をクリックします。

■ 内部データベースをエクスポートする

1 [ファイル] メニューの [データベースエクスポート] をクリックします。

[データベースファイルの保存] ダイアログボックスが表示されます。

2 [保存場所]、[ファイル名] および [ファイルの種類] を指定します。



- 保存できるファイル形式は次のとおりです。

・ Excel ブック 形式 (*.XLSX)	・ CSV (カンマ区切り) 形式 (*.CSV)
・ Excel 5.0/95 ブック形式 (*.XLS)	・ TEXT 形式 (*.TXT)

3 [保存] をクリックします。



- エクスポートした内部データベースのインポート操作については、「[データベースを参照 \(またはインポート\) する \(P.262\)](#)」を参照してください。
- データベースのレコード (行) を削除する場合は、右クリックで表示されるメニューから [削除] を選んでください。
[Delete] キーを押してレコードを削除した場合、セル内のデータはクリアされますが行自体は削除されません。そのため、Excel ブック 形式 (*.XLSX) または Excel 5.0/95 ブック 形式 (*.XLS) のデータベースでエクスポートすると、空欄のレコード (行) の情報が残るため、再度データベースをインポートしたときに空欄のレコード (行) が読み込まれます。

レコードを抽出する

内部データベースのとき、データベースから指定した条件に該当するレコードを抽出して表示します。

1 標準ツールバー をクリックします。

または、[データベース] メニューの [データベース画面] をクリックします。
[データベース編集画面] が表示されます。

2 「抽出条件」を入力します。

1 回の抽出に対して、5 件まで条件を指定することができます。



データベース編集画面の抽出条件設定ダイアログボックスのスクリーンショット。ダイアログには「抽出条件(A)」と「抽出条件選択(L)」のセクションがあります。抽出条件(A)には、対象項目、条件、値、大文字/小文字の列があります。抽出条件選択(L)には、抽出条件を保存する(P)、抽出条件を削除する(M)、抽出条件のAnd/Orのラジオボタン、抽出実行(C)、抽出解除(B)があります。下部にはデータベースのテーブルビューが表示されています。

対象項目	条件	値	大文字/小文字
価格	指定値以下(≤)	300	区別しない

	印刷対象	印刷回数	A:品名	B:産地	C:入数	D:単位	E:価格	F:コード
▶	☐		りんご	長野県	3	個	280	123
	☐		キャベツ	千葉県	1	玉	170	456
	☐		レモン	広島県	4	個	360	789
	☐		きゅうり	宮崎県	4	本	280	135
	☐		みかん	愛媛県	5	個	400	246
*	☐							

[対象項目]

抽出対象の項目を指定します。

[条件]

抽出の条件を次のいずれかから選びます。

[一致] [～を含む] [～を含まない] [指定値より大きい(>)]
[指定値以上(≥)] [指定値以下(≤)] [指定値未満(<)]

[値]

抽出する文字列または数値を入力します。

[大文字 / 小文字]

大文字と小文字を区別するか、しないかを指定します。



- 抽出条件を削除するときは、削除したい条件を選んでから [一行削除] をクリックします。
- 大文字と小文字の区別に関係しない抽出のときは、[大文字 / 小文字] の指定は必要ありません。

3 複数の条件を設定する場合は、次を選びます。

データベース編集画面

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) オプション(O)

抽出条件(A)

対象項目	条件	値	大文字/小文字
価格	指定値以下(≤)	300	区別しない
産地	一致	千葉県	区別しない

抽出条件選択(L)

抽出条件を保存する(P) ☐

抽出条件を削除する(M) ☐

抽出条件のAndかOr

☒ 全ての条件を含む(And)(N)

☐ いずれかの条件を含む(Or)(J)

抽出実行(C) 抽出解除(R)

[全ての条件を含む (And)]

全ての条件に一致するデータを抽出するとき。

[いずれかの条件を含む (Or)]

いずれかの条件に一致するデータを抽出するとき。

4 抽出条件を保存するときは「抽出条件選択」の入力ボックスに名称を入力し、「抽出条件を保存する」にチェックマークを入れます。

抽出条件を保存しないときは手順 5 へ進みます。

データベース編集画面

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) オプション(O)

抽出条件(A)

対象項目	条件	値	大文字/小文字
価格	指定値以下(≤)	300	区別しない
産地	一致	千葉県	区別しない

抽出条件選択(L)

特売品 千葉県

抽出条件を保存する(P) ☒

抽出条件を削除する(M) ☐

抽出条件のAndかOr

☒ 全ての条件を含む(And)(N)

☐ いずれかの条件を含む(Or)(J)

抽出実行(C) 抽出解除(R)

	印刷対象	印刷回数	A:品名	B:産地	C:入数	D:単位	E:価格	F:コード
	☐		りんご	長野県	3	個	280	123
	☐		キャベツ	千葉県	1	玉	170	456
	☐		レモン	広島県	4	個	360	789
	☐		きゅうり	宮崎県	4	本	280	135
	☐		みかん	愛媛県	5	個	400	246

メモ

- よく利用する抽出条件を保存しておくと、[抽出条件選択] から選んで使用することができます。また、抽出条件を削除したいときは、[抽出条件選択] から削除する抽出条件を選んで [抽出条件を削除する] をクリックします。
- 保存した抽出条件は、[レコード選択] ダイアログボックスの抽出機能でも選択することができます。[レコード選択] ダイアログボックスの抽出機能については、「[\[レコード選択\] ダイアログボックスの抽出設定について \(P342\)](#)」を参照してください。
- 既存の抽出条件と同じ名称で保存した場合は、上書き保存を確認するメッセージが表示されます。上書き保存するときは [OK] をクリックしてください。

5 [抽出実行] をクリックします。

データベース編集画面

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) オプション(O)

抽出条件(A)

対象項目	条件	値	大文字/小文字
価格	指定値以下(≤)	300	区別しない
産地	一致	千葉県	区別しない

抽出条件選択(L)

特売品 千葉県

☒ 抽出条件を保存する(P)

☐ 抽出条件を削除する(M)

抽出条件のAndかOr

☒ 全ての条件を含む(And)(N)

☐ いずれかの条件を含む(Or)(J)

抽出実行(C) (抽出解除(B))

☐ 印刷部数の設定を有効にする(B) ☐ 印刷部数クリア(K)

	印刷対象	印刷部数	A:品名	B:産地	C:入数	D:単位	E:価格	F:コード
▶	☐		りんご	長野県	3	個	280	123
	☐		キャベツ	千葉県	1	玉	170	456
	☐		レモン	広島県	4	個	360	789
	☐		きゅうり	宮崎県	4	本	280	135
	☐		みかん	愛媛県	5	個	400	246
*	☐							

抽出実行すると、条件によって抽出されたレコードが表示されます。

メモ

- ダイアログボックスを閉じても抽出は解除されません。抽出を解除するときは、[抽出解除] をクリックします。
- データベースが抽出している状態のときは、標準ツールバーに **レコード抽出中** が表示されます。ボタンをクリックすると、データベースの抽出は解除されます。
- 抽出を解除すると、印刷部数および印刷対象の設定も解除されます。
- データベース編集画面からの印刷については、⇒「データベース編集画面から指定する (P.346)」を参照してください。

差し込みカラーテーブルの設定

差し込みカラーテーブルの設定について説明します。

差し込みカラーテーブルを使うと、オブジェクトの線、塗潰し、および文字の色などをデータごとに変えることができます。また、登録したカラーテーブルは、エクスポート/インポートを行うことによって、別の環境にインストールされた本ソフトウェアで利用することができます。

ここでは、第2章で作成した商品ラベルのデザインファイル（ファイル名：Sample_2.lc2）を使って、次のような商品ラベルを作成します。

<完成例>



カラーテーブルセットを作成する

差し込みカラーテーブルの設定する前に、カラーテーブルセットを作成します。カラーテーブルセットは、10 個作成できます。

また、カラーテーブルセットの作成は、色を指定する方法として以下の 2 種類から選ぶことができます。

⇒「色の指定をカラーテーブルで行う (P.299)」

⇒「色の指定をデータベースの項目で行う (P.303)」

■ 色の指定をカラーテーブルで行う

ここでは、文字列「りんご」を設定したカラーテーブルセットを作成する手順を例に説明します。

1 [データベース] メニューから [差し込みカラーテーブル] を選びます。

[差し込みカラーテーブル設定] ダイアログボックスが表示されます。

2 作成するカラーテーブルセットを選びます。

カラーテーブルセットは、A ～ J の 10 個を作成できます。

ここでは、「B」を選びます。

差し込みカラーテーブル設定

カラーテーブルセット

☐ A(A) ☒ B(B) ☐ C(C) ☐ D(D) ☐ E(E)

☐ F(F) ☐ G(G) ☐ H(H) ☐ I(I) ☐ J(J)

対象項目

対象項目(S):

既定色

非該当時の既定色(L):

色指定方法

☒ カラーテーブルを使用する(T) ☐ 対象項目の値を使用する(V)

カラーテーブル(K)

1		完全一致	
2		完全一致	
3		完全一致	
4		完全一致	
5		完全一致	
6		完全一致	
7		完全一致	
8		完全一致	

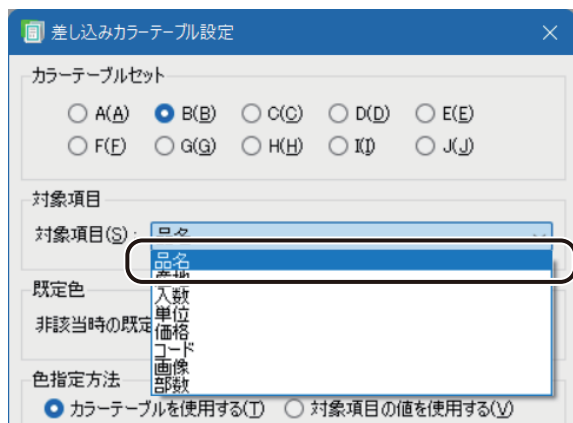
カラーテーブル入出力

エクスポート(X)... インポート(N)...

OK キャンセル

3 [対象項目] で色を判定する条件となる項目を選びます。

ここでは、「品名」を選びます。



4 [既定色] でカラーテーブルと一致しないデータの表示色を設定します。

▼ をクリックすると、パレットが表示されます。

ここでは、□ (白色) を選びます。



① クリックする。

② クリックする。

5 [色指定方法] で「カラーテーブルを使用する」を選びます。

色指定方法

☒ カラーテーブルを使用する(T) ☐ 対象項目の値を使用する(V)

カラーテーブル(K)

1		完全一致	▼	▼
2		完全一致	▼	▼
3		完全一致	▼	▼
4		完全一致	▼	▼
5		完全一致	▼	▼
6		完全一致	▼	▼
7		完全一致	▼	▼
8		完全一致	▼	▼

カラーテーブル入出力

エクスポート(X)... インポート(N)...

OK キャンセル

6 入力ボックスに文字列を入力します。

ここでは、「りんご」を入力します。

色指定方法

☒ カラーテーブルを使用する(T) ☐ 対象項目の値を使用する(V)

カラーテーブル(K)

1	りんご	完全一致	▼	▼
2		完全一致	▼	▼
3		完全一致	▼	▼
4		完全一致	▼	▼
5		完全一致	▼	▼
6		完全一致	▼	▼
7		完全一致	▼	▼
8		完全一致	▼	▼

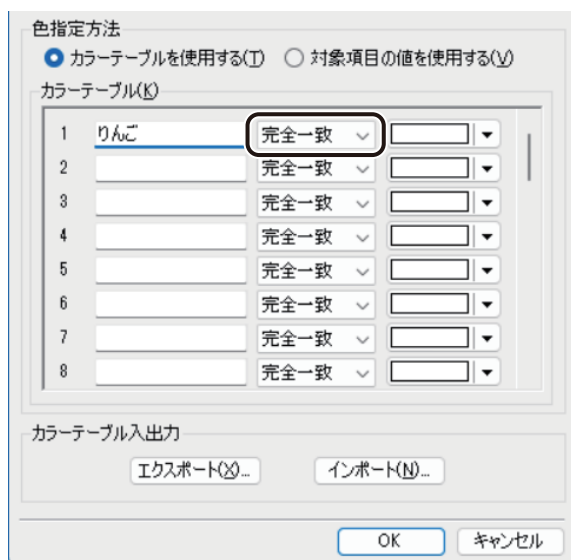
カラーテーブル入出力

エクスポート(X)... インポート(N)...

OK キャンセル

7 文字列の一致条件を、「完全一致」または「部分一致」から選びます。

ここでは、「完全一致」を選びます。

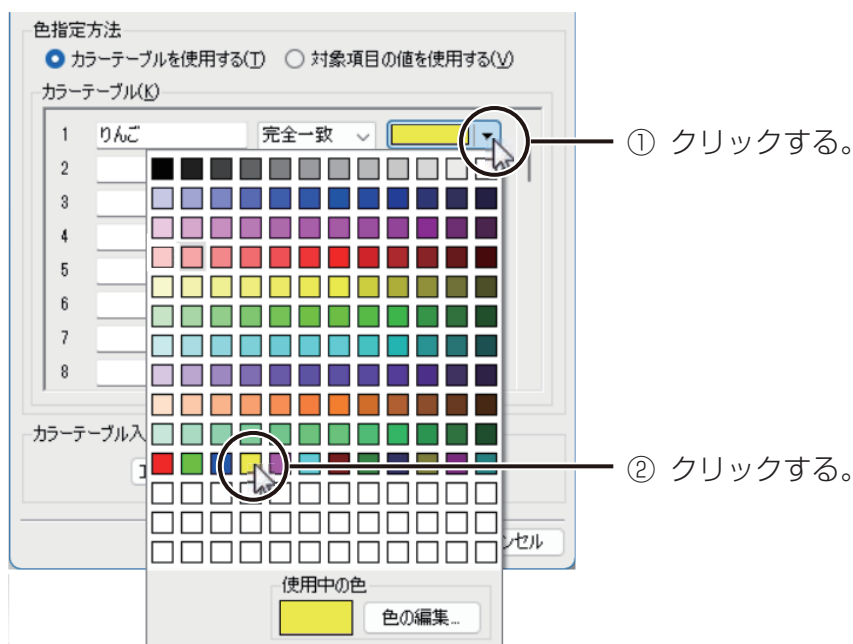


メモ

- 文字列の一致条件を「完全一致」に設定した場合は、データベースと同じ表記で入力してください。例えば、「りんご」を「リンゴ」と入力してしまうと、正しく色が反映されません。また、全角と半角も区別されます。

8 色を設定します。

をクリックすると、パレットが表示されます。ここでは、 （黄色）を選びます。



メモ

- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、「色の編集」をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」を参照してください。

9 [OK] をクリックします。

[差し込みカラーテーブル設定] ダイアログボックスを閉じます。

■ 色の指定をデータベースの項目で行う

ここでは、項目名「色」を設定したカラーテーブルセットを作成する手順を例に説明します。

1 データベース上に色を指定する項目を追加します。

ここでは、手順 1 のデータベースに列を追加して、項目名を「色」、一番上のセルに「Yellow」と入力します。

G: 画像	H: 色	I: 部数
サンプル画像切り	Yellow	
サンプル画像切り		
サンプル画像切り		
サンプル画像切り		
サンプル画像切り		
サンプル画像切り		
サンプル画像切り		



メモ

- 色の指定は、次のいずれかの方法で行います。
 - ・ RGB 値で指定する
「白色」(R255,G255,B255) の入力例: 255,255,255
 - ・ 既定の文字列で色を指定する

指定色	既定の文字列
シアン	Cyan
マゼンタ	Magenta
黄	Yellow
黒	Black

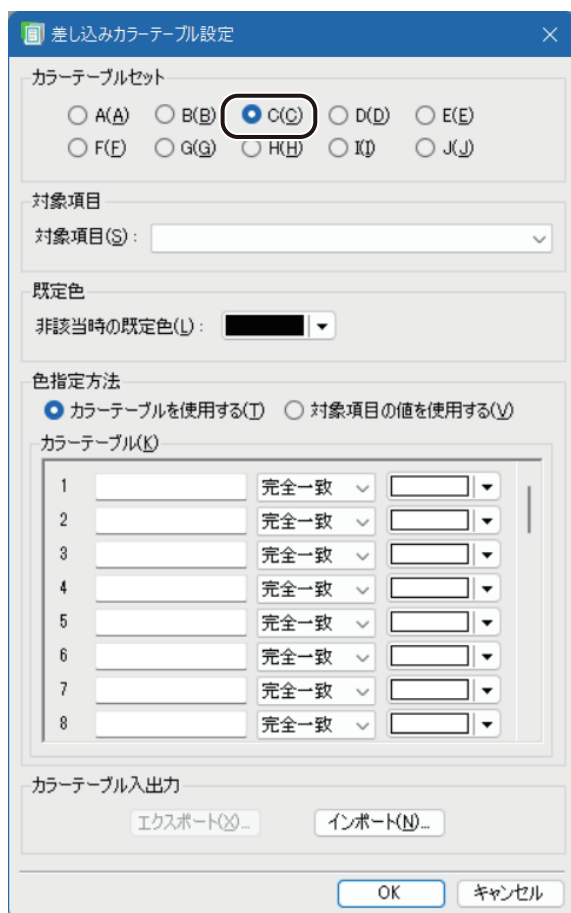
指定色	既定の文字列
赤	Red
緑	Green
青	Blue
白	White

2 [データベース] メニューから [差し込みカラーテーブル] を選びます。

[差し込みカラーテーブル設定] ダイアログボックスが表示されます。

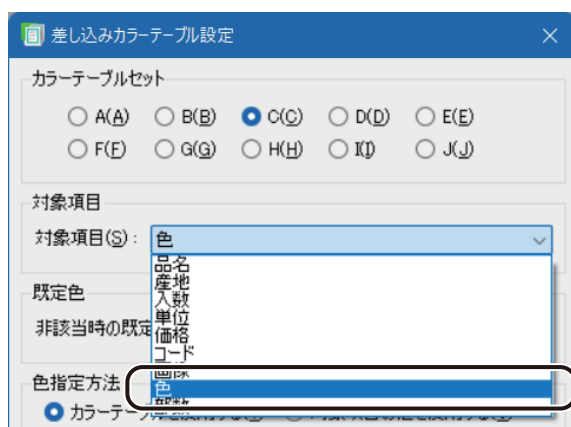
3 作成するカラーテーブルセットを選びます。

ここでは、「C」を選びます。



4 「対象項目」で色の指定が入力された項目を選びます。

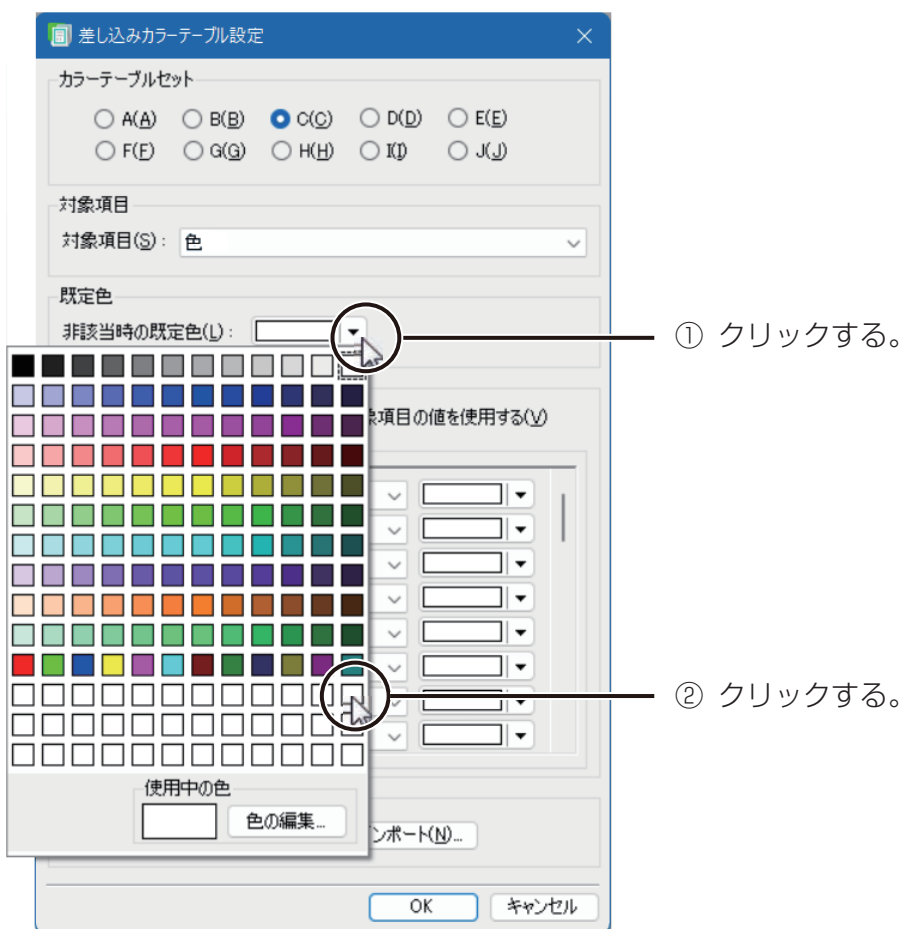
ここでは、「色」を選びます。



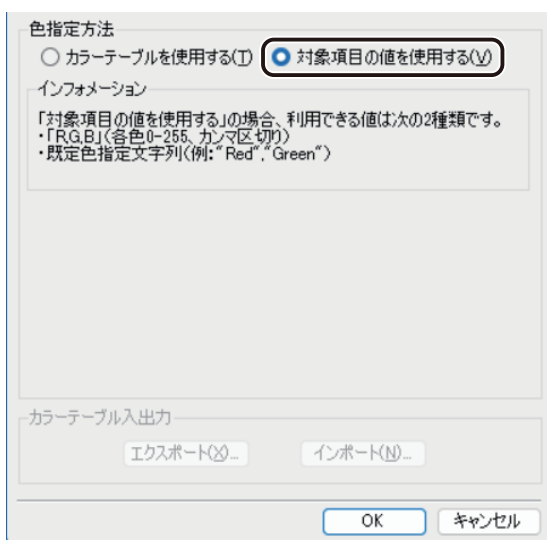
5 [既定色] でカラーテーブルと一致しないデータの表示色を設定します。

▼ をクリックすると、パレットが表示されます。

ここでは、□ (白色) を選びます。



6 [色指定方法] で「対象項目の値を使用する」を選びます。



7 [OK] をクリックします。

[差し込みカラーテーブル設定] ダイアログボックスを閉じます。

カラーテーブルを設定する

カラーテーブルをオブジェクトに設定します。



メモ

- カラーテーブルを設定するときは、あらかじめカラーテーブルを作成しておく必要があります。カラーテーブルの作成については、「[カラーテーブルセットを作成する \(P.299\)](#)」を参照してください。
- カラーテーブルを設定できるオブジェクトは次のとおりです。
 - ・テキストオブジェクト
 - ・日時オブジェクト
 - ・連番オブジェクト
 - ・イメージオブジェクト
 - ・直線オブジェクト
 - ・円形オブジェクト
 - ・四角形オブジェクト
 - ・多角形オブジェクト
 - ・円弧オブジェクト
 - ・連続直線オブジェクト
 - ・自由曲線オブジェクト
 - ・ベジェ曲線オブジェクト
 - ・背景オブジェクト
- カラーテーブルを設定できるプロパティは次のとおりです。
 - ・[線] プロパティ
 - ・[塗り潰し] プロパティ
 - ・[文字色] プロパティ
 - ・[輪郭] プロパティ
 - ・[影] プロパティ
 - ・[背景] プロパティ

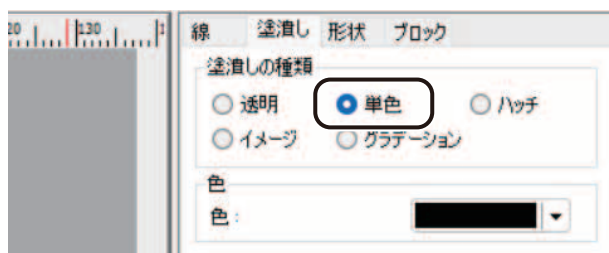
1 カラーテーブルを設定するオブジェクトを選びます。

ここでは、四角形オブジェクトを選びます。



2 カラーテーブルを設定するプロパティを表示し、[単色] または [ハッチ] を選びます。

ここでは、[塗り潰し] プロパティを表示し、[単色] を選びます。



メモ

- [ハッチ] については、「[ハッチングで塗り潰す \(P.236\)](#)」を参照してください。

3 パレットより、カラーテーブルを選びます。

ここでは、「カラーテーブルセットを作成する (P.299)」で作成した、「カラーテーブル B」(または「カラーテーブル C」)を選びます。



「りんご」のラベルの色が変われば完成です。

りんご		
産地	長野県	
入数	3個	
価格	¥302	
		
		

カラーテーブルをエクスポートする

登録したカラーテーブル情報をファイル保存します。

1 「差し込みカラーテーブル設定」ダイアログボックスを表示します。

⇒「カラーテーブルセットを作成する (P.299)」

2 「エクスポート」をクリックします。



「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

3 「保存場所」と「ファイル名」を指定します。

4 「保存」をクリックします。

カラーテーブル情報をエクスポートしたファイル (*.CSV) が保存されます。

カラーテーブルをインポートする

保存したカラーテーブル情報を読み込みます。

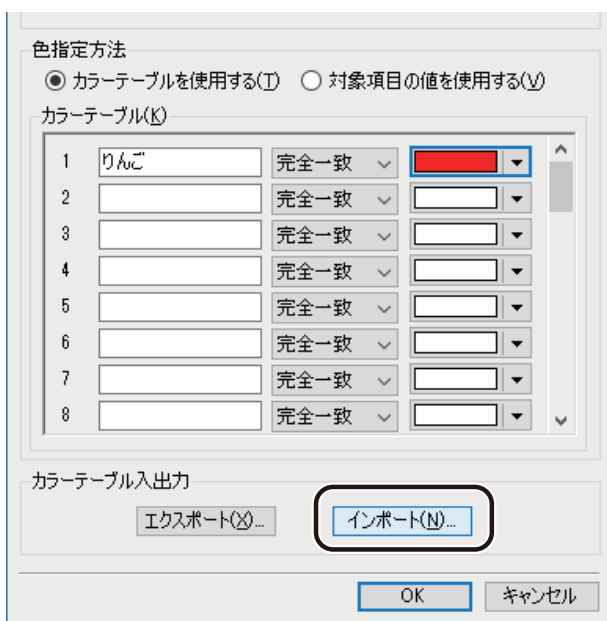
1 カラーテーブル情報をエクスポートしたファイル (*.CSV) を用意します。

⇒「カラーテーブルをエクスポートする (P.308)」

2 「差し込みカラーテーブル設定」ダイアログボックスを表示します。

⇒「カラーテーブルセットを作成する (P.299)」

3 「インポート」をクリックします。



「開く」ダイアログボックスが表示されます。

4 カラーテーブル情報をエクスポートしたファイル (*.CSV) を指定し、「開く」をクリックします。

カラーテーブル情報が読み込まれます。

6

マクロの設定

オブジェクトのマクロ設定について説明します。

マクロの仕様

マクロの操作

マクロの仕様

本ソフトウェアでは、以下のマクロコマンドが正常に動作します。

書式	意味
FLD(“列名”)	列名に該当するデータ列の値を取得します。
LEFT(文字列, 文字数)	文字列の左から文字数分を切り出します。
RIGHT(文字列, 文字数)	文字列の右から文字数分を切り出します。
MID(文字列, 位置, 文字数)	文字列の指定位置から文字数分を切り出します。
REPLACE(文字列, 検索文字列, 置換文字列)	文字列内の検索文字列に合致する文字を置換文字列に置き換えます。
IF(論理値, 真値, 偽値)	論理値が真偽によって、真値、偽値を返します。
ADDDAYS(日時文字列, 数値)	日時文字列において、日に数値を加算します。
ADDMONTHS(日時文字列, 数値)	日時文字列において、月に数値を加算します。
ADDDAYS(日時文字列, 数値)	日時文字列において、日に数値を加算します。
ADDHOURS(日時文字列, 数値)	日時文字列において、時に数値を加算します。
ADDMINUTES(日時文字列, 数値)	日時文字列において、分に数値を加算します。
ADDSECONDS(日時文字列, 数値)	日時文字列において、秒に数値を加算します。
DATEFORMAT(日時文字列, 日時書式, 和暦区分)	日時文字列において、書式に合わせた編集をします。和暦区分が0以外であれば和暦で処理を行います。(和暦区分は省略可)
NUMBERING(初期値, 増分, 整数部, 小数部, 進数, N進数, 桁区切り, ゼロ埋め, レコードごとに値を初期化する)	印刷ページごとに増減する数値を表示します。
FORMAT(数値, 書式)	数値を書式に合わせて編集をします。
NOW(日時書式, 和暦区分)	現在日時において、書式に合わせた編集をします。和暦区分が0以外であれば和暦で処理を行います。(和暦区分は省略可)
BR	改行します。
値 {+, -, *, /, %} 値	値の四則演算結果を表示します。
値 {>, <, =, >=, <=} 値	値の比較結果を論理値 (偽 = 0、真 = 1) で表示します。
文字列 & 文字列	「文字列」と「文字列」を結合して表示します。

● 日時書式

書式	内容
g	元号（アルファベット 1 文字：R）を表示します。
gg	元号（漢字 1 文字：令）を表示します。
ggg	元号（漢字：令和）を表示します。
yyyy	4 桁の「年」を指定します。
yy	2 桁の「年」を指定します。 指定した桁数に満たない部分を「0」で埋めて表示します。
MM	2 桁の「月」を指定します。 指定した桁数に満たない部分を「0」で埋めて表示します。
dd	2 桁の「日」を指定します。 指定した桁数に満たない部分を「0」で埋めて表示します。
HH	2 桁の「時」（24 時間制）を指定します。 指定した桁数に満たない部分を「0」で埋めて表示します。
hh	2 桁の「時」（12 時間制）を指定します。 指定した桁数に満たない部分を「0」で埋めて表示します。
mm	2 桁の「分」を指定します。 指定した桁数に満たない部分を「0」で埋めて表示します。
ss	2 桁の「秒」を指定します。 指定した桁数に満たない部分を「0」で埋めて表示します。
SM	「月」を指定します。 指定した桁数に満たない部分を半角スペースで埋めて表示します。
Sd	「日」を指定します。 指定した桁数に満たない部分を半角スペースで埋めて表示します。
SH	「時」（24 時間制）を指定します。 指定した桁数に満たない部分を半角スペースで埋めて表示します。
Sh	「時」（12 時間制）を指定します。 指定した桁数に満たない部分を半角スペースで埋めて表示します。
Sm	「分」を指定します。 指定した桁数に満たない部分を半角スペースで埋めて表示します。
Ss	「秒」を指定します。 指定した桁数に満たない部分を半角スペースで埋めて表示します。
y	「年」を指定します。
M	「月」を指定します。
d	「日」を指定します。
H	「時」（24 時間制）を指定します。
h	「時」（12 時間制）を指定します。
m	「分」を指定します。
s	「秒」を指定します。
午前 午後	「午前」または「午後」を表示します。

書式	内容
AM PM	「AM」または「PM」を表示します。

● 現在時刻予約語

書式	内容
"n"	「yyyy/MM/dd hh:mm:ss」で日時を表示します。
"d"	「yyyy/MM/dd」で日付を表示します。
"t"	「hh:mm:ss」で時間を表示します。

● 数値書式

書式	内容
#	数値を表示します。 指定した桁数に満たない部分の「0」は削除して表示します。
0	数値を表示します。 指定した桁数に満たない部分を「0」で埋めて表示します。
,	数値をカンマによる3桁区切りで表示します。
.	小数以下を表示します。

● 連番書式

項目	書式	意味
初期値	a～z、A～Z	「進数」がアルファベットの場合
	-99999999～99999999	上記以外
増分	-99～99	「進数」がアルファベットの場合
	-99999999～99999999	上記以外
整数部	1～12	整数部分の桁数を指定します。
小数部	0～3	小数部分の桁数を指定します
進数	0～3	以下を入力して指定します。 0:10進数、1:16進数、2:N進数、 3:アルファベット
N進数	2～36	N進数の場合に指定します。
桁区切り	"True" "False"	桁区切りの表示方法を指定します。 "True":あり "False":なし
ゼロ埋め	"True" "False"	指定した桁数に数値が満たないときの表示方法を指定します。 "True":0で埋めて表示する "False":0を表示しない
レコードごとに 値を初期化する	"True" "False"	レコードごとに連番の値を初期化するかしないかを指定します。 "True":初期化する "False":初期化しない

マクロの操作

マクロ形式の設定のしかたとマクロウィザードを使ったマクロの作成について説明します。

マクロ形式に設定する

オブジェクトにマクロを設定します。

ここでは、本ソフトウェアに収録の「青果ラベル.xlsx」を使って、文字オブジェクトにマクロを設定する手順を例に説明します。

<完成例>

項目名「コード」の先頭から3桁のみを、文字オブジェクトに表示する



1 データベースをインポート（または参照）します。

⇒「データベースを参照（またはインポート）する（P.262）」

ここでは、「青果ラベル.xlsx」をインポートします。

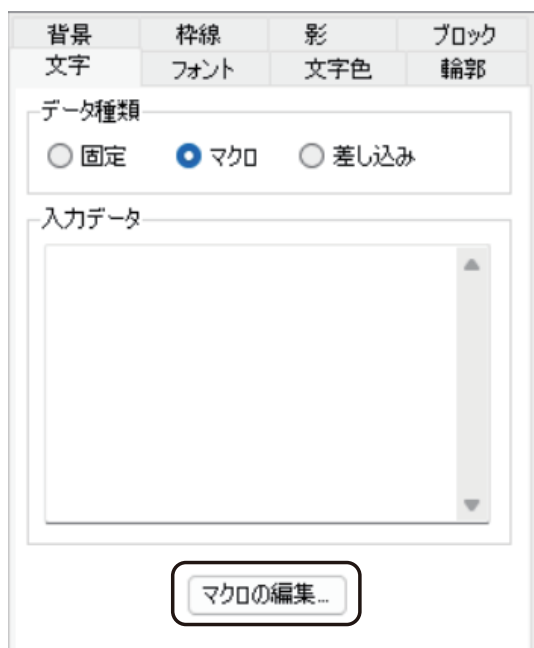
「青果ラベル.xlsx」は次の場所に保存されています。

< C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample >

2 マクロを設定するオブジェクトを作成（または選択）します。

ここでは文字オブジェクトを作成します。

3 [データ種類] で [マクロ] を選び、[マクロの編集] をクリックします。

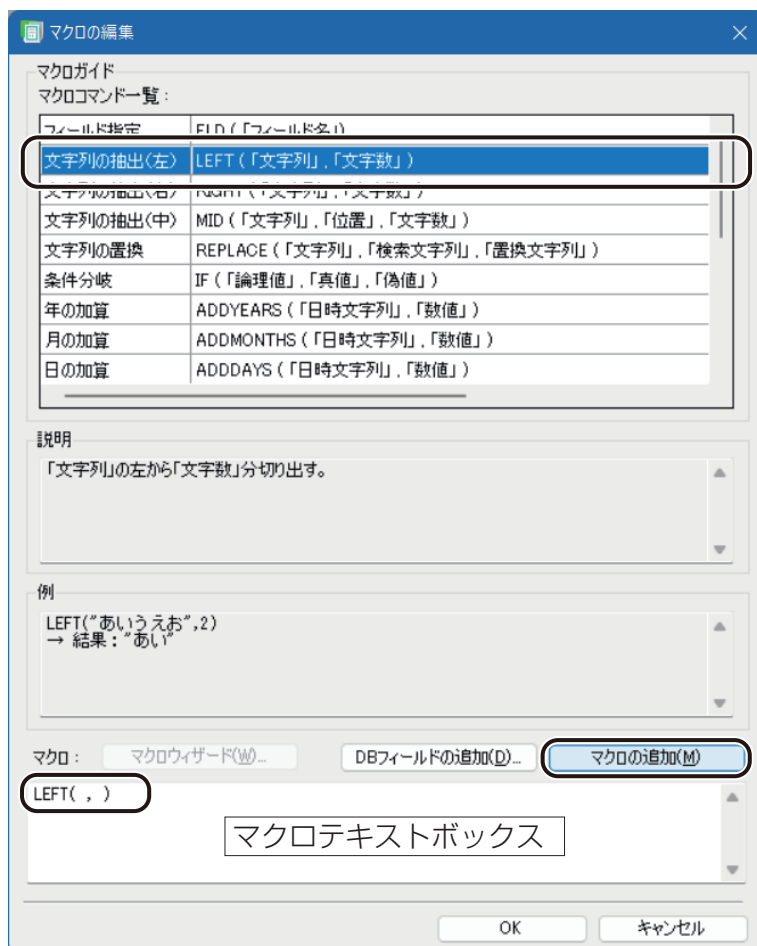


[マクロの編集] ダイアログボックスが表示されます。

4 [マクロコマンド一覧] よりコマンドを選び、[マクロの追加] をクリックします。

ここでは、「文字列の抽出 (左)」を選び、[マクロの追加] をクリックします。

マクロコマンド「LEFT(,)」が、マクロテキストボックスに入力されます。

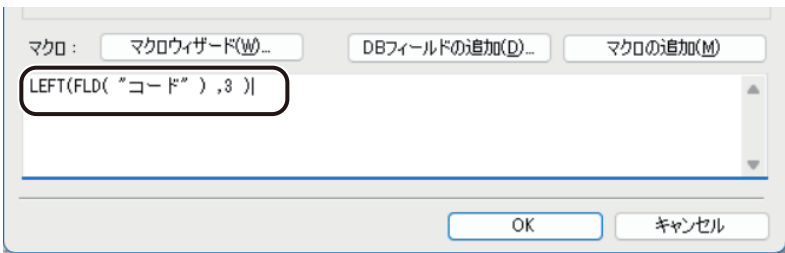


 メモ

- 一覧からコマンドを選択すると、[説明] にコマンドの処理内容を、[例] に例文とその結果を表示します。
- マクロコマンドをダブルクリックしてマクロを追加することもできます。
- 日時の計算や連番設定のマクロ設定は、マクロウィザードを使うと簡単に設定できます。マクロウィザードについては、「マクロウィザードを使う (P.317)」を参照してください。
- 「四則演算子」、「比較演算子」、「文字列の結合」のマクロコマンドを使う場合は、「例」に従ってマクロテキストボックスに手動で入力してください。

5 文字列、数値およびデータベースの項目を入力し、[OK] をクリックします。

ここでは、以下のように「(FLD(“コード”),3)」を入力します。

 メモ

- データベースの項目は、[DB フィールド追加] で入力することができます。

マクロウィザードを使う

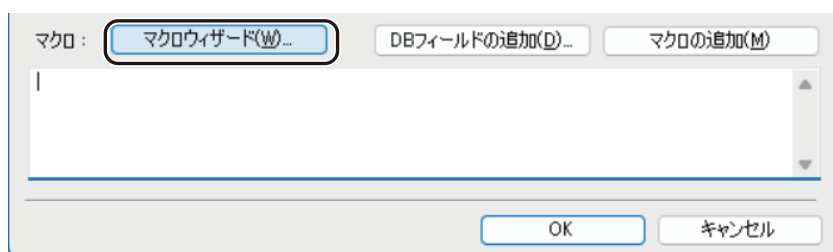
日時の計算や連番設定のマクロは、マクロウィザードを使って簡単に設定できます。

■ 日時計算マクロを設定する

1 [マクロの編集] ダイアログボックスを表示します。

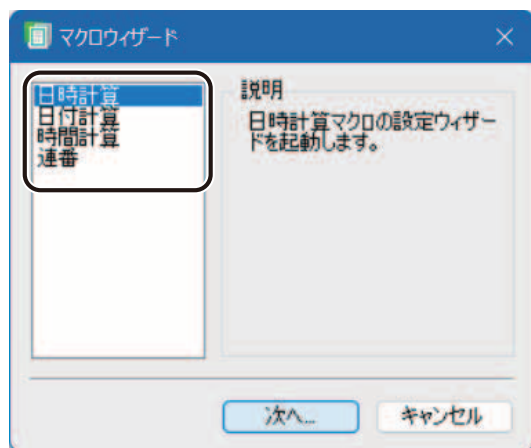
⇒「マクロ形式に設定する (P314)」

2 [マクロウィザード] をクリックします。



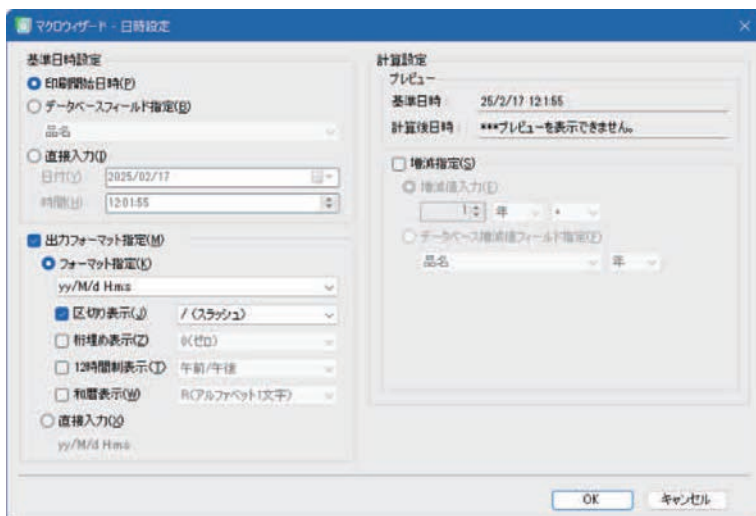
3 起動するウィザードを選びます。

項目をクリックすると、各ウィザードの説明が右側に表示されます。

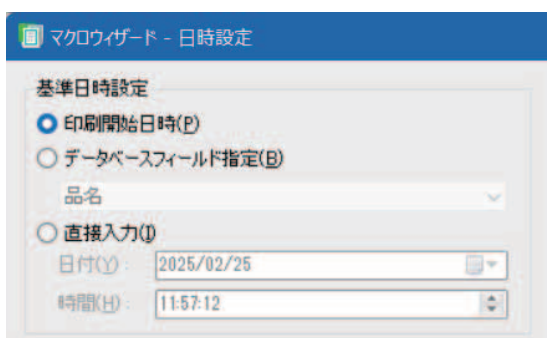


4 [OK] をクリックします。

選んだウィザードが起動します。



5 基準日時を設定します。



計算の元となる日時を、次のいずれかの方法で指定します。

[印刷開始日時]

ラベルを印刷した日時を印刷する場合に選びます。

[データベースフィールド指定]

データベースの日時が入力されているフィールド（項目）を選びます。

[直接入力]

任意の日時を指定します。

[日付]

 をクリックすると、カレンダーが表示されます。日付をクリックすると、指定した日付が入力ボックスに表示されます。また、入力ボックスにカーソルをあて、直接キーボードで入力することもできます。

[時間]

入力ボックスにカーソルをあて、 または、 で数値を増減させます。また、直接キーボードで入力することもできます。



- 日付計算ウィザードを起動しているときは、[直接入力] の [時間] を設定できません。
- 時間計算ウィザードを起動しているときは、[直接入力] の [日付] を設定できません。

6 [出力フォーマット] を設定します。

[出力フォーマット] では、日時の表示形式を設定します。[出力フォーマット] にチェックマークを入れないときは、「yyyy/MM/dd HH:mm:ss.fff」が適用されます。

出力フォーマット指定(M)

フォーマット指定(K)

yy/M/d H:m:s

区切り表示(J) / (スラッシュ)

桁埋め表示(Z) 0 (ゼロ)

12時間制表示(I) 午前/午後

和暦表示(W) R (アルファベット1文字)

直接入力(X)

表示形式は、[フォーマット指定] または [直接入力] のいずれかの方法で指定します。

[フォーマット指定]

日時の表示形式を選びます。

[区切り表示]

年月日を区切る記号を選びます。

例) 「. (ピリオド)」を選んだ場合

2024/12/2 17:41:31 → 2024.12.2 17:41:31

[桁埋め表示]

「0」(ゼロ)または半角スペースを追加して表示します。

例) 「0 (ゼロ)」を選んだ場合

2024/12/2 17:41:31 → 2024/12/02 17:41:31

[12 時間制表示]

時刻の前に「午前」/「午後」を追加して表示します。

例) 「AM/PM」を選んだ場合

2024/12/2 17:41:31 → 2024/12/02 PM5:41:31

[和暦表示]

和暦で表示します。

例) 「令和 (漢字)」を選んだ場合

2024/12/2 17:41:31 → 令和 6/12/2 17:41:31

[直接入力]

任意の書式を入力して指定します。



- 実際の表示は、プレビューの「基準日時」で確認できます。
- 日付計算ウィザードを起動しているときは、[12 時間制表示] を設定できません。
- 時間計算ウィザードを起動しているときは、[和暦表示] を設定できません。

7 「基準日時」に対して、任意の数式で計算させた日時を印刷したい場合は、[増減指定] にチェックマークを入れます。



計算方法は、次のいずれかを指定します。

[増減値入力]

日時の増減値を指定します。

数値、日時の単位および増減（+/-）を指定します。

[データベース増減値フィールド指定]

日時の増減値を設定しているフィールド（項目）を指定します。

フィールド（項目）および日時の単位を指定します。

メモ

- 実際の表示は、プレビューの「計算後日時」で確認できます。
- 日付計算ウィザードを起動しているときは、時間（時、分、秒）に関する設定ができません。
- 時間計算ウィザードを起動しているときは、日付（年、月、日）に関する設定ができません。

8 [OK] をクリックします。

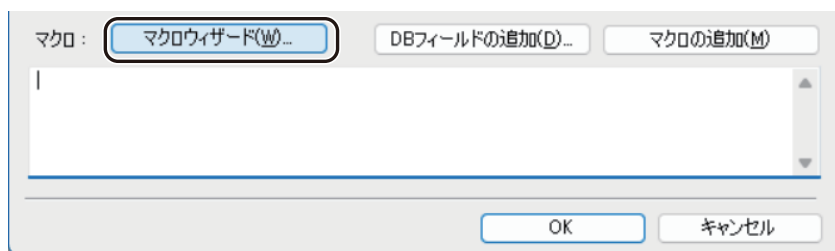
マクロ式が入力されます。

■ 連番マクロを設定する

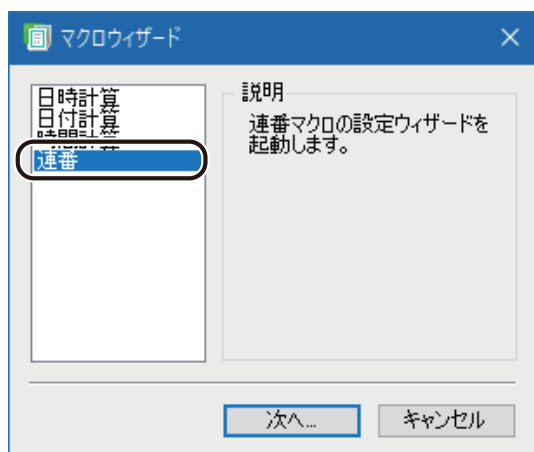
1 [マクロの編集] ダイアログボックスを表示します。

⇒「マクロ形式に設定する (P314)」

2 [マクロウィザード] をクリックします。



3 [連番] を選びます。



4 [OK] をクリックします。

ウィザードが起動します。

連番の編集

設定
初期値(I): 0 増分(E): 1

書式
桁数
整数部(I): 1 小数部(D): 0
進数
進数(H): 10進数 2
☐ 桁区切り(S) ☐ ゼロ埋め(Z)

サンプル
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9

オプション
☐ レコードごとに値を初期化する(R)

完了(E) キャンセル(Q)

5 連番マクロを設定します。

「[連番を入力する \(P.158\)](#)」の手順を参照して設定してください。

6 必要な項目を設定したら、[完了] をクリックします。

マクロ式が入力されます。

印刷設定

印刷設定について説明します。

印刷の基本操作
いろいろな印刷

印刷の基本操作

印刷の基本的な手順について説明します。

印刷イメージを確認する

印刷プレビュー画面で印刷イメージを確認します。

■ デザインエリアに表示中のデータをプレビューする

1 標準ツールバーの をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [印刷プレビュー] をクリックします。

[印刷プレビュー] 画面が表示されます。

2 データを確認します。

現在デザインエリアで表示しているレコードが表示されます。

印刷プレビュー画面のツールバーでは、次のような操作が行えます。

[1] [2] [3]



[1] [印刷] ボタン

クリックすると、現在プレビューしているレコードを印刷対象に設定した状態で [印刷] ダイアログボックスを表示します。

[2] [ズーム] ボタン

プレビュー画面の倍率（ズーム）を指定します。

自動、10%、25%、50%、75%、100%、150%、200%、500%から選択できます。

[3] [レコード選択] ボタン

現在プレビューしているレコード番号を示しています。

 (前のレコードを表示) と、 (次のレコードを表示) でプレビューするレコードを切り替えます。データベースに登録されていないときは、 /  は表示されません。

レコード番号は、入力ボックスにカーソルをあて、直接キーボードで入力することもできます。

3 内容が確認できたら、[閉じる] をクリックします。



■ 印刷対象のレコードをプレビューする

印刷対象のレコードのみを印刷プレビュー画面で確認します。

1 標準ツールバーの をクリックします。

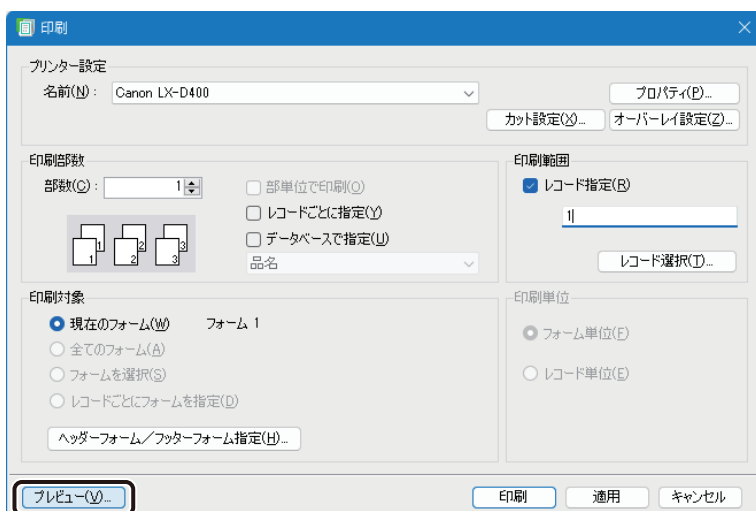
または、[ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。

[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

2 印刷対象レコードを設定します。

⇒ 「レコードを指定して印刷する (P.338)」

3 [プレビュー] をクリックします。



[印刷プレビュー] 画面が表示されます。

4 データを確認します。

ここでは、例としてプレビュー画面を4分割で表示しています。



[1] [ズーム] ボタン

プレビュー画面の倍率（ズーム）を指定します。

自動、10%、25%、50%、75%、100%、150%、200%、500%から選択できます。

[2] [表示分割] ボタン

プレビュー画面の分割を選びます。

左から、1 分割、2 分割、3 分割、4 分割、5 分割、6 分割となっています。

[3] [プレビュー範囲切替]
ボタン

印刷対象のレコードが6件以上の場合に表示されます。

 (前の6件) と  (次の6件) でプレビュー表示する範囲を切り替えます。

範囲を切り替えると、プレビューの生成がその都度に行われます。プレビューが生成されると、 の右側に表示されている範囲のプレビューを確認できます。



メモ

- 面付け用紙のプレビュー表示の切り替えは1件ずつとなります。

[4] [ページ切替] ボタン

表示するページを切り替えます。

印刷対象のレコードが7件以上の場合は、[3] に表示されている範囲で切り替えます。

入力ボックスにカーソルをあて、数値を直接キーボードで入力することもできます。



メモ

- [プレビュー] から [印刷プレビュー] 画面を表示したときの  (印刷) ボタンは無効です。

5

内容が確認できたら、[閉じる] をクリックします。

印刷する

プレビュー画面で内容を確認できたら、印刷を開始します。

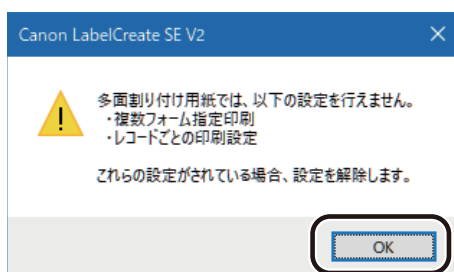
1 標準ツールバーの をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。

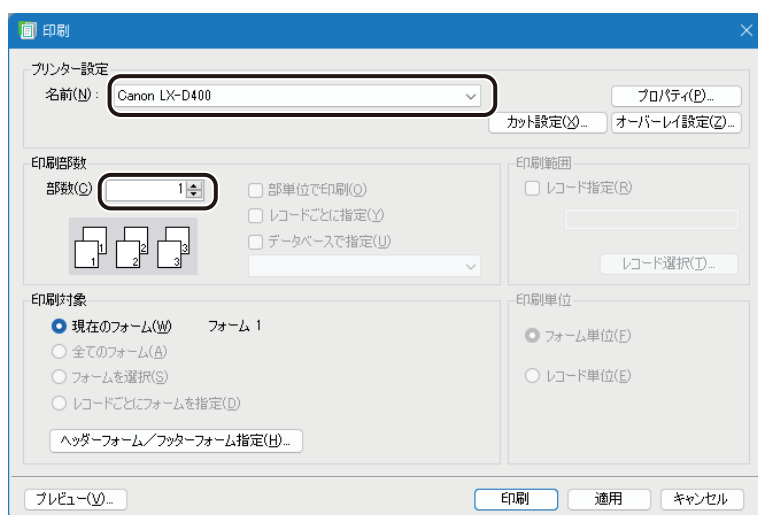
[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

メモ

- 印刷設定ファイル (*.li2) が確認できなかったときは、ご使用の環境で「通常使うプリンター」に設定されているプリンターで起動します。
- 面付け用紙(フォームデザインが「面付け」)のときは、次のメッセージが表示されます。内容を確認して、[OK] をクリックします。
⇒ 「13. 面付け用紙について (P.4)」



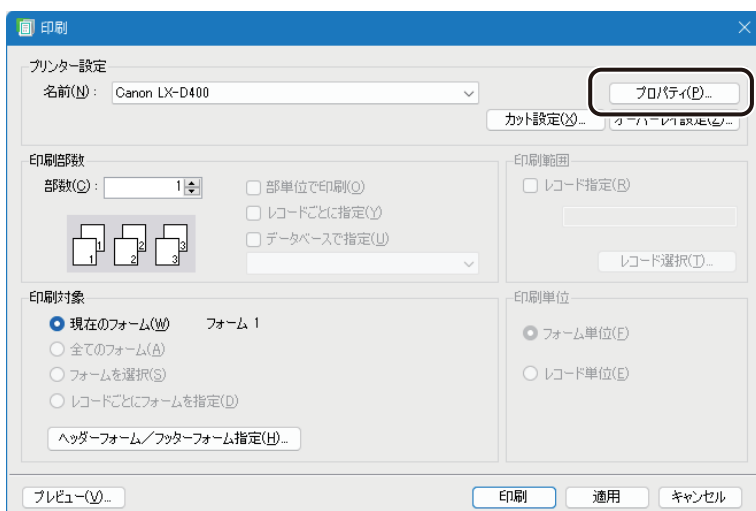
2 使用するプリンターと部数を設定します。



メモ

- 部単位で印刷するときは、[部単位で印刷] にチェックマークを入れます。複数の部数を印刷するときに指定できます。

3 [プロパティ] をクリックしてプリンタードライバーの印刷設定を行います。



プリンターにセットした用紙に合わせて設定してください。

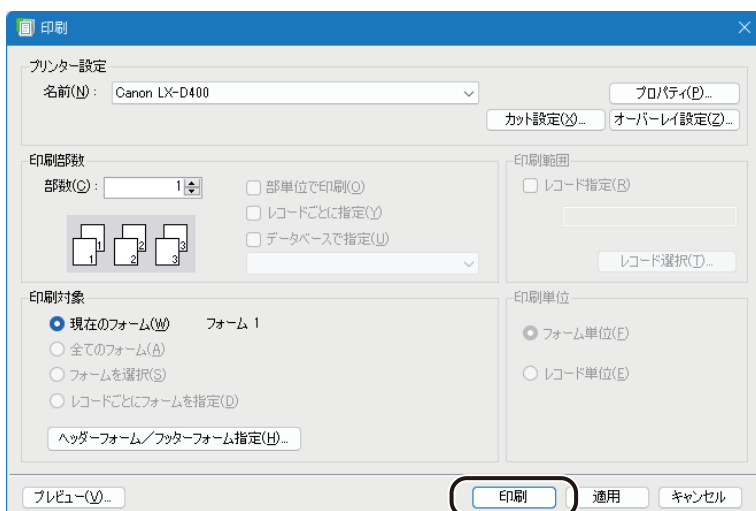
ここでは、用紙サイズ「4 × 3 ラベル / ギャップ」、用紙種類「マットコート紙」を選びます。



メモ

- 印刷設定について詳しくは、お使いのプリンターの取扱説明書を参照してください。
- バーコード、GS1 データバー、二次元コードが配置してあるデータの場合、印刷プリンターの変更またはプリンタードライバーの印刷設定（解像度、用紙種類、「エコノミー印刷」のオン / オフの設定（LX-P5500 をご使用の場合のみ））を変更したときは、バーコード、GS1 データバー、二次元コードを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成したオブジェクトでも大きさが異なります。

4 [印刷] をクリックします。



印刷が実行されます。



メモ

- 印刷設定ファイル (*.li2) について
 - ・ [印刷] ダイアログボックスの設定情報は、印刷設定ファイル (*.li2) としてデザインファイル (*.lc2) と同じ場所に保存されます。印刷設定ファイルは、再度デザインファイルを開いた際、同時に本ソフトウェアに読み込まれます。
 - ・ デザインファイル (*.lc2) と印刷設定ファイル (*.li2) は同一階層に置いてください。ふたつのファイルの位置が異なると、設定情報が読み込まれません。印刷設定ファイルが確認できなかったときは、ご使用の環境で「通常使うプリンター」に設定されているプリンターで起動します。また、印刷設定ファイルを削除した場合も同様です。
- その他の印刷の設定については、「[いろいろな印刷 \(P338\)](#)」を参照してください。
- 印刷中にエラーが発生したときは、ステータスマニターに表示されるエラーの内容を確認して必要な対処を行ってください。エラーの対処については、プリンタードライバのヘルプまたはお使いのプリンターの取扱説明書を参照してください。
- 印刷したラベルのバーコード、GS1 データバー、二次元コードが読み取りにくいときは、バーコード設定を行ってください。バーコード設定については、「[用紙に合わせてバーコードを調整する \(P367\)](#)」を参照してください。

印刷イメージを画像ファイルで出力する

印刷イメージを JPEG などの画像ファイルとして保存する方法について説明します。現在表示中のフォームだけを出力する方法と、すべてのフォームを一括で出力する方法の 2 種類があります。



メモ

- 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）の場合は、一面表示時のイメージを画像ファイルとして出力します。

■ 現在表示中のフォームを出力する

1 画像ファイルとして出力したいフォームとレコードを画面に表示します。

2 [ファイル] メニューの [イメージとして出力] をクリックします。

[イメージとして出力] ダイアログボックスが表示されます。

3 [保存場所]、[ファイル名] および [ファイルの種類] を指定します。



メモ

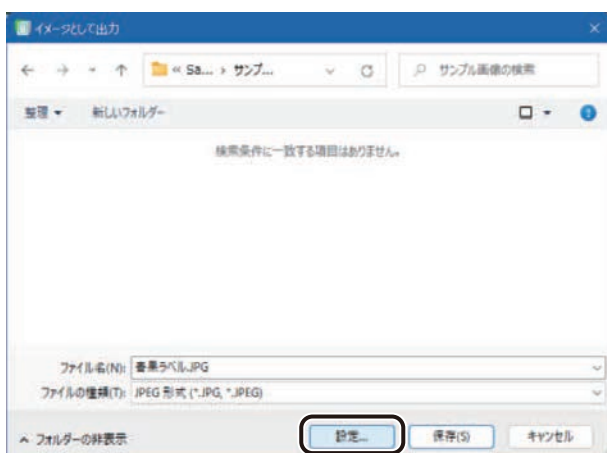
- 指定できる画像ファイルの形式は次のとおりです。

- ・ビットマップファイル形式 (*.BMP)
- ・PNG 形式 (*.PNG)
- ・JPEG 形式 (*.JPG, *.JPEG)
- ・TIFF 形式 (*.TIF, *.TIFF) *
- ・GIF 形式 (*.GIF)
- ・WMF 形式 (*.WMF)
- ・EMF 形式 (*.EMF)
- ・PDF 形式 (*.PDF)

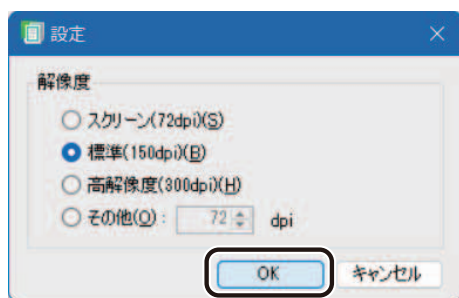
* TIFF 形式は、無圧縮 (インターリーブ)、LZW 圧縮のみ対応

4 出力イメージの解像度を指定する場合は、[設定] をクリックします。

初期設定は、「標準 (150dpi)」です。解像度を変更しない場合は、手順 6 に進みます。



5 解像度を選んで、[OK] をクリックします。



メモ

- 「その他」を選んだときは、36 dpi ～ 600 dpi の範囲で指定します。

6 [保存] をクリックします。

画像ファイルが保存されます。

■ すべてのフォームを出力する

1 画像ファイルとして出力したいレコードを画面に表示します。

2 [ファイル] メニューの [全てのフォームをイメージとして出力] をクリックします。

[全てのフォームをイメージとして出力] ダイアログボックスが表示されます。

3 [保存場所]、[ファイル名] および [ファイルの種類] を指定します。

メモ

- 指定できる画像ファイルの形式は次のとおりです。

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| ・ビットマップファイル形式 (*.BMP) | ・ GIF 形式 (*.GIF) |
| ・ PNG 形式 (*.PNG) | ・ WMF 形式 (*.WMF) |
| ・ JPEG 形式 (*.JPG, *.JPEG) | ・ EMF 形式 (*.EMF) |
| ・ TIFF 形式 (*.TIF, *.TIFF) * | ・ PDF 形式 (*.PDF) |

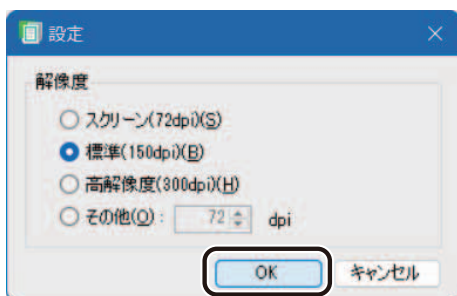
* TIFF 形式は、無圧縮 (インターリーブ)、LZW 圧縮のみ対応

4 出力イメージの解像度を指定する場合は、[設定] をクリックします。

初期設定は、「標準 (150dpi)」です。解像度を変更しない場合は、手順 6 に進みます。



5 解像度を選んで、[OK] をクリックします。



メモ

- 「その他」を選んだときは、36 dpi ～ 600 dpi の範囲で指定します。

6 [保存] をクリックします。

画像ファイルが保存されます。

印刷履歴を確認する

本ソフトウェアを使って印刷した内容は、印刷履歴として保存されます。印刷履歴はレコードごとに、次の内容が保存されます。

＜印刷履歴ファイル (*.CSV) を Microsoft Excel で開いたときの表示例＞

A	B	C	D	E	F	G
印刷開始時間	ドキュメント名	プリンター名	フォーム名	印刷部数	データベースファイル名	レコード No
2025/10/18 11:08	Sample_1.lc2	Canon LX-D400	フォーム 1	1	C:\Users\¥Desktop¥ 青果ラベル.xlsx	1
2025/10/18 11:08	Sample_1.lc2	Canon LX-D400	フォーム 1	1	C:\Users\¥Desktop¥ 青果ラベル.xlsx	2
2025/10/18 11:08	Sample_1.lc2	Canon LX-D400	フォーム 1	1	C:\Users\¥Desktop¥ 青果ラベル.xlsx	3
2025/10/18 11:26	Sample_1.lc2	Canon LX-D400	フォーム 3	3	C:\Users\¥Desktop¥ 青果ラベル.xlsx	1

⇒

H	I	J	K	L	M	N
レコード情報 1	レコード情報 2	レコード情報 3	レコード情報 4	レコード情報 5	シート No	ジョブ開始
りんご					1	○
キャベツ					2	
レモン					3	
りんご					3	○

⇒

セル列	項目	内容
A	印刷開始時間	印刷を開始した時間
B	ドキュメント名	ファイル名
C	プリンター名	印刷に使用したプリンター名
D	フォーム名	印刷したフォーム名
E	印刷部数	印刷部数
F	データベースファイル名	外部データベースのとき：データベースファイルのパス 内部データベースのとき：“内部データベース”を表示 データベースが接続されていないとき：“-”を表示
G	レコード No	データベース上の番号
H	レコード情報 1	印刷したレコードのデータベース情報 *
I	レコード情報 2	
J	レコード情報 3	
K	レコード情報 4	
L	レコード情報 5	
M	シート No.	ジョブ開始からの総印刷枚数
N	ジョブ開始	印刷を開始したとき（「印刷」をクリックしたとき）の状態を「○」で表示

* 設定のしかたは、「[レコード情報を設定する \(P.337\)](#)」を参照してください。



メモ

- 印刷履歴「シート No.」は次のように記録されます。

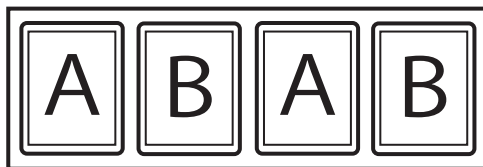
例 1) 定形用紙に、商品 A、商品 B のデータを 2 枚ずつ印刷する

- ・部単位印刷 ON とき

(印刷履歴)

商品名	印刷部数	シート No
商品 A	2	1
商品 B	2	2
商品 A	2	3
商品 B	2	4

(印刷結果)

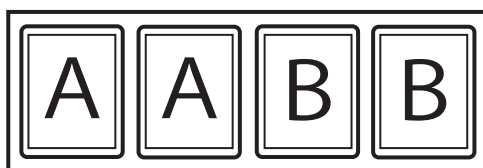


- ・部単位印刷 OFF のとき

(印刷履歴)

商品名	印刷部数	シート No
商品 A	2	1
商品 B	2	2

(印刷結果)

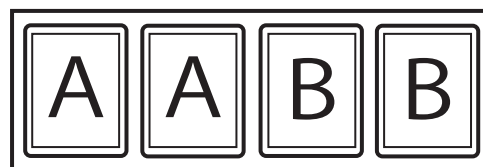


- ・レコードごとに部数設定するとき

(印刷履歴)

商品名	印刷部数	シート No
商品 A	2	2
商品 B	2	4

(印刷結果)



例 2) 面付け用紙 (2 × 1) に、商品 A、商品 B、商品 C のデータを 2 枚ずつ印刷する

- ・部単位印刷 ON とき

(印刷履歴)

商品名	印刷部数	シート No
商品 A	2	1
商品 B	2	1
商品 C	2	2
商品 A	2	3
商品 B	2	3
商品 C	2	4

(印刷結果)

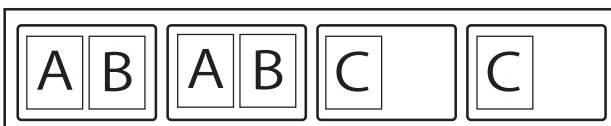


- ・部単位印刷 OFF のとき

(印刷履歴)

商品名	印刷部数	シート No
商品 A	2	1
商品 B	2	1
商品 C	2	2

(印刷結果)



■ 前月までの印刷履歴を確認する

前月までの印刷履歴は、月ごとに自動で次の場所へファイル保存（CSV 形式）されます。

ファイル名： 例）2012 年 2 月の印刷履歴の場合
PrintLog_LCS20122.CSV

保存場所： < C:¥ProgramData¥Canon Finetech Nisca¥LabelCreate SE V2¥PrintLog >



メモ

- 印刷履歴ファイルの保存場所を変更するときは、[オプション] メニューの [印刷履歴設定] から [印刷履歴自動保存ファイルパス] をクリックして設定します。

■ 当月分の印刷履歴を確認する

1 [オプション] メニューの [印刷履歴設定] から [ファイルに出力] をクリックします。

[印刷履歴保存] ダイアログボックスが表示されます。

2 [保存場所] と [ファイル名] を指定します。

3 [保存] をクリックします。

当月分の履歴が CSV 形式でファイル保存されます。

4 保存したファイルを任意のアプリケーションソフトウェアで開きます。

当月の印刷履歴が確認できます。

■ 当月分の印刷履歴を削除する

1 [オプション] メニューの [印刷履歴設定] から [履歴クリア] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

2 [OK] をクリックします。

当月分の印刷履歴が削除されます。



メモ

- 翌月に自動保存されるファイルには、削除された部分の印刷履歴は保存されません。

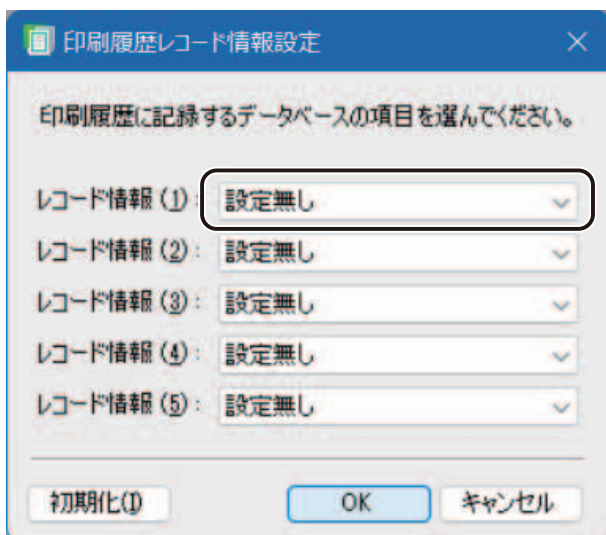
■ レコード情報を設定する

1 [オプション] メニューの [印刷履歴設定] から [レコード情報設定] をクリックします。

[印刷履歴レコード情報設定] ダイアログボックスが表示されます。

2 印刷履歴に記録する項目を選びます。

レコード情報は、5 個まで設定できます。



メモ

- [初期化] をクリックすると、すべてのレコード情報を「設定無し」の状態に戻します。

3 [OK] をクリックします。

いろいろな印刷

印刷レコードの選択のしかた、いろいろな部数指定のしかた、オーバーレイ印刷およびオートカッターの設定について説明します。

レコードを指定して印刷する

レコードを指定して印刷します。また、レコードごとに異なる印刷部数を指定することも可能です。
レコードを指定した印刷は次のいずれかで行うことができます。

<印刷ダイアログボックスから指定する>

印刷ダイアログボックスの「レコード指定」から印刷レコードを指定します。

⇒「印刷ダイアログボックスから指定する (P.338)」

<データベース編集画面から指定する>

内部データベースの場合、データベース編集画面から印刷レコードを指定することができます。

⇒「データベース編集画面から指定する (P.346)」



メモ

- 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、レコードを指定した印刷ができません。

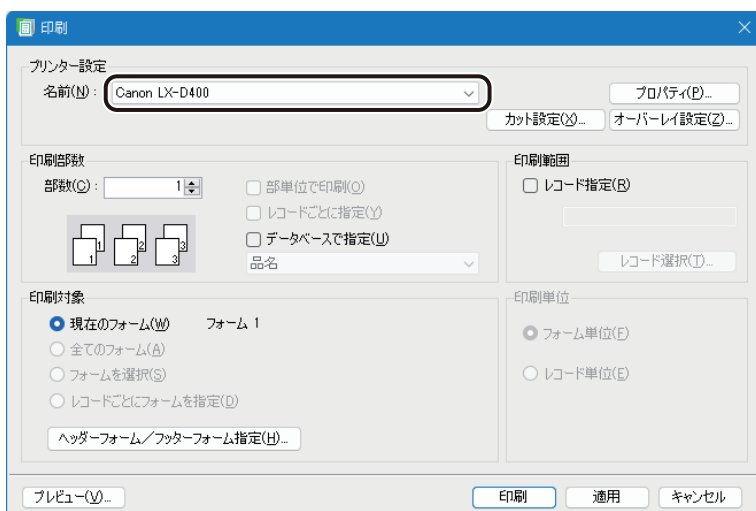
⇒「13. 面付け用紙について (P.4)」

■ 印刷ダイアログボックスから指定する

1 「印刷」ダイアログボックスを表示します。

⇒「印刷する (P.328)」

2 印刷に使用するプリンターを指定します。

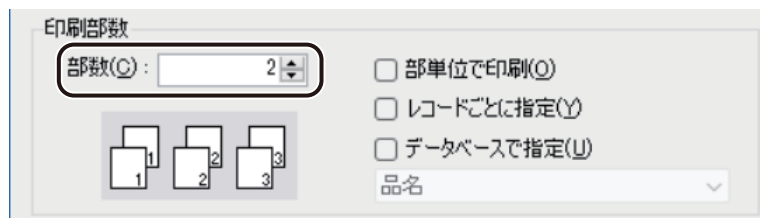


- 印刷対象指定する手順については、「[フォームを指定して印刷する \(P.353\)](#)」を参照してください。

3 次の場合は、印刷部数を設定します。

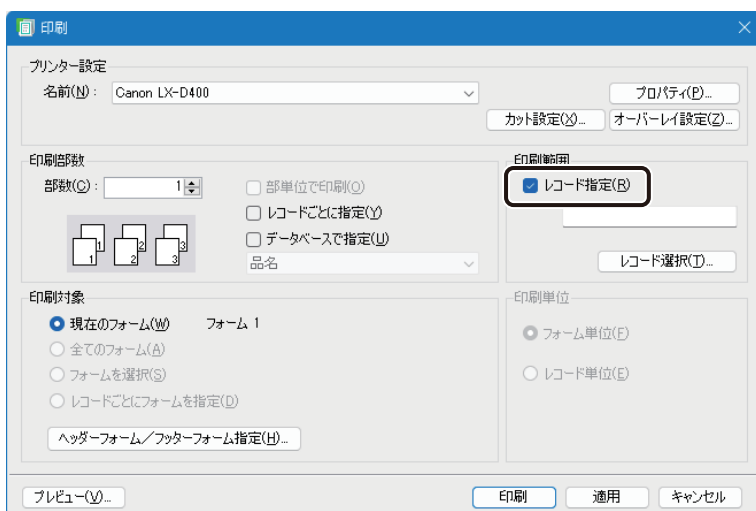
レコードごとに部数を設定するときは、「手順 4」に進みます。

- 印刷レコードがすべて同じ部数のとき
[部数] を入力します。

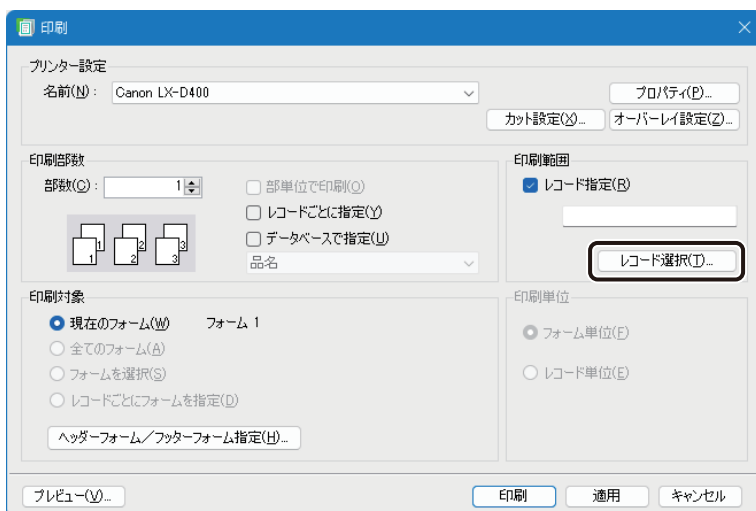


- データベースの部数指定項目を選んで印刷部数を設定するとき
「[データベースの部数指定項目を選んで印刷する \(P.351\)](#)」を参考に印刷部数を設定してください。

4 [レコード指定] にチェックマークを入れます。



5 [レコード選択] をクリックします。



[レコード選択] ダイアログボックスが表示されます。

6 印刷したいレコードの「印刷対象」にチェックマークを入れます。



[チェック全解除]

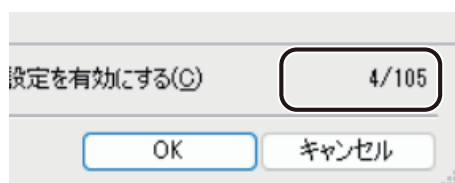
チェックマークをすべて外した状態にします。

[チェック全反転]

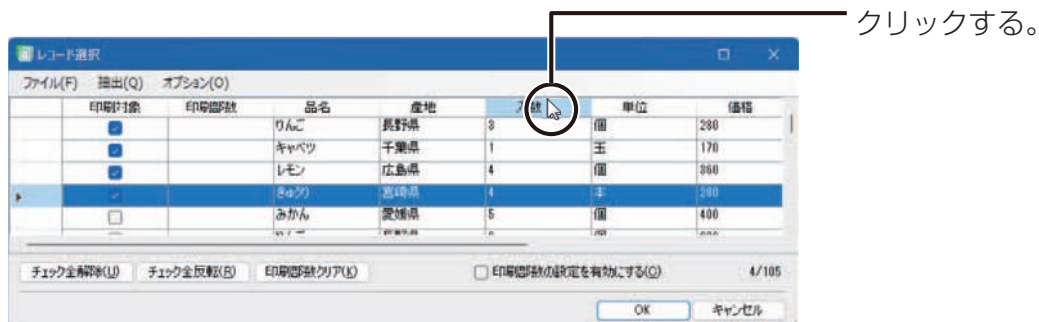
チェックマークの有無を反転させます。

メモ

- ダイアログボックスの右下に「印刷レコード数」 / 「全レコード数」が表示されます。



- 表示したデータをソートしたいときは、ソート対象の項目の見出しをクリックします。





● [レコード選択] ダイアログボックスの抽出設定について

指定した条件に該当するデータのみを印刷したいときは、データベースの抽出を行います。

- ① [抽出] メニューの [抽出設定] をクリックします。
[抽出設定] ダイアログボックスが表示されます。

対象項目	条件	値	大文字/小文字
	～を含む		区別しない

抽出条件選択(L): [Dropdown]
☐ 抽出条件を保存する(P)

 抽出条件のAnd/Or
☒ 全ての条件を含む(And)(N)
☐ いずれかの条件を含む(Or)(Q)

- ② 抽出条件を設定します。
抽出条件の設定については「**レコードを抽出する (P.295)**」の手順を参考に設定してください。
- ③ 抽出条件を設定したら、[OK] をクリックします。
抽出されたレコードが表示されます。

- 抽出条件の指定を解除するときは、[抽出] メニューの [抽出解除] をクリックします。抽出を解除すると、印刷部数および印刷対象の設定も解除されます。

7 レコードごとに部数を設定するときは、次のように操作します。

「手順 3」で部数設定してあるとき（印刷レコードがすべて同じ部数のとき、またはデータベースの部数指定項目を選んで印刷部数を設定するとき）は、「手順 8」に進みます。

- ① [印刷部数の設定を有効にする] にチェックマークを入れます。
または、[オプション] メニューの [印刷部数の設定を有効にする] をクリックします。

印刷対象	印刷部数	品名	産地	入数	単位	価
☒		りんご	長野県	3	個	280
☒		キャベツ	千葉県	1	玉	170
☒		レモン	広島県	4	個	360
☒		きゅうり	宮崎県	4	本	280
☐		みかん	愛媛県	5	個	400
☐		りんご	長野県	3	個	280

チェック全解除(U) チェック全反転(R) 印刷部数クリア(K) ☒ 印刷部数の設定を有効にする(O) 4/105

② 対象レコードを選びます。

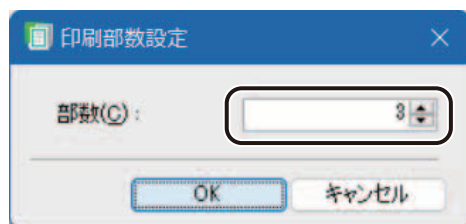


複数のレコードを選択するときは、次のいずれかで行います。

- ・連続した複数のレコードを選択するとき
始点をクリックして選び、次にキーボードの [Shift] キーを押しながら終点をクリックします。選択が終わったら、[Shift] キーを離します。
- ・連続していない複数のレコードを選択するとき
キーボードの [Ctrl] キーを押しながら選びます。選択が終わったら、[Ctrl] キーを離します。

③ [オプション] メニューの [印刷部数設定] を選びます。
[印刷部数設定] ダイアログボックスが表示されます。

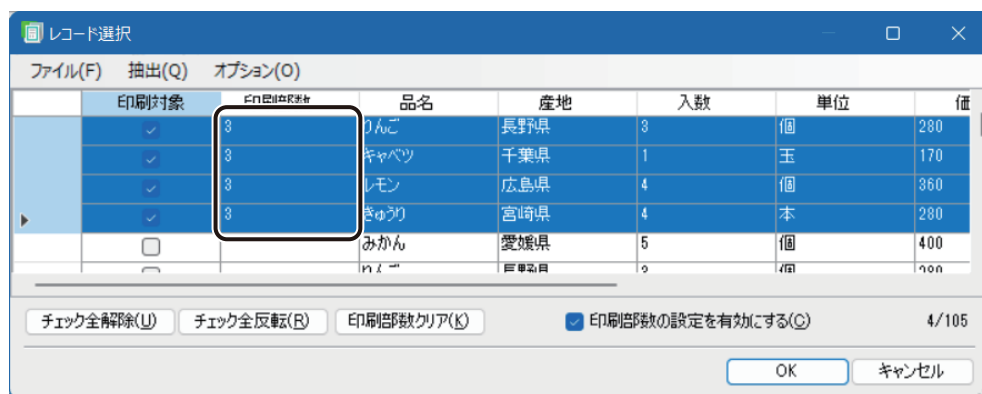
④ 部数を入力します。



⑤

[OK] をクリックします。

選んだレコードの [印刷部数] のセルに、④で入力した部数が設定されます。



⑥ 同様の手順ですべての対象のレコードについて印刷部数を入力します。



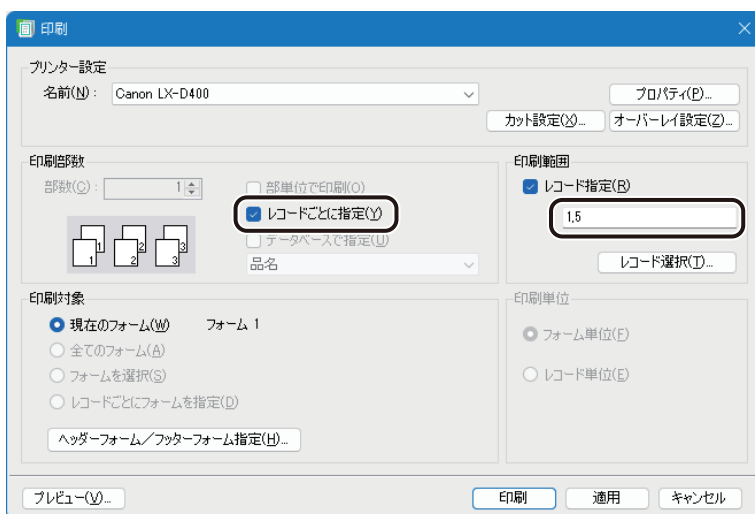
メモ

- [印刷部数] は、セルをダブルクリックして直接キーボードで入力することもできます。
- [印刷対象] にチェックマークされていないレコードの [印刷部数] を入力すると、自動で [印刷対象] にチェックマークが入ります。
- [印刷部数のクリア] をクリックすると、[印刷部数] の入力値はすべて削除されます。



8 [OK] をクリックします。

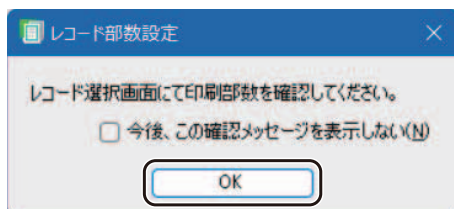
[OK] をクリックすると、[印刷] ダイアログボックスの [印刷範囲] に設定したレコード No. が入力されます。また、レコードごとの印刷部数を設定した場合は、[レコードごとに指定] にチェックマークが入ります。





メモ

- レコードの指定は、[レコード指定] にチェックマークを入れたあと、[印刷範囲] の入力ボックスにカーソルをあてて直接キーボードで入力することもできます。
- レコードごとに部数設定するときは、[印刷対象] にチェックマークしているすべてのレコードについて印刷部数を入力してください。
- [印刷] ダイアログボックス上で [レコードごとに指定] のチェックマークを操作すると、次のような確認のメッセージが表示されることがあります。内容を確認したら [OK] をクリックしてください。



[今後、このメッセージを表示しない] にチェックマークを付けると、次回からメッセージは表示されなくなります。確認のメッセージの表示 / 非表示を設定は、[オプション] メニューの [環境設定] で行うこともできます。

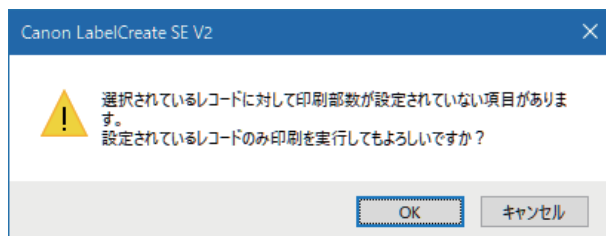
- [レコードごとに指定] にチェックマークがあるときは、その他の部数設定は無効となります。他の部数設定を有効にしたいときは、[レコードごとに指定] のチェックマークを外します。
- [データベースで指定] にチェックマークがあるときは、その他の部数設定は無効となります。他の部数設定を有効にしたいときは、[データベースで指定] のチェックマークを外します。

9 [印刷] をクリックします。



メモ

- レコードごとに印刷部数を指定する場合で、印刷部数が設定されていないレコードがあったときは、次のメッセージが表示されます。部数を指定しなすときは、[キャンセル] をクリックしてください。



■ データベース編集画面から指定する

1 標準ツールバー をクリックします。

または、[データベース] メニューの [データベース画面] をクリックします。
[データベース編集画面] が表示されます。

2 印刷したいレコードの [印刷対象] にチェックマークを入れます。



- 指定した条件に該当するデータのみを印刷したいときは、データベースの抽出を行います。「**レコードを抽出する (P.295)**」を参照してください。
- 表示したデータをソートしたいときは、キーボードの [Alt] キーを押しながら、ソート対象の項目の見出しをクリックしますが、レコードの抽出を行っているときは、ソート機能を使用できません。



[Alt] キー + クリック

3 レコードごとに部数を設定するときは、次のように操作します。

印刷レコードがすべて同じ部数、または データベースの部数指定項目を選んで印刷するときは、「手順 4」へ進みます。

- ① [印刷部数の設定を有効にする] にチェックマークを入れます。
または、[オプション] メニューの [印刷部数の設定を有効にする] をクリックします。

対象項目	条件	値	大文字/小文字
	～を含む		区別しない

一行削除(D) ☒ 印刷部数の設定を有効にする(B) 印刷部数クリア(K)

	印刷対象	印刷部数	A: 品名	B: 産地	C: 入数	D: 単位	E: 価格	F:
	☒	3	りんご	長野県	3	個	280	123
	☐		キャベツ	千葉県	1	玉	170	456
	☐		レモン	広島県	4	個	360	789
	☐		きゅうり	宮崎県	4	本	280	135
	☒		みかん	愛媛県	5	個	400	246
*	☐							

- ② 対象レコードを選びます。

	印刷対象	印刷部数	A: 品名	B: 産地	C: 入数	D: 単位	E: 価格	F:
	☒	3	りんご	長野県	3	個	280	123
	☐		キャベツ	千葉県	1	玉	170	456
	☐		レモン	広島県	4	個	360	789
	☐		きゅうり	宮崎県	4	本	280	135
	☒		みかん	愛媛県	5	個	400	246
*	☐							

複数のレコードを選択するときは、次のいずれかで行います。

- ・ 連続した複数のレコードを選択するとき
始点をクリックして選び、次にキーボードの [Shift] キーを押しながら終点をクリックします。
選択が終わったら、[Shift] キーを離します。
- ・ 連続していない複数のレコードを選択するとき
キーボードの [Ctrl] キーを押しながら選びます。選択が終わったら、[Ctrl] キーを離します。

- ③ [オプション]メニューの[印刷部数設定]を選びます。
[印刷部数設定]ダイアログボックスが表示されます。

- ④ 部数を入力します。



- ⑤ [OK] をクリックします。
選んだレコードの[印刷部数]のセルに、④で入力した部数が設定されます。



- ⑥ 同様の手順ですべての対象のレコードについて印刷部数を入力します。

メモ

- [印刷部数] は、セルをダブルクリックして直接キーボードで入力することもできます。
- [印刷対象] にチェックマークされていないレコードの[印刷部数]を入力すると、自動で[印刷対象]にチェックマークが入ります。
- [印刷部数のクリア] をクリックすると、[印刷部数]の入力値はすべて削除されます。



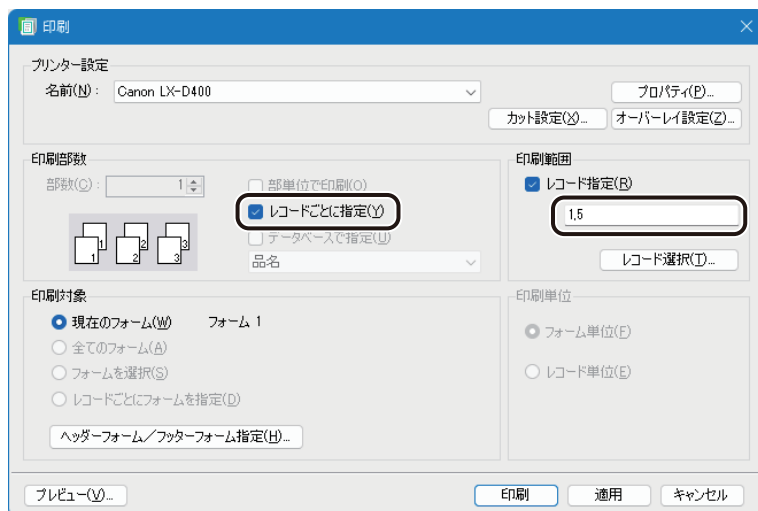
4 標準ツールバーの をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。

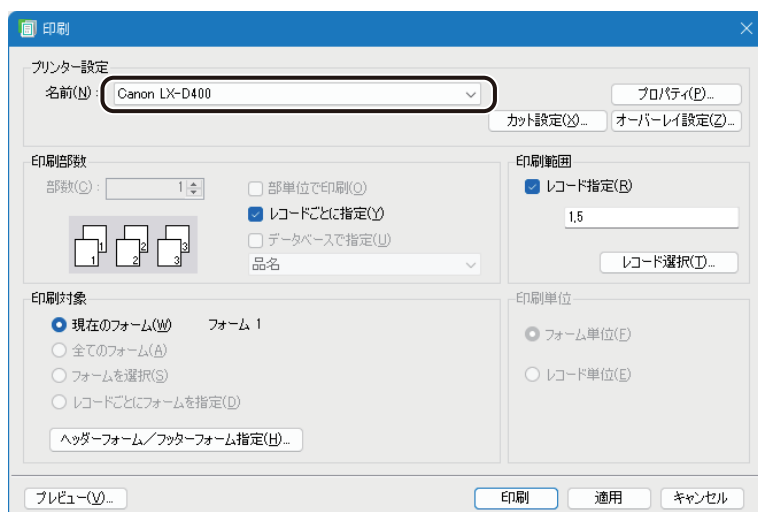
[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

[印刷範囲] には、設定したレコード No. が入力されます。

また、レコードごとの印刷部数を設定した場合は、[レコードごとに指定] にチェックマークが入ります。



5 印刷に使用するプリンターを指定します。



6 次の場合は、印刷部数を設定します。

- 印刷レコードがすべて同じ部数のとき
[部数] を入力します。

- データベースの部数指定項目を選んで印刷部数を設定するとき
「データベースの部数指定項目を選んで印刷する (P.351)」を参考に印刷部数を設定してください。

メモ

- [レコードごとに指定] にチェックマークがあるときは、その他の部数設定は無効となります。他の部数設定を有効にしたいときは、[レコードごとに指定] のチェックマークを外します。
- [データベースで指定] にチェックマークがあるときは、その他の部数設定は無効となります。他の部数設定を有効にしたいときは、[データベースで指定] のチェックマークを外します。

7 [印刷] をクリックします。

メモ

- 印刷対象指定する手順については、「フォームを指定して印刷する (P.353)」を参照してください。

データベースの部数指定項目を選んで印刷する

データベースの印刷部数を指定している項目を選んで印刷します。

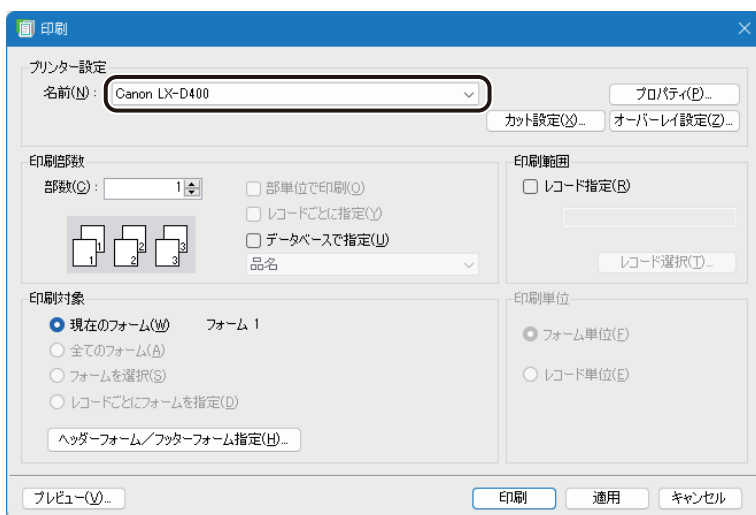
メモ

- 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、データベースの部数指定項目を選んだ印刷ができません。
⇒「13. 面付け用紙について（P4）」

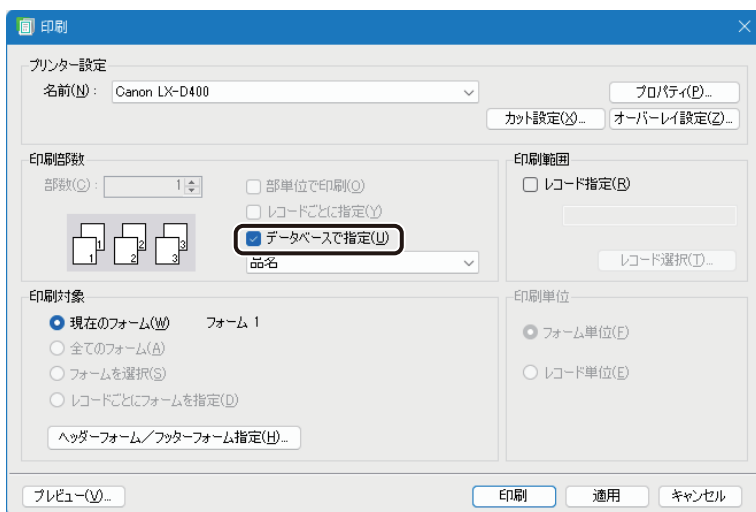
1 [印刷] ダイアログボックスを表示します。

⇒「印刷する（P328）」

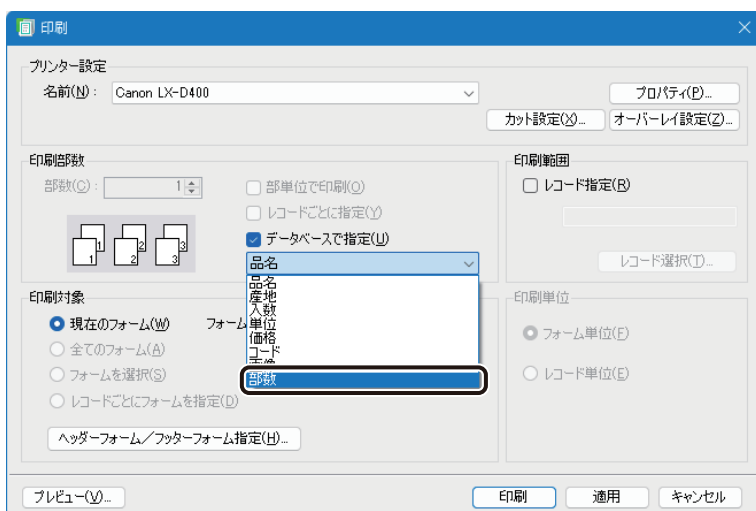
2 印刷に使用するプリンターを指定します。



3 [データベースで指定] にチェックマークを入れます。



4 部数指定をしている項目を選びます。



5 [印刷] をクリックします。

メモ

- [データベースで指定] にチェックマークがあるときは、その他の部数設定は無効となります。他の部数設定を有効にしたいときは、[データベースで指定] のチェックマークを外します。
- 印刷対象指定する手順については、「[フォームを指定して印刷する \(P.353\)](#)」を参照してください。

フォームを指定して印刷する

フォームを指定して印刷します。



メモ

- 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、次の印刷ができません。

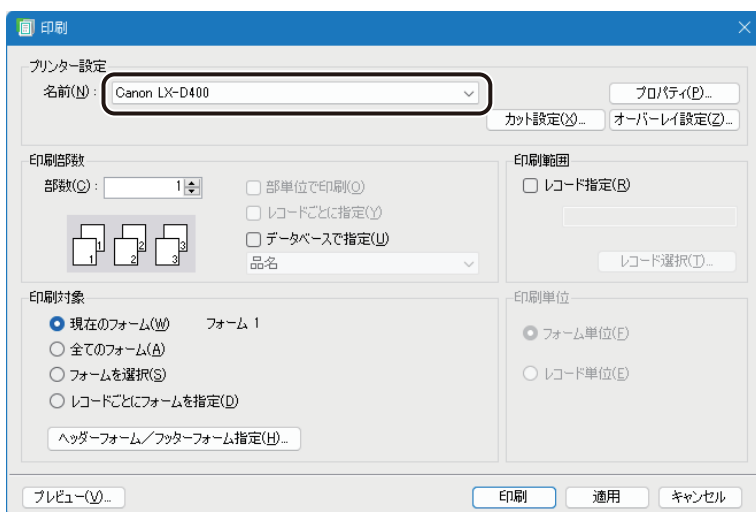
- ・ 複数フォームを指定した印刷
- ・ ヘッダーフォーム / フッターフォームを指定した印刷

⇒「13. 面付け用紙について（P.4）」

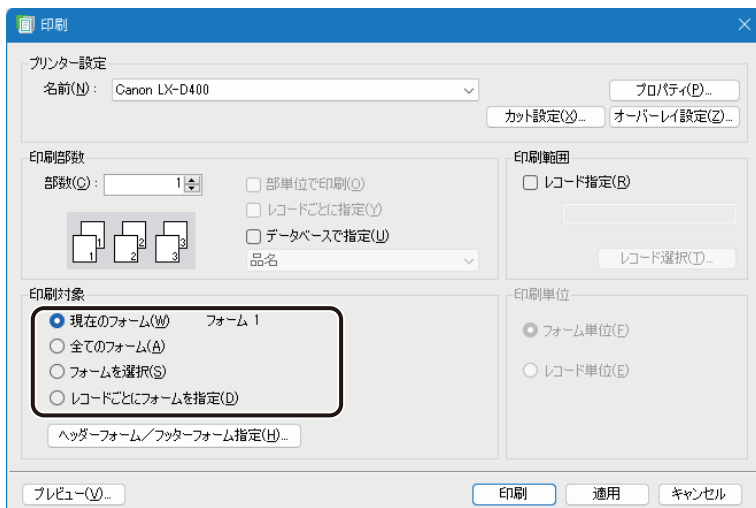
1 [印刷] ダイアログボックスを表示します。

⇒「印刷する（P.328）」

2 プリンターを指定します。

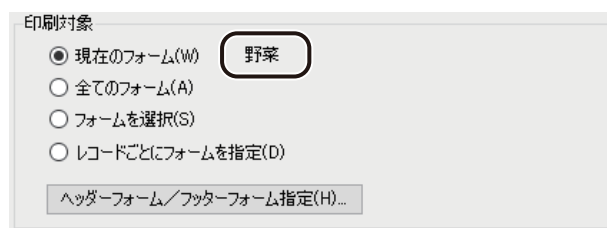


3 フォームを指定します。



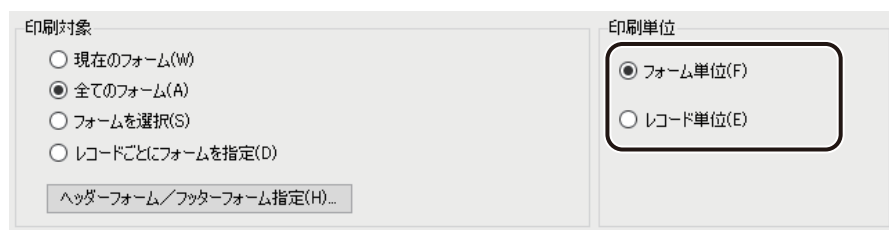
● 「現在のフォーム」を指定した場合

印刷レコードを現在表示しているフォームで印刷します。現在表示しているレコードが項目の右側に表示されます。



● 「全てのフォーム」を指定した場合

印刷レコードを全てのフォームで印刷します。印刷単位を指定します。



【フォーム単位】

同一フォームですべての印刷対象レコードについて印刷を行ったあと、次の印刷対象フォームの印刷に切り替わります。

【レコード単位】

印刷対象レコードごとに印刷対象フォームを印刷します。



- 複数のフォームを印刷するときは、メイン画面の左側のフォームから順番に印刷されます。

● 「フォームを選択」を指定した場合

印刷レコードを指定したフォームで印刷します。

フォームの指定は、右側に表示されたリストから任意のフォームを選びます。また、複数のフォームを選んだ場合は、印刷単位を指定します。

【フォーム単位】

同一フォームですべての印刷対象レコードについて印刷を行ったあと、次の印刷対象フォームの印刷に切り替わります。

【レコード単位】

印刷対象レコードごとに印刷対象フォームを印刷します。



- 複数のフォームをリストから選択するときは、次のように操作します。
 - ・ 連続した複数のフォームを選択するとき
始点をクリックして選び、次にキーボードの [Shift] キーを押しながら終点をクリックします。選択が終わったら、[Shift] キーを離します。
 - ・ 連続していない複数のフォームを選択するとき
キーボードの [Ctrl] キーを押しながら選びます。選択が終わったら、[Ctrl] キーを離します。
- 複数のフォームを印刷するときは、メイン画面の左側のフォームから順番に印刷されます。

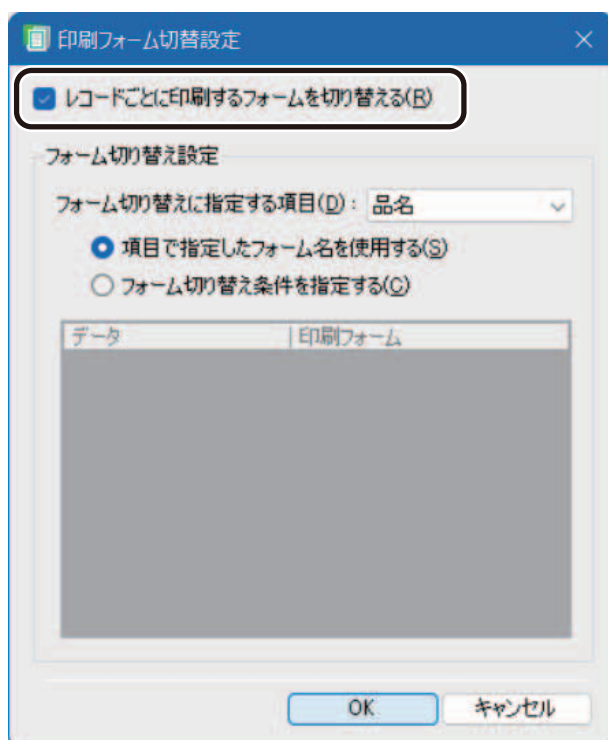
● 「レコードごとにフォームを指定」を指定した場合

レコードごとにフォームを指定して印刷します。

① 「設定」をクリックします。

〔印刷フォーム切替設定〕ダイアログボックスが表示されます。

- ② 「レコードごとに印刷するフォームを切り替える」にチェックマークを入れます。

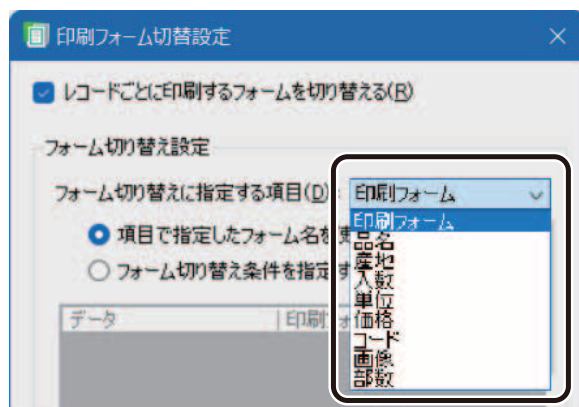


- ③ 「項目で指定したフォーム名を使用する」または「フォーム切り替え条件を指定する」を選んで、次のように設定します。

「項目で指定したフォーム名を使用する」

各レコードの印刷フォームを、データベースで指定する場合に選びます。

印刷フォームを指定する項目を「フォーム切り替えに指定する項目」で指定します。



〔フォーム切り替え条件を指定する〕

フォームを切り替える基準となる項目を「フォーム切り替えに指定する項目」で指定して、印刷フォームを選びます。

印刷フォーム切替設定

☒ レコードごとに印刷するフォームを切り替える(B)

フォーム切り替え設定

フォーム切り替えに指定する項目(D): 単位

☐ 項目で指定したフォーム名を使用する(B)

☒ フォーム切り替え条件を指定する(D)

データ	印刷フォーム
個	フォーム 2
玉	フォーム 1
本	フォーム 2
	フォーム 3

④ [OK] をクリックします。

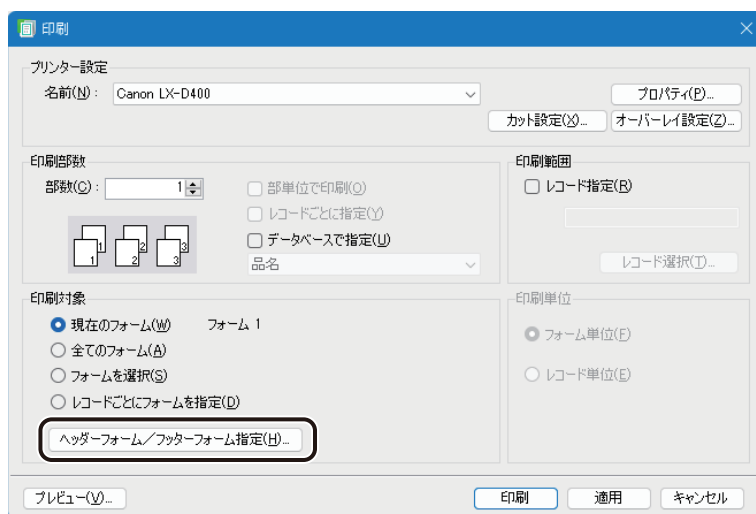
メモ

- [項目で指定したフォーム名を使用する] を設定したとき、指定した項目に正しいフォーム名が入力されていない場合は、メッセージが表示されます。次のことを確認してください。
 - ・ フォーム名は正しく入力してください。全角と半角を区別します。
 - ・ デザインファイルに登録されていないフォーム名は指定できません。
 - ・ 印刷対象外のレコードについても、印刷フォームを入力する必要があります。(空欄不可)

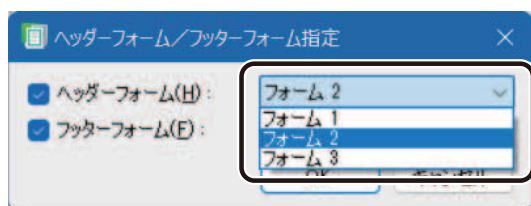
A: 印刷フォーム		B: 品名
フォーム 1	りんご	長野
フォーム 2	ジャパニーズ	千葉
フォーム 1	レモン	広島
フォーム 2	みゆり	宮崎
フォーム 1	みかん	愛媛

4 ヘッダー（印刷データの先頭）またはフッター（印刷データの終端）用のフォームを印刷するときは、次のように操作します。

- ① [ヘッダーフォーム／フッターフォーム指定] をクリックします。



- ② [ヘッダーフォーム] または [フッターフォーム指定] にチェックマークを入れて、フォームを指定します。

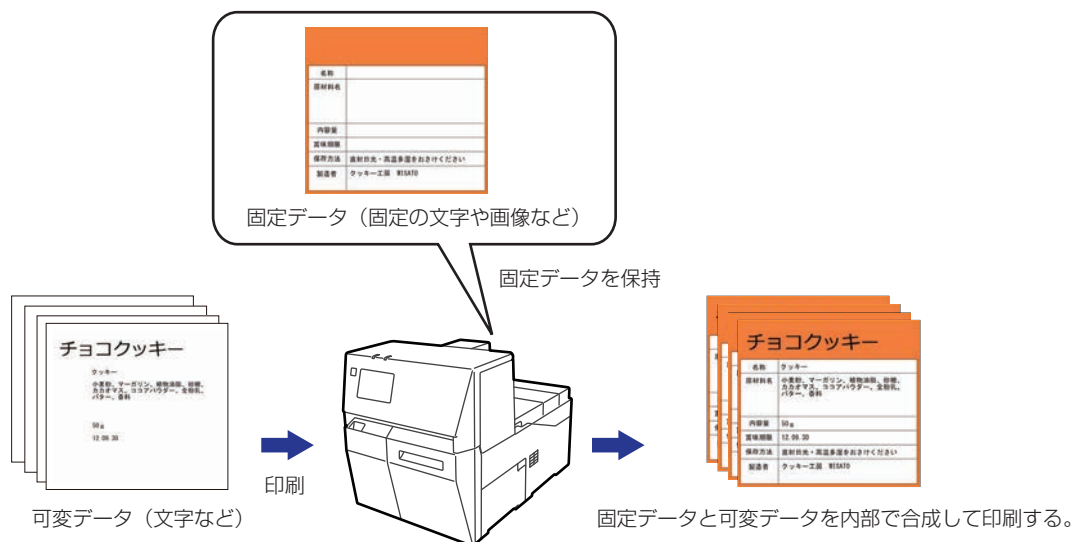


5 [印刷] をクリックします。

オーバーレイ印刷をする

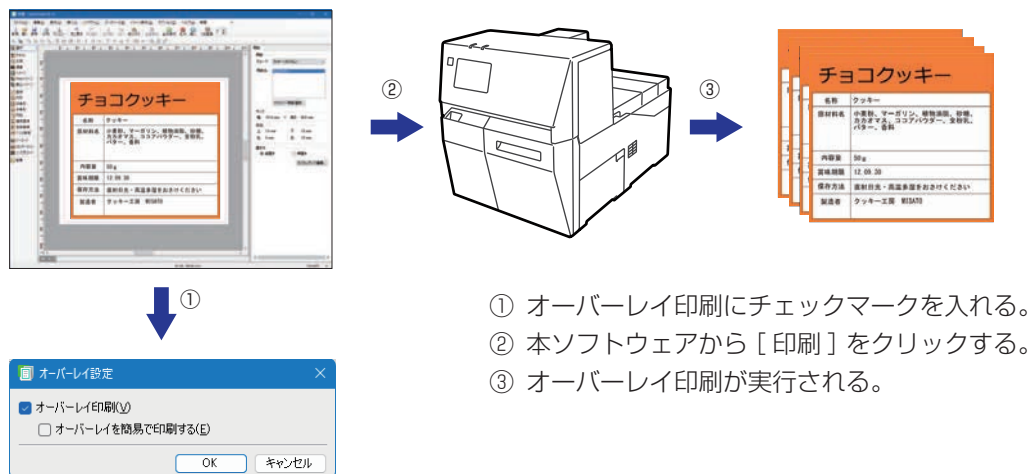
画像などを多く配置したデザインデータを印刷するときには、オーバーレイ印刷を使うと効率的に印刷できます。オーバーレイ印刷とは、プリンター内部で固定データを保持し、そのデータに文字などの可変データを合成して出力させる印刷機能です。そのような操作を行うことで、データ容量の大きい固定データを何度もプリンターに送信することなく印刷できるため、よりスピーディな印刷を行うことができます。

<オーバーレイ印刷とは>



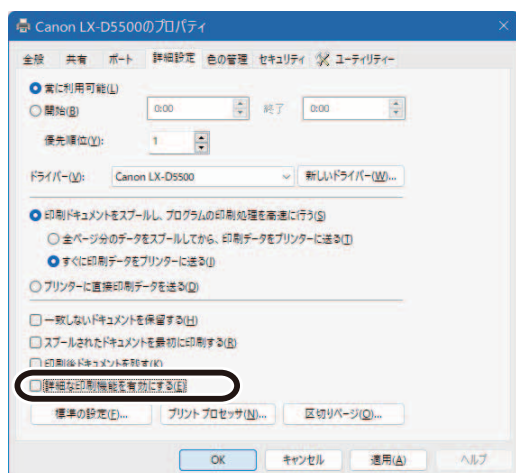
また、本ソフトウェアでのオーバーレイ印刷は、プリンタードライバーでの印刷設定の必要はなく、本ソフトウェア上の簡単な設定のみで行うことが可能です。

<本ソフトウェアでのオーバーレイ印刷の流れ>





- オーバーレイ印刷を行う際は、キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 をご使用ください。共有環境でこれらのプリンターを使用し、管理者権限を持たないユーザーが印刷を行う場合は、ユーザーアカウント制御画面が表示されることがありますので、その際は管理者にお問い合わせください。
- 本ソフトウェアから行ったオーバーレイ印刷の設定は、プリンタードライバーの印刷設定（[印刷] ダイアログボックスの[プロパティ] をクリックして表示）から行ったオーバーレイの設定より優先されます。
- 背景オブジェクトに差し込みカラーテーブルを設定しているときは、オーバーレイ印刷を行わないでください。設定どおりに色が反映されない場合があります。
- オーバーレイ印刷するときは、固定オブジェクトと可変オブジェクトがグループ化されていないことを確認してください。また、そのようなオブジェクトがあったときは、グループ化を解除してください。固定オブジェクトと可変オブジェクトをグループ化しているオブジェクトは、可変オブジェクトと判別されるため、条件によっては、印刷の処理速度に影響が出る場合があります。
- キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 を共有環境で使用し、クライアント側のパソコンからオーバーレイ印刷を行う場合は、プリンタードライバーのスプール形式を次のような手順で「RAW モード」に設定してください。「EMF モード」では、オーバーレイ印刷が正常に行えません。
 - ① タスクバーの[検索]アイコンをクリックし、検索ボックスに「プリンターとスキャナー」と入力します。
 - ② プリンターのドライバーをクリックし、[プリンターのプロパティ]（または[管理]→[プリンターのプロパティ]）を選びます。
[プリンターのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
 - ③ [詳細設定] タブをクリックし、「詳細な印刷機能を有効にする」のチェックマークを外します。

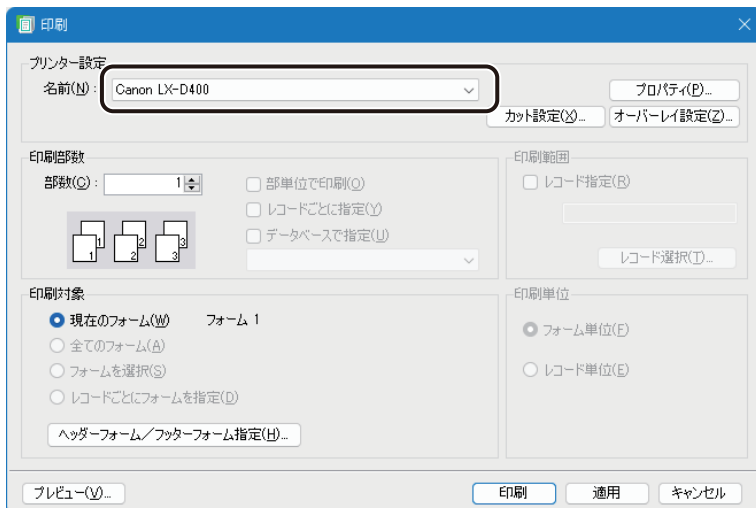


スプール形式がRAW モードに設定されます。

1 [印刷] ダイアログボックスを表示します。

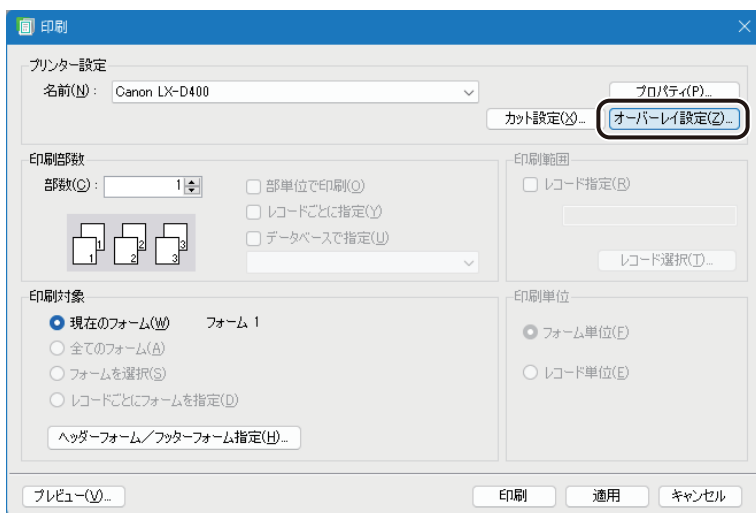
⇒「印刷する (P.328)」

2 印刷に使用するプリンターを指定します。



3 印刷部数や印刷範囲などを設定します。

4 [オーバーレイ設定] をクリックします。

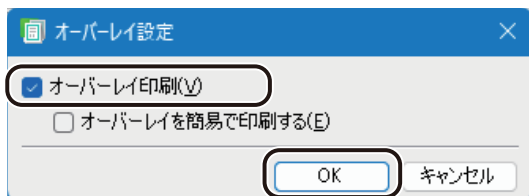


「オーバーレイ設定」ダイアログボックスが表示されます。



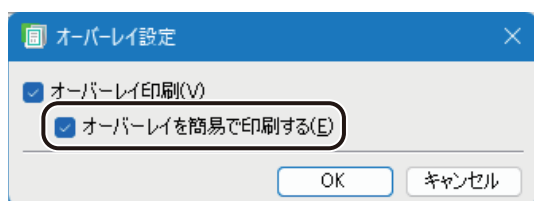
- プリンタードライバースプールの形式に関するメッセージが表示された場合は、[P. 360](#)のメモを参照してください。

5 [オーバーレイ印刷] にチェックマークを入れて、[OK] をクリックします。



メモ

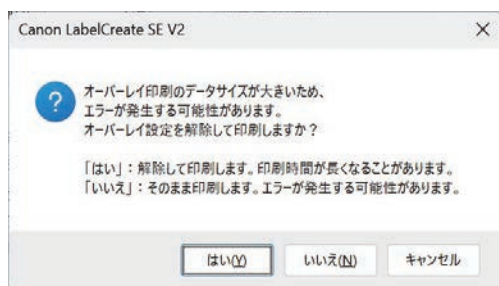
- [オーバーレイを簡易で印刷する] にチェックマークを入れて印刷すると、通常のオーバーレイ印刷（チェックマークが入っていないとき）よりも高速に印刷処理を行うことができます。ただし、固定オブジェクトと可変オブジェクトが重なる部分も印刷するため、重なった部分は色が混ざり合って印刷されます。通常のオーバーレイ印刷では、固定オブジェクトと可変オブジェクトの重なる部分は印刷されません。



6 [印刷] をクリックします。

メモ

- 印刷するデータサイズが大きい場合、以下のメッセージが表示されることがあります。メッセージに従って対処してください。



カッターを設定する

本ソフトウェアからオートカッターのカット動作を設定することができます。



メモ

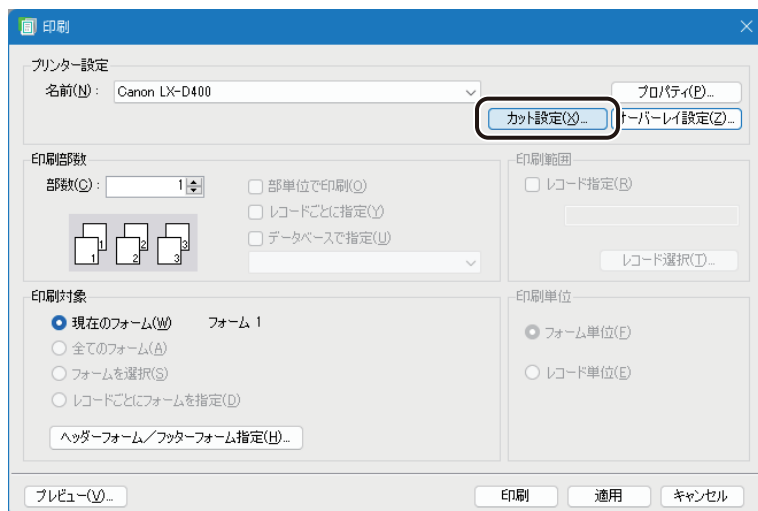
- キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LG-P800/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 以外のカット動作は設定できません。
- キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LX-P5500/LX-D5500 のオートカッターは、オプション品（別売）です。
- プリンタードライバーの印刷設定にて割付印刷を設定している場合は、本ソフトウェアのカッター設定にて「アプリケーションでカッター設定する」を指定できません。

1 [印刷] ダイアログボックスを表示します。

⇒ 「印刷する (P328)」

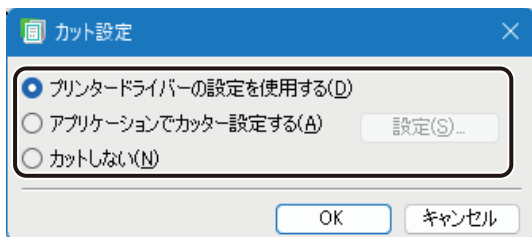
2 印刷に使用するプリンターを指定します。

3 [カッター設定] をクリックします。



4 [プリンタードライバーの設定を使用する] または [アプリケーションでカッター設定する] を選びます。

[プリンタードライバーの設定を使用する] を選んだ場合は、手順 6 に進みます。



[プリンタードライバーの設定を使用する] (初期設定)

プリンタードライバーのカッター設定を使用します。

[アプリケーションでカッター設定する]

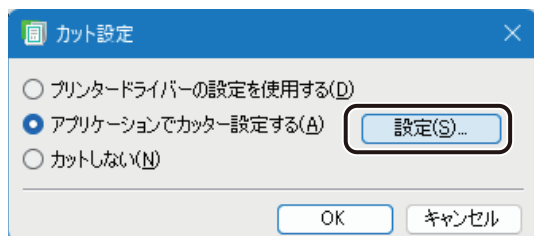
本ソフトウェアでカッターの設定を行います。

[カットしない]

印刷後に用紙をカットしません。

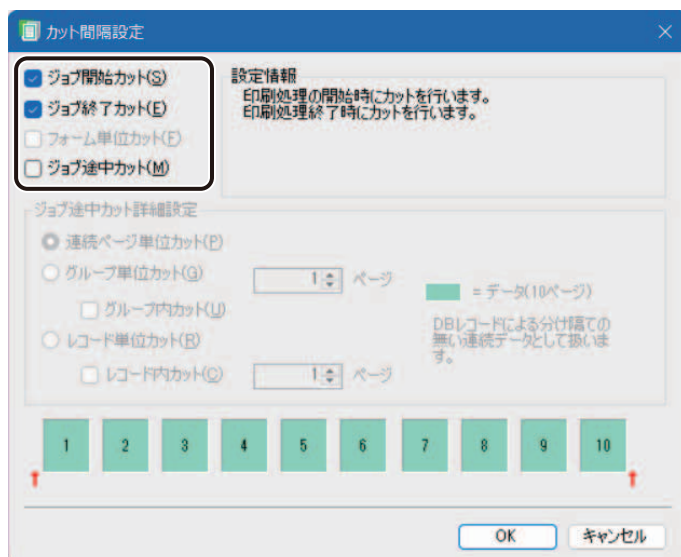
5 [アプリケーションでカッター設定する] を選んだ場合は、カッターの設定を行います。

① [設定] をクリックします。



[カット間隔設定] ダイアログボックスが表示されます。

② カット間隔を選びます。



[ジョブ開始カット]

印刷開始時にカットします。

[ジョブ終了カット]

印刷終了時にカットします。

[フォーム単位カット]

フォーム単位でカットします。複数のフォームがあるときに設定できます。

ただし、「ジョブ途中カット」が設定されている場合は「フォーム単位カット」を設定できません。

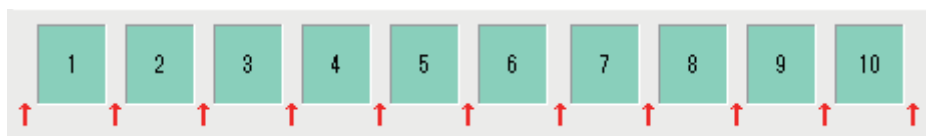
[ジョブ途中カット]

任意のタイミングでカットします。ページごとにカットしたいときや、ページ単位またはレコード単位にカットしたいときに選びます。

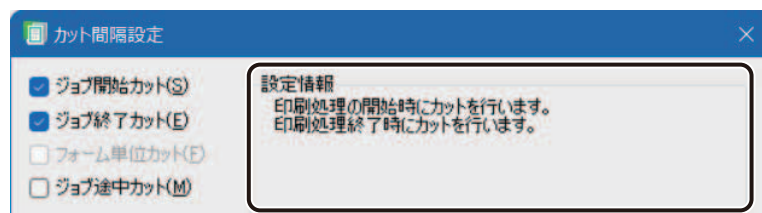
ただし、「フォーム単位カット」が設定されている場合は「ジョブ途中カット」を設定できません。

メモ

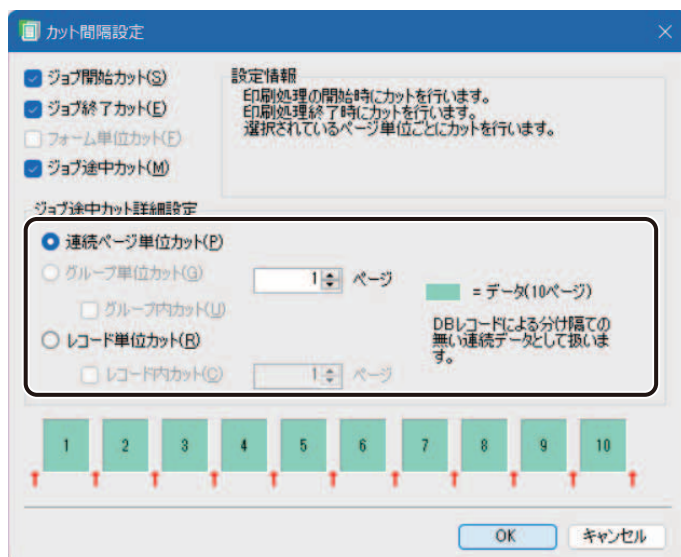
- カットのタイミングのイメージがプレビュー表示されます。



- カット間隔の設定情報がダイアログボックスの右側に表示されます。



- ③ [ジョブ途中カット] を選んだときは、[ジョブ途中カット詳細設定] を設定します。



[連続ページ単位カット]

レコードに関係なく、ページごとにカットします。[1] ページ に数値を入力すると、指定した枚数ごとにカットします。

[グループ単位カット]

同じページごとの単位でカットするときに選びます。

[グループ内カット] にチェックマークを入れると、グループ内を指定した枚数ごとにカットします。枚数の指定は、[1] ページ に入力します。

[レコード単位カット]

同じレコードごとにカットするときに選びます。

[レコード内カット] にチェックマークを入れると、レコード内を指定した枚数ごとにカットします。枚数の指定は、[1] ページ に入力します。



- [グループ単位カット] は、[印刷部数] で [部数] が 2 以上の場合に設定できます。ただし、[部数単位で印刷] にチェックマークが入っているときは設定できません。
- [レコード単位カット] は、データベースを参照（または内部データベースを保持）しているときに設定できます。

- ④ [OK] をクリックします。

6

[OK] をクリックします。

7

[印刷] をクリックします。



- 印刷に使用するプリンターの最小カット間隔よりも小さい値をカット間隔に設定した場合、メッセージが表示されます。メッセージに従って対処してください。

用紙に合わせてバーコードを調整する

本ソフトウェアでは、印刷したバーコード、GS1 データバー、二次元コードが読み取りにくい場合に用紙にあわせた調整を「バーコード設定」で行うことができます。

バーコード設定が可能な条件（プリンター、用紙種類、用紙形状）は、以下となります。

プリンター名	用紙種類	用紙形状	バーコード設定	
			高品位用紙	微調整情報
LX-D400	マットコート紙	ラベル / ギャップ	○	×
		ラベル / ブラックマーク	○	×
		ラベル / なし	○	×
		タグ / ブラックマーク	×	○
		タグ / なし	×	○
		ラベル / ギャップ（特殊形状）	×	×
		ラベル / ブラックマーク（特殊形状）	×	×
	合成紙	すべての形状	×	○
	薄紙マットコート紙	すべての形状	×	○
	光沢紙	すべての形状	×	×
LX-D5500	マットコート紙	ラベル / ギャップ	○	×
		ラベル / マーカー	○	×
		ラベル / TOF 無し	○	×
		タグ / マーカー	×	○
		タグ / TOF 無し	×	○
	合成紙	すべての形状	×	○
	薄紙マットコート紙	すべての形状	×	○
	光沢紙	すべての形状	×	×
	白 PET	すべての形状	×	×
LX-P5500	マットコート紙	ラベル / ギャップ	○	×
		ラベル / マーカー	○	×
		ラベル / TOF 無し	○	×
		タグ / マーカー	×	×
		タグ / TOF 無し	×	×
	合成紙	すべての形状	×	×
	薄紙マットコート紙	すべての形状	×	×
	光沢紙	すべての形状	×	×
LX-P1500	マットコート紙	ラベル / ギャップ	○	×
		ラベル / マーク有	○	×
		タグ / マーク有	×	×
		タグ / マーク無	×	×
	合成紙	すべての形状	×	×
	薄紙マットコート紙	すべての形状	×	×
	光沢紙	すべての形状	×	×

○：設定可

×

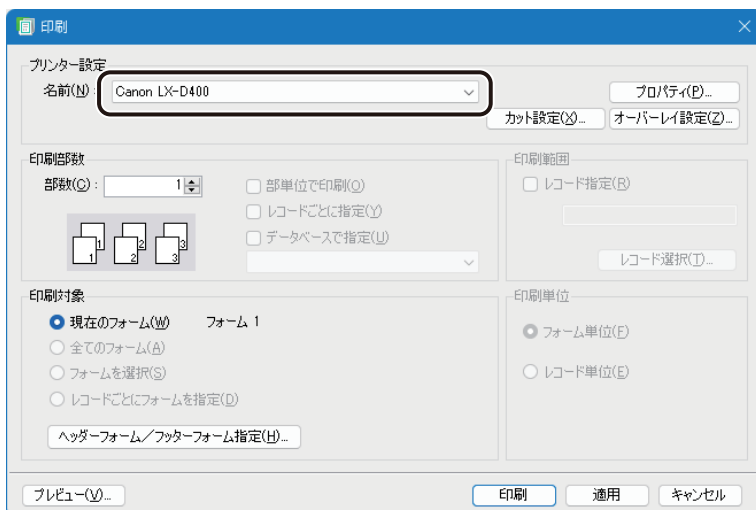


- 「バーコード設定」を行うときは、キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 をご使用ください。その他のプリンターでは設定できません。
- キヤノン カラーラベルプリンター LX-P5500 をご使用の場合、プリンタードライバーの「エコノミー印刷」がオンに設定されているときはバーコード設定を行うことはできません。

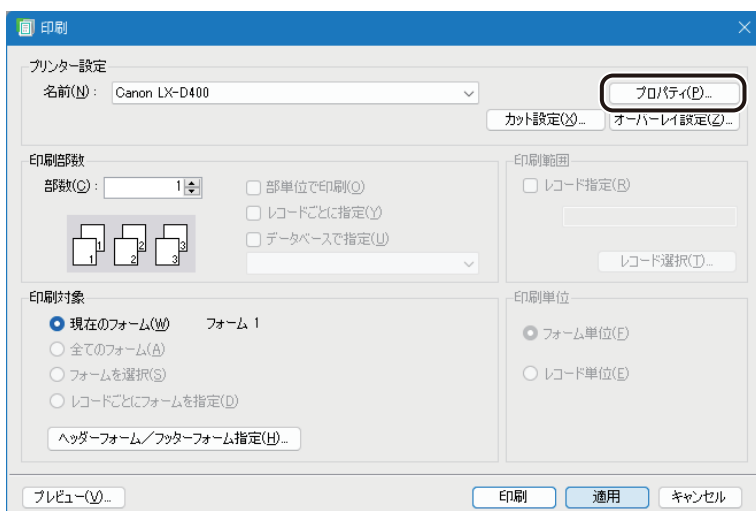
1 [印刷] ダイアログボックスを表示します。

⇒ 「印刷する (P328)」

2 印刷に使用するプリンターを指定します。



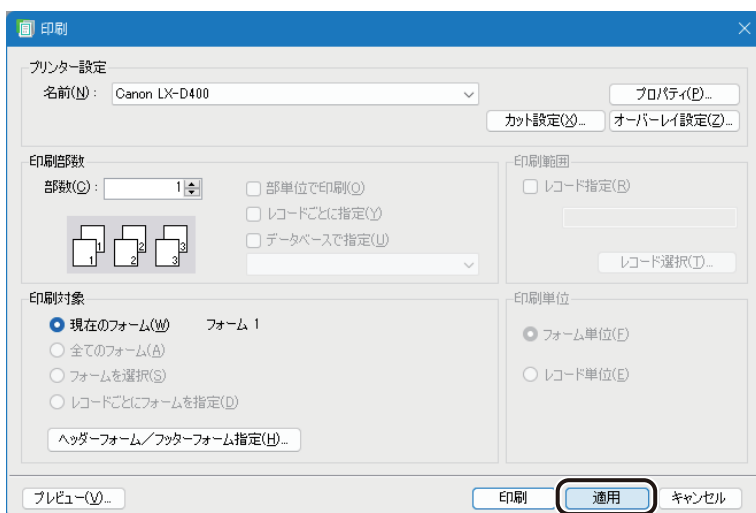
3 [プロパティ] をクリックし、[用紙種類] および [用紙形状] を印刷する用紙の仕様に設定します。



メモ

- プリンタードライバーの設定については、各プリンター製品のユーザズガイドを参照してください。
- バーコード、GS1 データバー、二次元コードが配置してあるデータの場合、印刷プリンターの変更またはプリンタードライバーの印刷設定（解像度、用紙種類、「エコノミー印刷」のオン/オフの設定（LX-P5500 をご使用の場合のみ））を変更したときは、バーコード、GS1 データバー、二次元コードを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成したオブジェクトでも大きさが異なります。

4 [適用] をクリックします。



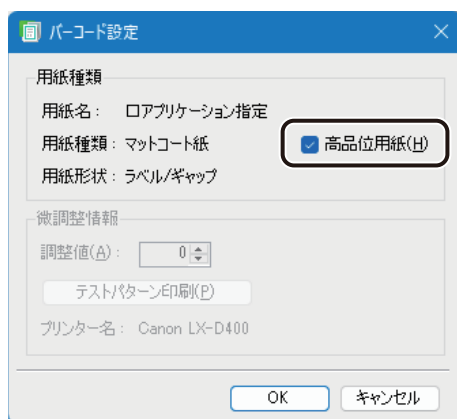
5 [オプション] メニューの [バーコード設定] をクリックします。

[バーコード設定] ダイアログボックスが表示されます。

6 用紙に合わせて、次のように操作します。

● 高品位用紙のとき

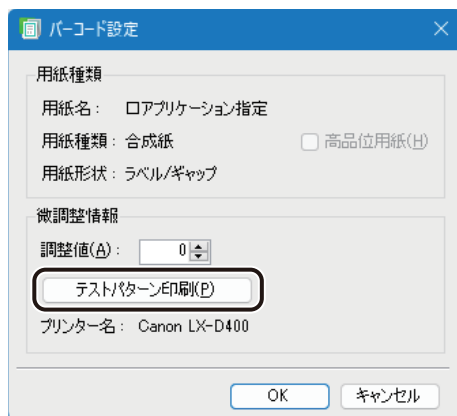
- ① 「高品位用紙」のチェックボックスにチェックマークを入れます。



- ② [OK] をクリックします。

● 微調整情報を設定するとき

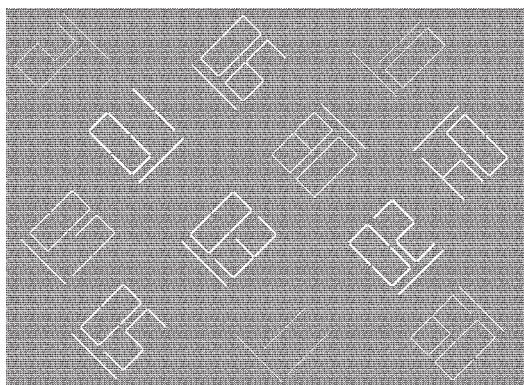
- ① [テストパターン印刷] をクリックします。



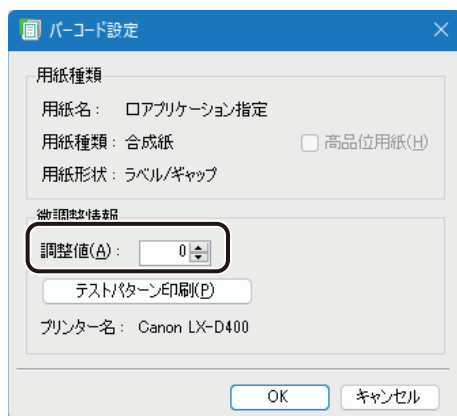
テストパターンが印刷されます。

- ② テストパターンから調整値を読み取ります。

テストパターンには、次のように数字が「01」～「12」まで印刷されます（数字の底には、アンダーバーが引いてあります）。数字は、大きな数字ほど薄く印刷されるようになっています。
印刷されている数字を「01」「02」「03」・・・と、順に確認していき、最後に読み取ることができた数字が調整値となります。



- ③ 「調整値」に、テストパターンから読み取った数字を入力します。



- ④ 「OK」をクリックします。

ラベルの自動印刷

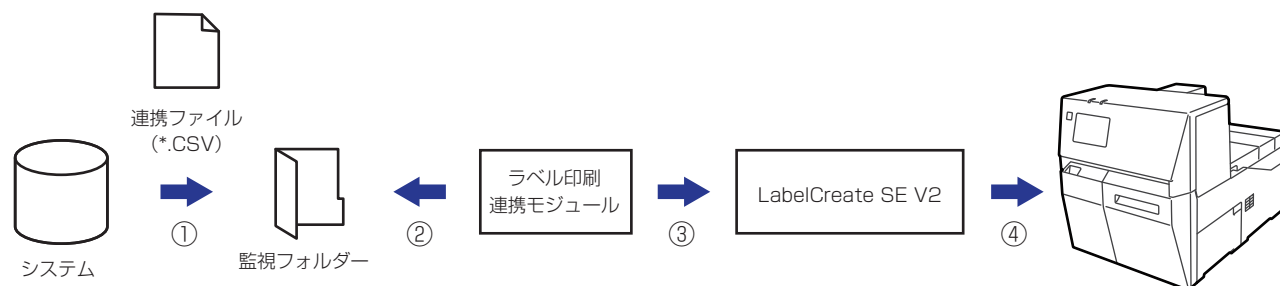
「ラベル印刷連携モジュール」(オプション)を使ったラベルの自動印刷について説明します。

ソフトウェアの概要
ラベル作成の基本操作
メッセージ一覧

ソフトウェアの概要

「ラベル印刷連携モジュール」（オプション）を使うと、お使いのシステムと「LabelCreate SE V2」を連携してラベルを自動印刷する仕組みを構築することができます。

<自動印刷の流れ>



- ① お使いのシステムから出力された連携ファイルを、監視フォルダーに格納する
- ② 「ラベル印刷連携モジュール」が監視フォルダー内の連携ファイルを確認する
- ③ 印刷に使う情報（連携ファイル、ラベルデザイン、印刷設定）が、「ラベル印刷連携モジュール」から「LabelCreate SE V2」に送信される
- ④ 「LabelCreate SE V2」からプリンターに印刷するラベルのデータが送信される

メモ

- 「LabelCreate SE V2」をインストールすると、同時に「ラベル印刷連携モジュール」の試用版が自動でインストールされます。
- 「ラベル印刷連携モジュール」の試用版を使って印刷すると、「Sample」のスタンプを付けて印刷します。
- 「ラベル印刷連携モジュール」の試用版から製品版へアップデートする場合は、「セットアップガイド」の操作に従ってライセンスキーを入力してください。
- 「ラベル印刷連携モジュール」を使って自動印刷する場合は、以下の環境設定が必要です。
 - ・ パソコンには、管理者のアカウントでサインインしてください。
 - ・ パソコンがスリープ状態にならないように、電源設定を変更してください。
- 「ラベル印刷連携モジュール」は、パソコン起動時に自動的に起動します。「ラベル印刷連携モジュール」を終了したい場合は、タスクバーの「H」アイコン（隠れているインジケータを表示します）をクリックして  を右クリックし、メニューから「終了」を選びます。「ラベル印刷連携モジュール」を起動したいときは、パソコンを再起動してください。

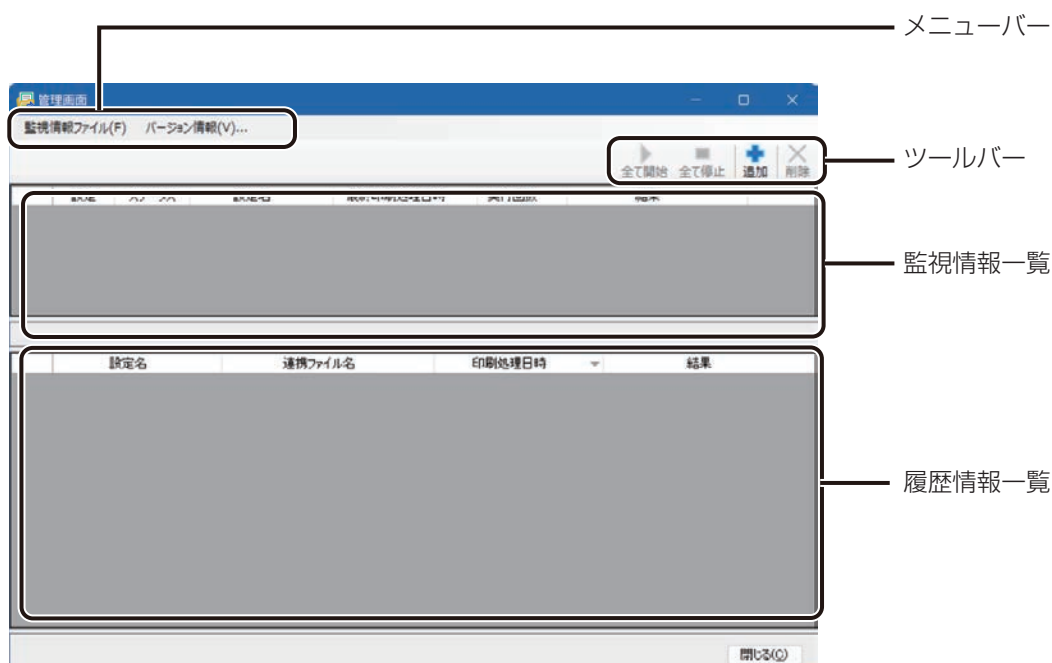
管理画面を表示する

ラベルの自動印刷を管理する画面を表示します。

- 1 タスクバーの「ハ」アイコン（隠れているインジケータを表示します）をクリックして、のアイコンを右クリックします。

- 2 右クリックで表示されるメニューから「管理画面を表示」をクリックします。

管理画面が表示されます。



● メニューバー

「監視情報ファイル」メニュー	監視情報一覧に登録されている監視情報（監視情報ファイル（*.LC））を、エクスポート/インポートします。
「バージョン情報」メニュー	「ラベル印刷連携モジュール」のバージョン情報を表示します。 試用版から製品版へアップデートする場合は、ライセンスキーを入力します。

● ツールバー

[全て開始] 	監視情報一覧に登録されている全ての監視情報の監視を開始します。
[全て停止] 	監視情報一覧に登録されている全ての監視情報の監視を停止します。

[追加] 	新しい設定を追加します。
[削除] 	選んだ設定を削除します。

- 監視情報一覧

設定されている管理情報が表示されます。また、各管理情報の状態（監視中／印刷中／停止中）を確認および切り替えることができます。最大5件の監視情報を登録できます。

⇒「監視情報を設定する（P.380）」

- 履歴情報一覧

監視情報設定にしたがって、印刷が実行された結果が表示されます。



- [全て開始]、[全て停止] および [バージョン情報] は、インジケータ  を右クリックして表示されるメニューから設定することもできます。

ラベル作成の基本操作

ラベルの自動印刷の基本操作を説明します。

＜完成例＞

第2章で作成した商品ラベルを自動印刷します。

りんご			
産地	長野県		
入数	3個		
価格	¥302		
			

キャベツ			
産地	千葉県		
入数	1玉		
価格	¥184		
			

レモン			
産地	広島県		
入数	4個		
価格	¥389		
			

きゅうり			
産地	宮崎県		
入数	4本		
価格	¥302		
			

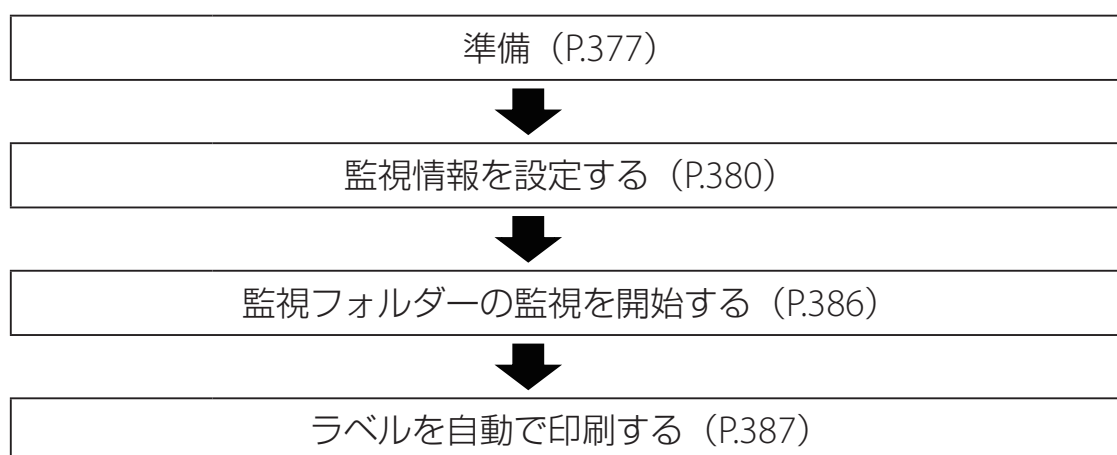
みかん			
産地	愛媛県		
入数	5個		
価格	¥432		
			

印刷プリンター： キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400

用紙サイズ： 4 × 3 インチ (97.3 × 76.2 mm)

次のような流れに沿って行います。

＜操作の流れ＞



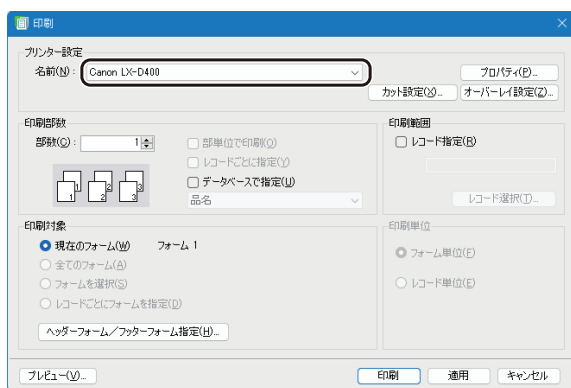
準備

1 ラベルのデザインファイルを用意します。

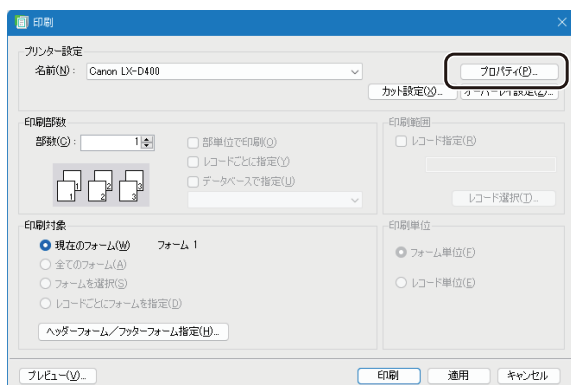
ここでは、第2章で作成した商品ラベルのデザインファイル（ファイル名：Sample_2.lc2）を使います。

2 デザインファイルを開き、印刷設定を行います。

- ① 印刷に使うプリンターを指定します。
ここでは、「Canon LX-D400」を選びます。



- ② [プロパティ] をクリックしてプリンタードライバーの印刷設定を行います。



プリンターにセットした用紙に合わせて設定してください。

ここでは、用紙サイズ「4×3ラベル/ギャップ」、用紙種類「マットコート紙」を選びます。



- 印刷設定について詳しくは、お使いのプリンターの取扱説明書を参照してください。

3 連携ファイルを作成します。

ここでは、「青果ラベル.xlsx」のデータベースを、CSV形式に変換したファイルを使います。
「青果ラベル.csv」を作成してください。

ファイル名：青果ラベル.csv

[A] 品名	[B] 産地	[C] 入数	[D] 単位	[E] 価格	[F] コード	[G] 画像	[H] 部数
りんご	長野県	3	個	280	123BB	C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample¥ サンプル画像 ¥りんご.bmp	1
キャベツ	千葉県	1	玉	170	456AA	C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample¥ サンプル画像 ¥キャベツ.bmp	5
レモン	広島県	4	個	360	789BB	C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample¥ サンプル画像 ¥レモン.bmp	4
きゅうり	宮崎県	4	本	280	135AA	C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample¥ サンプル画像 ¥きゅうり.bmp	3
みかん	愛媛県	5	個	400	246BB	C:\Program Files (x86)\Canon Finetech Nisca\LabelCreate SE V2\Sample¥ サンプル画像 ¥みかん.bmp	2

メモ

- CSV ファイルは以下の仕様で作成してください。
 - 項目名の記載（ヘッダー行）
CSV ファイルの 1 行目には項目名（ヘッダー）を記載してください。
 - 項目名の一致
項目名は、ラベルデザインファイルで使用されている項目名と完全に一致させてください。大文字・小文字の違い、スペースや記号なども含めて一致させる必要があります。
 - 項目名の並び順およびデザインファイルに含まれない項目の記載について
CSV ファイル内の項目名の並び順は任意です。
デザインファイルに存在しない項目名が含まれていても、印刷処理には影響しません。
 - 使用可能な文字：制限なし
 - 文字コード
以下の文字コードに対応しています。
Shift_JIS
Unicode (UTF-8、UTF-16)
 - 項目数上限
CSV ファイルに記載できる項目数は最大 255 項目です。
256 項目以降のデータは破棄されます。
- CSV ファイル内のデータがダブルクォーテーション (") で囲まれている場合、「LabelCreate SE V2」インポートされる際にこれらのダブルクォーテーションは自動的に削除されます。

-
- 4** 連携ファイルが格納されるフォルダーを作成します。
ここでは、フォルダー名「出荷データ」を作成してください。
-

- 5** 印刷完了後の連携ファイルが保存されるフォルダーを作成します。
ここでは、フォルダー名「印刷完了」を作成してください。

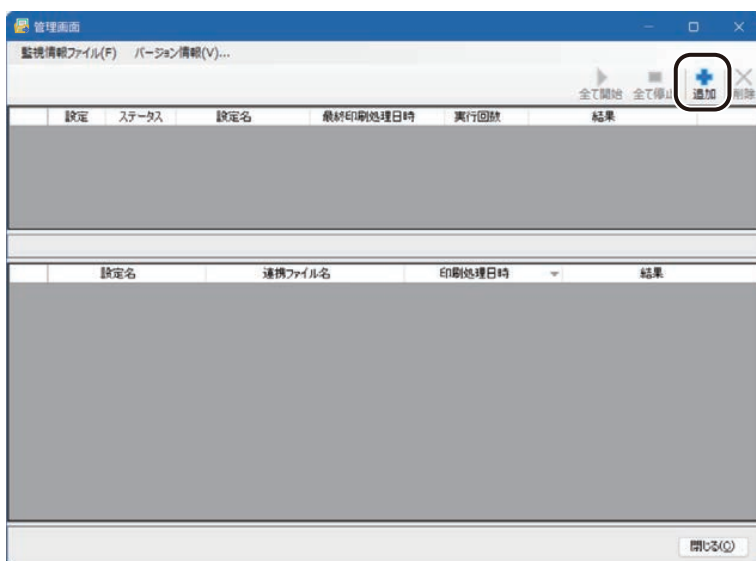
監視情報を設定する

監視方法や印刷設定を、監視フォルダーごとに監視情報として設定します。

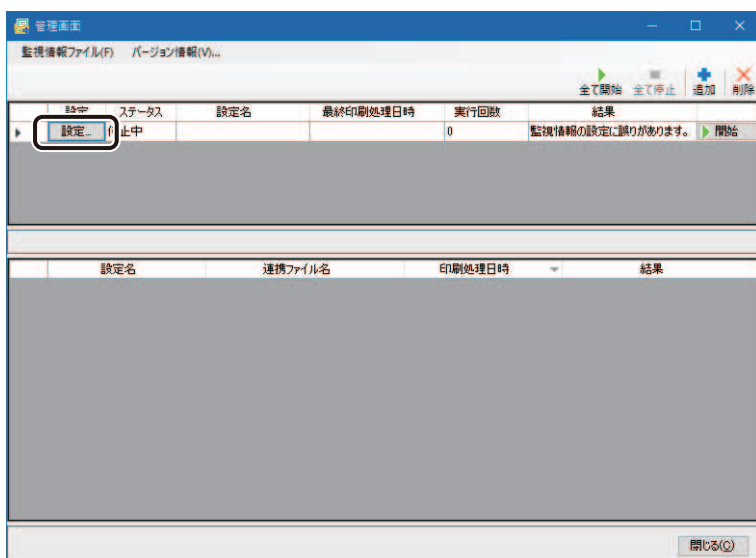
1 管理画面を表示します。

⇒「管理画面を表示する（P.374）」

2 をクリックします。



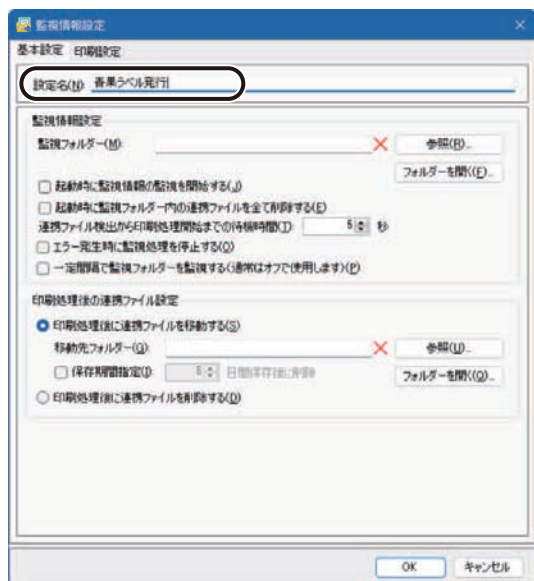
3 「設定」をクリックします。



「監視情報設定」ダイアログボックスが表示されます。

4 監視情報の名称を「設定名」に入力します。

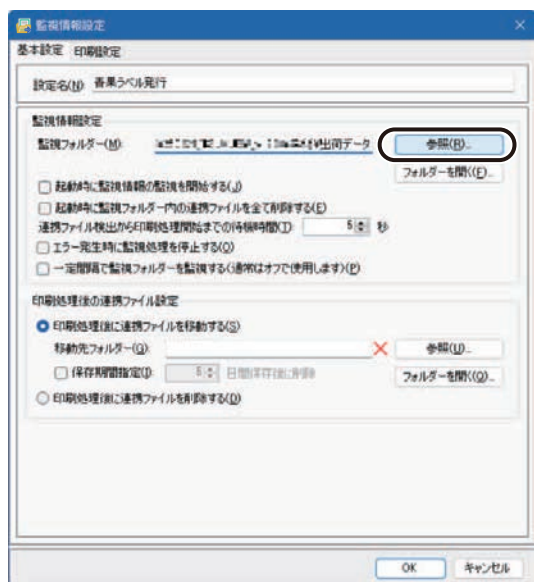
ここでは、「青果ラベル発行」と入力します。



- 設定名の最大文字数は半角、全角ともに 30 文字です。

5 「参照」をクリックして、監視フォルダーを指定します。

ここでは、準備 (P.377) で作成したフォルダー（フォルダー名：出荷データ）を選びます。



必要に応じて、監視方法に関する設定を行います。

〔起動時に監視情報の監視を開始する〕

「ラベル印刷連携モジュール」の起動時に、監視フォルダーへの監視を自動的に始める場合に設定します。

〔起動時に監視フォルダー内の連携ファイルを全て削除する〕

監視を開始したときに、監視フォルダー内の連携ファイルを削除する場合に設定します。

[連携ファイル検出から印刷処理開始までの待機時間]

監視フォルダーに格納された連携ファイルを検出してから、印刷を開始するまでの待機時間を設定します。初期設定は「5（秒）」となっています。（入力範囲：1 ～ 60000 秒）

[エラー発生時に監視処理を停止する]

監視中（または印刷中）にエラー発生を検知した場合、監視処理を停止する場合に設定します。

[一定間隔で監視フォルダーを監視する]

通常は設定する必要はありません。監視フォルダーが Windows OS 以外の場所にある場合に設定します。

6 印刷完了後の連携ファイルの処理方法を指定します。

ここでは、[印刷処理後に連携ファイルを移動する] を選びます。

[参照] をクリックして、準備（P.377）で作成したフォルダー（フォルダー名：印刷完了）を指定します。



[印刷処理後に連携ファイルを移動する]

印刷完了後、連携ファイルを残したい場合に選びます。

連携ファイルは、[移動先フォルダー] で指定されているフォルダーに移動します。

[移動先フォルダー]

印刷が完了した連携ファイルの保存先を指定します。

[保存期間指定]

移動先フォルダー内の連携ファイルの保存期間を指定する場合は、チェックマークを入れて、保存する日数を指定します。（入力範囲：1 ～ 365 日）

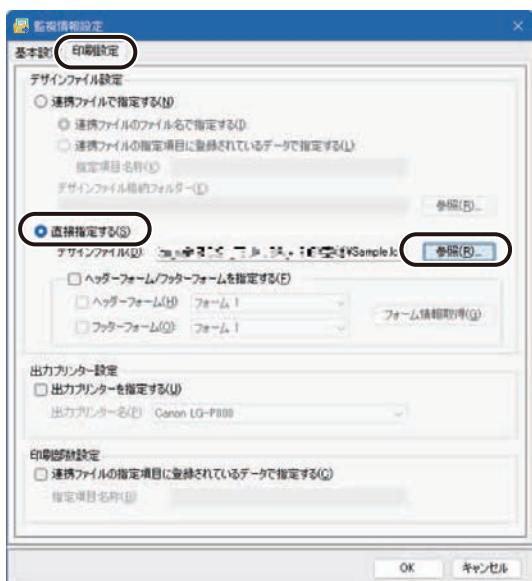
[印刷処理後に連携ファイルを削除する]

印刷完了後、連携ファイルを削除します。

7 [印刷設定] タブをクリックして、ラベルのデザインファイル (*.lc2) を指定します。

ここでは、[直接指定する] を選びます。

[参照] をクリックして、準備 (P.377) で用意したデザインファイル (ファイル名: Sample_2.lc2) を指定します。



[連携ファイルで指定する]

連携ファイルのファイル名、または連携ファイル内の項目を使ってデザインファイル (*.lc2) を指定します。[参照] をクリックして、対象のデザインファイルが格納されているフォルダーを指定します。

[連携ファイルのファイル名で指定する]

連携ファイルのファイル名と同じ名前のデザインファイルを使う場合に選びます。

[連携ファイルの指定項目に登録されているデータで指定する]

連携ファイル内の項目を使ってデザインファイルを指定する場合に選びます。[指定項目名称] で対象の項目を指定します。

[直接指定する]

[デザインファイル] で指定されたデザインファイル (*.lc2) を使います。[参照] をクリックして、対象のデザインファイルを指定します。

[ヘッダーフォーム / フッターフォームを指定する]

ヘッダー (印刷データの先頭) およびフッター (印刷データの終端) 用のフォームを印刷する場合に選びます。[ヘッダーフォーム] または [フッターフォーム指定] にチェックマークを入れて、フォームを指定します。



- 面付け用紙 (フォームデザインが「面付け」) のときは、ヘッダーフォーム / フッターフォームを指定した印刷ができません。

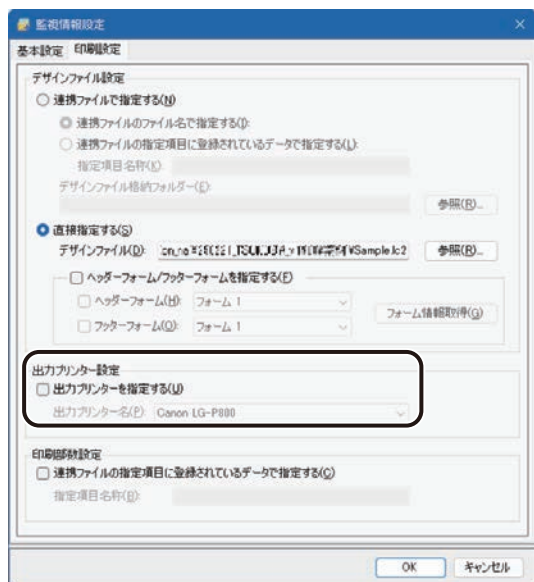


- デザインファイル (*.lc2) の印刷設定にて、「印刷対象」が「現在のフォーム」を設定している場合、デザイン編集画面にて一番左に登録されているフォームが印刷されます。
- デザインファイル (*.lc2) と印刷設定ファイル (*.li2) は同一階層に置いてください。印刷設定ファイルが確認できなかったときは、デザイン編集画面にて一番左に登録されているフォームが印刷されます。

8 印刷に使うプリンターを指定します。

ここでは、[出力プリンターを指定する] のチェックマークを外した状態に設定します。これにより、デザインファイルで指定したプリンターが使用されます。

別のプリンターを使用する場合は、チェックマークを入れて任意のプリンターを選択してください。その際は、Windows の「プリンターとスキャナー」から使用するプリンタードライバの印刷設定を行ってください。

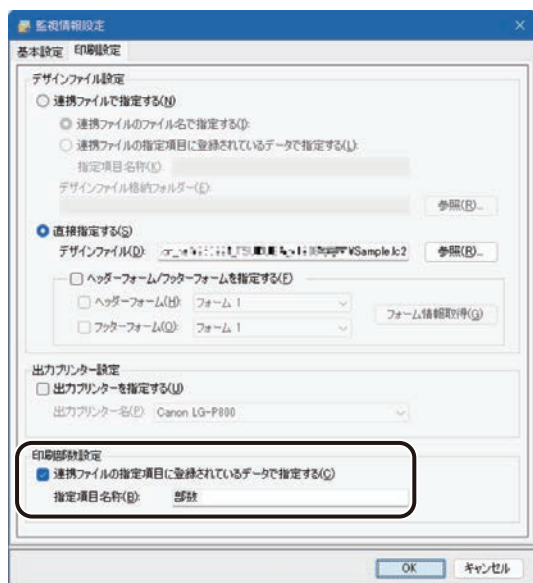


メモ

- デザインファイルで指定したプリンターが使用する場合は、デザインファイル (*.lic2) と印刷設定ファイル (*.li2) は同一階層に置いてください。印刷設定ファイルが確認できなかったときは、ご使用の環境で「通常使うプリンター」に設定されているプリンターで印刷します。

9 印刷部数を指定します。

ここでは、「連携ファイルの指定項目に登録されているデータで指定する」にチェックマークを入れて、「指定項目名称」に「部数」と入力します。

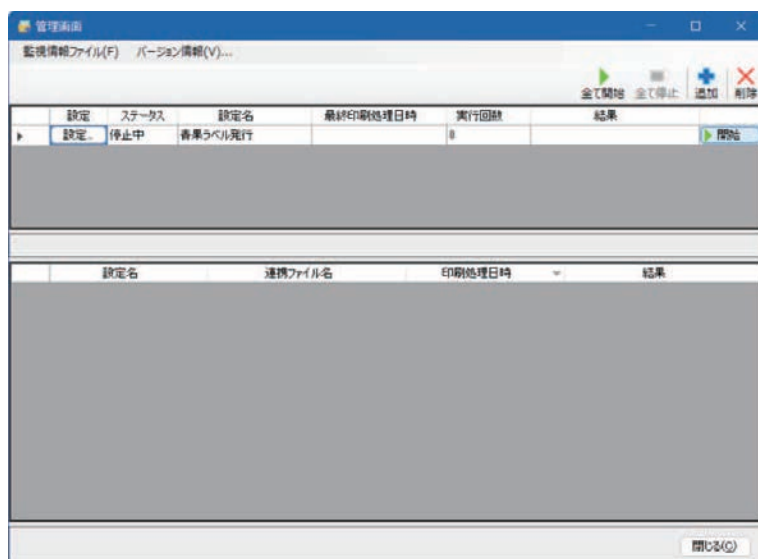


メモ

- 印刷部数を指定しない場合は、連携ファイルの各レコードを1部ずつ印刷します。
 - 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、データベースの部数指定項目を選んだ印刷ができません。
- ⇒ 「13. 面付け用紙について (P.4)」

10 [OK] をクリックします。

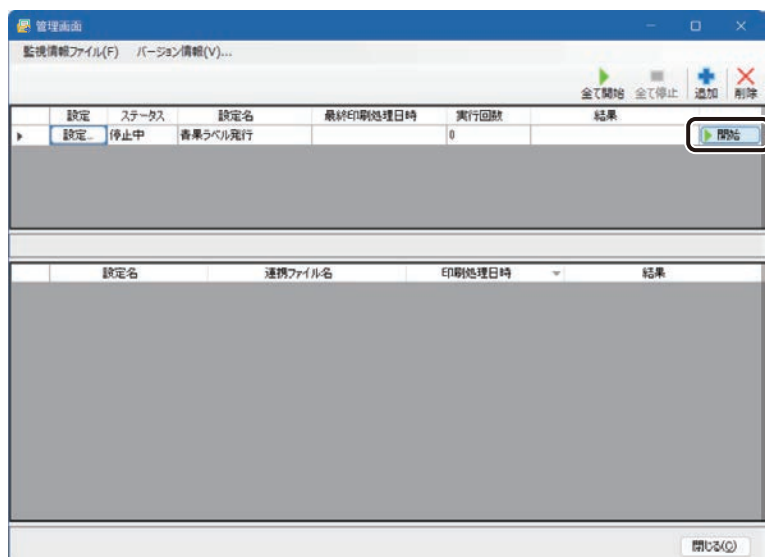
監視情報が設定されます。



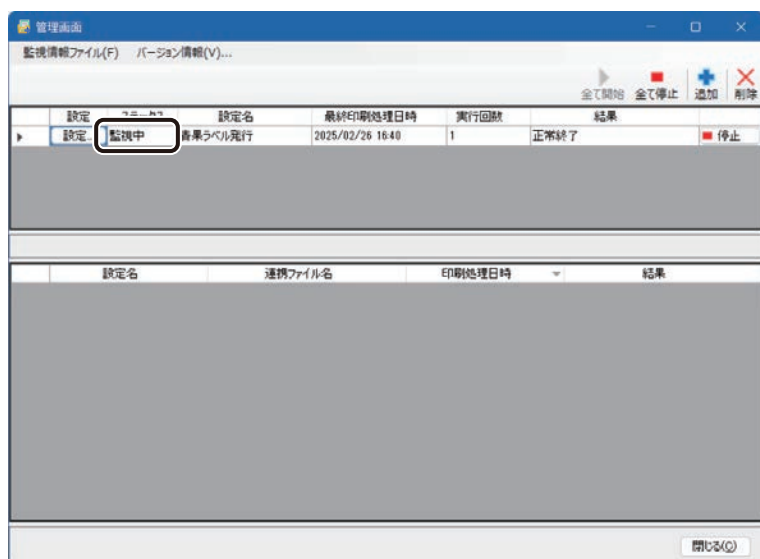
監視フォルダーの監視を開始する

監視情報設定にしたがって、監視フォルダーの監視を開始します。

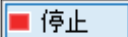
1 監視を開始する設定の をクリックします。



ステータスが「停止中」から「監視中」に変わります。



メモ

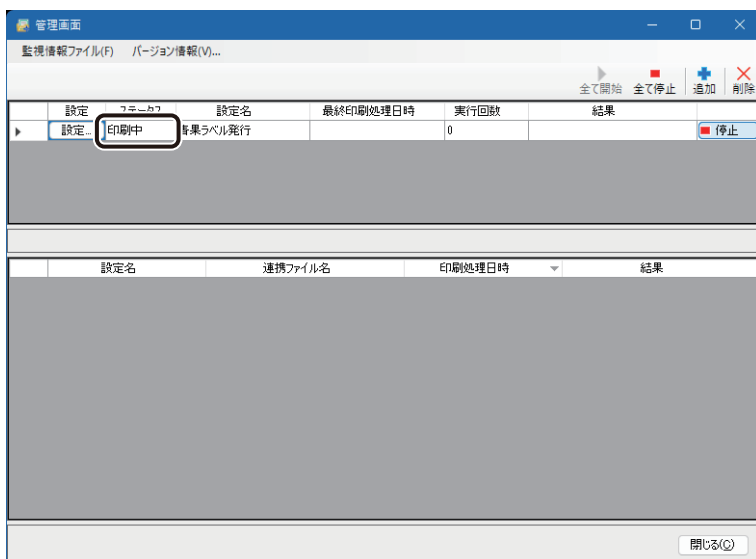
- 「ステータス」には、監視情報の状態が表示されます。
停止中：監視処理が開始される前の状態であることを示します。
監視中：監視処理が開始され、連携ファイルによる印刷指示を待っている状態であることを示します。
印刷中：印刷が開始された状態であることを示します。
- 監視を停止する場合は、停止したい監視情報設定の  をクリックします。
- 監視情報の設定に問題がある場合は、[結果] の欄にメッセージが表示されます。
⇒ 「メッセージ一覧 (P389)」

ラベルを自動で印刷する

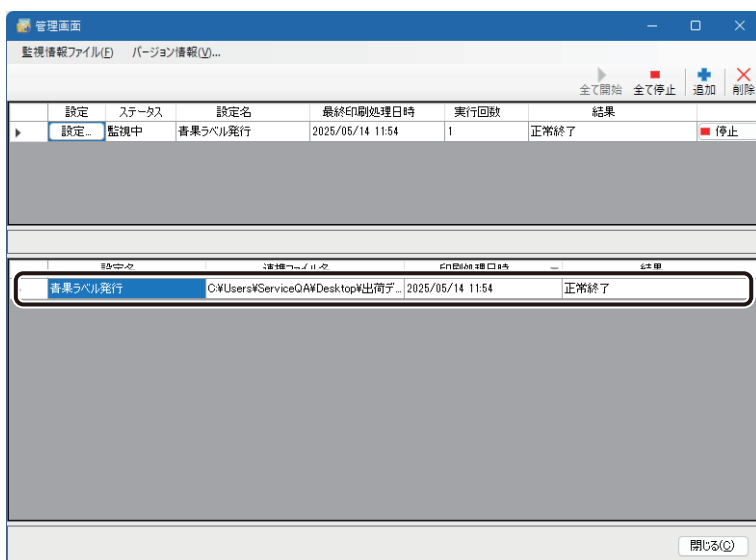
ここでは、[出荷データ] フォルダーに「青果ラベル.csv」が格納された場合の例で説明します。

1 監視フォルダー（[出荷データ] フォルダー）に連携ファイル（青果ラベル.csv）を格納します。

2 ステータスが[監視中]から[印刷中]に変わり、指定した印刷設定にしたがって印刷が開始されます。



3 印刷が実行されると、印刷履歴に印刷の結果が表示されます。



メモ

- [結果] の欄をダブルクリックすると、印刷履歴ファイル (*.CSV) が表示されて印刷結果を確認することができます。印刷履歴ファイル (*.CSV) は以下に保存されます。
 < C:\Users¥[ユーザー名] ¥AppData¥Roaming¥Canon Finetech Nisca¥labelPrintAgent¥History >
- 印刷結果に問題がある場合は、[結果] の欄にメッセージが表示されます。
 ⇒ 「メッセージ一覧 (P.389)」

4

連携ファイル（青果ラベル.csv）が、監視フォルダー（「出荷データ」フォルダー）から移動先フォルダー（「印刷完了」フォルダー）に移動します。

連携ファイルは、監視フォルダーから移動先フォルダーへ移動する際、ファイル名に印刷日時（yyyy/MM/dd HH:mm:ss.fff）を付加します。

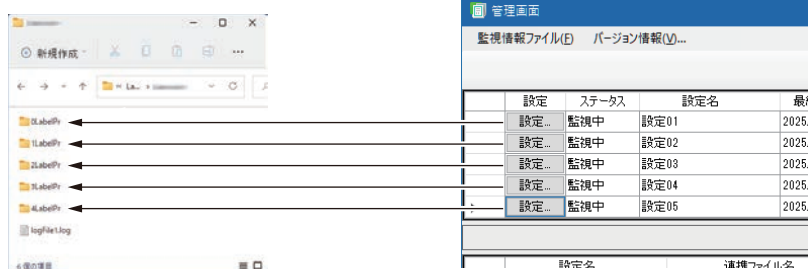
例)「青果ラベル.csv」が「2025/10/01 15:25:30.123」に印刷された場合

ファイル名：青果ラベル 20251001152530123.csv

メモ

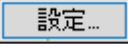
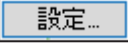
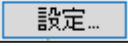
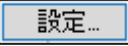
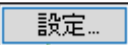
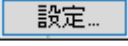
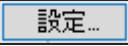
- 「ラベル印刷連携モジュール」では、監視情報ごとのフォルダー（「0LabelPr」～「4LabelPr」）にログが記録されます。保存場所は以下です。

< C:\Users¥[ユーザー名] ¥AppData¥Local¥Canon Finetech Nisca¥labelPrintAgent >



メッセージ一覧

監視情報一覧と履歴情報一覧の結果に表示されるメッセージとその対処方法について説明します。

表示メッセージ	対処方法
監視情報の設定に誤りがあります。	 をクリックして、監視情報の設定を修正してください。 ⇒「監視情報を設定する（P.380）」
フォルダーアクセスエラー（監視フォルダーにアクセスできませんでした。監視設定を確認してください。）	 をクリックして、[基本設定]の[監視情報設定]で監視フォルダーを正しく指定してください。 ⇒「監視情報を設定する（P.380）」
監視情報設定エラー（指定されたデザインファイルが見つかりません。監視情報設定にてデザインファイルの設定を確認してください。）	 をクリックして、[印刷設定]の[デザインファイル設定]でデザインファイルを正しく指定してください。 ⇒「監視情報を設定する（P.380）」
ファイル読みエラー（指定されたデザインファイルの印刷設定ファイル「XXXX」が見つかりません。監視情報設定にて出力プリンターを指定してください。）	 をクリックして、[印刷設定]の[出力プリンター設定]で印刷に使用するプリンターを指定してください。 ⇒「監視情報を設定する（P.380）」
ファイル読みエラー（指定されたデザインファイルの印刷設定ファイル「XXXX」が読み込めません。監視情報設定にて出力プリンターを指定してください。）	
プリンター検出エラー（デザインファイルまたは監視情報で指定された出力プリンターが見つかりません。出力プリンターの設定を確認してください。）	
監視情報設定エラー（指定されたヘッダーフォームが見つかりません。監視情報設定にてヘッダーフォームの設定を確認してください。）	 をクリックして、[印刷設定]の[デザインファイル設定]でヘッダーフォームを正しく指定してください。 ⇒「監視情報を設定する（P.380）」
監視情報設定エラー（指定されたフッターフォームが見つかりません。監視情報設定にてフッターフォームの設定を確認してください。）	 をクリックして、[印刷設定]の[デザインファイル設定]でフッターフォームを正しく指定してください。 ⇒「監視情報を設定する（P.380）」
監視情報設定エラー（指定されたヘッダーフォーム/フッターフォームが見つかりません。監視情報設定にて設定を確認してください。）	 をクリックして、[印刷設定]の[デザインファイル設定]でヘッダーフォーム/フッターフォームを正しく指定してください。 ⇒「監視情報を設定する（P.380）」
印刷処理エラー（連携設定を見直してください。）	 をクリックして、監視情報設定にて、  となっている項目を正しく修正してください。
ファイル読みエラー（連携ファイル「XXXX」が読み込めません。連携ファイルの内容を確認してください。）	連携ファイルがCSVファイルとして読み込めません。連携ファイルが正しい形式で作成されているか確認してください。

表示メッセージ	対処方法
監視情報設定エラー（監視情報の指定項目名称「XXXX」が連携ファイルの項目名称に見つかりません。監視情報設定にて指定項目名称を確認してください。）	設定... をクリックして、[印刷設定]の[デザインファイル設定]で[指定項目名称]を正しく指定してください。 ⇒「監視情報を設定する（P.380）」
ファイル読込エラー（監視情報の指定項目名称「XXXX」に一致するデザインファイルが見つかりません。監視情報設定にて指定したデザインファイルが存在するか確認してください。）	[デザインファイル格納フォルダー]に、指定のデザインファイルが格納されていることを確認してください。 [デザインファイル格納フォルダー]は、 設定... をクリックして、[印刷設定]の[デザインファイル設定]で確認できます。 連携ファイル（*.CSV）を開き、デザインファイルの指定が正しいことを確認してください。
監視情報設定エラー（連携ファイル名に一致するデザインファイルが見つかりません。監視情報設定にてデザインファイルの設定を確認してください。）	[デザインファイル格納フォルダー]に格納されているデザインファイルの名称が、連携ファイル名と一致していることを確認してください。 [デザインファイル格納フォルダー]は、 設定... をクリックして、[印刷設定]の[デザインファイル設定]で確認できます。
印刷処理エラー（アクセス権限が不足しています。）	以下のフォルダーへのアクセス権がないため、印刷ができません。 C:\Users\[ユーザー名]\AppData\Local\Temp\labelPrintAgent
印刷処理エラー（印刷設定「レコードごとにフォームを指定」に対応する情報が連携ファイルに存在しません。対象のデザインファイルを開き印刷設定を確認してください。）	印刷設定ファイル（*.li2）で[レコードごとにフォームを指定]で設定されていますが、フォームの切り替えに指定する項目が連携ファイル（*.CSV）にありません。デザインファイルを開き、印刷設定を変更してください。
監視情報設定エラー（監視情報の部数指定項目名称「XXXX」に数値以外の値が登録されています。連携ファイルの内容を確認してください。）	連携ファイル（*.CSV）を開き、部数指定した項目に数値以外が登録されていた場合は、適切な値に修正してください。
*「XXXX」には、[指定項目名称]に入力した内容が表示されます。	設定... をクリックして、[印刷設定]の[印刷部数設定]にて、部数指定する項目名称が[指定項目名称]に正しく入力されていることを確認してください。 ⇒「監視情報を設定する（P.380）」
監視情報設定エラー（監視情報の部数指定項目名称「XXXX」に一致する項目が見つかりません。監視情報設定にて指定した項目が存在するか確認してください。）	連携ファイル（*.CSV）を開き、部数指定項目名称を確認してください。
*「XXXX」には、[指定項目名称]に入力した内容が表示されます。	設定... をクリックして、[印刷設定]の[印刷部数設定]にて、部数指定する項目名称が[指定項目名称]に正しく入力されていることを確認してください。 ⇒「監視情報を設定する（P.380）」
印刷処理エラー（LabelCreate SE V2 の起動ができませんでした。）	「LabelCreate SE V2」を再インストールしてください。

表示メッセージ	対処方法
印刷処理エラー（詳細は、履歴用 CSV ファイルを参照してください。）	「結果」の欄をダブルクリックして、印刷履歴ファイル（*.CSV）でメッセージの内容を確認してください。
印刷処理エラー（デザインファイル「XXXX」が読み込めません。デザインファイルが読み込めるか確認してください。）	「LabelCreate SE V2」にて、デザインファイルが正常に読み込めることを確認してください。
印刷処理エラー（連携ファイル「XXXX」がインポートできません。）	連携ファイルが CSV ファイルであることを確認してください。
印刷処理エラー（LabelCreate SE V2 が印刷処理に失敗しました。）	「LabelCreate SE V2」から印刷できることを確認してください。印刷できない場合は、プリンタードライバーを再インストールしてください。
ファイル削除エラー（監視フォルダーに格納されている連携ファイルが削除できませんでした。監視フォルダーを確認して、手動で連携ファイルを削除してください。）	監視フォルダーを確認して、手動で連携ファイル（*.CSV）を削除してください。
ファイル削除エラー（監視フォルダーに格納された連携ファイルの移動または削除ができませんでした。監視フォルダーを確認して、手動でファイルを削除してください。）	

付録

本ソフトウェアを更新する
本ソフトウェアをアンインストールする
仕様
よくある質問
デザインファイルの互換性について
収録画像

本ソフトウェアを更新する

インストールされている本ソフトウェアを、新しいバージョンに更新する手順を説明します。



メモ

- インターネットへの接続料金はおお客様のご負担となります。
- 「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示されたときは、[はい] をクリックしてください。
- 本ソフトウェアのバージョン情報は、[ヘルプ] メニューの [バージョン情報] で確認できます。

1 本ソフトウェアのインストーラーをダウンロードします。

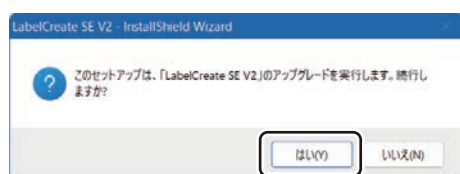
canon.jp/labelcreate-dl

2 インストーラーを起動します。

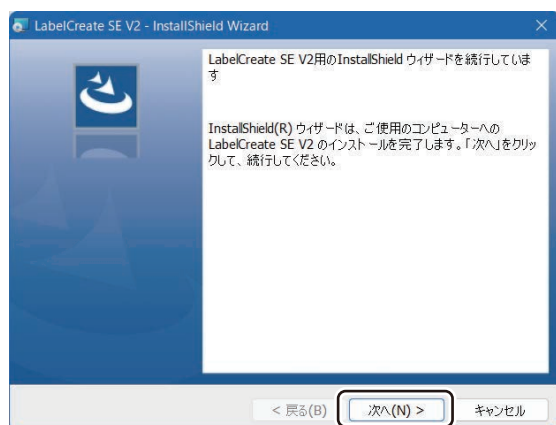
「lcsev2_nnnn.exe」(* nnnn は数字) をダブルクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

3 [はい] をクリックします。

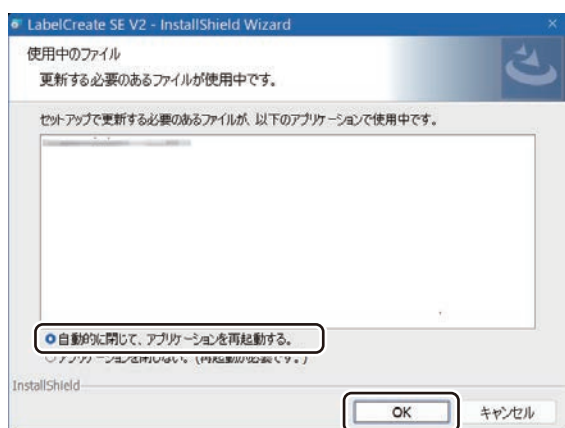


4 [次へ] をクリックします。



インストールが実行されます。

- 5 次の画面が表示された場合は、「自動的に閉じて、アプリケーションを再起動する」を選び、[OK]をクリックします。

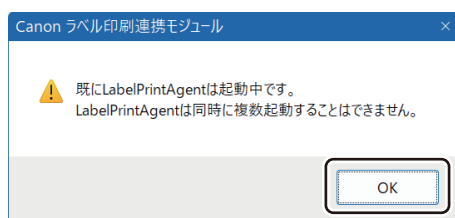


- 6 [完了] をクリックする



メモ

- パソコンの再起動を促すメッセージが表示された場合は、本アプリケーションソフトを使用する前に必ずパソコンを再起動してください。
- 次の画面が表示された場合は、[OK] をクリックしてください。



本ソフトウェアをアンインストールする

本ソフトウェアをアンインストールする手順を説明します。

メモ

- ラベル印刷連携モジュールの管理画面を開いている場合は、アンインストール前に閉じてください。
- 「LabelCreate SE V2」をアンインストールすると、「ラベル印刷連携モジュール」も自動的にパソコンから削除されます。
- アンインストール操作を行っても、本ソフトウェアで作成したデータファイルは削除されません。
- 下記の手順と異なる方法でアンインストールした場合は、不要なファイルがパソコン内に残ってしまうことがあります。

1 「スタート」をクリックし、「すべてのアプリ」を選びます。

2 一覧から「LabelCreateSE V2」を右クリックし、表示されたメニューから「アンインストール」を選びます。

「プログラムと機能」画面が表示されます。

3 一覧から「LabelCreateSE V2」を選び、「アンインストール」をクリックします。

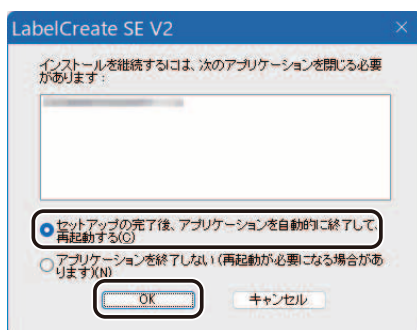
確認のメッセージが表示されます。

4 「アンインストール」をクリックします。

アンインストールが実行されます。

メモ

- 「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示されたときは、「[はい]」をクリックしてください。
- 次の画面が表示された場合は、「セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して再起動する」を選んで「OK」をクリックしてください。



仕様

用紙サイズ	設定可能サイズ		幅 1.0 mm ～ 1524.0 mm、高さ 1.0 mm ～ 3000.0 mm
	フォームデザイン		定形 面付け（最大 512 面（横 16 × 縦 32））
フォーム	登録上限数		1 デザインファイルあたり 8 フォーム
オブジェクト	種類		テキスト、日時、連番、イメージ（イメージ、Web イメージ、差込イメージ）、図形（直線、円形、四角形、多角形（3 ～ 60 角形、星形）、円弧（円弧、扇形、弓形）、連続直線、自由曲線、ベジェ曲線）、バーコード、GS1 データバー、二次元コード
	文字	対応フォント	TrueType フォント
		文字コード	Unicode（UTF-16）対応
	画像	表示可能ファイル種類	ビットマップ ファイル形式（*.BMP）、PNG 形式（*.PNG）、JPEG 形式（*.JPG, *.JPEG）、TIFF 形式（*.TIF, *.TIFF）※ ¹ 、GIF 形式（*.GIF）、ICO 形式（*.ICO）、WMF 形式（*.WMF）、EMF 形式（*.EMF）、PDF 形式（*.PDF）、PSD 形式（*.PSD）、PCX 形式（*.PCX）
	バーコード	コード種類	JAN-8、JAN-13、UPC-A、UPC-E、NW-7、ITF、CODE39、CODE128、GS1-128
	GS1 データバー	コード種類	Omnidirectional、Truncated、Stacked、Stacked Omni directional、Limited、Expanded、Expanded Stacked、Composite Symbol with CC-A / CC-B、Truncated Composite Symbol with CC-A / CC-B、Stacked Composite Symbol with CC-A / CC-B、Stacked Omni directional Composite Symbol with CC-A / CC-B、Limited Composite Symbol with CC-A / CC-B、Expanded Composite Symbol with CC-A / CC-B、Expanded Stacked Composite Symbol with CC-A / CC-B
	二次元コード	コード種類	QR Code、MaxiCode、PDF417、DataMatrix
データベース	インポート可能なファイル形式		Microsoft Excel ファイル形式（*.xls、*.xlsx） Microsoft Access データベースファイル（*.mdb、*.accdb）※ ² テキスト形式（*.txt、*.csv）※ ³
	インポート可能なサーバー形式		Oracle、Microsoft SQL Server
	最大項目数		1 デザインファイルあたり 255 項目
特殊機能			オーバーレイ印刷※ ⁴ 、オートカッター※ ⁵ 、バーコード設定※ ⁴

※1 無圧縮（インターリーブ）、LZW 圧縮のみ対応

※2 Microsoft Access データベースに OLE オブジェクト型で挿入したファイルは、ビットマップ形式ファイル（.bmp）のみが参照（またはインポート）可能

※3 テキスト形式は、Shift_JIS、Unicode（UTF-8、UTF-16）に対応

※4 キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 使用時

※5 キヤノン カラーラベルプリンター LX-D400/LG-P800/LX-P5500/LX-D5500/LX-P1500 使用時

よくある質問

Q. 本ソフトウェアの仕様について

A. 本ソフトウェアの仕様（対応フォント、画像貼り付け時の対応ファイル形式、対応バーコード種類、参照（またはインポート）可能なデータベースのファイル形式など）については、「[本ソフトウェアを更新する（P393）](#)」を参照してください。

Q. データベース機能について

A. 本ソフトウェアでは、Microsoft Excel や Microsoft Access などで作成したデータベースを参照（または、読み込み）、文字や画像など可変するオブジェクトにデータベースの情報を反映して表示させることができます。詳しくは、「[データベース機能の設定（P260）](#)」を参照してください。

Q. 印刷部数の設定について

A. 本ソフトウェアでは、次のような方法で印刷部数を設定することができます。

- ・ [部数] で設定する
⇒「[印刷する（P328）](#)」
すべてのレコードを同じ部数印刷するときに使用します。
- ・ データベースに印刷部数を指定する項目を設ける。
⇒「[データベースの部数指定項目を選んで印刷する（P351）](#)」
あらかじめレコードごとに印刷部数が決まっているときに利用します。
- ・ 印刷レコードの選択時に印刷部数の項目を設定する。
⇒「[レコードを指定して印刷する（P338）](#)」
印刷時に印刷枚数を選んだときに利用します。

Q. 差込データの塗潰しについて

A. データベースの項目に応じて特定のオブジェクトの色を変更して印刷することができます。詳しくは、「[差し込みカラーテーブルの設定（P298）](#)」を参照してください。

Q. 印刷履歴について

A. 印刷日時や印刷部数などの印刷履歴を、CSV ファイルに保存することが可能です。詳しくは、「[印刷履歴を確認する（P334）](#)」を参照してください。

Q. 用紙サイズの登録について

A. あらかじめ登録された用紙サイズ以外に、新規で用紙サイズを登録することができます。詳しくは、「[カスタム用紙を使う \(P.113\)](#)」を参照してください。

Q. オートカッターの設定方法について

A. オプションのオートカッターをご使用の場合は、本ソフトウェアから詳細なカット制御が可能です。詳しくは、「[カッターを設定する \(P.363\)](#)」を参照してください。

Q. 本ソフトウェアで作成したデータの保存ファイル形式（(*.lc2)、(*.li2)）について

A. 本ソフトウェアで作成したデータを保存すると、2 種類のファイルが生成されます。

・（*.lc2）⇒デザインファイル

・（*.li2）⇒印刷設定情報ファイル

印刷設定情報ファイル（*.li2）には、以下の情報が保存されます。

- [印刷] ダイアログボックス、[オーバーレイ設定] ダイアログボックス、[カット設定] ダイアログボックス、[カット間隔設定] ダイアログボックスの設定情報
- データベース編集画面で保存した抽出条件
- 選択中のプリンターの設定情報

Q. 縦書き文字を入力したい

A. 文字の縦書きは、[フォント] プロパティの [方向] で設定してください。詳しくは、「[\[フォント\] プロパティを設定する \(P.229\)](#)」を参照してください。

Q. データベース画面を操作中に、アプリケーションソフトの動きが重く感じる

A. データベース画面の [表示] メニューから [デザイン差し込み連動] のチェックマークを外してください。
外部データベースのとき：「[外部データベースを参照する \(P.279\)](#)」を参照してください。
内部データベースのとき：「[内部データベースを編集する \(P.281\)](#)」を参照してください。

Q. 最新バージョンの入手方法について

A. 本ソフトウェアの最新バージョンは、キヤノンのウェブサイトからダウンロードできます。詳しくは、「[本ソフトウェアを更新する \(P.393\)](#)」を参照してください。

デザインファイルの互換性について

本ソフトウェアで LabelCreate SE デザインファイル (*.LCD) やラベル Pro-1 デザインファイル (*.SMD) を読み込む場合、ソフトウェアの仕様の違いにより、ファイルが読み込めないことや、本ソフトウェアの仕様に合わせた変換処理が行われることがあります。印刷や編集の前に内容を確認し、必要に応じて再設定してください。

LabelCreate SE デザインファイル (*.LCD) および「ラベル Pro-1」デザインファイル (*.SMD) を開く手順は、「[LabelCreate SE またはラベル Pro-1 で作成したファイルを開く \(P.21\)](#)」を参照してください。



メモ

- ファイルを開くと、お使いの環境で設定されている既定のプリンターに自動的に切り替わります。編集を始める前に、印刷に使用するプリンターが正しく選択されていることを必ず確認してください。

LabelCreate SE デザインファイルの場合

オブジェクトの表示について

データに配置されているオブジェクトに以下の項目が設定されているときは、設定情報が破棄されたり、本ソフトウェアの仕様に自動変換されたりするため、「LabelCreate SE」と同じイメージで取り込むことができない場合があります。

● 二次元コードオブジェクト

LabelCreate SE	LabelCreate SE V2
コード種類	結果
MaxiCode	- 最小単位は、選択しているプリンタードライバーの解像度に従って以下の値に変換されます 1200 dpi の場合：42dot 600 dpi の場合：21dot 300 dpi の場合：10dot

ラベル Pro-1 デザインファイルの場合

1. 用紙について

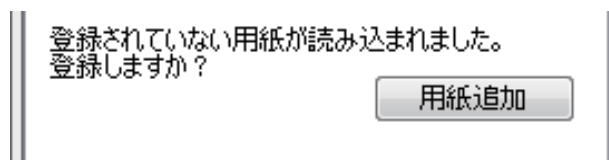
① 用紙サイズ

- 用紙設定が、本ソフトウェアの最大用紙サイズ（幅 1524.0 mm ×高さ 3000.0 mm）より大きいときは、本ソフトウェアの最大用紙サイズに変換して表示します。
- 本ソフトウェアの最大用紙サイズ（幅 1524.0 mm ×高さ 3000.0 mm）より大きく、用紙設定が「面付設計」のデザインファイルは読み込めません。
- 用紙設定が「自由設計」および「面付設計」（ラベル別デザイン）のデザインファイルは読み込めません。
- 用紙設定が「面付設計」（全ラベル同一）のデザインファイルを読み込んだときは、本ソフトウェアの面付け用紙のときの制限を併せてご確認ください。（⇒「13. 面付け用紙について（P.4）」）

② 用紙名

本ソフトウェアに登録されていない用紙名が読み込まれたときは、[用紙]プロパティに次のようなメッセージとボタンが表示されます。

[用紙追加]をクリックして用紙を登録してください。レイアウトには影響ありません。



2. ガイダーおよびグリッドについて

設定されているガイドバーおよびグリッドは、本ソフトウェアで読み込んだときにいずれも削除されます。本ソフトウェアにて再度設定してください。

3. オブジェクトのグループ化およびロックについて

グループ化またはロックされているオブジェクトは、本ソフトウェアで読み込んだときに設定が解除されます。本ソフトウェアにて再度設定してください。

4. 差し込みカラーテーブルについて

本ソフトウェアでは、デザインファイルに設定されているカラーテーブル情報を読み込むことができます。詳しい手順については、「LabelCreate SE またはラベル Pro-1 で作成したファイルを開く（P.21）」を参照してください。

5. オブジェクトの表示について

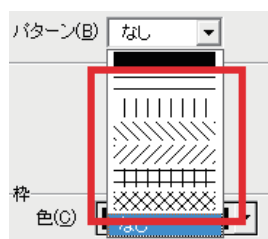
データに配置されているオブジェクトに 401 ページ～421 ページで示す項目が設定されているときは、設定情報が破棄されたり、本ソフトウェアの仕様に自動変換されたりするため、「ラベル Pro-1」と同じイメージで取り込むことができない場合があります。

また、「同等のプロパティ」にてプロパティ名が記してある項目は、本ソフトウェアにて同等の設定を行うことが可能ですが、「-」が記してある項目は、本ソフトウェアに同等の機能がない、または仕様が異なるため、同じように設定することができません。

● 文字オブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE V2	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
文字設定	文字幅 文字高さ		[フォント] プロパティ	文字幅または文字高さを任意の数値で指定している文字の場合、選んでいるフォントによっては、見た目の大きさが変わってしまうことがあります。(図 1)
文字余白 / 丸み	丸み	縦・横を同じ値にする 縦 横	-	- 情報は破棄され、オブジェクトの角の丸みはなくなります。(図 2) - オブジェクトの丸み機能と同等の表示になるように設定したいときは、四角形オブジェクトを背面に作成します。四角形オブジェクトの [形状] プロパティで丸みを設定することができます。
塗り込み / 枠線	塗り込み	パターン	[背景] プロパティ	- パターンに網掛け (ハッチ) *¹ を設定している場合は、背景色が透明→白色に変換されます。(図 2) - 網掛け (ハッチ) の目が細くなります。(図 2)
	枠	太さ	[枠線] プロパティ	- 本ソフトウェアの設定可能範囲 0.1 mm ～ 50.0 mm に変換されます。(図 2) 0.01 mm 以下のとき → 0.1 mm に変換 50.0 mm 以上のとき → 50.0 mm に変換 - 上記の場合を除いて、オブジェクトのサイズや枠の太さの設定値は変わりませんが、線幅に対する枠の基準位置が線幅に対して外 → 中心に変換されるため、オブジェクトの表示が大きくなります。(四角形オブジェクト _ 図 4)
		線種		破線の間隔が異なるため、表示が変わります。(四角形オブジェクト _ 図 5)

*¹ パターン _ 網掛け (ハッチ) (赤枠部分)



(図1)

【ラベル Pro-1】

文字幅 / 文字高さを任意の値で指定している。

フォント A

ABC

フォント B

ABC

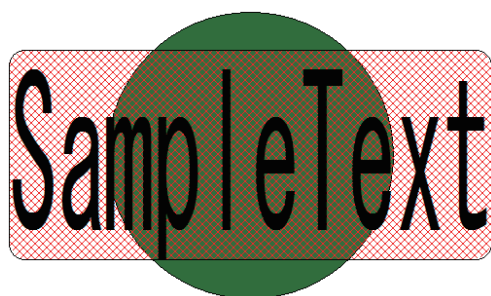
(図2)

【ラベル Pro-1】

パターン _ 網掛け：背景色が透明（固定）

丸み：あり

枠 _ 太さ：0.01 mm



【LabelCreate SE V2】

フォントによっての大きさが変わってしまうことがある。（文字幅 / 文字高さの値は保持。）

フォント A

ABC

フォント B

ABC

【LabelCreate SE V2】

ハッチ：背景色が白色

目が細くなる

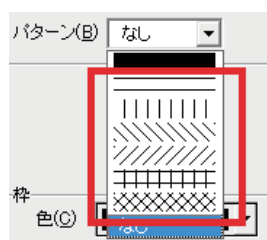
丸み：なし

枠 _ 太さ：0.1 mm



● 四角形オブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE V2	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
塗り込み / 枠線	塗り込み	パターン	[塗り] プロパティ	- パターンに網掛け（ハッチ）※¹を設定している場合は、背景色が透明→白色に変換されます。（図 3） - 網掛け（ハッチ）の目が細くなります。（図 3）
	枠	太さ	[線] プロパティ	- 本ソフトウェアの設定可能範囲 0.1 mm ～ 50.0 mm に変換されます。（図 3） 0.01 mm 以下のとき → 0.1 mm に変換 50.0 mm 以上のとき → 50.0 mm に変換 - オブジェクトのサイズや枠の太さの設定値は変わりませんが、線幅に対する枠の基準位置が線幅に対して外 → 中心に変換されるため、オブジェクトの表示が大きくなります。（図 4）
		線種		破線の間隔が異なるため、表示が変わります。（図 5）

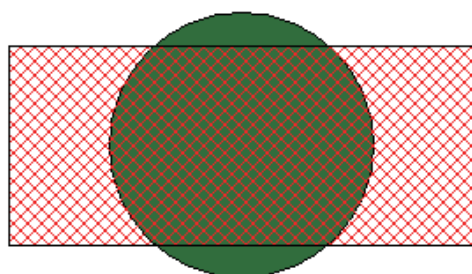
※¹ パターン _ 網掛け（ハッチ）（赤枠部分）

(図 3)

【ラベル Pro-1】

パターン _ 網掛け：背景色が透明（固定）

枠 _ 太さ：0.01 mm

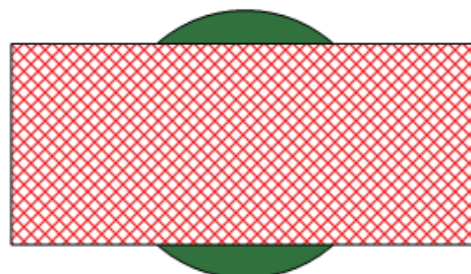


【LabelCreate SE V2】

ハッチ：背景色が白色

目が細くなる

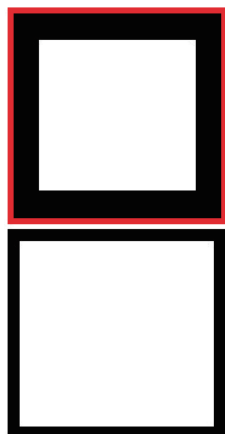
枠 _ 太さ：0.1 mm



(図4)

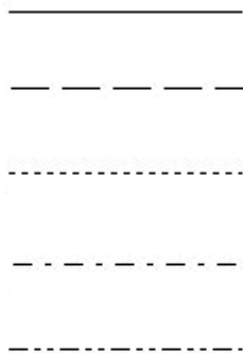
【ラベル Pro-1】

枠の基準位置：線幅に対して外（下図赤線）



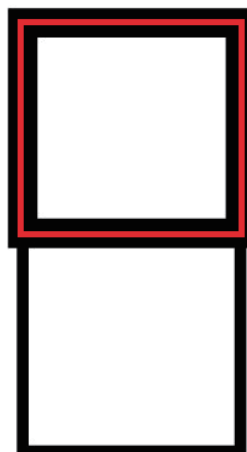
(図5)

【ラベル Pro-1】



【LabelCreate SE V2】

枠の基準位置：線幅に対して中心（下図赤線）



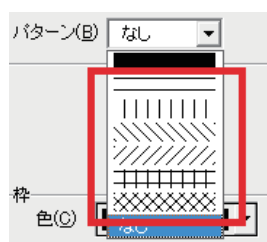
【LabelCreate SE V2】



● 楕円オブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE V2	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
塗り込み / 枠線	塗り込み	パターン	[塗り] プロパティ	- パターンに網掛け（ハッチ）^{※1}を設定している場合は、背景色が透明→白色に変換されます。（図 6） - 網掛け（ハッチ）の目が細くなります。（図 7）
	枠	太さ	[線] プロパティ	- 本ソフトウェアの設定可能範囲 0.1 mm ～ 50.0 mm に変換されます。（図 6） 0.01 mm 以下のとき → 0.1 mm に変換 50.0 mm 以上のとき → 50.0 mm に変換 - オブジェクトのサイズや枠の太さの設定値は変わりませんが、線幅に対する枠の基準位置が線幅に対して外 → 中心に変換されるため、オブジェクトの表示が大きくなります。（図 7）
		線種		破線の間隔が異なるため、表示が変わります。（四角形オブジェクト _ 図 5）

※1 パターン _ 網掛け（ハッチ）（赤枠部分）

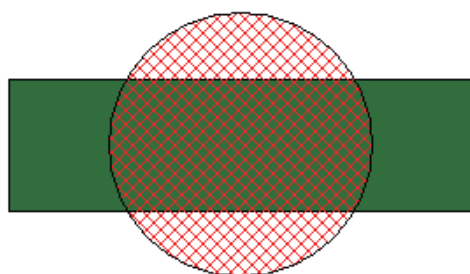


（図 6）

【ラベル Pro-1】

パターン _ 網掛け：背景色が透明（固定）

枠 _ 太さ：0.01 mm

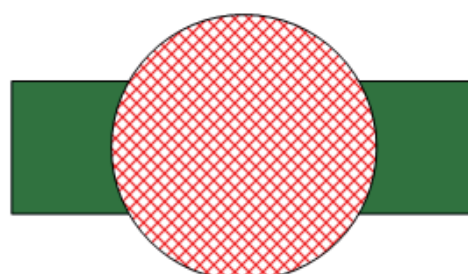


【LabelCreate SE V2】

ハッチ：背景色が白色

目が細くなる

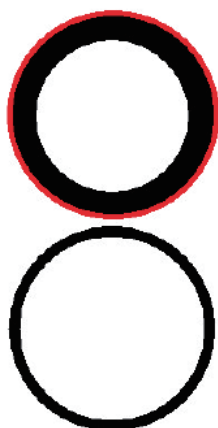
枠 _ 太さ：0.1 mm



(図 7)

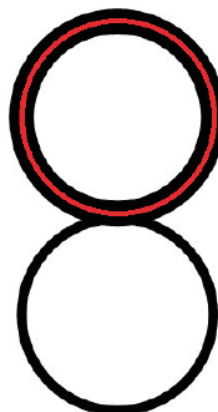
【ラベル Pro-1】

枠の基準位置：線幅に対して外（下図赤線）



【LabelCreate SE V2】

枠の基準位置：線幅に対して中心（下図赤線）



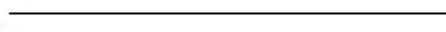
● 線オブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE V2	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
線種 / 矢印	枠	太さ	[線] プロパティ	- 本ソフトウェアの設定可能範囲 0.1 mm ~ 50.0 mm に変換されます。(図 8) 0.01 mm 以下のとき → 0.1 mm に変換 50.0 mm 以上のとき → 50.0 mm に変換
		線種		破線の間隔が異なるため、表示が変わります。(四角形オブジェクト_図 5)

(図 8)

【ラベル Pro-1】

線_太さ：0.01 mm



【LabelCreate SE V2】

線_太さ：0.1 mm



● 画像オブジェクト / 差込画像オブジェクト

ラベル Pro-1		LabelCreate SE V2	
設定シート名	項目名	同等のプロパティ	結果
画像設定	種類	-	・ 情報は破棄されます。
	背景色を透過にする	-	・ 情報は破棄されます。(図 9) ・ 背景色透過機能と同等の表示になるように設定したいときは、[修飾] プロパティの「透過指定する」にチェックマークをいれ、背景色と同じ色を透明色に指定します。

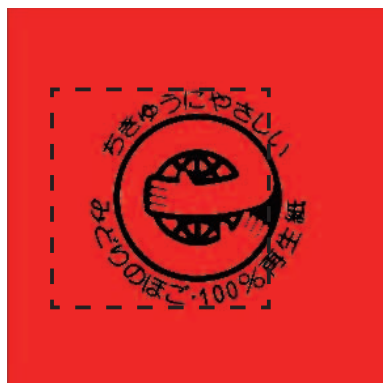
- ・ 画像処理が自動で行われ、輪郭がなめらかになります。
- ・ 他のソフトウェアで透過処理した画像を配置している場合、画面上の見た目が同じでも印刷結果に違いがでることがあります。(図 10)
同等の表示になるように設定にしたいときは、画像を選び、[修飾] シートの「透過指定する」にチェックマークを入れてください。(⇒「[\[修飾\] プロパティを設定する \(P.255\)](#)」)
設定後は、画像を確認してください。設定する前と比べて大きさが変わっている場合があります。

(図 9)

【ラベル Pro-1】

背景色を透過にする：ON

(下図点線がオブジェクト枠)



【LabelCreate SE V2】

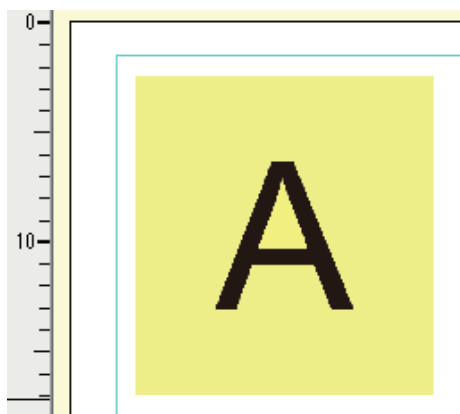
透過設定が解除される



(図 10)

【ラベル Pro-1】

画面表示：透明処理されている画像を配置する。
(“ A ”の背面に透明処理あり)

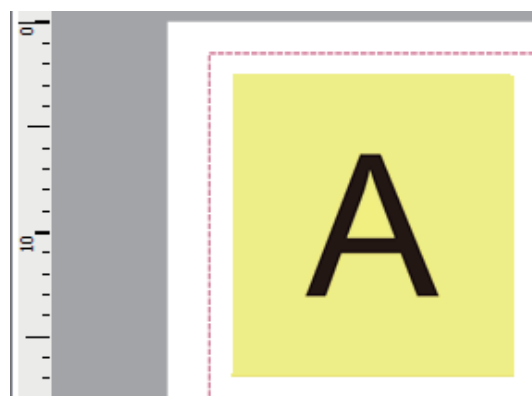


印刷結果：画面表示どおりの画像が印刷される。

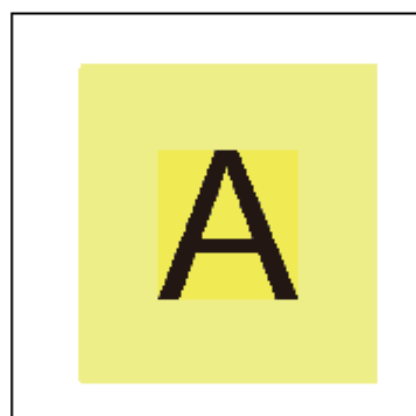
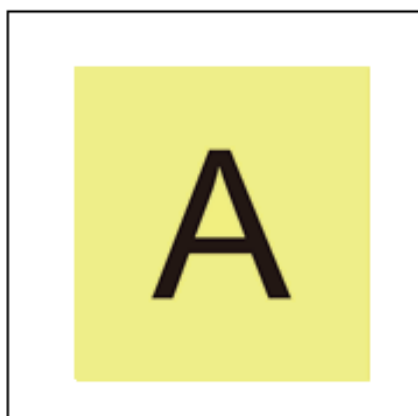


【LabelCreate SE V2】

画面表示：画像表示に変化なし。



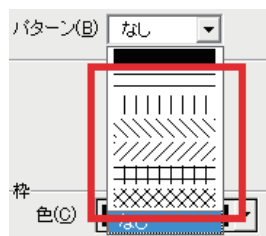
印刷結果：画面表示と異なる画像が印刷される。
(透明処理部分(“ A ”の背面)の色が変化)



● ナンバリングオブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE V2	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
ナンバリング	書式文字列	カンマ区切り	[設定] プロパティ	- 次のように処理します。 「カンマ区切り」のみ設定されているとき： → 情報は保持されます。 「カンマ区切り」および「0 埋め」が設定されているとき： → 「0 埋め」の設定情報が保持され、「カンマ区切り」の設定情報は破棄されます。(図 11)
		書式		N進の場合、情報は破棄され、10 進に変換されます。(図 11)
		日付・時刻スタンプ	-	オブジェクトは削除されます。
		固定文字のみ	-	オブジェクトは削除されます。(図 11)
	全角半角	全角	-	全角文字は半角文字に変換されます。(図 12)
文字設定	文字幅 文字高さ		[フォント] プロパティ	文字幅または文字高さを任意の数値で指定している文字の場合、選んでいるフォントによっては、見た目の大きさが変わってしまうことがあります。(テキストオブジェクト_図 1)
文字余白 / 丸み	丸み	縦・横を同じ値にする 縦 横	-	- 情報は破棄され、オブジェクトの角の丸みはなくなります。(図 12) - オブジェクトの丸み機能と同等の表示になるように設定したいときは、四角形オブジェクトを背面に作成します。 四角形オブジェクトの [形状] プロパティで丸みを設定することができます。
塗り込み / 枠線	塗り込み	パターン	[背景] プロパティ	- パターンに網掛け (ハッチ) *¹ を設定している場合は、背景色が透明→白色に変換されます。(図 13) - 網掛け (ハッチ) の目が細くなります。(図 13)
	枠	色 線種 太さ	-	- 情報は破棄され、オブジェクトの枠はなくなります。(図 13) - オブジェクトの枠機能と同等の表示になるように設定したいときは、四角形オブジェクトを背面に作成します。 四角形オブジェクトの [線] プロパティで色、線種、太さを設定することができます。

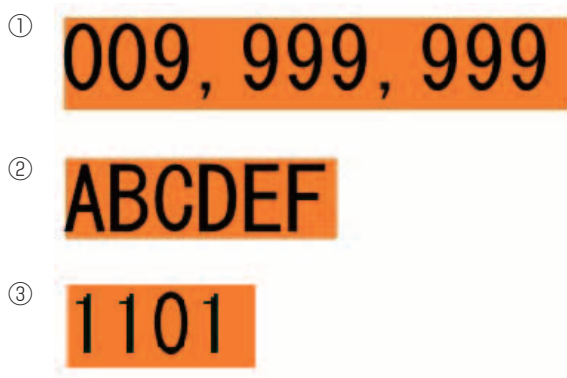
※1 パターン_網掛け(ハッチ)(赤枠部分)



(図 11)

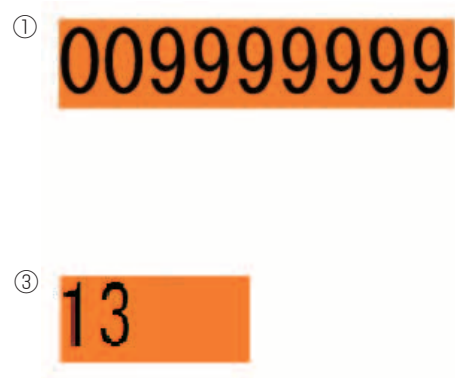
【ラベル Pro-1】

- ① カンマ区切り：ON
0 埋め：ON
- ② 固定文字列のみ
- ③ 書式 (N進)：2 進



【LabelCreate SE V2】

- ① 桁区切り：OFF
ゼロ埋め：ON
- ② オブジェクトは削除される
- ③ 10 進



(図 12)

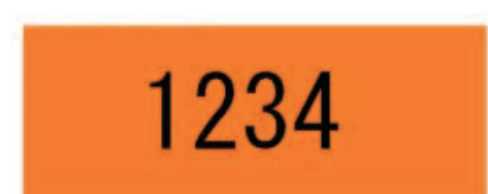
【ラベル Pro-1】

- 丸み：あり
- 文字：全角



【LabelCreate SE V2】

- 丸み：なし
- 文字：半角 (固定)



(図 13)

【ラベル Pro-1】

- パターン_網掛け：背景色が透明 (固定)
- 枠：あり



【LabelCreate SE V2】

- ハッチ：背景色が白色
目が細くなる
- 枠：なし



● バーコードオブジェクト

ラベル Pro-1				LabelCreate SE V2	
設定シート名	項目名			同等のプロパティ	結果
バーコード	バー	種類		[バーコード] プロパティ または [二次元コード] プロパティ	・ 下表 1 【バーコードの互換情報】 参照
		バーコード 設定 (バーコード のとき)	チェック ディジット トット	[設定] プロパティ (バーコード)	・ チェックディジットの種類情報は破棄されます。 本ソフトウェアではチェックディジットの種類は選択できません。
			キャラクタ 間ギャップ	-	・ 情報は破棄されます。
		二次元バー コード設定 (二次元 コードのとき)	誤り訂正	[設定] プロパティ (二次元コード)	・ 項目名が次のようになります。 「超高信頼度レベル」 → 「H」 「高信頼度レベル」 → 「Q」 「標準レベル」 → 「M」 「高密度レベル」 → 「L」
			モジュール 幅 セルサイズ	[二次元コード] プロパティ	・ 項目名が「最小単位」となります。
			シンボル 比	[設定] プロパティ (二次元コード)	・ 項目名が「段高さ」となります。 整数でない値が設定されていた場合には、 四捨五入されます。
	コード文字	フォント	文字幅 文字高さ	[設定] プロパティ (バーコード)	・ 文字幅、文字高さの情報は破棄されます。 コード文字の文字幅または文字高さを任意の数値で指定しているバーコードオブジェクトがあるデータは、エラーメッセージが表示され、本ソフトウェアで開くことができません。(図 15) 「ラベル Pro-1」 でサイズ (ポイント) を再指定してください。
			位置・配置	位置	・ 情報は破棄され、「バーの下」に配置します。 (JAN-8/JAN-13/UPC-A/UPC-E はロングバー付き) (図 14)
		位置・配置	文字配置	-	・ 情報は破棄され、「中央揃え」で配置します。 (図 14)
			バーとの 距離	-	・ 情報は破棄されます。(図 14)

ラベル Pro-1				LabelCreate SE V2	
設定シート名	項目名			同等の プロパティ	結果
バーコード	色・枠・回転・ 他	色	前景色	-	・ 情報は破棄され、前景色は黒色に変換されます。(図 14)
			背景色	-	・ 情報は破棄され、背景色は白色に変換されます。(図 14)
		枠	色 線種 太さ	-	・ 情報は破棄され、オブジェクトの枠はなくなります。(図 14)
		ITF ベアラバー印刷		〔設定〕 プロパティ (バーコード)	・ バー幅に 0.00 以外の値が設定されているときは、「物流用枠追加」にチェックマークが入ります。 ・ 設定値の情報は破棄されます。
ナンバリング	書式文字列			-	・ 下表 1 【バーコードの互換情報】 参照

表 1 【バーコードの互換情報】

ラベル Pro-1	LabelCreate SE V2
バーコード種類	結果
JAN8 JAN13 ITF NW7 CODE39 UPC-A	・ バーコード種類の情報は保持されます。 ・ [書式文字列] が次のいずれかの条件で入力されている場合は、データが保持されます。 - 先頭および末尾にダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "123456" → 123456 - 先頭のみにダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "123456 → 123456 - 書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき → 固定文字列として読み込みます。 例) 123456 → 123456 ・ 上記 a)、b)、c) 以外のバーコードを配置したデータを本ソフトウェアで開いたときは、メッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、文字列情報を破棄し、データが開きます。 [バーコード] プロパティの [入力データ] は空欄となり、バーコードは赤いバツ印で表示されます。(図 16)

ラベル Pro-1	LabelCreate SE V2
バーコード種類	結果
CODE128	- バーコード種類の情報は保持されます。 「書式文字列」が次のいずれかの条件で入力されている場合は、データが保持されます。 a) 先頭および末尾にダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "AB-0123" → AB-0123 b) 先頭のみダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "AB-0123 → AB-0123 c) 書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき → 固定文字列として読み込みます。 例) AB-123 → AB-123 - 上記 a)、b)、c) 以外のバーコードが配置されているデータを本ソフトウェアで開いたときは、メッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、文字列情報を破棄し、データが開きます。 「バーコード」プロパティの「入力データ」は空欄となり、バーコードは赤いバツ印で表示されます。 - 制御コードを囲む括弧は、"<>" → "[" に自動変換されます。(図 18) 本ソフトウェアでは、"[]" に囲まれた文字列を制御文字と判断しています。 - 文字列に "[" があるときは、"[]" に自動変換されます。(図 18) 本ソフトウェアでは、"[]" を "[" 一文字と認識しています。
UPC-E	- バーコード種類の情報は保持されます。 - 入力規則がラベル Pro-1 (UPC-A と同じ書式) と本ソフトウェア (UPC-A から変換した書式) で異なるため、UPC-E が配置されているデータを本ソフトウェアで開いたときは、メッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、文字列情報を破棄し、データが開きます。 「バーコード」プロパティの「入力データ」は空欄となり、バーコードは赤いバツ印で表示されます。(図 17)

ラベル Pro-1	LabelCreate SE V2
バーコード種類	結果
UCC/EAN128	• 同等のコード種類「GS1-128」に変わります。 • 「書式文字列」が次のいずれかの条件で入力されている場合は、データが保持されます。 a) 先頭および末尾にダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "AB-0123" → AB-0123 b) 先頭だけにダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "AB-0123 → AB-0123 c) 書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき → 固定文字列として読み込みます。 例) AB-123 → AB-123 • 上記 a)、b)、c) 以外のバーコードが配置されているデータを本ソフトウェアで開いたときは、メッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、文字列情報を破棄し、データが開きます。 「バーコード」プロパティの「入力データ」は空欄となり、バーコードは赤いバツ印で表示されます。
郵便局カスタマーコード	• 情報は破棄されます。

ラベル Pro-1	LabelCreate SE V2
バーコード種類	結果
MAXI CODE PDF QR/MicroQR	- 次のように、同等のコード種類に変わります。 「MAXI CODE」のとき → 「MaxiCode」に変換 「PDF」のとき → 「PDF417」に変換 「QR/MicroQR」のとき → 「QR Code」に変換 「書式文字列」が次のいずれかの条件で入力されている場合は、データが保持されます。 - 先頭および末尾にダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "AB-0123" → AB-0123 - 先頭のみにダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "AB-0123 → AB-0123 - 書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.415)」) を含まない文字列のとき → 固定文字列として読み込みます。 例) AB-123 → AB-123 - 上記 a)、b)、c) 以外の二次元コードが配置されているデータを本ソフトウェアで開いたときは、メッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、文字列情報を破棄し、データが開きます。 「二次元コード」プロパティの「入力データ」は空欄となります。 オブジェクトが配置されていた位置をクリックすると、オブジェクトの領域が表示されます。(図 19)

表 2【書式文字一覧】

#	c	aaa	dddddd	mm	g	y	hh	ss	A/P
0	d	dddd	w	mmm	gg	yy	n	ttttt	a/p
:	dd	aaaa	ww	mmmm	e	yyyy	nn	AM/PM	AMPM
/	ddd	dddddd	m	q	ee	h	s	am/pm	"

(図 14)

【ラベル Pro-1】

コード文字：バーの上

右寄せ

前景色：黄色

背景色：緑色

枠：あり



【LabelCreate SE V2】

コード文字：バーの下（固定）

ロングバー付き（JAN8/JAN13/

UPC-A/UPC-E）

中央揃え（固定）

前景色：黒色（固定）

背景色：白色（固定）

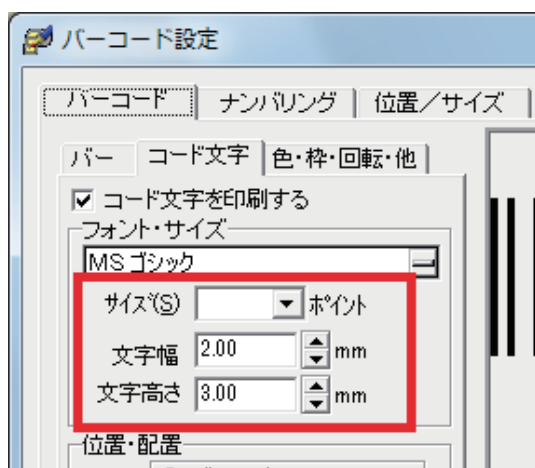
枠：なし



(図 15)

【ラベル Pro-1】

コード文字の文字幅 / 文字高さを任意の値で指定している。



【LabelCreate SE V2】

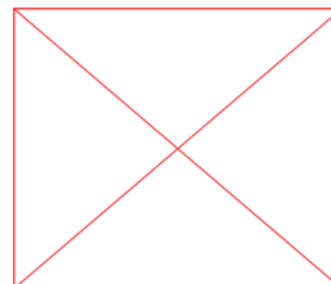
「ファイル形式が異なるか、ファイルが破損している可能性があります。」のメッセージが表示されます。

(図 16)

【ラベル Pro-1】

バーコード種類：JAN-8

書式文字列：123#456



【LabelCreate SE V2】

コード種類：JAN-8

入力データ：空欄（書式文字列に“#”があるため、データは破棄される。）

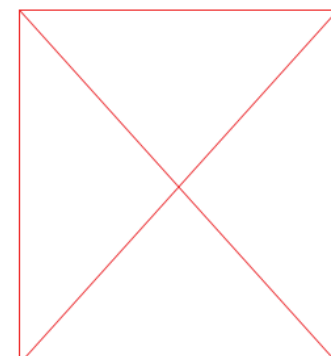
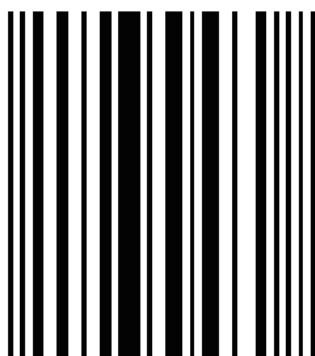
→ バーコードは赤いバツ印で表示される。

(図 17)

【ラベル Pro-1】

バーコード種類：UPC-E

書式文字列：“01200000345”



【LabelCreate SE V2】

コード種類：UPC-E

入力データ：空欄（入力規則がラベル Pro-1 と異なるため、データは破棄される。）

→ バーコードは赤いバツ印で表示される。

(図 18)

【ラベル Pro-1】

バーコード種類：CODE128

書式文字列：91<NUL>12[45]



【LabelCreate SE V2】

コード種類：CODE128

入力データ：91[NUL]12[[45]

→ 同等のバーコードが表示される。



(図 19)

【ラベル Pro-1】

バーコード種類：QR/MicroQR

書式文字列：あいうえお #



【LabelCreate SE V2】

コード種類：QR Code

入力データ：空欄（書式文字列に“#”があるため、データは破棄される。）



● 差込テキストオブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE V2	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
差込	マクロ指定		[文字] プロパティ (マクロ)	・ 下表 3 【マクロ書式の互換情報】 参照
文字設定	文字幅 文字高さ		[フォント] プロパティ	・ 文字幅または文字高さを任意の数値で指定している文字の場合、選んでいるフォントによっては、見た目の大きさが変わってしまうことがあります。(テキストオブジェクト_図 1)
文字余白 / 丸み	丸み	縦・横を同じ値にする 縦 横	-	・ 情報は破棄され、オブジェクトの角の丸みはなくなります。(テキストオブジェクト_図 2) ・ オブジェクトの丸み機能と同等の表示になるように設定したいときは、四角形オブジェクトを背面に作成します。四角形オブジェクトの [形状] プロパティで丸みを設定することができます。

ラベル Pro-1			LabelCreate SE V2	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
塗り込み / 枠線	塗り込み	パターン	[背景] プロパティ	- パターンに網掛け（ハッチ）※¹を設定している場合は、背景色が透明→白色に変換されます。(テキストオブジェクト_図2) - 網掛け（ハッチ）の目が細くなります。(テキストオブジェクト_図2)
	枠	太さ	[枠線] プロパティ	- 本ソフトウェアの設定可能範囲 0.1 mm ~ 50.0 mm に変換されます。(テキストオブジェクト_図2) 0.01 mm 以下のとき → 0.1 mm に変換 50.0 mm 以上のとき → 50.0 mm に変換 - 上記の場合を除いて、オブジェクトのサイズや枠の太さの設定値は変わりませんが、線幅に対する枠の基準位置が線幅に対して外 → 中心に変換されるため、オブジェクトの表示が大きくなります。(四角形オブジェクト_図4)
		線種		破線の間隔が異なるため、表示が変わります。(四角形オブジェクト_図5)

※¹ パターン_網掛け（ハッチ）（赤枠部分）

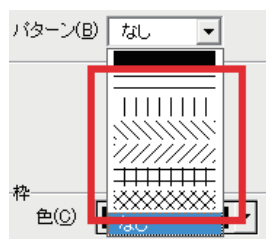


表 3 【マクロ書式の互換情報】

ラベル Pro-1		LabelCreate SE V2
マクロ書式	内容	結果
FLD("フィールド名")	フィールド指定	・ 情報は保持されます。
"文字"	文字出力	・ 情報は保持されます。
+	結合	・ 書式が「+」→「&」に変換されますが、表示に影響はありません。
&	行結合	・ 「&」の表す内容が異なるため、改行情報が失われます。 ・ 「&」を「& BR」と入力すると、同等の結果が得られます。
REP("文字 A","文字 B")	文字置換	・ 左記書式を含むマクロオブジェクトは、書式エラーと判断し、「0」と表示されます。 ・ 「対象文字列」"REP("文字列 A","文字列 B")"を「REPLACE("対象文字列","文字列 A","文字列 B")"と入力すると、同等の結果が得られます。
	パイプ	・ 左記書式を含むマクロオブジェクトは、書式エラーと判断し、「0」と表示されます。
LT(位置,桁数)	左切り出し	
RT(位置,桁数)	右切り出し	
ZIP7("文字")	郵便番号生成	
XLD("文字")	文字除去	
JPC("文字")	カスタマーコード生成	
ZEN()	全角変換	
EXT(位置)	行切り取り	
CAT()	複数行結合	

● 差込バーコードオブジェクト

ラベル Pro-1		LabelCreate SE V2	
設定シート名	項目名	同等の プロパティ	結果
差込	マクロ指定	-	・ オブジェクトは削除されます。
バーコード		-	・ 「バーコードオブジェクト_バーコード」 参照

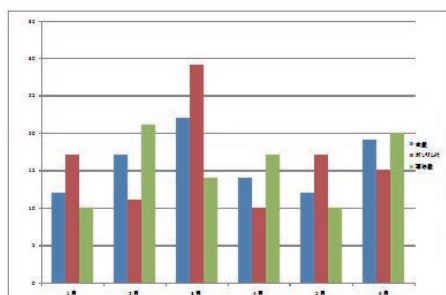
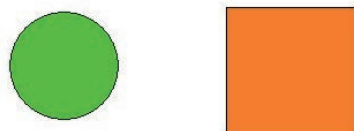
● OLE オブジェクト

ラベル Pro-1		LabelCreate SE V2	
オブジェクト名		同等の プロパティ	結果
OLE		-	・ オブジェクトは削除されます。(図 20)

(図 20)

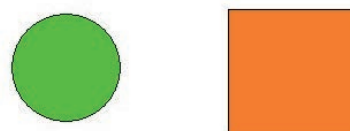
【ラベル Pro-1】

OLE オブジェクト_下図グラフ



【LabelCreate SE V2】

OLE オブジェクトは削除される。



収録画像

本ソフトウェアには、GHS マーク、ケアマークおよびリサイクルマークの画像（*.bmp）が収録されています。
これらの収録画像は、ソフトウェアのインストールを行うと次の場所に保存されます。

< C:¥Program Files (x86)¥Canon Finetech Nisca¥LabelCreate SE V2¥Sample >